

木古内町

幸連 3 遺跡

—高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成29年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

木古内町

幸連 3 遺跡

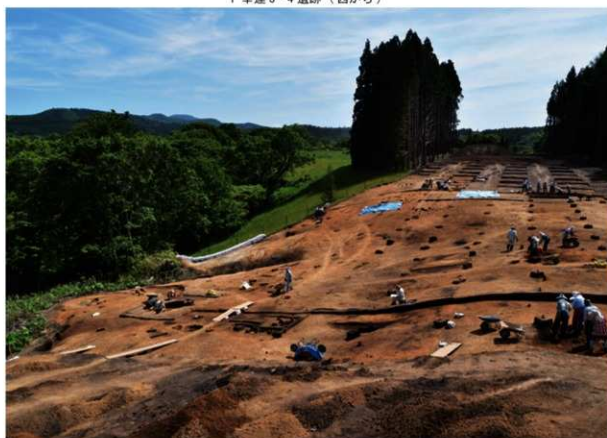
—高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成29年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 幸連 3・4 遺跡（西から）



2 調査状況（南西から）



1 高位部の住居群（南西から）



2 H-2 遺物出土状況（東から）



1 H-10 遺物出土状況（北西から）



2 H-12b 床面遺物出土状況（東から）



3 H-12b 床面土器（南から）



1 P-1 坑底遺物出土状況（北から）



2 P-3・6・8・9 完掘（南西から）



1 2 ライン断面 (J・K2 区東壁、西から)



2 25 ライン断面 (I ~ K24 区西壁、北東から)



3 25 ライン断面 (M ~ 024 区西壁、南東から)



4 M ライン断面 (M32 区北壁、南から)



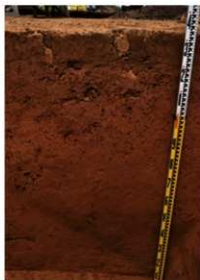
1 沢状堆積物断面 (S16・17、R16・17区、北西から)



2 斜面部断面 (S28区東壁、西から)



3 盛土断面 (M34区東壁、西から)



4 V層下位断面 (I24区西壁、東から)



1 H-12b 床面出土土器



2 H-4 出土石器



1 石冠（側面・下面）



2 琥珀製垂飾

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が行う高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成27（2015）年度に発掘調査を実施した木古内町幸連3遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査・整理は、平成27・28年度は第1調査部第4調査課、平成29年度は第1調査部第3調査課が担当した。
3. 整理作業は、遺構を各担当職員、土器の二次整理を皆川洋一、土器の一次整理、石器ほかを鈴木宏行が担当した。
4. 現場の写真撮影は調査担当者、遺物の撮影は石器の接合資料を鈴木、琥珀製垂飾のカラー写真を第1調査部第2調査課吉田裕史洋、それ以外を第1調査部第1調査課中山昭大が行った。航空写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。
5. 本書の執筆は、皆川・鈴木・坂本尚史・谷島由貴が行い、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は鈴木が担当した。
6. 各種測定・分析は、下記の機関に委託し、Ⅵ章6は鈴木、Ⅵ章7は第1調査部普及活用課柳瀬由佳が担当した。
放射性炭素年代測定：（株）加速器分析研究所（Ⅵ章1）
琥珀資料の自然科学分析：公益財団法人元興寺文化財研究所（Ⅵ章2）
黒曜石原産地分析：（株）パレオ・ラボ（Ⅵ章3）
炭化材樹種同定・炭化種実同定：パリオ・サーヴェイ株式会社（Ⅵ章4・5）
7. 報告書刊行後、遺物および台帳は木古内町教育委員会が、図面・写真フィルムは北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
8. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏の御指導、御協力をいただいた。（順不同、敬称略）
国土交通省北海道開発局函館開発建設部
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
木古内町教育委員会：木元 豊
北斗市教育委員会：森 靖裕
知内町教育委員会：高橋豊彦・竹田 聡
北海道考古学研究所：横山英介
熊本大学：小畑弘己

記号等の説明

1. 遺構の表記は以下に示す記号を使用し、原則として確認順に番号を付した。
H：竪穴住居跡
HP：住居に関連する土坑・柱穴 HF：住居内の焼土 HFC：住居内の剥片集中
HCC：住居内の炭化物集中 HAC：住居内の灰集中
P：土坑・土坑墓
PP：土坑（墓）内の小土坑 PF：土坑（墓）内の焼土
TP：Tピット F：焼土 PC：土器集中 FC：剥片集中 M：盛土
2. 遺構図の縮尺は、一部の遺物出土状況については1/20とし、それ以外は1/40とした。いずれの場合もスケールを示した。
3. 遺構図には方位記号を付した。方位は真北を示す。発掘区の南北方向ライン（数字ライン）は公共座標の南北方向に対して6°42'3"西に傾いている。遺構平面図の+はグリッドラインの交点で、傍らの名称番号は右下のグリッドを示している。レベルは標高（単位：m）である。
4. 遺構出土遺物で床面出土には「床」、坑底出土には「坑底」を掲載番号の隣に付した。
5. 遺構図に掲載している実測図等の数字は挿図中の掲載番号と同一である。
6. 土層の表記については、基本土層はローマ数字、遺構の層位はアラビア数字で示した。
7. 土層の色調は『新版 標準土色帖 2002年版』（小山・竹原2002）に従った。
8. 火山灰は『北海道の火山灰』（北海道火山灰命名委員会1982）に順じ、以下の略称を用いた。
Ko-d：駒ヶ岳降下火山灰 B-Tm：白頭山-苦小牧火山灰
9. 土層の肉眼的な混合比率を表現するために以下のような表現を用いた場合がある。
A=B：AとBがほぼ等量。 A>B：Aが主体。 A>>B：Bが微量。
10. 遺物の実測図の縮尺は以下のとおりである。
復元土器・土器拓影 1/3 剥片石器・石斧・石製品 1/2
石斧・台石・石皿以外の礫石器 1/3 台石・石皿 1/4（一部1/5）
11. 石蔵は基部のアスファルトの付着範囲を黒塗りで示した。
12. スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片は肉眼で観察可能な光沢面の範囲をトーンで示した。
13. 礫石器に関して敲打痕はV——V、すり痕は←——→で範囲を示した。

目次

口絵 (カラー図版)

例言・記号等の説明

目次・挿図目次・表目次・図版目次

I 緒言

- 1 調査要項 1
- 2 調査体制 1
- 3 調査に至る経過 1
- 4 調査の経過 2
- 5 調査結果の概要 2

II 遺跡の位置と環境

- 1 周辺の地形・地質 4
- 2 木古内・幸連の地名 6
- 3 周辺の遺跡 6
- 4 遺跡の位置と地形 11

III 調査の方法

- 1 調査区の設定 13
- 2 調査の方法 13
- 3 整理の方法 15
 - (1) 土器・石器 15
 - (2) 遺物の収納 15
- 4 遺物の分類 16
 - (1) 土器の分類 16
 - (2) 石器類の分類 16
- 5 土層 17
 - (1) 観察方法 17
 - (2) 基本土層 17
 - (3) 土層 18

IV 遺構

- 1 概要 21
- 2 竪穴住居跡 22
- 3 土坑 65
- 4 Tピット 81
- 5 焼土 81
- 6 土器集中 92
- 7 剥片集中 95
- 8 盛土 98
- 9 遺構出土遺物 101
 - (1) 土器 101
 - (2) 石器ほか 120

V 包含層出土遺物

- 1 概要 163
- 2 土器 170
- 3 石器ほか 180

VI 自然科学的分析等

- 1 幸連3遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定) ((株)加速器分析研究所) 205
- 2 木古内町幸連3遺跡出土琥珀資料の自然科学分析 (公益財団法人 元興寺文化財研究所) 219
- 3 幸連3遺跡出土黒曜石製石器の産地推定 (株式会社 バレオ・ラボ) 227
- 4 幸連3遺跡出土炭化材の樹種 (バリノ・サーヴェイ株式会社) 231
- 5 木古内町幸連3遺跡出土炭化種実同定 (バリノ・サーヴェイ株式会社) 239
- 6 幸連3遺跡出土石器の使用痕分析 245
- 7 幸連3遺跡出土の土器に付着した顔料の材質分析 269
- 8 幸連3遺跡出土土器の圧痕調査報告 (小畑弘己; 熊本大学文学部) 271

VII 総括

- 1 遺構について 274
- 2 遺物について 276
- 3 分析について 280
- 4 木古内町における幸連3遺跡の位置付け 283
- 5 木古内町の縄文時代前期～後期の集落変遷 284

引用文献

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

II 遺跡の位置と周辺の環境	図IV-28 竪穴住居跡(27) H-11(2) ……………	56
図II-1 遺跡の位置と木古内町の地形 ……………	図IV-29 竪穴住居跡(28) H-11(3) ……………	57
図II-2 木古内町周辺の地質 ……………	図IV-30 竪穴住居跡(29) H-12(1) ……………	59
図II-3 『大日本沿海輿地全図』 ……………	図IV-31 竪穴住居跡(30) H-12(2) ……………	60
図II-4 『東西蝦夷 山川地理取調図』 ……………	図IV-32 竪穴住居跡(31) H-12(3) ……………	61
図II-5 木古内町周辺の遺跡と段丘分類図 ……………	図IV-33 竪穴住居跡(32) H-12(4) ……………	62
図II-6 遺跡位置図 ……………	図IV-34 竪穴住居跡(33) H-13(1) ……………	63
図II-7 幸運育成牧場採集遺物 ……………	図IV-35 竪穴住居跡(34) H-13(2) ……………	64
III 調査の方法	図IV-36 竪穴住居跡(35) H-14 ……………	66
図III-1 調査範囲・調査区設定図 ……………	図IV-37 竪穴住居跡(36) H-15 ……………	67
図III-2 調査進行範囲図 ……………	図IV-38 土坑(1) P-1(1) ……………	69
図III-3 調査方法別範囲図 ……………	図IV-39 土坑(2) P-1(2) ……………	70
図III-4 基本土層図 ……………	図IV-40 土坑(3) P-1(3) ……………	71
図III-5 土層断面図(1) ……………	図IV-41 土坑(4) P-2・3 ……………	72
図III-6 土層断面図(2) ……………	図IV-42 土坑(5) P-4・5・6・9 ……………	74
IV 遺構	図IV-43 土坑(6) P-7・8 ……………	75
図IV-1 遺構位置図 ……………	図IV-44 土坑(7) P-11~13 ……………	77
図IV-2 竪穴住居跡(1) H-1(1) ……………	図IV-45 土坑(8) P-14・15 ……………	79
図IV-3 竪穴住居跡(2) H-1(2) ……………	図IV-46 土坑(9) P-16 ……………	80
図IV-4 竪穴住居跡(3) H-2(1) ……………	図IV-47 土坑(10) P-17 ……………	82
図IV-5 竪穴住居跡(4) H-2(2) ……………	図IV-48 Tピット TP-1 ……………	83
図IV-6 竪穴住居跡(5) H-2(3) ……………	図IV-49 焼土(1) F-1~4 ……………	84
図IV-7 竪穴住居跡(6) H-3 ……………	図IV-50 焼土(2) F-5~9 ……………	86
図IV-8 竪穴住居跡(7) H-4(1) ……………	図IV-51 焼土(3) F-10~14 ……………	88
図IV-9 竪穴住居跡(8) H-4(2) ……………	図IV-52 焼土(4) F-15~19 ……………	90
図IV-10 竪穴住居跡(9) H-4(3) ……………	図IV-53 焼土(5) F-20~22 ……………	91
図IV-11 竪穴住居跡(10) H-5(1) ……………	図IV-54 焼土(6) F-23 ……………	93
図IV-12 竪穴住居跡(11) H-5(2) ……………	図IV-55 焼土(7) F-24~26 ……………	94
図IV-13 竪穴住居跡(12) H-6(1) ……………	図IV-56 土器集中(1) PC-1~3 ……………	96
図IV-14 竪穴住居跡(13) H-6(2) ……………	図IV-57 剥片集中(1) FC-1~3 ……………	97
図IV-15 竪穴住居跡(14) H-7(1) ……………	図IV-58 剥片集中(2) FC-4~6 ……………	99
図IV-16 竪穴住居跡(15) H-7(2) ……………	図IV-59 盛土 M-1 ……………	100
図IV-17 竪穴住居跡(16) H-7(3) ……………	図IV-60 遺構出土土器(1) H-1~3 ……………	102
図IV-18 竪穴住居跡(17) H-8(1) ……………	図IV-61 遺構出土土器(2) H-4・5 ……………	103
図IV-19 竪穴住居跡(18) H-8(2) ……………	図IV-62 遺構出土土器(3) H-6~8(1) ……………	105
図IV-20 竪穴住居跡(19) H-9(1) ……………	図IV-63 遺構出土土器(4) H-8(2)・9 ……………	106
図IV-21 竪穴住居跡(20) H-9(2) ……………	図IV-64 遺構出土土器(5) H-10(1) ……………	108
図IV-22 竪穴住居跡(21) H-10(1) ……………	図IV-65 遺構出土土器(6) H-10(2) ……………	109
図IV-23 竪穴住居跡(22) H-10(2) ……………	図IV-66 遺構出土土器(7) H-10(3) ……………	110
図IV-24 竪穴住居跡(23) H-10(3) ……………	図IV-67 遺構出土土器(8) H-11(1) ……………	111
図IV-25 竪穴住居跡(24) H-10(4) ……………	図IV-68 遺構出土土器(9) H-11(2)~13・15 ……………	113
図IV-26 竪穴住居跡(25) H-10(5) ……………	図IV-69 遺構出土土器(10) P-1・2・6・8・12	
図IV-27 竪穴住居跡(26) H-11(1) ……………		

• 13	114	図V-5	包含層出土石器分布(3)	167
図IV-70	遺構出土石器(11) P-14~17、TP-1	図V-6	包含層出土石器分布(4)	168
図IV-71	遺構出土石器(12) F-2~4・6・10~13・19・20・22・23(1)	図V-7	包含層出土石器分布(5)	169
図IV-72	遺構出土石器(13) F-23(2)、PC-1・2(1)	図V-8	包含層出土石器(1) II群b類・III群a類(1)	171
図IV-73	遺構出土石器(14) PC-2(2)・3、FC-2・5、M-1	図V-9	包含層出土石器(2) III群a類(2)	172
図IV-74	遺構出土石器(1) H-1・2(1)	図V-10	包含層出土石器(3) IV群a類(1)	173
図IV-75	遺構出土石器(2) H-2(2)	図V-11	包含層出土石器(4) IV群a類(2)	174
図IV-76	遺構出土石器(3) H-4(1)	図V-12	包含層出土石器(5) IV群a類(3)	175
図IV-77	遺構出土石器(4) H-4(2)~6	図V-13	包含層出土石器(6) IV群a類(4)	176
図IV-78	遺構出土石器(5) H-7・8(1)	図V-14	包含層出土石器(7) IV群a類(5)	178
図IV-79	遺構出土石器(6) H-8(2)~10(1)	図V-15	包含層出土石器(8) IV群a類(6)、IV群b類、IV群c類、VI群	179
図IV-80	遺構出土石器(7) H-10(2)	図V-16	包含層出土石器(1) 石鏃・石槍・両面調整石器(1)	181
図IV-81	遺構出土石器(8) H-10(3)・11(1)	図V-17	包含層出土石器(2) 両面調整石器(2)・筧状石器・スクレイパー(1)	182
図IV-82	遺構出土石器(9) H-11(2)	図V-18	包含層出土石器(3) スクレイパー(2)	183
図IV-83	遺構出土石器(10) H-11(3)	図V-19	包含層出土石器(4) スクレイパー(3)	184
図IV-84	遺構出土石器(11) H-12(1)	図V-20	包含層出土石器(5) スクレイパー(4)	185
図IV-85	遺構出土石器(12) H-12(2)	図V-21	包含層出土石器(6) スクレイパー(5)	186
図IV-86	遺構出土石器(13) H-12(3)	図V-22	包含層出土石器(7) スクレイパー(6)・石錐・Rフレイク	187
図IV-87	遺構出土石器(14) H-12(4)~14	図V-23	包含層出土石器(8) Uフレイク	189
図IV-88	遺構出土石器(15) H-15、P-1(1)	図V-24	包含層出土石器(9) 剥片・石核(1)	190
図IV-89	遺構出土石器(16) P-1(2)・3・13~15	図V-25	包含層出土石器(10) 石核(2)	191
図IV-90	遺構出土石器(17) P-16・17、TP-1、F-6・11	図V-26	包含層出土石器(11) 石核(3)	192
図IV-91	遺構出土石器(18) F-12・13・22、PC-1~3、FC-1	図V-27	包含層出土石器(12) 石核(4)・石斧(1)	193
図IV-92	遺構出土石器(19) FC-5、M-1	図V-28	包含層出土石器(13) 石斧(2)・北海道式石冠(1)	194
図IV-93	遺構出土石器(20) 接合資料(母岩1・5)	図V-29	包含層出土石器(14) 北海道式石冠(2)・扁平打製石器・すり石	195
図IV-94	遺構出土石器(21) 接合資料(母岩3)	図V-30	包含層出土石器(15) 石冠・たたき石(1)	197
図IV-95	遺構出土石器(22) 接合資料(母岩7・6・4)	図V-31	包含層出土石器(16) たたき石(2)・砥石・加工痕のある礫・石製品	198
図IV-96	遺構出土石器(23) 接合資料(母岩8)			
V 包含層出土遺物				
図V-1	包含層出土全遺物分布			163
図V-2	包含層出土石器分布			164
図V-3	包含層出土石器分布(1)			165
図V-4	包含層出土石器分布(2)			166
VI 自然科学的分析等				
1-図版1	暦年較正年代グラフ			212
1-図版2	暦年較正年代グラフ(マルチプロット)			

2-表1	分析資料一覧	219
3-表1	分析対象	227
3-表2	東日本黒曜石産地の判別群	228
3-表3	測定値および産地推定結果	229
3-表4	時期・器種別の産地	230
4-表1	樹種同定結果	232
4-表2	遺構別種類構成	234
5-表1	炭化種実同定結果	241

5-表2	炭化種実出土状況	242
6-表1	幸連3遺跡石器使用痕観察表	250
7-表1	試料一覧	269
7-表2	化学組成測定結果	270
8-表1	幸連3遺跡から検出した圧痕の属性	273

Ⅴ まとめ

表Ⅴ-1	器種別の両辺の使用痕沢面種類	280
------	----------------	-----

図版目次

図版1 空中写真・遠景

- 1 幸連3遺跡
- 2 遺跡遠景(幸連牧場(北)から)

図版2 調査状況(1)

- 1 27ライン以東調査状況(西から)
- 2 27ライン以東調査状況(南西から)

図版3 調査状況(2)

- 1 27ライン以西調査状況(東から)
- 2 調査終了(東から)

図版4 竪穴住居跡(1)

- 1 H-1 検出状況(北西から)
- 2 H-1 HF-1・2(北東から)
- 3 H-1 HF-1・2(北東から)
- 4 H-1 HF-3断面(北西から)
- 5 H-1 床面土器(南東から)

図版5 竪穴住居跡(2)

- 1 H-2 完掘(北東から)
- 2 H-2 断面(南から)
- 3 H-2 断面(西から)

図版6 竪穴住居跡(3)

- 1 H-2 炭化材出土状況(南東から)
- 2 H-2 HF-2断面(南西から)
- 3 H-2 HF-2完掘(南西から)
- 4 H-2 HP-1遺物出土状況(北西から)
- 5 H-2 HFC-1(北西から)

図版7 竪穴住居跡(4)

- 1 H-3完掘(北西から)
- 2 H-3断面(南から)
- 3 H-3断面(西から)

図版8 竪穴住居跡(5)

- 1 H-4完掘(東から)
- 2 H-4断面(南から)
- 3 H-4断面(西から)

図版9 竪穴住居跡(6)

- 1 H-4 HF-1断面(東から)
- 2 H-4 HF-1完掘(東から)
- 3 H-4 HF-1断面(東から)
- 4 H-4 HF-2断面(南東から)
- 5 H-4 覆土炭化物出土状況(西から)

図版10 竪穴住居跡(7)

- 1 H-4 覆土炭化物出土状況(北西から)
- 2 H-4 覆土炭化物出土状況(北西から)
- 3 H-4 床面遺物出土状況(東から)
- 4 H-4 床面遺物出土状況(北東から)
- 5 H-4 覆土石鏃出土状況(東から)

図版11 竪穴住居跡(8)

- 1 H-5完掘(南東から)
- 2 H-5断面(北から)
- 3 H-5断面(西から)

図版12 竪穴住居跡(9)

- 1 H-5 覆土遺物出土状況(南東から)
- 2 H-5 覆土遺物出土状況(南西から)
- 3 H-6完掘(東から)
- 4 H-6断面(南から)

図版13 竪穴住居跡(10)

- 1 H-6断面(東から)
- 2 H-6 HF-1断面(南西から)
- 3 H-6 HF-1完掘(北東から)
- 4 H-6 HP-1断面(北東から)
- 5 H-6 HP-2坑底礫出土状況(北東から)
- 6 H-6炭化材出土状況(東から)
- 7 H-6炭化材出土状況(北東から)

図版14 竪穴住居跡(11)

- 1 H-6炭化材出土状況(北から)
- 2 H-6炭化材出土状況(東から)
- 3 H-6 覆土遺物出土状況(南東から)
- 4 H-6 覆土石核出土状況(南から)
- 5 H-7 床面・壁柱穴検出状況(北東から)

図版15 竪穴住居跡(12)

- 1 H-7 HF-1 断面 (西から)
- 2 H-7 HAC-1 断面 (南西から)
- 3 H-7 HP-2 断面 (南東から)
- 4 H-7 HP-2 琥珀玉 (南東から)
- 5 H-7 HP-4 石斧 (西から)
- 6 H-7 HP-3 断面 (南から)
- 7 H-7 壁柱穴(HP-27~34)断面 (東から)
- 8 H-7 HP-28断面 (東から)
- 9 H-7 HP-30断面 (東から)
- 10 H-7 HP-32断面 (北東から)
- 11 H-7 HP-33断面 (北東から)

図版16 竪穴住居跡(13)

- 1 H-7 HF-1・HAC-1・遺物出土状況 (北西から)
- 2 H-7 遺物出土状況 (南西から)
- 3 H-8 完掘 (北から)
- 4 H-8 断面 (南から)

図版17 竪穴住居跡(14)

- 1 H-8 断面 (東から)
- 2 H-8 HF-1 断面 (西から)
- 3 H-8 遺物出土状況 (北東から)
- 4 H-9 完掘 (北東から)

図版18 竪穴住居跡(15)

- 1 H-9 断面 (南から)
- 2 H-9 断面 (東から)
- 3 H-9 HF-1 断面 (南東から)
- 4 H-9 HP-4 断面 (南東から)
- 5 H-9 遺物出土状況 (北東から)
- 6 H-9 籠状石器 (北西から)

図版19 竪穴住居跡(16)

- 1 H-10床面検出状況 (南東から)
- 2 H-10断面 (南東から)
- 3 H-10断面 (北東から)

図版20 竪穴住居跡(17)

- 1 H-10完掘 (北西から)
- 2 H-10 HF-1 (南から)
- 3 H-10 HF-2 (南から)
- 4 H-10 HP-2 断面 (東から)
- 5 H-10遺物出土状況 (東から)
- 6 H-10遺物出土状況 (北西から)
- 7 H-10遺物出土状況 (北東から)
- 8 H-10凝灰岩出土状況 (東から)

図版21 竪穴住居跡(18)

- 1 H-11床面検出状況 (南西から)

2 H-11断面 (南西から)

3 H-11断面 (南東から)

図版22 竪穴住居跡(19)

- 1 H-11 HF-1 (北東から)
- 2 H-11 HF-2 断面 (南から)
- 3 H-11 HF-3・HP-1 断面 (南西から)
- 4 H-11 HF-3 断面 (南東から)
- 5 H-11 HP-1 完掘 (南西から)
- 6 H-11 HP-2 断面 (南東から)
- 7 H-11 HP-2 完掘 (南東から)
- 8 H-11遺物出土状況 (北西から)
- 9 H-11遺物出土状況 (南西から)

図版23 竪穴住居跡(20)

- 1 H-12a床面検出状況 (東から)
- 2 H-12a・b断面 (南から)
- 3 H-12a・b断面 (西から)
- 4 H-12a断面 (東から)

図版24 竪穴住居跡(21)

- 1 H-12 HF-1 (北東から)
- 2 H-12 HF-1 断面 (南東から)
- 3 H-12b完掘 (北から)
- 4 H-12 HF-2 断面 (南西から)
- 5 H-12 HF-2 完掘 (南西から)

図版25 竪穴住居跡(22)

- 1 H-12 HP-1・床面盛土断面 (南から)
- 2 H-12 HP-1 完掘 (北から)
- 3 H-12 HP-2 断面 (南東から)
- 4 H-12 HF-2 完掘 (南東から)
- 5 H-12 HP-5~7 断面 (東から)
- 6 H-12 HP-5~7 完掘 (東から)
- 7 H-12 HP-8 断面 (南東から)
- 8 H-12 HP-8 柱部分完掘 (南東から)
- 9 H-12 HP-9 断面 (南東から)

図版26 竪穴住居跡(23)

- 1 H-12b床面遺物出土状況 (北から)
- 2 H-12b床面遺物出土状況 (西から)
- 3 H-12b床面遺物出土状況 (南から)
- 4 H-12b床面遺物出土状況 (南から)
- 5 H-13完掘 (南西から)

図版27 竪穴住居跡(24)

- 1 H-13 HF-2 (南から)
- 2 H-13 HF-3 断面 (西から)
- 3 H-13 HF-3 完掘 (南西から)
- 4 H-13 HP-1 断面 (南から)
- 5 H-14完掘 (北東から)

図版28 竪穴住居跡(25)

- 1 H-14断面(南西から)
- 2 H-14断面(北西から)
- 3 H-14 HP-4断面(南西から)
- 4 H-14 HP-4完掘(南西から)
- 5 H-14 HP-5断面(南東から)
- 6 H-14 HP-5完掘(南から)
- 7 H-15遺物出土状況(南西から)

図版29 竪穴住居跡(26)

- 1 H-15断面(南西から)
- 2 H-15断面(南東から)
- 3 H-15 HP-1断面(南東から)
- 4 H-15北東部周溝(北西から)
- 5 H-15 HP-1・2断面(南西から)
- 6 H-15 HP-1・2完掘(南から)
- 7 H-15完掘(北から)

図版30 土坑(1)

- 1 P-1完掘(北から)
- 2 P-1断面(南から)
- 3 P-1断面(西から)

図版31 土坑(2)

- 1 P-1坑底遺物出土状況(北から)
- 2 P-1坑底遺物出土状況(北東から)
- 3 P-1覆土遺物出土状況(北から)
- 4 P-1覆土遺物出土状況(北東から)
- 5 P-1 PP-4断面(南から)
- 6 P-1 PP-6断面(南東から)

図版32 土坑(3)

- 1 P-2断面(西から)
- 2 P-2検出・土器出土状況(北から)
- 3 P-2土器出土状況(南西から)
- 4 P-3・8断面(北西から)
- 5 P-3・8断面(北東から)
- 6 P-3覆土曝出状況(北から)
- 7 P-3坑底曝出状況(北から)
- 8 P-4断面(西から)

図版33 土坑(4)

- 1 P-4完掘(北西から)
- 2 P-5断面(南西から)
- 3 P-5完掘(南から)
- 4 P-6坑底曝出状況(北東から)
- 5 P-6断面(北から)
- 6 P-6断面(北から)
- 7 P-6・9完掘(北東から)
- 8 P-7完掘(北西から)

図版34 土坑(5)

- 1 P-7断面(南から)
- 2 P-7断面(西から)
- 3 P-3・6・8・9完掘(北東から)

図版35 土坑(6)

- 1 P-8完掘(北から)
- 2 P-11断面(南西から)
- 3 P-11完掘(西から)
- 4 P-12断面(南から)
- 5 P-12遺物出土状況(北東から)
- 6 P-13断面(東から)
- 7 P-13遺物出土状況(東から)
- 8 P-14断面(北東から)

図版36 土坑(7)

- 1 P-14遺物出土状況(北東から)
- 2 P-15断面(南東から)
- 3 P-15完掘(北西から)
- 4 P-16断面(東から)
- 5 P-16遺物出土状況(北から)
- 6 P-17覆土遺物出土状況(北から)
- 7 P-17断面(南西から)
- 8 P-17完掘(北東から)

図版37 Tビット・焼土(1)

- 1 TP-1断面(南から)
- 2 TP-1完掘(南から)
- 3 F-1(南から)
- 4 F-2・FC-1・土器出土状況(南から)
- 5 F-3検出状況(南西から)
- 6 F-3断面(南から)
- 7 F-6と周辺の遺物(北東から)
- 8 F-6断面(北から)

図版38 焼土(2)

- 1 F-15(東から)
- 2 F-15断面(南から)
- 3 F-22・23(北から)
- 4 F-22(北西から)
- 5 F-22断面(南東から)
- 6 F-23(北東から)
- 7 F-23断面(西から)
- 8 F-23完掘(北西から)

図版39 土器集中・フレイク集中

- 1 PC-1(北西から)
- 2 PC-2(北東から)
- 3 PC-3(北東から)
- 4 FC-2(東から)

- 5 FC-3 (南西から)
- 6 FC-4 (北西から)
- 7 FC-6 (北から)
- 8 FC-6断面 (南から)
- 図版40 盛土
- 1 盛土検出状況 (南東から)
- 2 M・N34区東壁 (北西から)
- 3 N34区東壁 (西から)
- 4 M33区北壁 (南から)
- 5 盛土中石皿出土状況 (南西から)
- 図版41 遺物出土状況(1)
- 1 遺物出土状況 (S32・33、T32・33、東から)
- 2 土器出土状況 (N11区、北から)
- 3 遺物出土状況 (N・O36区、北から)
- 4 土器出土状況 (S31区、北東から)
- 5 土器出土状況 (Q33区、南東から)
- 図版42 遺物出土状況(2)
- 1 個体土器 (R40区、北から)
- 2 斜面部遺物出土状況 (S22区、東から)
- 3 斜面部土器出土状況 (S22区、北東から)
- 4 斜面部遺物出土状況 (S26区、北東から)
- 5 斜面部剥片出土状況 (S27区、南西から)
- 6 扁平打製石器 (N・O36区、北東から)
- 7 石冠 (Q36区、南東から)
- 8 すり石 (S32区、西から)
- 図版43 遺構出土土器(1)
- 図版44 遺構出土土器(2)
- 図版45 遺構出土土器(3)
- 図版46 遺構出土土器(4)
- 図版47 遺構出土土器(5)
- 図版48 遺構出土土器(6)
- 図版49 遺構出土土器(7)
- 図版50 遺構出土土器(8)
- 図版51 遺構出土土器(9)
- 図版52 遺構出土土器(10)
- 図版53 遺構出土土器(11)
- 図版54 遺構出土土器(12)
- 図版55 遺構出土土器(13)
- 図版56 遺構出土土器(14)
- 図版57 遺構出土土器(15)
- 図版58 遺構出土土器(1)
- H-1・2・4の石器
- 図版59 遺構出土土器(2)
- H-5～8の石器
- 図版60 遺構出土土器(3)
- H-9・10の石器
- 図版61 遺構出土土器(4)
- H-11の石器
- 図版62 遺構出土土器(5)
- H-12の石器
- 図版63 遺構出土土器(6)
- H-12・13の石器
- 図版64 遺構出土土器(7)
- H-14・15、P-1・3・13～15の石器
- 図版65 遺構出土土器(8)
- P-16・17、TP-1、F-6・11・12・13・22、PC-1
～3、FC-1・5、M-1の石器
- 図版66 遺構出土土器(9)
- 1 母岩1
- 2 母岩5
- 3 母岩3
- 図版67 遺構出土土器(10)
- 1 母岩7
- 2 母岩6
- 3 母岩4
- 4 母岩8
- 図版68 包含層出土土器(1)
- 図版69 包含層出土土器(2)
- 図版70 包含層出土土器(3)
- 図版71 包含層出土土器(4)
- 図版72 包含層出土土器(5)
- 図版73 包含層出土土器(6)
- 図版74 包含層出土土器(7)
- 図版75 包含層出土土器(8)
- 図版76 包含層出土土器(1)
- 石鎌・石槍・両面調整石器・篋状石器・つまみ付き
ナイフ・スクレイパー
- 図版77 包含層出土土器(2)
- スクレイパー
- 図版78 包含層出土土器(3)
- スクレイパー・石鎌・Rフレイク・Uフレイク
- 図版79 包含層出土土器(4)
- Uフレイク・剥片・石核
- 図版80 包含層出土土器(5)
- 石核・石斧
- 図版81 包含層出土土器(6)
- 石斧・北海道式石冠・扁平打製石器・すり石・石
冠・たたき石
- 図版82 包含層出土土器(7)
- たたき石・砥石・加工痕のある礫・台石・石製品

I 緒 言

1 調査要項

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査
 委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
 受託者：公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
 遺跡名：幸連3遺跡（北海道教育委員会登録番号：B-05-59）
 所在地：上磯郡木古内町字幸連90ほか、字橋呉55
 調査面積：9,709㎡
 調査期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日（発掘期間：5月12日～8月25日）
 平成28年4月1日～平成29年3月31日（整理作業）
 平成29年4月3日～平成30年3月30日（整理作業）

2 調査体制

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 坂本 均（平成27年6月28日まで）
 越田賢一郎（平成27年6月29日から）
 副理事長 中田 仁（平成27年6月29日から）
 専務理事 中田 仁（事務局長兼務 平成27年6月28日まで）
 山田寿雄（事務局長兼務 平成27年6月29日から）
 常務理事 長沼 孝（第1調査部長兼務 平成27年6月29日から）

平成27年度

第1調査部長	長沼 孝（兼務）	第4調査課長	皆川洋一（発掘担当者）
主 査	鈴木宏行（発掘担当者）	主 査	坂本尚史（発掘担当者）
主 任	谷島由貴		

平成28年度

第1調査部長	長沼 孝（兼務）	第4調査課長	皆川洋一
主 査	鈴木宏行		

平成29年度

第1調査部長	長沼 孝（兼務）	第4調査課長	皆川洋一
主 査	鈴木宏行		

3 調査に至る経過

函館江差自動車道は函館新道函館インターチェンジ（IC）を起点とし、北斗市、木古内町を經由して江差町に至る延長約70kmの自動車専用道路である。高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡強化により、地域間交流の活性化や物流の効率化、災害時の緊急輸送ルートの強化などを目的とした事業である。平成15年3月には函館IC～北斗中央IC、平成21年11月には北斗中央IC～北斗富川IC、平成24年3月には北斗富川IC～北斗茂辺地ICの函館茂辺地道路区間が供用開始となり、平成30年3月

現在、北斗茂辺地IC～木古内IC（仮称）までの延長16.0kmの茂辺地木古内道路の建設事業が進められている。

平成11年に国土交通省北海道開発局函館開発建設部（以下、「函館開発建設部」）は函館江差自動車道、茂辺地木古内道路における埋蔵文化財包蔵地に関する事前協議書を北海道教育委員会（以下、「道教委」）に提出した。それを受けて道教委は、木古内町大釜谷から大平までの範囲において15地点の所在確認調査が必要と通知した。

幸連3遺跡は平成26年10月に道教委によって試掘調査が実施され、9,750㎡の発掘調査が必要との判断が示され、道教委の指示により当センターが平成27年度に発掘調査、平成28・29年度に整理・報告を行うこととなった。

4 調査の経過

調査区の現況は杉の植林された山林であった。平成26年度中に伐採が終了し、平成27年4月20日より準備工を開始した。調査区内全域の切り株抜根後、重機を使用して27ライン以東の表土除去作業に着手した。5月1日より方眼杭打設作業を行い、5月12日から作業員43名体制で調査を開始した。試掘調査の結果を踏まえ、地区ごとの調査方法を設定したが、先行して25%調査を行うことにより遺構・遺物の濃淡を把握し、実態に合った調査方法を採用した（Ⅲ章2参照）。

8月には未調査範囲が縮小するのに伴い、作業を順次幸連4遺跡に移し、幸連3遺跡の調査は8月25日に終了した。

5 調査結果の概要

調査の結果、縄文時代前・中・後期、続縄文時代前半期の遺構・遺物が検出された。主体となる時期は縄文時代中期前半および後期前葉で、遺構はほぼこれらの時期に相当すると考えられる。

遺構は堅穴住居跡15軒（H-1～15）、土坑16基（P-1～9、11～17、10は欠番）、Tピット1基（TP-1）、焼土26か所（F-1～26）、土器集中3か所（PC-1～3）、剥片集中6か所（FC-1～6）、盛土1か所（M-1）が検出された（表I-1）。

遺物は土器13,683点、石器・礫ほか13,438点の計27,121点が出土した。土器は縄文時代前期円筒下層b式、中期前葉円筒上層b式、サイベ沢Ⅷ式、見晴町式、後期前葉天祐寺式・涌元式・トリサキ式・大津式・白坂3式、後期中葉ウサクマイC式・手稲式、続縄文時代前半期恵山式がある。中期前半（Ⅲ群a類）が21%、後期前葉（Ⅳ群a類）が76%で、両時期で97%を占める。後期には多くの土器型式が含まれ、遺物量の突出した時期はみられない。

石器は石鏃・石槍・両面調整石器・篋状石器・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石錐・Rフレイク・Uフレイク・石核・北海道式石冠・扁平打製石器・すり石・たたき石・石鋸・砥石・台石・石皿・垂飾・石冠などの石製品・加工痕のある礫がある。頁岩産地に立地するためほとんどの剥片石器には頁岩が利用され、同様に礫石器には近隣で採取される泥岩・砂岩が利用されている。そのほか、最大長3cmを超える大型の琥珀製垂飾が出土している。（鈴木）

表 I-1 検出遺構一覧

遺構種別	遺構番号	数量	備考
竪穴住居跡 (H)	H-1~15	15軒	
土坑 (P)	P-1~9・11~17	16基	P-10は欠番
Tピット(TP)	TP-1	1基	
焼土 (F)	F-1~26	26か所	
土器集中 (PC)	PC-1~3	3か所	
剥片集中 (FC)	FC-1~6	6か所	
盛土 (M)	M-1	1か所	

表 I-2 出土遺物一覧

種別	分類	遺構	包含層	合計
土器	II群b類	1	60	61
	III群a類	1109	1747	2856
	IV群a類	2954	7417	10371
	IV群b類	113	24	137
	VI群a類		117	117
	不明	27	114	141
	小計	4204	9479	13683
	石器ほか	石鏃	35	30
石槍		3	6	9
両面調整石器		28	65	93
筒状石器		2	3	5
つまみ付きナイフ			2	2
スクレイパー		37	117	154
石錐		6	16	22
楔形石器		1		1
Rフレイク		85	165	250
Uフレイク		27	50	77
剥片		3718	3998	7716
石核		55	217	272
石斧		6	14	20
北海道式石冠			4	4
扁平打製石器		10	7	17
すり石		1	6	7
石鋸		2		2
たたき石		19	45	64
砥石		1	4	5
台石		7	13	20
石皿		1		1
原石		44	176	220
加工痕のある礫		7	5	12
礫		1065	3320	4385
石冠			1	1
垂飾		1		1
石製品			5	5
小計	5161	8269	13430	
その他	炭化物	8		8
	合計	9373	17748	27121

II 遺跡の位置と環境

1 周辺の地形・地質

幸連3遺跡の所在する上磯郡木古内町は北海道西部の渡島半島南側に位置する。北東側で北斗市、北側で厚沢部町、西側で上ノ国町、南西側で知内町と町界を接している(図II-1)。市街地は町の南西沿岸部にあり、函館中心部から西に約40kmの位置にある。町域はおよそ東西22.5km、南北17.7km、総面積は221.89km²で、その約9割が山岳・丘陵地帯である。人口は平成30年1月末で4,275人である。南東側は津軽海峡に面し、北～北西側は300～700m級の渡島丸山、桂岳、梯子岳、瓜谷山、焼山、尖岳、袴腰岳などの山々に囲まれていて、北西部は日本海に流下する河川との分水嶺になっている。市街地中心地は木古内川・佐女川河口周辺の沖積地に形成されている。

渡島半島は地体構造区分上、渡島帯に区分され、木古内町の北東にはその東帯の上磯コンプレックス(上磯層群)、北西には西帯の江差コンプレックス(松前層群)が基盤岩として分布する(図II-2)。東帯は特徴的な三疊紀(～ジュラ紀)石灰岩体と後期ジュラ紀-前期白亜紀砕屑岩シーケンス、および混在相から構成され、西帯は緑色岩を伴う石炭紀-ペルム紀炭酸塩岩相、ペルム紀-三疊紀-前期ジュラ紀のチャート、および中期ジュラ紀の砕屑岩シーケンスから構成される(日本地質学会編2010)。

それらの隆起地塊の間には大きな沈降部が形成され、新第三系が埋めるように厚く発達する。新第三系は下位から中新世前期の福山層および中新世中-後期の楡山層群の大安在川層・木古内層・厚沢部層および館層からなり、鮮新世の瀬棚層準の地層は分布しない。

福山層は大部分が陸地の火山岩および火山砕屑物からなり、著しい変質作用を受けている。大安在川層は海進初期の堆積物で比較的淘汰の良い礫岩・砂岩など浅海性の粗粒堆積物からなる。木古内層から館層にいたる地層は主として泥質相からなる一連の堆積物である。木古内層は硬質頁岩相で特徴づけられる地層で薄板状の珪質な硬質頁岩層と硬質泥岩軟質泥岩互層からなり中部には凝灰質砂岩層が発達する。大平川断層以東の地域では厚く、幸連川では厚さ約500mで東部の亀川に向かって600m以上となる。この地域では硬質頁岩層の発達がよく、粘土質泥岩層を含まない。大平川上流域では層厚は薄いが比率は90%近くになる。赤褐色-チョコレート色の珪質な団塊を多く含むのも特徴である。木古内町内の河川における石材の分布調査では、木古内層を貫流する建右川・木古内川・幸連川・橋呉川・亀川・大釜谷川では石器に利用可能な硬質頁岩が採取され、貫流しない佐女川・蛇内川・上六畳間川では採取されておらず(鈴木2004)、木古内層の分布と一致する。

厚沢部層は黒色ないし暗灰色の泥岩を主とする下部の札笥部層と泥岩シルト岩互層および砂質シルト岩からなる佐助沢部層とに区分される。館層は塊状を呈する凝灰質-珪藻質シルト岩からなる。このほか楡山層群堆積時から鮮新世にかけての火山岩として桂岳の北東部には流紋岩岩脈が貫入し、桂岳の山頂部や周辺にはデイサイトが溶岩円丘を形成している。第四系は海岸沿いに発達する海岸段丘堆積物、木古内川・中野川・亀川流域に河岸段丘堆積物、各河川流域および海岸に発達する沖積層がある。

木古内町周辺の地質構造は、南北方向の褶曲および断層構造が支配的で、木古内断層と大平川断層はその方向から褶曲構造と密接に関連する。これらを切るNW-SEおよびNE-SW方向の断層がその後形成される(秦・垣見1979)。

木古内周辺の海岸段丘は宮内・八木(1984)によって高位のものからH₁面、H₂面、M₁面、M₂面、M₃面の5面に区分されている(図II-5)。幸連・泉沢地区を境に違いがあり、北東部では5段の段丘

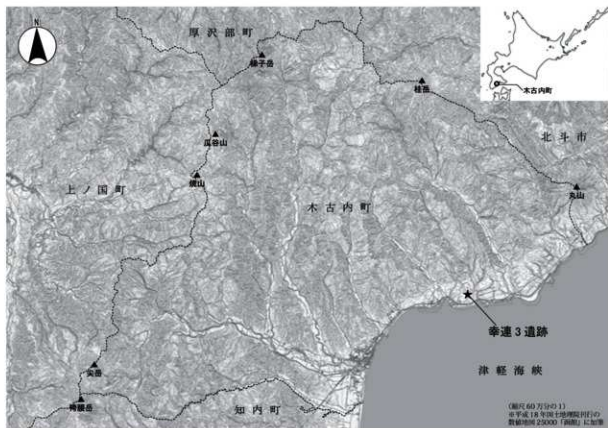


図 II-1 遺跡の位置と木古内町の地形

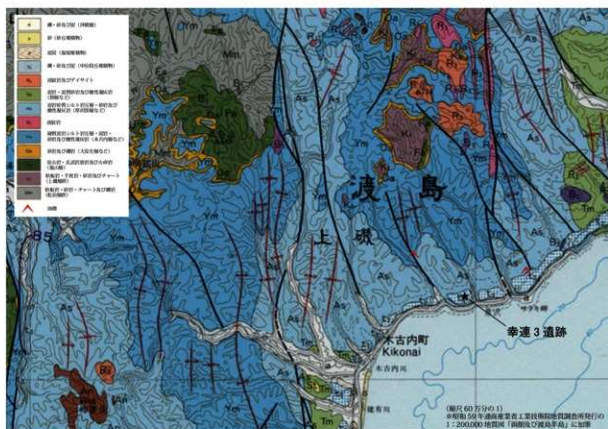


図 II-2 木古内町周辺の地質

が発達するのに対し、南西部ではH面、M₁面しか見られないが、その幅は北東部に比べ広い。亀川と幸連川には小規模な断層（前掲論文のf₁・f₂断層）があり、M₁面の旧汀線の比高差がf₁断層では22m、f₂断層では17mあり、東側で隆起量が多く、同一面であってもf₁断層以東、f₁・f₂間、f₂以西では海や隣接した川との比高差は東に順に大きくなる。幸連3遺跡はf₁・f₂断層間のM₁面上に立地している。M₁面は基盤の上に洞爺火山灰（Toya）が被覆し、最終間氷期最盛期に形成されたとされる。段丘形成後は、隆起の中心が東へ移動し、上磯隆起地塊西縁を画する大平川断層や江差隆起地塊を画する木古内断層のような地質構造上の大断層より東側の小規模な断層の活動が大きく、f₁断層以東の隆起量が大きいためf₁・f₂に挟まれた幸連・泉沢地区はM₁面で1.0°西（S78°W）へ傾斜している。幸連川に沿ったf₁断層に関連するとみられる地震による地割れが川の500mほど西側の札刈6遺跡で検出され、その時期が縄文時代晩期以降、B-Tm以前と判定されている（道埋文2014a）ことから褶曲作用が継続しているようである。また、泉沢3遺跡でもf₁断層に関連する可能性のある溝（「旧田道」と報告：木古内町教委1998c）が検出されている。

2 木古内・幸連の地名

木古内の地名は木古内川の語源であるリロナイ（Rir'o nai）（「潮入り川の意」：永田方正1891年（明治24年）刊『北海道蝦夷語地名解』）ヤリコナイ（「登る沢の意」：上原 熊次郎1792年（寛政4年）刊『蝦夷地名考并里程記』）、キノナイのキコを「木之子」（菌の意）の略称で菌の沢（市川十郎1858頃（安政5年頃）刊『蝦夷地地検考録』）とする説があるが（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編1987）、「リコナイ」の記述が明治以前に見られないことから「リロナイ」が正しいとされる。山田秀三（1983）は、Rir'o-nai「波（磯波）のある・川」と訳し、風に逆行して潮（nur）が遡ると波（rir）がたつことから永田が意識したものと推測している。

幸連の地名は昭和4年に行政字名として付けられ、古くはこうれい・コウレキ・コウレ・香連とも書かれた（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編1987）。文政4年（1821年）完成の伊能忠敬『大日本沿海輿地全図』には「コーレン川」（図Ⅱ-3）、安政6年（1859年）の松浦武四郎『東蝦夷地 山川地理取調図』には「コウレンマ」（図Ⅱ-4、山田監修・佐々木編1988）、安政3・4年の『竹四郎廻浦日記』（高倉解説1978）や安政6年から慶応年代とされる『渡島日誌 卷之壱』には「コウレン淵」（秋葉解説1988）の記載がある。1854年藤田惇斎・橋本玉蘭斎の作である『蝦夷関境輿地全図』には「コヲレ」の表記がある。しかし、地名の由来については不明である。

3 周辺の遺跡

木古内町には平成30年3月現在、旧石器時代から擦文文化期までの62カ所の埋蔵文化財包蔵地が発見されている（表Ⅱ-1）。また、大平4遺跡などで幕末函館戦争時の可能性のある遺構・遺物が少数確認されている。

調査遺跡は34遺跡で、学術調査である1971・1972年の札刈遺跡を除いて、道路や鉄道建設に伴う緊急調査である。1973年に国道228号線拡幅事業による札刈遺跡の調査以来、1983～1986年に津軽海峡線建設工事による札刈・新道4・建川・建川2遺跡の4遺跡、1988・1989年に農地造成事業による鶴岡2遺跡、1990～2001年に農道整備事業による大釜谷3・釜谷・釜谷4・釜谷5・亀川2・亀川3・泉沢2・泉沢3・蛇内遺跡の9遺跡、1996～2002年に砂利採取事業による新道2・新道3遺跡の2遺跡、2009～2013年に北海道新幹線建設事業による蛇内2・大平・大平4・木古内・木古内2・新道4遺跡の6遺跡、2011～2017年に高規格幹線道路函館江差自動車道建設事業による釜谷8・釜谷10・亀

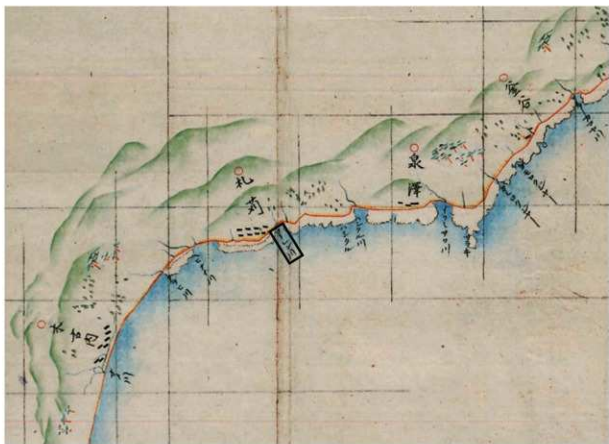


図 II-3 『大日本沿海輿地全圖』(渡辺監修2013)

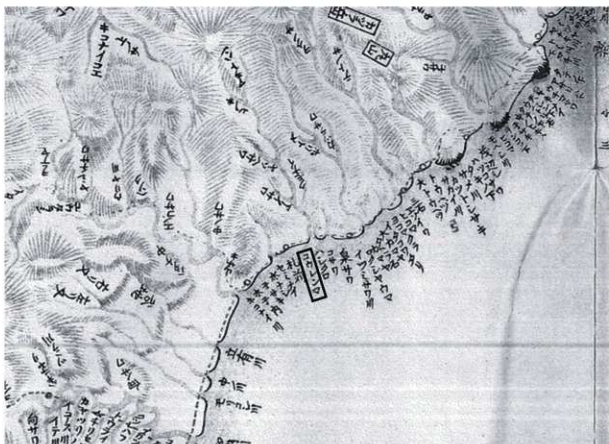


図 II-4 『東西蝦夷 山川地理取調図』(山田監修・佐々木編1988)

川5・泉沢5・泉沢6・幸連・幸連3・幸連4・幸連5・札刈5・札刈6・札刈7・札刈8・大平4遺跡の14遺跡が調査され、1983～2002年、2009～2017年は毎年のように調査が行われている。特に①農道整備事業・②北海道新幹線事業・③高規格幹線道路事業は大規模なもので、建設に伴う試掘調査で発見される遺跡も多く、①は大釜谷～泉沢地区、②は蛇内～木古内地区、③は釜谷～札刈地区の遺跡の濃密な地域をトレンチ状に調査しているため地域における遺跡の状況を把握する上で重要な成果をもたらしている。

町内の遺跡はf₁断層以西（泉沢地区以西）では河岸段丘上の中野A・中野B、沖積地上の瓜谷遺跡を除いて海岸段丘M₁面上に立地し、f₁断層以東では海岸段丘M₂面を中心に一部丘陵背面際の際H₂面にも分布し、M₂面には大釜谷・釜谷3遺跡が立地する。分布を詳細に見ると東端の大釜谷2遺跡から木古内2遺跡にかけての沿岸部の遺跡と東から釜谷8・10・9、亀川5、泉沢6・4・5、幸連3・4・5、札刈9・8・5・6・7のやや内陸の遺跡に分けられる。後者は高規格道路事業による分布調査で確認されたものであり、両者の間の遺跡の有無（特にf₁断層以東のM₂面上の遺跡の有無）については調査の粗密があり注意が必要である。

調査遺跡を対象にして段丘区分と遺跡の標高を比較するとH₂面では釜谷・亀川地区（釜谷8・10）が75～85m、泉沢地区（泉沢6）が45～50mである。M₂面では幸連地区（幸連3・4、幸連、幸連5）が20～30m、札刈地区（札刈8・5・6・7、札刈）は5～35mであるが10～25mが主体で、段丘の奥は高い傾向がある。蛇内地区（蛇内2・蛇内）は10～20m、大平地区（大平4・大平）は10～15m、木古内地区（木古内・木古内2）は5～15m、鶴岡・新道・建川地区（鶴岡2、新道3・4・2、建川2・建川）で15～20m主体で、新道4は20～30mを含み、新道2は5～10mでやや低い。M₂面では大釜谷・釜谷地区（大釜谷3・釜谷4・釜谷・釜谷5）が15～35m、亀川地区（亀川3・2）が25～30m、泉沢地区（泉沢3・2・5）が5～10及び20～35mでややバラつきがある。全体的にはH₂面が最も高く、M₁・M₂面はほとんど違いがない。これは先述のとおり東側の隆起量が大きいためである。M₂面ではf₁・f₂断層間の幸連地区より西側では標高が低くなり、第四紀地殻変動の影響の結果である。

次に本遺跡を除く幸連・橋貝地区の遺跡を概観する。○内の数字は北海道教育委員会の遺跡登録番号である。

幸連遺跡 (B-05-18)：標高25～30mほどの海岸段丘 (M₂面) 上に立地する。函館江差自動車道建設に伴い、平成29 (2017) 年に当センターにより発掘調査が行われた。調査面積は2,896㎡である。遺構は竪穴住居跡5軒、土坑97基、焼土19か所、フレイク・チップ集中1か所、小土坑170基、埋設土器6か所、盛土遺構2か所が検出され、盛土遺構からは焼土4か所、フレイク集中29か所、礫集中2か所、礫集中3か所、土器集中41か所が検出されている（道埋文2018c）。住居の時期は縄文時代前期後半円筒下層式期、中期後半があり、土坑のほとんどを占めるプラスチック土坑は縄文時代前期後半で、紐状の漆製品が出土している。遺物は主に円筒下層d1式期の土器・石器類が約35万点出土している。現在整理作業中である。

幸連2遺跡 (B-05-33)：標高20m程の海岸段丘 (M₂面) 上に立地する。未発掘である。時期は不明。

幸連4遺跡 (B-05-60)：標高22～28mほどの海岸段丘 (M₂面) 上に立地する。函館江差自動車道建設に伴い、平成27 (2015) ・28 (2016) 年に当センターにより発掘調査が行われた（道埋文2016c・2017g）。調査面積は10,255㎡である。遺構は竪穴住居跡43軒、土坑108基、焼土27か所、フレイク集中28か所、礫集中3か所が検出されている。遺物は土器約15万点、石器ほか約30万点が出土している。時期は縄文時代前期後半～後期前葉で、西側の段丘縁辺部には縄文時代前期後葉円筒下層d1式期の10mを超える大型住居が検出されている。現在、整理作業中である。

表Ⅱ-1 木古内町の遺跡一覧

登録番号	遺跡名	種別	主な時期	調査歴(報告書)【概報】	調査原因
B-05-01	新道遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-02	大釜谷遺跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)		
B-05-03	木古内遺跡	集落跡	縄文(前期・中期)・檜文	2010-2011 道埋文(2014b)	新幹線
B-05-04	札苜遺跡	集落跡	縄文(晩期)・近世	1971-1972 北海道開拓記念館(1976) 1973 町教委(1974) 1983 道埋文(1986b)	宇志北福 海峽線
B-05-05	釜谷遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)・檜文	1991-1993 町教委(1999a)	農道
B-05-06	泉沢遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-07	大平遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)・檜文	2009～2011-2013 道埋文(2011b,2016a,2017a・b)	新幹線
B-05-08	蛇内遺跡	集落跡	縄文(前期～後期)	2000 町教委(2004b)	農道
B-05-09	新栄町遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-10	新道3遺跡	集落跡	縄文(中期・後期)	1996 町教委(1997)	砂利採取
B-05-11	新道2遺跡	集落跡	縄文(前期)	1997～2002 町教委(1999b,2003b)	砂利採取
B-05-12	中野A遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-13	中野B遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-14	瓜谷遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-15	大釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文(前期・中期)		
B-05-16	釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-17	橋兵衛遺跡	遺物包含地	縄文・続縄文(前半期)		
B-05-18	幸達遺跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)	2017 道埋文【2018c】	江差道
B-05-19	蛇内2遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)	2009～2011 道埋文(2011c,2012a)	新幹線
B-05-20	蛇内3遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-21	大平2遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-22	大平3遺跡	遺物包含地	縄文(中期)		
B-05-23	高校高台遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-24	鶴岡遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-25	鶴岡2遺跡	遺物包含地	縄文(前期～後期)・続縄文	1988・1989 町教委(1989,1990)	農地造成
B-05-26	建川遺跡	遺物包含地	縄文(早期～後期)	1984 道埋文(1986a)	海峽線
B-05-27	新道4遺跡	集落跡	旧石器・縄文(早期～晩期)・続縄文	1984～1986・2013 道埋文(1986a,1987,1988,2015c)	海峽線・新幹線
B-05-28	木古内2遺跡	集落跡	縄文(前期)	2010-2011 道埋文(2011a・2012b)	新幹線
B-05-29	大平4遺跡	集落跡	縄文(早期～中期・晩期)	2009-2010・2012～2014 道埋文(2011b・2012a・2017d)	新幹線・江差道
B-05-30	札苜2遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-31	札苜3遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-32	札苜4遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-33	幸達2遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-34	橋兵衛2遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-35	建川3遺跡	集落跡	縄文(前～晩期)	1985・1986 道埋文(1987)	海峽線
B-05-36	釜谷3遺跡	遺物包含地	縄文(晩期)		
B-05-37	釜谷4遺跡	遺物包含地	旧石器・縄文(早期～後期)	1990 町教委(1991)	農道
B-05-38	亀川遺跡	遺物包含地	縄文(晩期)		
B-05-39	亀川2遺跡	遺物包含地	縄文(中期～晩期)	1995 町教委(1998a)	農道
B-05-40	亀川3遺跡	集落跡	縄文(早期～後期)	1995 町教委(1998b)	農道
B-05-41	泉沢2遺跡	集落跡	縄文(前期～晩期)・檜文	1998～2001 町教委(2003c・d,2004a)	農道
B-05-42	泉沢3遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	1996 町教委(1998c)	農道
B-05-43	亀川4遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-44	釜谷5遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)	1993 町教委(1995)	農道
B-05-45	釜谷6遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-46	釜谷7遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-47	大釜谷3遺跡	集落跡	縄文(前期～晩期)	2001 町教委(2003b)	農道
B-05-48	札苜5遺跡	遺物包含地	縄文(早期・前期・後期)	2011・2017 道埋文(2012c)	江差道
B-05-49	札苜6遺跡	集落跡	縄文(中期・後期)	2011 道埋文(2014a)	江差道
B-05-50	札苜7遺跡	集落跡	縄文(後期)	2013～2017 道埋文【2014d,2015b,2016c,2017g,2018c】	江差道
B-05-51	釜谷8遺跡	遺物包含地	縄文(早期・中期・後期)	2011・2012 道埋文(2014c)	江差道
B-05-52	釜谷9遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-53	泉沢4遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-54	亀川5遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	2014 道埋文(2017e)	江差道
B-05-55	泉沢5遺跡	集落跡	縄文(中期・後期)	2014 道埋文(2017c)	江差道
B-05-56	札苜8遺跡	集落跡	旧石器・縄文(前期)	2014 道埋文【2015b】	江差道
B-05-57	札苜9遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-58	釜谷10遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	2016 道埋文(2018a)	江差道
B-05-59	幸達3遺跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)	2015 道埋文(2018本書)	江差道
B-05-60	幸達4遺跡	遺物包含地	縄文(前期後半～中期後半～後期前葉)	2015-2016 道埋文【2015b,2016c】	江差道
B-05-61	泉沢6遺跡	遺物包含地	縄文(早期・後期)	2015-2016 道埋文(2018b)	江差道
B-05-62	幸達5遺跡	集落跡	縄文(前期後半～後期前葉)	2016-2017 道埋文【2017g,2018c】	江差道

町教委:木古内町教育委員会、道埋文:北海道埋蔵文化財センター

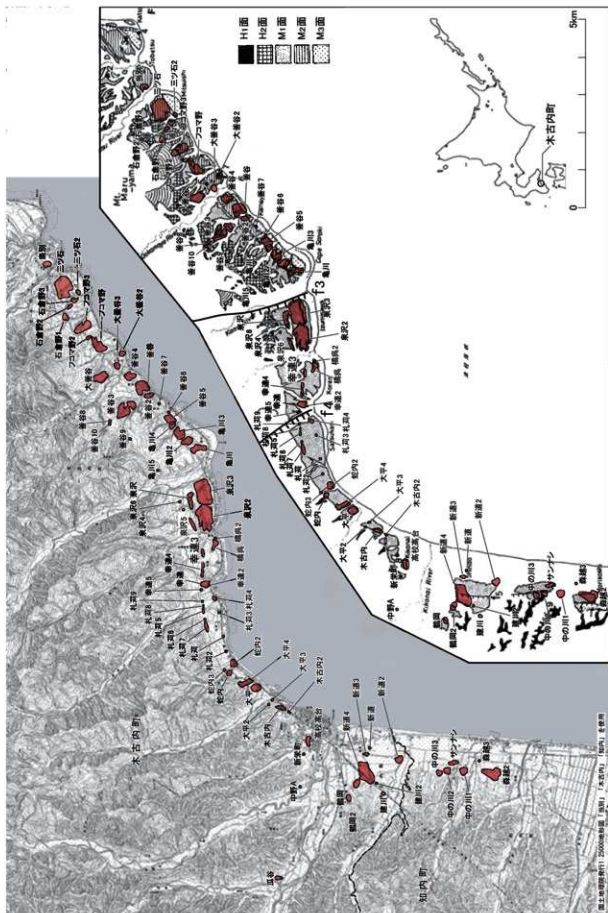


図 II-5 木古内町周辺の遺跡と段丘分類図 (宮内・八木1984第5図に加筆)

幸連5遺跡 (B-05-62) : 標高19~21mほどの海岸段丘 (M面) 上に立地する。函館江差自動車道建設に伴い、平成28 (2017) ・29 (2018) 年に当センターにより発掘調査が行われ、30 (2019) 年に降に継続する予定である。28年には61㎡を調査し、29年には1,455㎡を着手し、遺構は竪穴住居跡84軒、フラスコ状土坑など土坑108基、焼土21か所、2列の盛土遺構が検出されている。遺物は円筒下層式・上層式、サイベ沢Ⅶ式、榎林式、大安在B式、ノダツⅡ式、天祐寺式、涌元式などの土器、土製品、石器類など約80万点が出土し、人物の顔が描かれた三角形の石製品が目目される。時期は縄文時代前期後葉~後期前葉で、平坦面は重複して住居や土坑が掘削された結果、極めて複雑な切り合い関係があり、平坦面の東西には土器・石器などを多量に含む厚さ50cmほどの土手状盛土遺構が形成される。現在、整理作業中である。

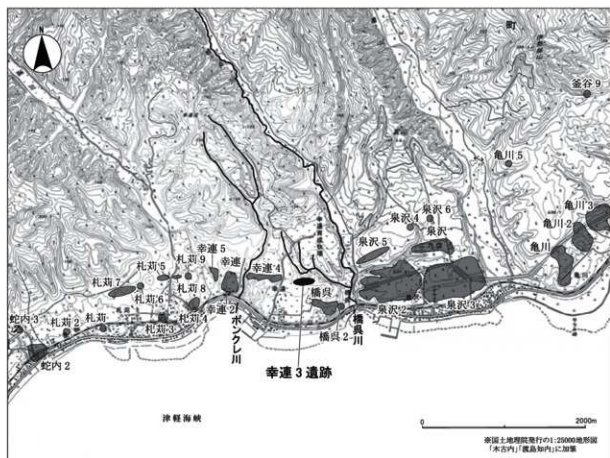
橋呉遺跡 (B-05-17) : 標高20m程の海岸段丘 (M面) 上に立地する。未発掘である。縄文・続縄文時代前半期とされる。

橋呉2遺跡 (B-05-34) : 標高20m程の海岸段丘 (M面) 上に立地する。未発掘である。時期は不明。

4 遺跡の位置と地形

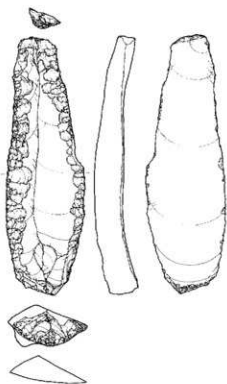
幸連3遺跡はJR木古内駅から北東に5.3km、海岸線より3kmほど内陸に位置し、橋呉川とポンクレ川に挟まれた海岸段丘 (M面) 上の橋呉川寄り、海岸と丘陵のほぼ中央に立地する。北側には橋呉川の支流が東に流れ、また、調査区付近にはその支流に流れ込む沢頭があり、調査区北側には開析された斜面が形成されている。

前述のとおり、段丘面はM段丘形成後の地形の変形を受け、緩やかに西側に傾斜している。同一



図II-6 遺跡位置図

段丘面上の海側には橋貝・橋貝2遺跡が、西側には幸連4遺跡、さらにポンクレ川を挟んで幸連・幸連5遺跡がある。橋貝川支流を挟んだ北側の幸連育成牧場では10cmを超える頁岩の石刃製搔器（図Ⅱ-7）が採集されている。調整打面や大きさ、先端部の湾曲などの技術的、形態的特徴や1.5kmほど西に位置する札苅6・8遺跡で蘭越型細石刃核石器群が出土していることなどから当該石器群が残されている可能性がある。（鈴木）



図Ⅱ-7 幸連育成牧場採集遺物

III 調査の方法

1 調査区の設定

調査区はアルファベットの大字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の基準は工事測定のSP29,000を基点として、SP29,100を通る直線を東西方向の基線とし、南北方向はSP29,000の基準点を通り、東西方向の基線に直交する直線とした(図III-1)。

ラインの設定は、東西方向をアルファベットの大字とし、基線をMに設定し、南から順にF～W、南北方向をアラビア数字とし、基線を16に設定し、東から0～52まで付けた。

調査区の呼称は4m四方区画の南東隅(図では左上)のライン交点で示した。例えば、Kラインと15ラインの交点の南東側が「K15区」ということになる。

M16・M41の世界測地系による平面直角座標は以下のとおり。

M16 (SP29,000)	X=-255092,818	Y=19983,831	
M41	X=-255104,487	Y=19884,514	(平面直角座標系 第Ⅺ系)

2 調査の方法

調査区は杉の植林された山林で、南西部は一部畑地であった。平成26年度に木の伐採が済んでいたため、まずは重機によって切り株の抜根と下草等の除去を全域に行い、それらと仮置きしてあった伐採木を調査区外に移動した。

試掘調査の結果をもとに場所ごとに遺構・遺物の粗密や包含層の残存の良否を想定し、当初からA:移植ごてを使用する範囲、B:移植ごてとスコップを併用する範囲、C:表土除去後、遺構確認を行う範囲に分けた。また、調査を円滑に進めるために排土場を確保する目的で①27ライン以東、②27～40ラインおよびM～Vラインの40ライン以西、③F～Mラインの40ライン以西の順に調査を進めた(図III-2)。

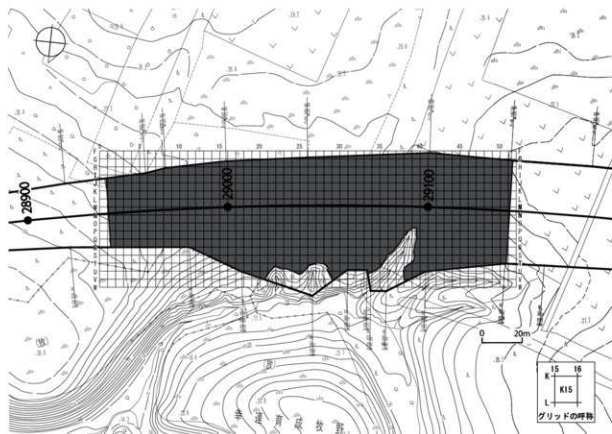
①～③とも重機によって表土を除去したのち、杭の打設、表面清掃を行い、調査に着手した。①②では調査区全体を早期に把握するために1グリッド置きに掘り下げた(25%調査)。その結果、①の南・東側、②の南・西側は遺物が薄い状況であったため重機で包含層を慎重に除去し、遺構確認調査に切り替えた。一方、当初、遺物が少ないと想定していたO～V・29～39区では遺構・遺物の濃い状況が確認されたため移植ごてによる調査に変更した。G33～P50区の南西側は長芋の耕作により包含層の堆積が認められず、遺構確認調査を行った(図III-3)。

包含層調査においては遺構の検出に努め、検出した遺構は大型のものは十字ベルトを残し、小型のものは半截、断面図作成後、完掘し、図面を作成した。遺構出土遺物は床面・坑底面・覆土中の主要なものについては図面に記載し、それ以外のは覆土単位で取り上げ、包含層の遺物はグリッド単位で層位ごとに取り上げた。

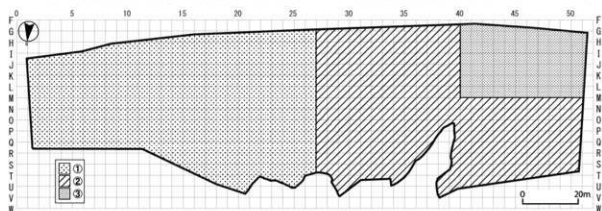
焼土は土壌を採集し、有機質遺物の回収を目的としてフローテーション法(浮遊物を0.425mmと2mmメッシュで、沈殿物を1mmメッシュの篩で選別)による選別作業を行った。また、剥片集中の一部は土ごとに取り上げ1mmメッシュの篩で水洗選別を行った。

出土遺物は、現場段階で遺跡名・グリッド(遺構名)・層位・遺物番号・日付をマジックでビニール袋に記入して取り上げた。取り上げに際しては土器片、剥片石器類・礫石器類に袋に分けた。

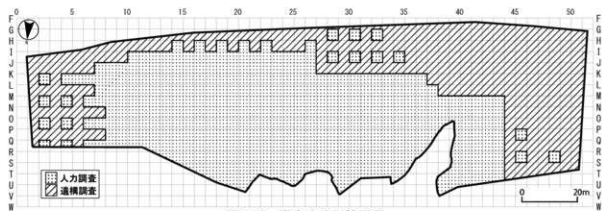
調査状況や遺構等の確認状況・平面・断面、遺物出土状況については図化作業と写真撮影によって



図Ⅲ-1 調査範囲・調査区設定図



図Ⅲ-2 調査進行範囲図



図Ⅲ-3 調査方法別範囲図

記録した。使用したフィルムは6×7判リバーサル・モノクロでデジタルカメラを併用した。

3 整理の方法

(1) 土器・石器

取り上げた遺物は①水洗・乾燥、②分類、③遺物カード作成、④遺物台帳作成、⑤注記の順で一次整理を行った。現地では①を完了し、それ以降の作業は発掘終了後に江別の整理事業所で行った。遺物カードには調査区・遺構名・遺物番号・層位・分類名(器種名)・石質・点数・重量(土器を除く)を記入した。

石器は剥片・原石・礫以外のツールを抜き出し、1点につき1つの袋に入れて分離し、袋ごとに遺物カードを作成した。包含層出土の礫はデータの収集後、廃棄した。

遺物番号は、遺構は点取り遺物がある場合にはその番号を優先的に1番から付け、その後土器・剥片石器・礫石器・剥片・原石・礫に番号を付けた。包含層は、土器は層位・分類順、石器は剥片石器・礫石器・剥片・原石・礫の順にそれぞれ1番から付けた。

これらのカード情報を基に台帳作成を行い、データについてはエクセルで入力を行った。

注記は、土器・石器とも約1cm以上のものにポスターカラーで行い、クリアラッカーで上塗りした。注記の順番は遺跡名、調査区・遺構、層位、遺物番号の順番でそれぞれの間には「・」をつけている。具体的な注記の要領は以下のとおりである。

遺跡名：「コ3」とした。

調査区・遺構名等：包含層出土遺物の場合はアルファベットと数字を連続させ、M30区の場合「M30」とし、遺構出土遺物の場合はアルファベットと数字の間にハイフン(-)を入れて「H-1」とした。

層位：基本層位にあるものはローマ数字で表現し、覆土や掘乱や床面の場合はカタカナや漢字で「フク」「カク」「床」とした。

遺物番号：アラビア数字で表した。

以上の注記法に従い、M30区Ⅲ層出土の遺物番号10の遺物は「コ3・M30・Ⅲ・10」、堅穴住居跡1床面出土の遺物番号3の遺物は「コ3・H-1・床・3」となる。

以上の一次整理事業後に土器・石器の接合を行った。土器の接合は分類ごとに進め、接合作業の終了後、掲載遺物を選択し、実測、拓本、トレース、写真撮影などの図版作成に関する作業を行った。土器の掲載基準は、実測図は復元できた個体、拓影図は大きく接合したものを優先的に、文様構成の特徴的なものとした。石器は、器種ごとに主要なものを掲載し、特に表面に使用痕とみられる光沢のある石器をRフレイク・Uフレイク・剥片からも幅広く抽出した。

石器類の接合は、剥片石器については点数が多く、遺構単位でまとまりの良いH-11・12、P-1とその周辺を対象とし、礫については石組炉があり、破砕礫がまとめて出土しているほぼ同時期のH-2・4・6とその周辺を対象として遺構間の関係性を把握する目的で行った。

実測図や拓影図を示した土器・石器などは写真図版にも載せ、掲載遺物一覧表に表示した。遺物図はロットリングでトレースしたものをスキャナーで取り込み、イラストレーターでレイアウトし、遺構図は、イラストレーターでトレースし、印刷原稿とした。

(2) 遺物の収納

整理後の遺物は、報告書掲載資料と非掲載資料に分け、掲載資料は土器・石器ごとに遺構・包含層出土資料に分け、掲載番号順にコンテナに収納した。復元土器については折り畳み式の大形コンテナ

に収納している。

非掲載資料は土器・石器に分け、それぞれ遺構・包含層出土資料に分け、遺構は全種別とも遺構毎に、包含層出土資料は、土器は分類で分け、発掘区順に収納した。石器は、器種で分け、発掘区順に収納した。

最終的にこれらのコンテナに通し番号を付け、収納台帳を作成した。

4 遺物の分類

(1) 土器の分類

土器は(公財)北海道埋蔵文化財センターの一般的な分類に準じ、縄文時代早期～擦文文化期に至るまでⅠ～Ⅶ群に分類し、特徴的な文様などにより可能な破片等については細分類を行っている。

Ⅰ群 縄文早期に属するもの(未検出)

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの(未検出)

a類: 縄文の施された丸底、尖底を特色とするもの(未検出)

b類: 円筒下層式に相当するもの

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの

a類: 円筒上層式・サイベ沢Ⅶ式・見晴町式に相当するもの

b類: 榎林式・大安在B式・ノダップⅡ式・煉瓦台式に相当するもの(未検出)

Ⅳ群 縄文時代後期に属するもの

a類: 天祐寺式・涌元式・トリサキ式・大津式・白坂3式に相当するもの

b類: ウサクマイC式・手稲式・鯉間式に相当するもの

c類: 堂林式・三ツ谷式・湯の里3式に相当するもの(未検出)

Ⅴ群 縄文時代晩期に属するもの(未検出)

Ⅵ群 統縄文時代に属するもの

a類: 統縄文時代初頭から恵山式に相当する土器群

b類: 後北式以降に相当する土器群(未検出)

Ⅶ群 擦文文化期に属するもの(未検出)

(2) 石器類の分類

石鏃 素材を細かい加工により薄身にして、端部に尖頭部を作り出した5cm未満の石器

石槍 素材の両面を細かく加工して、尖頭部を作り出した5cm以上の石器

両面調整石器 素材の両面を粗く加工した石器で、石鏃・石槍・筒状石器以外の石器

筒状石器 素材の両面を加工し、端部を直線または弧状に作り出した石器

つまみ付きナイフ 素材端部にノッチ状の加工でつまみ部を作り出した石器

スクレイパー 素材の縁辺に連続的な二次加工を施した石器

石錐 素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器

楔形石器 素材の両端に両極剥離による対向する剥離がある石器

Rフレイク 素材に二次加工を施したもので、定形的石器以外の石器

Uフレイク 縁辺に概ね2mm以下の使用による刃こぼれとみられる連続的な剥離のある石器

剥片 石核・石器(ツール)から剥離されたもので、二次的な加工が施されていない石器

石核 目的剥片を剥離したと考えられるもの石器

石斧 打ち欠き・敲打・研磨により、斧状の刃部を作り出した石器

- 北海道式石冠 厚手の礫の縁辺に平滑な擦り面があり、敲打により帯状の溝が作り出された石器
- 扁平打製石器 扁平な素材の縁辺部が平坦剥離によって加工された石器で、長辺に狭長な平坦面があるものがある。
- すり石 小型礫の縁辺や平坦面に擦り面がある石器
- 石鋸 扁平な素材の縁辺に断面がU字状の擦り面が作り出された石器
- たたき石 礫に潰打痕が観察される石器
- 砥石 礫に幅広く浅い窪み状の擦り面のある石器
- 台石 盤状礫に打撃痕や擦り痕が観察される石器
- 石皿 盤状礫に窪み状の擦り面のある石器
- 原石 剥片石器の石材として利用される石で、人為的と考えられる剥離面のないもの
- 加工痕のある礫 礫の一部に剥離が観察されるもので定形的石器以外の石器
- 礫 剥片石器の石材として利用されない石で、人為的な痕跡が観察されないもの
- 石冠 平坦な底面を持ち、側面が半円状、断面が三角形に作り出された石器
- 垂飾 素材に穿孔の認められる石器
- 石製品 素材に研磨などで丁寧に加工された石器

5 土層

(1) 観察方法

土層については、以下の項目について観察・記録した。色調・面積割合については『新版標準土色帖』を用い、土性・堅密度・粘性(粘着性)の区分は『土壤調査ハンドブック』(ペドロジスト懇話会1984)の基準を用いた。

- ・色調：色相・明度・彩度を記号および数値で表した。
 - ・土性：砂土(S)・砂壤土(SL)・壤土(L)・シルト質壤土(SiL)・埴壤土(CL)・軽埴土(LiC)・重埴土(HC)に区分し、必要に応じて記載した。
 - ・粘性：なし・弱・中・強に区分した。
 - ・堅密度：すこぶるしょう・しょう・軟・堅・すこぶる堅・固結に区分した。
- その他、主に混入物については種類・大きさなどを記載した。

(2) 基本土層 (図Ⅲ-4)

- I層：黒褐色(10YR2/2) 埴壤土 粘性中 軟～堅 表土・耕作土
- II層：黒色(10YR1.7/1～2/1) 埴壤土 粘性中 軟～堅 住居跡などの窪みに駒ヶ岳d火山灰(Ko-d、1640年降下：黄褐色(2.5YR5/4) 砂土(極細粒砂) 粘性なし 軟～堅)が挟在する
- III層：黒褐色(10YR2/3)～暗黄褐色(10YR3/3) 埴壤土 粘性中 軟～堅 盛土(M-1)の分布する範囲ではその上位をIIIa、下位をIIIbとした。
- IV層：にぶい黄褐色(10YR4/3) 埴壤土 粘性中 軟～堅
- V層：黄褐色(10YR5/6) 軽埴土 粘性中 堅
- VI層：にぶい黄色(2.5YR6/4) 砂土(中粒砂) 粘性弱 堅 1～2cmの扁平円礫30%含む 上方細粒化 海成層
- VII層：黄褐色(10YR5/8) 砂壤土(シルト混じり中粒砂) 粘性弱 堅 1～5cmの扁平円礫40%含む 鉄分沈着 海成層
- VIII層：オリーブ灰色(10YR5/2) 砂土(中粒砂) 粘性弱 堅 5cm程の亜円礫40%含む 海成層

(3) 土層 (図Ⅲ-5・6)

調査区は海岸段丘上に立地し、その北側は東流する橋呉川の支流により浸食を受け、斜面となっている。また、南西側は長芋の耕作により包含層が攪乱を受けていたため、土層の記録は東縁の平坦面である2ライン、中央東寄りで平坦面から斜面部にかけての25ライン、斜面部のS・T22区の3か所に設定した。

2ライン (口絵 5-1)

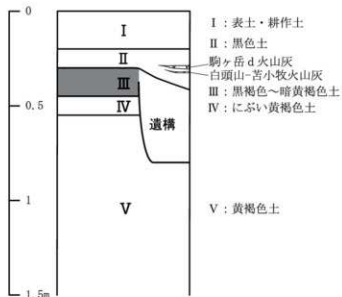
調査区の東側は河川の浸食を受けていないため、北から南に向けて本来の海岸段丘の地形を保っていると考えられる。全体的には北から南に若干の傾斜があるもののほぼ平坦である。植林されていた杉の抜根により攪乱を受けた箇所が多いが、土層は地形同様に全体的に安定した堆積で、包含層であるⅢ層は10~20cmの厚さで、標高の低い南側にやや厚い傾向がある。

25ライン (口絵 5-2・3)

海岸段丘の地形を保っている南側はほぼ平坦で、K25杭をピークに南北に緩やかな傾斜が認められる。M25杭より北側は傾斜が強くなり、S25杭の南北4mほどは平坦になり、さらに北側は斜面となる。R25杭より北側は完掘後のラインのみの記録である。Ⅲ層は平坦面から斜面上部にかけては10~20cm堆積するが、下部では薄い傾向がある。包含層下位の黄褐色土のV層は斜面部下位では段丘礫層起源とみられる小礫が混じる(V'層)。I25-J25間のV層下位の観察では、V層が厚く堆積していた。

S・T22区 (口絵 6-2)

R20区を沢頭として北側の川に合流する小さな沢がある。傾斜が強くなるその肩部ではⅢ層相当の黒色土上にⅢ層とV層が混じった土が斜めに厚く堆積し、多くの遺物が出土した。(鈴木)



図Ⅲ-4 基本土層図

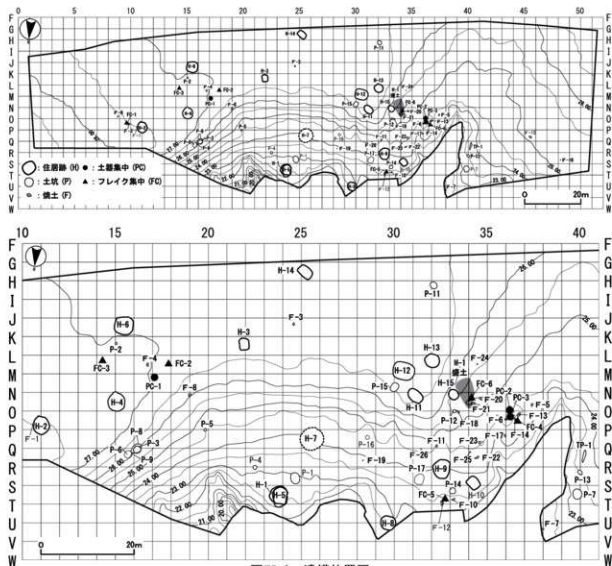
IV 遺構

1 概要

遺構は、竪穴住居跡15軒 (H-1～15)、土坑16基 (P-1～9・11～17、P-10は欠番)、Tビット1基 (TP-1)、焼土26か所 (F-1～26)、土器集中3か所 (PC-1～3)、剥片集中6か所 (FC-1～6)、盛土1か所 (M-1) が検出された。

調査区の地形は海岸段丘の標高26m以上の平坦面と北側の橋鼻川支流によって開析された緩斜面に分けられる。遺構は8～20ラインの平坦面と30～40ラインの平坦面から緩斜面にかけてまとまりがあり、前者は竪穴住居跡が主体で、後者は平坦面には竪穴住居跡が、緩斜面には多くの焼土などが検出されている。緩斜面の標高23m付近は傾斜がより緩やかで、竪穴住居跡が点在している。西側の沢を挟んだ範囲には平坦面が広がるが、Tビット1基や土坑2基などがあるのみで竪穴住居跡は検出されなかった。

(鈴木)



図IV-1 遺構位置図

2 竪穴住居跡

竪穴住居跡1 (H-1) (図IV-2・3、表IV-2、図版4)

確認・調査: 調査区中央北部、標高22.5m前後の緩斜面部に位置する。重機による表土除去の過程で石組炉 (HF-1) を検出し、周辺の精査を行った。結果、明確な掘り込みの確認はできなかったが、炉周辺の4mほどの範囲に炭化物・焼土粒・ロームブロックが散在する黒褐色土の分布を不整形形状に検出したため、住居跡と判断した。

なお、床面からトレンチ調査を行い、H-1下位にH-5を検出した。H-1はH-5 廃絶・埋没後の覆土上に構築された住居と考えられる。

土層: 竪穴覆土は削平により消失したとみられ、確認できなかった。HF-1～3は明瞭な焼土の発達と、焼土周辺に炭化物や焼土粒を含む土層の堆積が確認できた。

床面・壁: 石組炉周辺の黒褐色土範囲を床面と判断した。床面は概ね水平に検出されたが、南北で10cmほどの高低差がみられる。壁面は明確なものは確認できなかった。HF-1から約2m西側でロームの立ち上がりが見られたが、削平による掘り込みの可能性もあるため、壁面とは断定できなかった。

付属遺構: HF-1～3がほぼ同レベルで近接して検出された。また、HF-1を中心に10～20cm大の礫が6点出土したため、HF-1の炉石と判断した。

遺物出土状況: 出土遺物の総数は262点で、土器等が180点、石器等が82点である。土器はIV群a類162点、IV群b類18点が、石器等は両面調整石器1点、Rフレイク1点、剥片29点、たたき石1点、原石5点が出土した。

土壌のフローテーション選別の結果、HF-1からオニグルミ核67点、クリ果実基部3点、ブドウ種子1点、堅果類4点、HF-2からオニグルミ核26点、オニグルミ?核?1点、堅果類1点が検出されている。

時期: HF-1出土の炭化材からは5,230±30yrBP (KO3-D1)、3,830±30yrBP (KO3-D2)の年代測定値が得られている。出土遺物および石組炉の検出からは、縄文時代後期前葉と考えられる。

(坂本)

竪穴住居跡2 (H-2) (図IV-4～6、表IV-2、図版5・6)

確認・調査: 調査区東側の標高27mの段丘縁部に位置する。Ⅲ層掘り下げ中にKo-dとみられる白色の火山灰とその周囲に黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。黒色土(覆土上層)を掘り下げると北西側で炭化物が散在するのを確認し、さらに下層の暗褐色土(覆土下層)の上部で焼土(HF-1)、覆土下層中で最長60cmを含むまとまった炭化材を検出した。焼失住居と判断し、概ね2cm以上のものについては位置を記録して取り上げた。

土層: 覆土は大きく上下に分けられ、上部には中央部にKo-d(1層)、自然堆積の黒色土(3層)、下部には竪穴全体に暗褐色土(4層)、床面直上に褐色土(6層)が堆積する。4層は屋根土、6層は住居が機能していた時の汚れた床面の土とみられる。炭化材・焼土の出土状況から住居廃絶に伴う焼失後、上部の窪みに黒色土・Ko-dが堆積したと考えられる。石組炉(HF-2)の上部はやや乱れている。

床面・壁: 床面は平坦で、壁はやや斜めに立ち上がる。平面形は不整形円形～楕円形である。

付属遺構: 南南東-北北西の長軸上の南寄りに石組炉(HF-2)、南端に先端ビット(HP-1)がある。石組炉は長軸に対して若干傾く楕円形で、その周溝は北東部が浅く、取り囲んでいたとみられる炉石

H-1 平面・断面



H-1HF-1・2

1. 黄褐色土(5.VYR3/4) 粘液中 厚 20cm 粘土粒と炭化物を7%含む
2. 赤褐色(5.VYR4/0～6) 粘壤土 粘液中 中こぶる炭 攪乱を受け、焼土ブロック(50%以上)に褐色土混入
3. 粘(5.VYR4/2) 粘壤土 粘液中 厚 焼土粒層から漸移的に混入
4. 赤褐色(5.VYR2/1) 壤土 粘液中 厚 20cmの焼土粒・ブロック7%含む
5. 黄(5.VYR2/1) 壤土 粘液中 中～軟～硬 H-1下位に堆積する落ち込みの混入土、目録相当



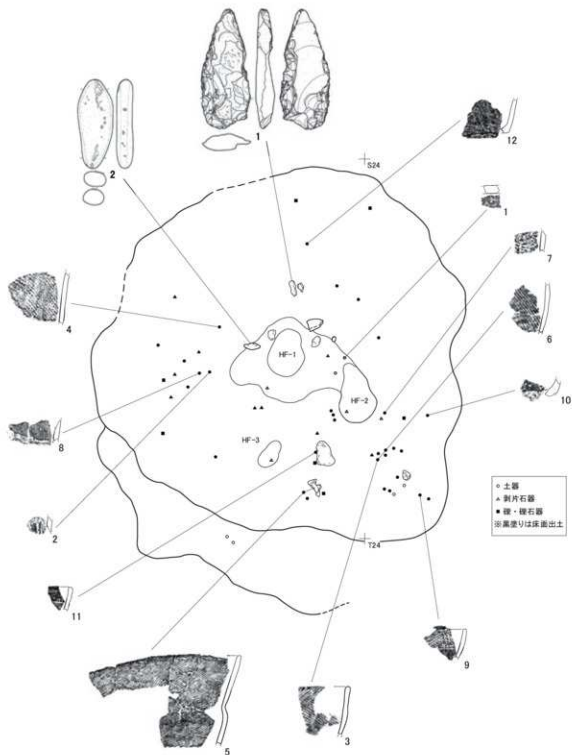
H-1HF-3

1. 粘(5.VYR4/6) 壤土 粘液中 厚 比較的均一に発達した焼土
2. 赤褐色(5.VYR3/2) 粘土 粘液中 厚 黄色土に焼土が少量混在

0 50/100 1m

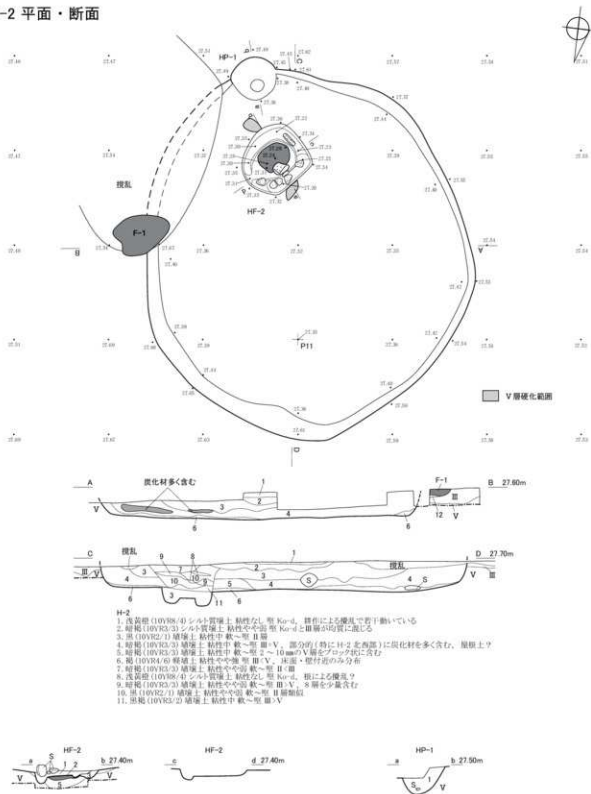
図IV-2 竪穴住居跡(1) H-1(1)

H-1 遺物分布



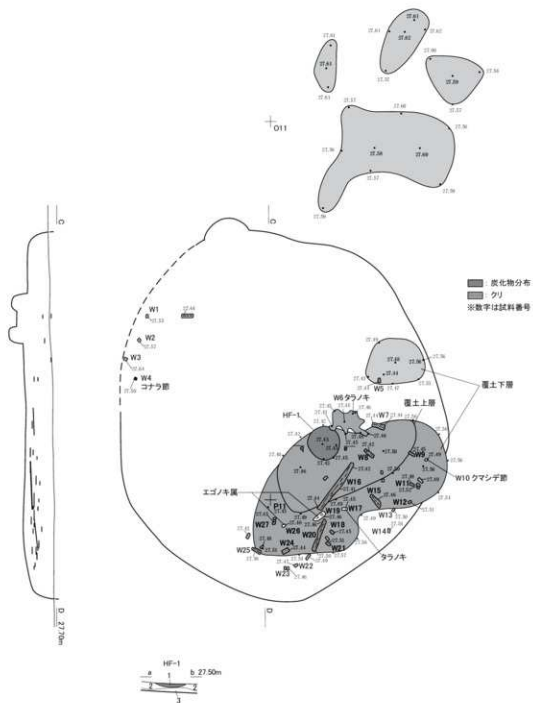
図IV-3 竪穴住居跡(2) H-1(2)

H-2 平面・断面



図IV-4 竪穴住居跡(3) H-2(1)

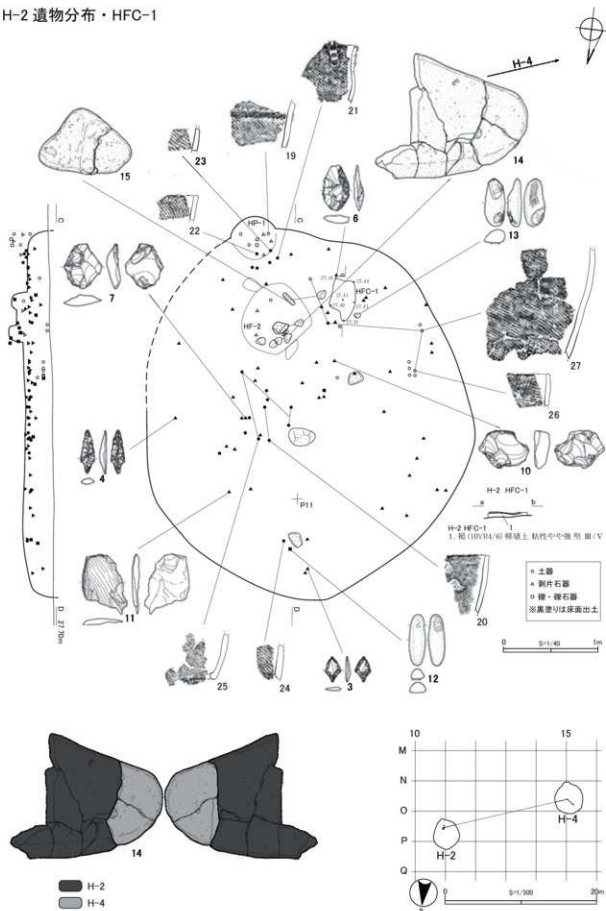
H-2 炭化物分布範囲、HF-1、周辺炭化物分布



- H-2HF-1
 1. 上記※欄(SYR1/4)埋戻土粘性中軟～硬 整土、1～2mmの焼土粒含む、上部に炭化材広がる、床面より3cm程上位
 2. 同層(10VR1/3)埋戻土、粘性中軟～硬3～5mmのV層含む
 3. 同(10VR1/4)埋戻土粘性中硬 V層の汚れた土、床面直上の覆土

図IV-5 竪穴住居跡(4) H-2(2)

H-2 遺物分布・HFC-1



図IV-6 竪穴住居跡(5) H-2(3)

の南側は抜き取られ、残存しない。周溝の内側は5cmほど掘り窪められ、焼面が形成され、その北西・南東の外側にはV層が硬化している部分が認められた。先端ビットは坑底が丸く、床面より20cmほど深いもので、覆土には堅穴本体の4層が堆積し、それらは同時期に機能していたものと思われる。柱穴は検出されなかった。

遺物出土状況：出土遺物の総数は640点で、土器が57点、石器等が583点である。土器はⅣ群a類57点が、石器等は石鏃2点、両面調整石器3点、スクレイパー2点、石錐1点、Rフレイク6点、剥片539点、たたき石1点、原石2点、加工痕のある礫1点、礫18点が出土した。

床面の遺物は石組炉(HF-2)周辺に多く、石鏃は壁付近に分布する。14・15(図Ⅳ-75-14・15)はHF-2の石組みを構成する礫で、両者とも接合する。14は台石からの転用の可能性のある盤状礫素材で、破片ごとに被熱の範囲が異なることから分割後に炉石として利用された可能性がある。破片の2点はH-4の覆土中から出土し、被熱が認められることから炉石として利用された後、H-4の廃絶後の窪みに廃棄されたとみられる。H-2 HF-2の石組みは円環せず、多くが抜き取られていることから、H-2の廃絶に伴う構成礫の抜き取り作業とH-4への廃棄作業の結果と考えられ、H-2廃絶時にはH-4は既に廃絶され、窪みになっていたと推定される。15は大型の破片のみ石組みの構成礫として残り、小型の破片は覆土中から出土した。

炭化材は焼土(HF-1)を伴い、覆土下層を中心として覆土上層から出土し、焼失住居の構造材とみられる。特に北西部に偏在し、その方向は北西壁に平行のものと垂直のものがある。住居の周辺部では東・南側に炭化物の分布がある。覆土下層から出土した27点(KO3-W1~27)の炭化材について樹種同定を行った結果、クリ21点、エゴノキ属2点、タラノキ2点、クマシデ節1点、コナラ節1点であった。クリが主体を占める傾向は本地域の同時期の一般的な特徴である。

時期：覆土下層出土の建築材とみられる炭化材からは $3,880 \pm 30\text{yrBP}$ (KO3-D5、KO3-W7:クリ)・ $3,910 \pm 30\text{yrBP}$ (KO3-D6、KO3-W16:クリ)、石組炉HF-2出土の焼土とみられる炭化材からは $3,890 \pm 30\text{yrBP}$ (KO3-D3)・ $3,900 \pm 30\text{yrBP}$ (KO3-D4)の年代測定値が得られている。建築材と焼土材では年代値に違いは見られない。遺物・年代測定値から縄文時代後期初頭天祐寺式期と考えられる。(鈴木)

堅穴住居跡3(H-3)(図Ⅳ-7、表Ⅳ-2、図版7)

確認・調査：調査区中央、標高26.5m付近の平坦面部に位置する。K21区精査中に黒色土の落ち込みを検出したため、土層観察用の十字ベルトを残して全体を掘り下げ、覆土堆積状況、床面、壁面の立ち上がりを確認し、堅穴住居跡と判断した。

土層：大きく上中下部の3つに区別できる。上部は1~5層で黒・黒褐色土、中部は6・7層で黄褐色土、下部は8~10層で暗褐色・黄褐色土主体の堆積である。上部は埋没過程の窪みに流入した自然堆積土、中部は屋根の葺き土などの崩落もしくは人為的な投げ込み土、下部は住居使用時から廃絶直後に堆積した床面直上の土と考えられる。

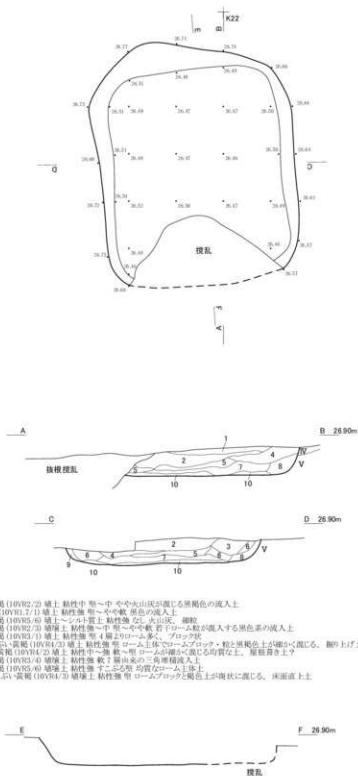
床面・壁：床面は概ね平坦・水平で、壁は東西では急角度、南ではやや緩やかに立ち上がる。平面形は隅丸方形である。

付属遺構：炉・柱穴などは確認できなかった。遺構種類は堅穴状遺構とすべきかもしれない。

遺物出土状況：出土遺物の総数は29点で、土器が25点、石器等が4点である。土器はⅢ群a類25点が、石器等は剥片3点、礫1点が出土した。

時期：遺物出土状況およびH-3が位置する標高25~26m前後にⅢ群a類期の遺構が多いことから、縄

H-3 平面



H-3

1. 黒層 (I0VR2/2) 埴土 粘性中 型～中 やや火山灰が混じる黒褐色の流入土
2. 黒 (I0VR1/7) 埴土 粘性強 型～やや軟 原色の流入土
3. 黒層 (I0VR5/6) 埴土～シラト泥上 粘性強 なし 火山灰、黒砂
4. 黒層 (I0VR2/3) 埴土 粘性強 型～中 やや軟 若干ローム粒が混入する黒色の流入土
5. 黒層 (I0VR1/1) 埴土 粘性強 型 4 層上ローム多、ブロック状
6. にごり・黒砂 (I0VR1/3) 埴土 粘性強 型 ローム土体・フォームブロック・粒と黒褐色土が混ざり混じる、細り上げ土・黒砂置き土とみられる
7. 灰赤層 (I0VR4/2) 埴土 粘性中～強 軟～硬 ロームが混ざり混じる均質な土、黒砂置き土?
8. 硬層 (I0VR3/4) 埴土 粘性強 軟 層由来の三角堆積流入土
9. 黄層 (I0VR5/6) 埴土 粘性強 中～硬 均質なローム土体上
10. にごり・黄層 (I0VR4/3) 埴土 粘性強 型 ロームブロックと褐色土が混ざり混じる、床面直上土

図IV-7 竪穴住居跡 (6) H-3

文時代中期前半と考えられる。

(坂本)

竪穴住居跡4 (H-4) (図IV-8～10、表IV-2、図版8～10)

確認・調査: 調査区東側の標高27mの段丘縁部に位置する。表土除去後にKo-dとみられる白色の火山灰とその周囲に黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。

暗褐色土(覆土上層:3層)を掘り下げると40～50cmほどの範囲の3か所で炭化物の集中が確認され、覆土中層(5層)中にもその下部に点々と、さらに覆土下層(7・8層)では西側の広い範囲から炭化物が検出された。これらは3cm以下の破砕された細かいものであった。

土層: 覆土は大きく上中下に分けられ、上層には中央部にKo-d(1層)、自然堆積の暗褐色土(3層)、中層には自然堆積の黒色土(5層)、下層には竪穴の周縁部を中心に暗褐～褐色土(7・8層)、壁際・床面直上に褐色土(9層)が堆積する。7・8層は屋根土、9層は住居が機能していた時の汚れた床面の土とみられる。炭化材の出土状況から住居廃絶に伴う焼失後、上部の窪みに黒色土・暗褐色土・Ko-dが堆積したと考えられる。

床面・壁: 床面は平坦であるが、中央が若干窪む。中央には汚れた土が皿状に堆積し、壁はやや斜めに立ち上がる。平面形は不整形円形～楕円形である。

付属遺構: 南南東～北北西の長軸上の南寄りに石組炉(HF-1)、南端に先端ビット(HP-1)がある。石組炉の周溝は長軸に対して若干傾く方形で、炉石は南側に2つ残るのみである。覆土や床面に被熱礫が散在することから抜き取られた後に故意に散らした可能性がある。礫は溝の内側に配置され、その外側には土を裏込めして、固定している。周溝の内側は5cmほど掘り窪められ、燃焼面が形成される。先端ビットは坑底が皿状で、床面より10cmほど深く、覆土には竪穴本体の8層が堆積し、それらは同時期に機能していたものと思われる。先端ビットの長軸上の反対側には斜め下方に掘り込まれた袋状の土坑(HP-2)がある。その他、小土坑(HP-3～5)が検出されたが、配置や形状から柱穴とはみなしがたい。

遺物出土状況: 出土遺物の総数は422点で、土器が228点、石器等が194点である。土器はⅢ群a類3点、Ⅳ群a類225点が、石器等は石鎌17点、スクレイパー1点、石錐1点、Rフレイク15点、Uフレイク5点、剥片116点、石斧1点、扁平打製石器1点、たつき石1点、礫36点が出土した。

石鎌が多く、覆土中層の1点を除いて屋根土の崩落土と考えられる覆土下層からの出土で、全て周縁部に分布する。石組炉(HF-1)の傍らには土器(32・35)と石錐(34)・壘状の石斧(38)が出土した。

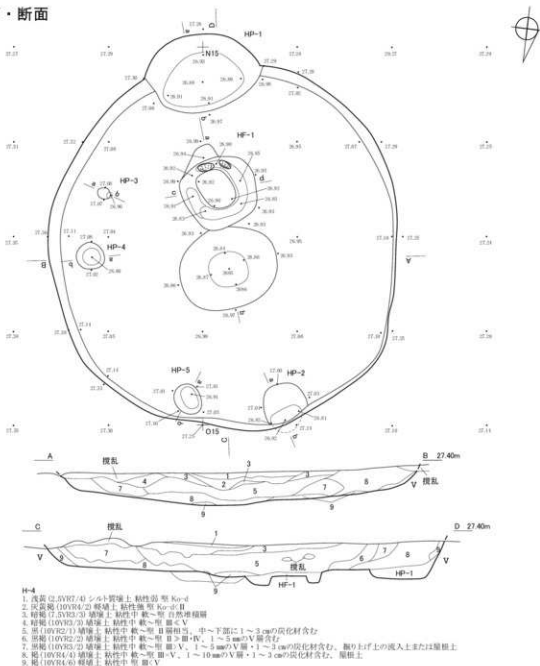
覆土には本住居と同時期とみられるH-2の石組炉を構成する礫と接合するもの含まれる。焼失住居であるH-2の廃絶時に石組みを壊す行為の際に一部の礫をすでに廃絶されていたH-4の窪みに廃棄したものと考えられる。そのため、廃絶の順番は、H-4→H-2が想定される。

炭化材は住居西側の覆土下層を中心として覆土上・中層から出土している。形を残すものはなかったが、その量と分布範囲の広さから焼失住居の構造材であったと考えられる。覆土中・下層出土の10点(KO3-W28～37)について樹種同定を行った結果、クリ7点、コナラ節3点であった。クリが主体を占める傾向は本地域の同時期の一般的な特徴である。

時期: 石組炉HF-1出土の燃焼材とみられる炭化材からは3,910±20yrBP(KO3-D7)・3,880±20yrBP(KO3-D8)の年代測定値が得られている。遺物・年代測定値から縄文時代後期初頭天祐寺式期と考えられる。

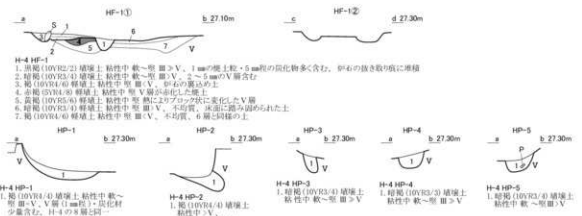
(鈴木)

H-4 平面・断面



H-4

1. 浅黄 (2.5VR7/4) シルト質壤土、粘性弱、堅、K₀-6
2. 灰黄褐 (10VR4/2) 壤土、粘性強、堅、K₀-6/1
3. 暗緑 (7.5VR2/3) 壤土、粘性中軟～堅、自然堆積層
4. 暗緑 (10VR2/2) 壤土、粘性中軟～堅、黒<V
5. 黄 (10VR2/1) 壤土、粘性中軟～堅、目録相当、中～下部に1～2cmの炭化材含む
6. 暗緑 (10VR2/2) 壤土、粘性中軟～堅、黒>黄<IV、1～5mmのV層含む
7. 暗緑 (10VR2/2) 壤土、粘性中軟～堅、黒>V、1～5mmのV層・1～3cmの炭化材含む、掘り上げた土または層植土
8. 黄 (10VR4/4) 壤土、粘性中軟～堅、黒<V、1～10mmのV層・1～2cmの炭化材含む、層植土
9. 暗緑 (10VR4/6) 壤土、粘性中堅、黒<V



H-4 HP-1

1. 暗緑 (10VR2/2) 壤土、粘性中軟～堅、黒>V、1mmの硬土粒・5mm程度の炭化物多く含む、砂石の抜き取り痕に準拠
2. 暗緑 (10VR2/4) 壤土、粘性中軟～堅、黒>V、2～5mmのV層含む
3. 黄 (10VR4/6) 壤土、粘性中堅、黒<V、砂石の抜き取り
4. 赤褐 (5VR4/6) 壤土、粘性中堅、V層が赤化した土
5. 黄褐 (10VR5/6) 壤土、粘性中堅、黒に20%程度に変化したV層
6. 暗緑 (10VR2/4) 壤土、粘性中堅、黒<V、不均質、表面に踏み固められた土
7. 暗緑 (10VR4/6) 壤土、粘性中堅、黒<V、不均質、6層と同様の上

H-4 HP-2

1. 暗緑 (10VR4/4) 壤土、粘性中>V、H-4の8層と同-
少量含む、H-4の8層と同-

H-4 HP-3

1. 暗緑 (10VR3/4) 壤土、粘性中軟～堅、黒>V

H-4 HP-4

1. 暗緑 (10VR3/4) 壤土、粘性中軟～堅、黒>V

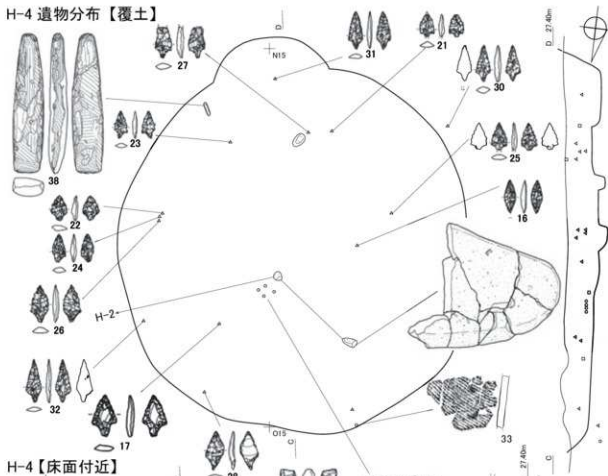
H-4 HP-5

1. 暗緑 (10VR3/4) 壤土、粘性中軟～堅、黒>V

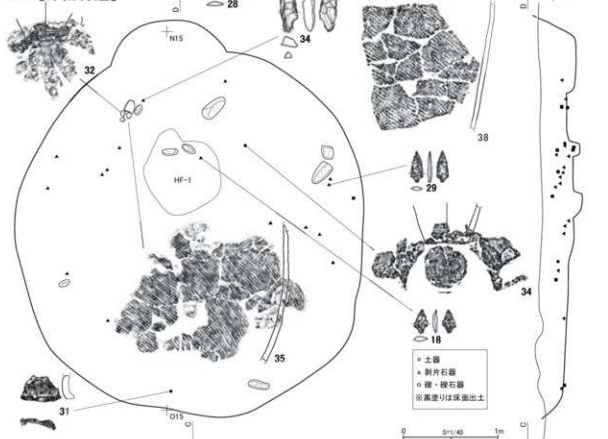
0 5m/40 1m

図IV-8 竪穴住居跡 (7) H-4(1)

H-4 遺物分布【覆土】

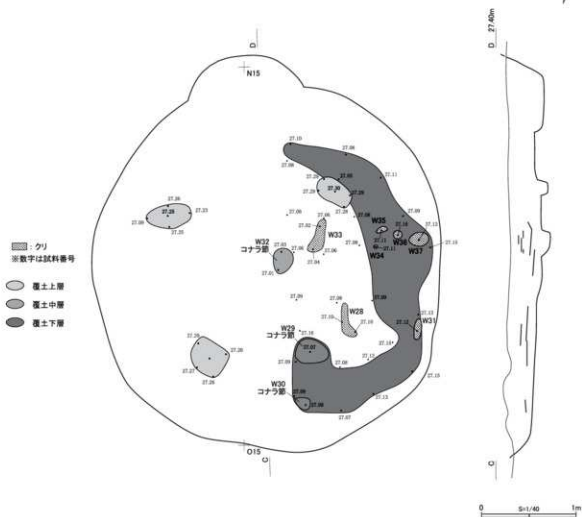


H-4【床面付近】



図IV-9 竪穴住居跡 (8) H-4(2)

H-4 覆土下層炭化物分布・樹種同定結果



図IV-10 竪穴住居跡(9) H-4(3)

竪穴住居跡5(H-5)(図IV-11・12、表IV-2、図版11・12)

確認・調査：調査区中央北部、標高22.5m前後の緩斜面部に位置する。H-1調査で床面と判断した黒褐色土からトレンチ調査を行ったところ、下位に厚さ30cm前後の覆土と床面を確認した。H-1調査終了後、土層観察用の十字ベルトを残して全体を掘り下げ、壁面、床面を検出した。

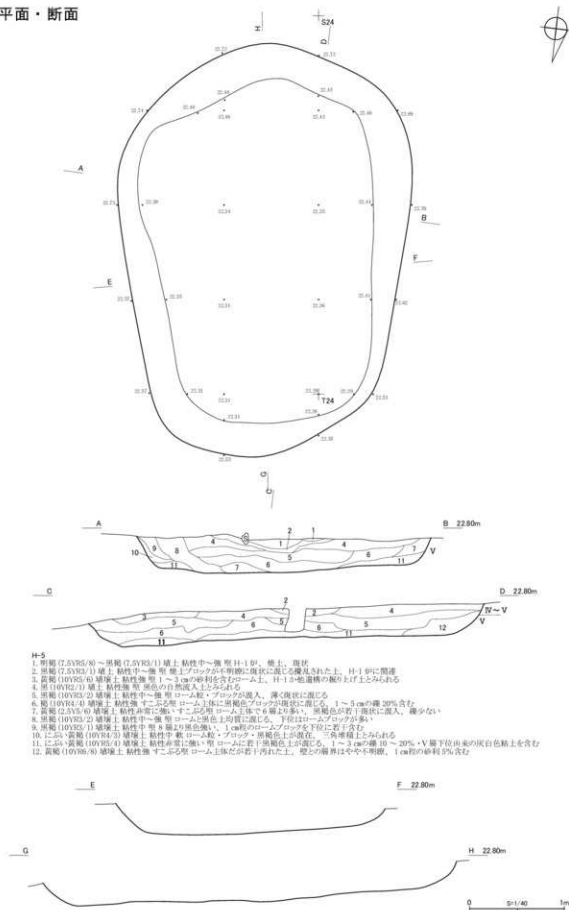
土層：大きく上中下部の3つに区分できる。上部は1～5層で黒・黒褐色土、中部は6～10層で黄褐色土と褐色・黒褐色土、下部は11・12層で暗褐色・黄褐色土主体の堆積である。上部はH-1に関連する炉焼土、自然流入土、投げ込みとみられる黄褐色土で構成される。下部層と壁面・床面の境界はやや不明瞭であった。

床面・壁：床面は概ね平坦だが、西・北側に向かって下がり10cm程度低くなる。壁は東西で比較的急角度に、南北で緩やかに立ち上がる。

付属遺構：炉・柱穴などは確認できなかった。遺構種類は竪穴状遺構とすべきかもしれない。

遺物出土状況：出土遺物の総数は155点で、土器が89点、石器等が66点である。土器はIV群a類88点、

H-5 平面・断面

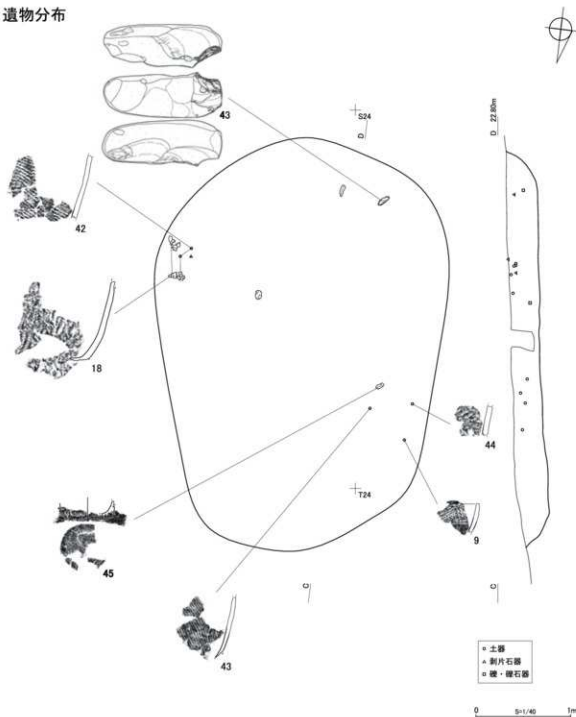


H-5

1. 明層 (7.5VRS/8) ~ 黒層 (7.5VRS/1) 埴土粘性中〜強 型 H-1 が、埴土、炭状
2. 黒層 (7.5VRS/1) 埴土粘性中〜強 型 埴土ブロックが不明瞭に炭状に混じる炭灰された土、H-1 中に散在
3. 黄層 (10VRS/6) 埴土粘性強 型 1 ~ 3 cm の砂利を含むローム土、H-1 と位遺構の取り上げとみられる
4. 黒 (10VRS/7) 埴土粘性強 型 炭色の自然流入土とみられる
5. 黒層 (10VRS/2) 埴土粘性中〜強 型 ローム粒・ブロックが混入、薄く炭状に混じる
6. 黄 (10VRS/4) 埴土粘性强 すこぶる型 ローム土中に黒褐色ブロックが混入している。1 ~ 5 cm の塊 20% 含む
7. 黄層 (2.5V/6) 埴土粘性非常に強、すこぶる型 ローム土中で 6 層より多い、黒褐色が若干炭状に混入、薄少ない
8. 黒層 (10VRS/2) 埴土粘性中〜強 型 ロームと炭色土均質に混じる、下部はロームブロックが多い
9. 黄層 (10VRS/1) 埴土粘性中 型 6 層より炭色強い、1 cm 程度のロームブロックを下部に若干含む
10. 上・下黄層 (10VRS/3) 埴土粘性中 軟 ローム粒・ブロック・黒褐色土が混入、三角埴土とみられる
11. 上・下黄層 (10VRS/4) 埴土粘性非常に強い、型 ロームに若干黒褐色土が混じる、1 ~ 3 cm の塊 30 ~ 20%、V 層下位由來の灰白色粘土を含む
12. 黄層 (1.0VRS/8) 埴土粘性强 すこぶる型 ローム土中に若干汚れた土、壁土の層厚はやや不明瞭、1 cm 程度の砂利 5% 含む

図IV-11 竪穴住居跡 (10) H-5(1)

H-5 遺物分布



図IV-12 竪穴住居跡 (11) H-5(2)

IV群b類1点が、石器等はスクレイパー1点、Rフレイク1点、剥片23点、石核1点、たたき石1点、原石1点、礫38点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性はある。また、検出状況からH-1より古いと考えらる。
(坂本)

竪穴住居跡6 (H-6) (図IV-13・14、表IV-2、図版12~14)

確認・調査: 調査区東側の標高27mの段丘縁辺部から16mほどに内側に位置する。Ⅲ層掘り下げ後にⅤ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。

黒色土(覆土上層:1層)を掘り下げた後、南側の覆土下層(3層)から多量の炭化材が検出された。焼失住居と判断し、概ね2cm以上のものについては位置を記録して取り上げた。北側の半分程度は抜根により広く攪乱を受けていた。

土層: 覆土は大きく上下に分けられ、上層には自然堆積の黒色土(1層)、下層にはほぼ全体に屋根土とみられるにぶい黄褐色土(3・4層)が堆積する。炭化材の出土状況から住居廃絶に伴う焼失後、上部の窪みに黒色土が堆積したと考えられる。

床面・壁: 床面は平坦で、壁はやや斜めに立ち上がる。平面形は隅丸方形である。

付属遺構: 先端ピットを通る方形の対角線を主軸とすると南東-北西方向で、主軸の南東寄りに石組炉(HF-1)が、南東端に先端ピット(HP-1)がある。石組炉の周溝は主軸に対して若干傾く方形で、溝は東側が浅く、「コ」の字状である。炉石は西側に長さ20cmほどの1点が残るのみで、覆土中の礫には被熱が見られず、炉石として利用されたかどうかは不明である。周溝の内側は5cmほど掘り窪められ、燃焼面が形成される。先端ピットは坑底が深さ5cmほどの浅い皿状で、覆土には堅穴本体の3層が堆積し、それらは同時期に機能していたものと思われる。直径50cmほどの土坑が南側の中央(HP-3)、西壁(HP-2)にあり、HP-2の坑底からは3~5cmの小型の垂円礫が38点出土した。HP-4・6は深さ20cmほどで位置・大きさから柱穴の可能性があるが、それらに対応するとみられる北側は攪乱を受け不明である。HP-5・7はそれらに比べ小型である。

遺物出土状況: 出土遺物の総数は317点で、土器が155点、石器等が162点である。土器は全てⅣ群a類で、石器等は石鎌4点、両面調整石器3点、Rフレイク5点、剥片90点、石核1点、石斧1点、扁平打製石器1点、原石1点、礫56点が出土した。

赤色顔料の付着した土器(Ⅴ章7試料2)は南東端、石鎌は北西端と南東端に、石斧は南壁付近に分布する。

炭化材は覆土下層から出土し、焼失住居の構造材とみられる。特に南西部に偏在し、その配置は南壁に平行のものと南西-北東方向に斜行したものがある。覆土下層から出土した23点(KO3-W38~60)の炭化材について樹種同定を行った結果、クリ17点、エゴノキ属4点、トチノキ1点、ハリギリ1点であった。クリが主体を占める傾向は本地域の一般的な特徴である。

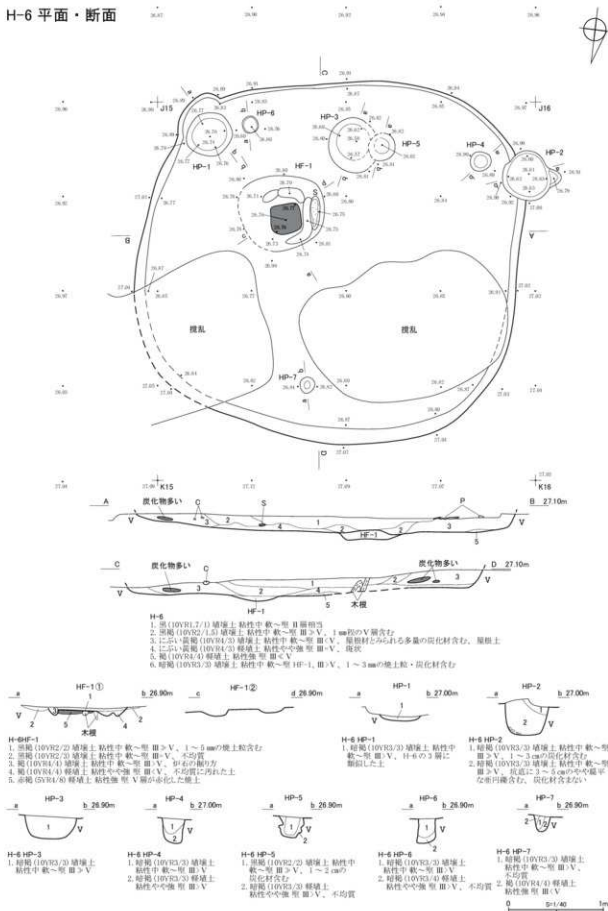
時期: 覆土下層出土の建築材とみられる炭化材からは、 $4,020 \pm 20$ yrBP (KO3-D11、KO3-W38:トチノキ)・ $3,870 \pm 30$ yrBP (KO3-D12、KO3-W57:クリ)、石組炉HF-1出土の燃焼材とみられる炭化材からは、 $3,910 \pm 30$ yrBP (KO3-D9)・ $3,860 \pm 20$ yrBP (KO3-D10)の年代測定値が得られている。建築材とみられるトチノキはやや古く、クリは建築材・燃焼材ともに近い年代値である。遺物・年代測定値から縄文時代後期初頭天祐寺式期と考えられる。(鈴木)

竪穴住居跡7 (H-7) (図IV-15~17、表IV-2、図版14~16)

確認・調査: 調査区中央の北部、沢状地形に面した標高23m前後の緩斜面上に位置する。

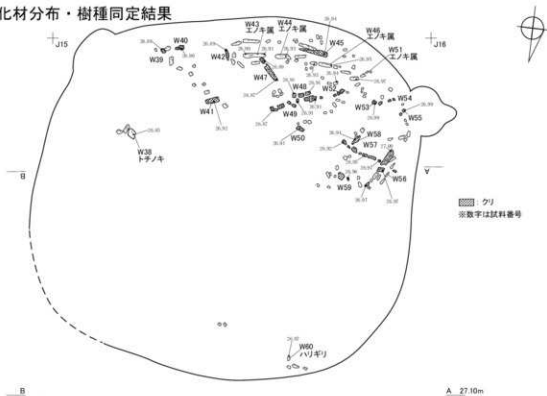
R23・24区掘削作業時に、Ⅳ~Ⅴ層中に長径3.5mほどの楕円形状に落ち込む褐色土を検出した。同範囲南部では10~20cm大の礫のまとまりと石槍・石斧などの製品石器、北部では焼土(HF-1)、灰集中(HAC-1)が確認された。

H-6 平面・断面

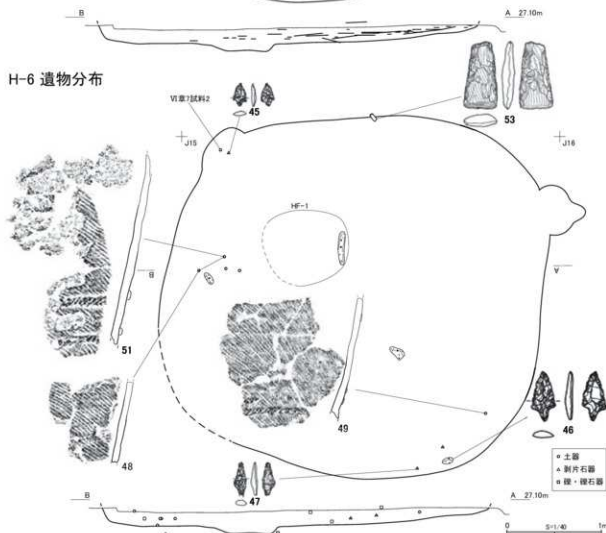


図IV-13 竪穴住居跡 (12) H-6(1)

H-6 炭化材分布・樹種同定結果



H-6 遺物分布



図IV-14 竪穴住居跡(13) H-6(2)

住居などの遺構の可能性を考え、南北方向に土層観察用ベルトを設定し褐色土の掘削と周辺の精査を行った。結果、①地形傾斜に沿って堆積する褐色～暗褐色のⅢ層類似層が漸移的にⅤ層へと連続する状況を確認し、②主柱穴とみられる小土坑（HP-1～4・6～8）と褐色土範囲を取り囲む様に円形に配置された小土坑（HP-9～43）を検出した。このため褐色土範囲を中心とした住居跡と考え、HF-1・HAC-1 検出レベルを床面と捉えた。

壁面などは確認できなかったため、掘り込みを持たない、もしくは黒色土中に浅く掘り込まれた住居跡と考えられる。壁柱穴とみられるHP-9～43の配置から、住居規模は5m以上と推測している。

土層：住居覆土は確認できなかった。図IV-17に示した土層断面図A-Bは、床面下の自然堆積層と判断した。

床面・壁：床面はHF-1・HAC-1 検出面と捉えており、北側の礫や製品石器の出土レベルは流れ込みなどを考慮すると床面より若干高い位置と推測される。褐色土検出面は地形に沿って南から北へ緩やかに傾斜しているが、床面はこれよりも水平に構築されていたと考えたい。壁面は確認できなかった。

付属遺構：炉跡及び炉の付帯施設とみられるもの各1基と柱穴45基がある。

炉跡はHF-1で住居北東側に位置し、長さ90cm・幅70cmほどの不整形を呈する。HF-1の80cmほど西側には灰集中HAC-1とした厚さ5cmほどの褐灰色土の分布があり、炉に関係する施設と考えられる。

柱穴は規模・配置から、主柱穴とみられるHP-1～4・6～8、壁柱穴とみられるHP-9～43、その他柱穴HP-5・44・45に分けられる。

主柱穴は7基である。規模は径20cm前後が主体で、検出面からの掘り込みが30cm以上の深いもの（HP-1～3）と、30cm未満の浅いもの（HP-4～8）がみられる。また特記事項としてHP-2覆土上部から琥珀製垂飾1点が出土した。

壁柱穴は35基である。規模は径10cm弱が主体で、検出面からの深さは10～20cmである。径や先細りの形状から杭等を打ち込んだものと推測される。若干内外に傾くものが散見されるが、垂直のものが主体である。全体の配置は径5mほどの円形で、柱穴の間隔は15～35cm程度のひらきがあるものの概ね等間隔に整然と配列されている。地形傾斜方向である北側で分布が途切れ、この範囲に「その他柱穴」としたものが分布する。

その他柱穴は3基で、壁柱穴が途切れた住居北端部にまとまって分布する。規模は径15cm前後、深さ20cm未満にまとまる。傾斜方向や柱穴配置から出入り口部が想定され、柱穴は出入り口構造に関連したものと推測できる。

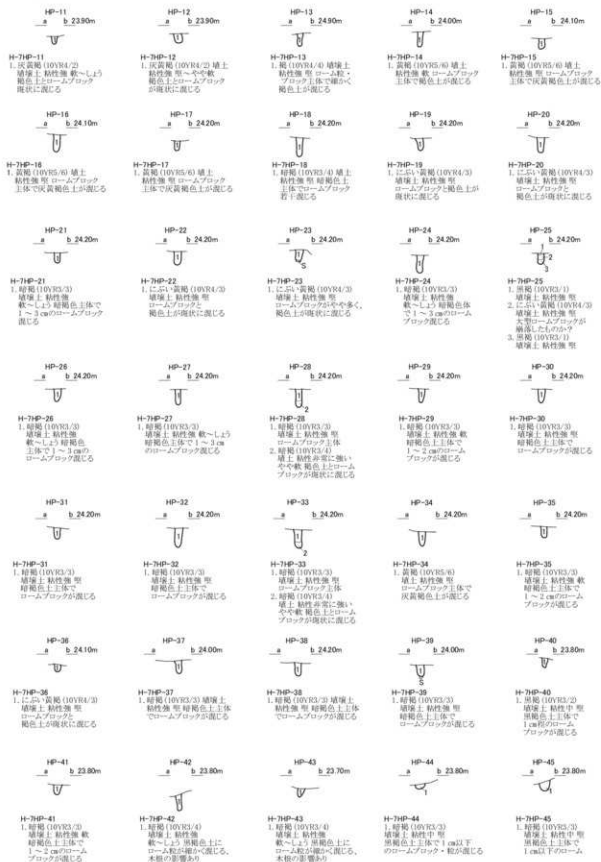
遺物出土状況：出土遺物の総数は111点で、土器が45点、石器等が66点である。土器は全てⅣ群A類で、石器等は石槍2点、石錐1点、垂飾1点、Rフレイク2点、剥片32点、石核3点、石斧2点、たたき石1点、礫20点が出土した。特に住居北部で礫や製品石器の出土が多くみられた他、主柱穴とみられるHP-2から琥珀製垂飾、HP-4から石斧完形品が出土している。

時期：琥珀製垂飾の出土層位であるHP-2覆土1層の炭化材からは $3,820 \pm 30$ yrBP（KO3-D13）、下位層であるHP-2覆土2層の炭化材からは $3,420 \pm 30$ yrBP（KO3-D14）の年代測定値が得られている。放射性炭素年代測定の結果と出土土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。（坂本）

竪穴住居跡8（H-8）（図IV-18・19、表IV-2、図版16・17）

確認・調査：調査区中央北端の標高22.5～23mの緩斜面上に位置する。重機による表土除去時にKo-

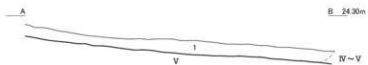
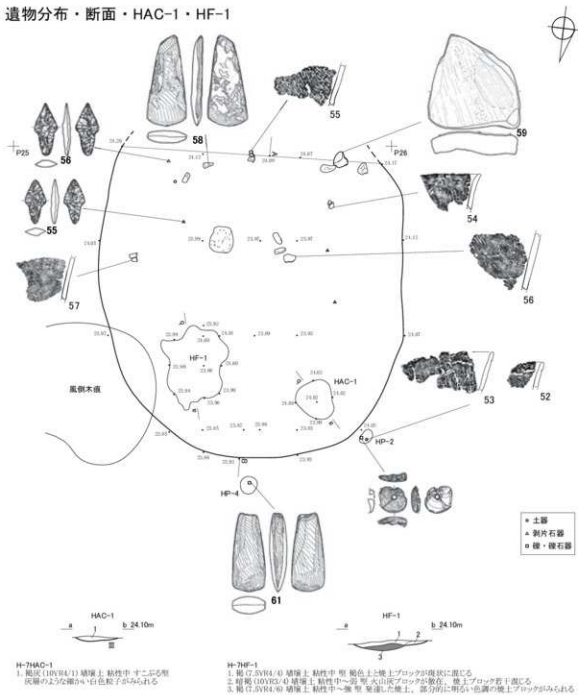
H-7 断面



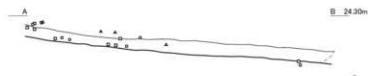
0 50/100 1m

図IV-16 竪穴住居跡 (15) H-7(2)

H-7 遺物分布・断面・HAC-1・HF-1



H-7
1. 埴壇 (10VR2/3)～埴壇 (10VR3/4) 埴壇上 粘性中～強 赤 上部が黒褐色、下部が暗褐色、層層類似層、1層上面が床面とみなせる



図IV-17 竪穴住居跡 (16) H-7(3)

dの明瞭な落ち込みを認めたため、土層観察用の十字ベルトを残して掘り下げを行った。結果、径3.5mほどの円形の掘り込みと床面、炉などを検出したため竪穴住居跡と判断した。

住居中央から西側は風倒木痕により床面・壁の一部が壊されていたが、風倒範囲にかかる炉の状況や床面付近の遺物の出土状況から大きな土壌攪乱はないものと判断し、検出・出土状況を記録した。

土層：住居覆土は大きく3つに区分できる。上部はKo-d火山灰層や黒～褐色土層を主体とする自然堆積（1～3層）、中部は黄褐色ローム主体もしくはロームブロックを多く含む人為的可能性がある堆積（4～11層）、下部は床面直上の褐～暗褐色土で住居使用時から廃絶直後の堆積（12～14層）、である。上部1・2層は風倒が発生した後に堆積したと理解できる。中部の覆土はH-8周辺に他の遺構がないため、H-8の掘り上げ土、屋根土などが考えられるだろう。

床面・壁：床面はV層を掘り込んで構築している。風倒で大きく破壊され一部凹凸があり乱れているが、概ね水平・平坦であったと考えられる。壁は南北東側で急角度、西側でやや緩やかに立ち上がっていた。

付属遺構：炉跡2基（HF-1・2）、柱穴1基（HP-1）を検出した。

HF-1は長径約85cmと大型で、中央部北東寄りに設置しており、燃焼部とみられる明瞭な焼土の発達が確認できた。HF-2は炭化物と焼土ブロックの分布範囲であり、焼土面はなく、また精査により削り取ってしまったため断面図は作成できなかった。HF-1の50cm程南東側に位置する。

HP-1は南東壁に接して構築され、床面からの深さは20cm程である。

遺物出土状況：出土遺物の総数は315点で、土器が260点、石器等が55点である。土器は全てIV群a類で、石器等は両面調整石器1点、Rフレイク1点、剥片27点、石核2点、たたき石1点、原石1点、礫22点が出土した。HF-1周辺からはIV群a類土器がまとめて出土している。

土壌のフローテーション選別の結果、HF-1からクリ果実1点、堅果類2点が検出されている。

時期：HF-1出土の炭化材からは3,680±20yrBP（KO3-D15）・3,710±30yrBP（KO3-D16）の年代測定値が得られている。年代測定の結果および出土土器から縄文時代後期前葉と考えられる。

（坂本）

竪穴住居跡9（H-9）（図IV-20・21、表IV-2、図版17・18）

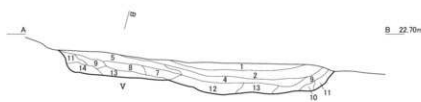
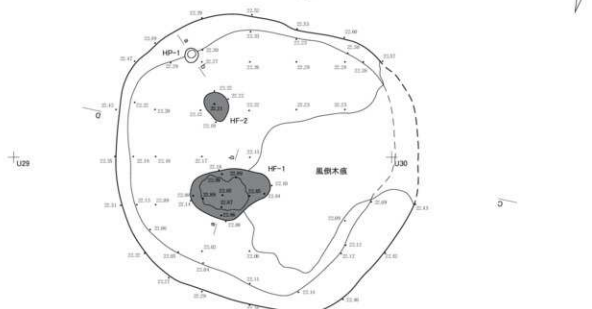
確認・調査：調査区中央北西部の標高24mの緩斜面上に位置する。QR32区Ⅲ層下部～V層にかけてを掘削作業中に、黒～褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。南北方向（C-D）にトレンチ調査を実施し、検出面から10～20cmほどの掘り込みを確認したため遺構と判断し、十字ベルトを設定して覆土の掘り下げを行った。しかし、地山および壁際の覆土が小礫を多量に含むため精査や土層観察が難しく、また住居北部が風倒木痕と表土除去時の抜根によって大きく破壊されており、住居の床面・壁の検出が非常に困難であった。床面は付属遺構の確認面を、壁は部分的に検出される暗褐色土の三角堆積を目安として検出を行った。

土層：覆土上部（1～6層）は自然堆積とみられる黒～褐色土が、下部は小礫を多く含む褐～黄褐色ロームが主体である。

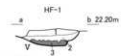
床面・壁：床面は覆土と地山が小礫を多く含むため凹凸のある状態での検出となった。住居南部HP-1～4と北部HF-1検出面を目安に床面と判断したが、南から北へ周辺地形と同方向に傾斜している。

壁面も小礫と抜根・風倒のため確認が困難であったが、立ち上がりは南・西側で緩やかに、北・東側でやや急角度に認められた。

H-8 平面・断面



- H-8
1. におい・黄緑 (I0VRS/4) ～ におい・黄緑 (I0VRS/4) シルト 粘性なし 堅 純度の高い火山灰層 (0a-0)
 - 1'. 陥 (I0VR4/0) シルト 粘性中～強い 堅 細かな粒子的火山灰層
 2. におい・黄緑 (I0VR1/7) 埴壇土 粘性強 堅 黄緑色の褐色腐植土、1～4cmの火山灰ブロック (I 層) が 10～20%散在
 3. 明水色 (I0VRS/0) 埴壇土 粘性強 堅 ローム質土、風塵による汚れた土
 4. におい・黄緑 (I0VR4/0) 埴壇土 粘性強 中～軟 ローム主体で黄褐色土が細かく混じる、中央部で火山灰ブロック散在、風塵の影響あり
 5. 黄緑 (I0VRS/0) 埴壇土 粘性中～軟 中～軟 自然産物の黄褐色土にロームブロックが多く混じる
 6. 明水色 (I0VRS/0) 埴壇土 粘性強 軟 ローム主体で褐色土と混じる汚れた土
 7. 陥 (I0VR4/0) 埴壇土 粘性非常に強い 中～軟 2～3cmのロームブロックが多く混じる、ロームは固く見える
 8. 明水色 (I0VRS/0) 埴壇土 粘性強 中～軟 汚れたローム主体、4層に類似
 9. におい・黄緑 (I0VR4/0) 埴壇土 粘性非常に強い 堅 6～8層に比しローム多い
 10. におい・黄緑 (I0VRS/4) 埴壇土 粘性強 軟 ロームブロック主体、中～硬シロコ
 11. 黄緑 (I0VRS/0) 埴壇土 粘性強 軟 ローム主体、中～硬
 12. 明水色 (I0VRS/0) 埴壇土 粘性強 堅 褐色土主体で少量のロームブロック・黄褐色土・火山灰ブロックが散在
 13. 陥 (I0VR4/0) 埴壇土 粘性非常に強い 堅 ローム主体、黄褐色の腐植物散在
 14. におい・黄緑 (I0VR4/0) 埴壇土 粘性強 堅 褐色土にロームが混じる汚れた土、三角埴壇土とみられる



- H-HP-1
1. におい・黄緑 (I0VRS/4) 埴壇土 粘性中 堅 少量のロームブロック・腐植物散在
 2. におい・黄緑 (I0VRS/4) 埴壇土 粘性中～強 堅 1層に0.5～3cmの埴壇土ブロックが散在する
 3. 明水色 (I0VRS/0) 埴壇土 粘性中 中～硬 堅 硬化し、タワタシによるブロック状にならなかつた埴土

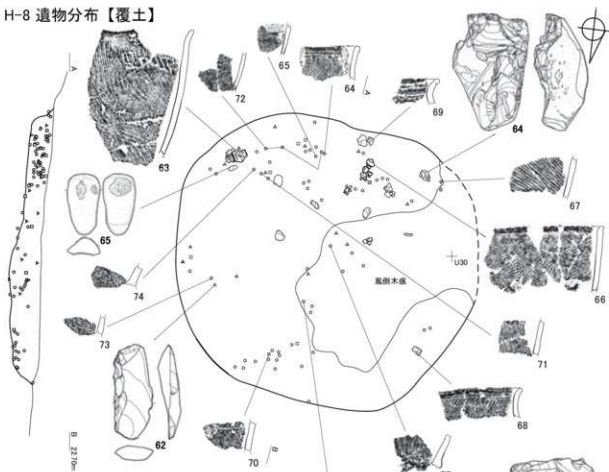


- H-HP-1
1. におい・黄緑 (I0VR4/0) 埴壇土 粘性中～堅 堅 褐色土とロームブロックが塊状に混じる、下段にロームブロック増加

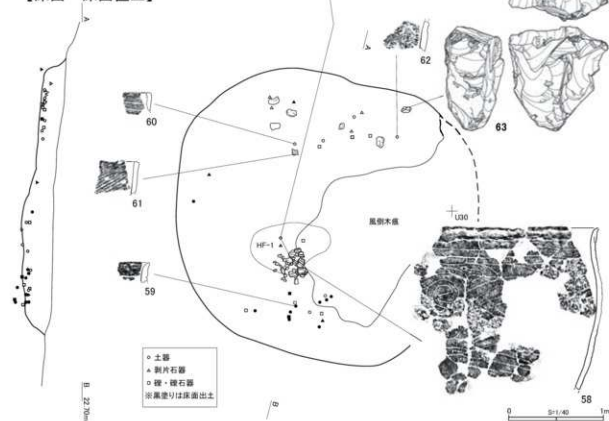


図IV-18 竪穴住居跡 (17) H-8(1)

H-8 遺物分布【覆土】

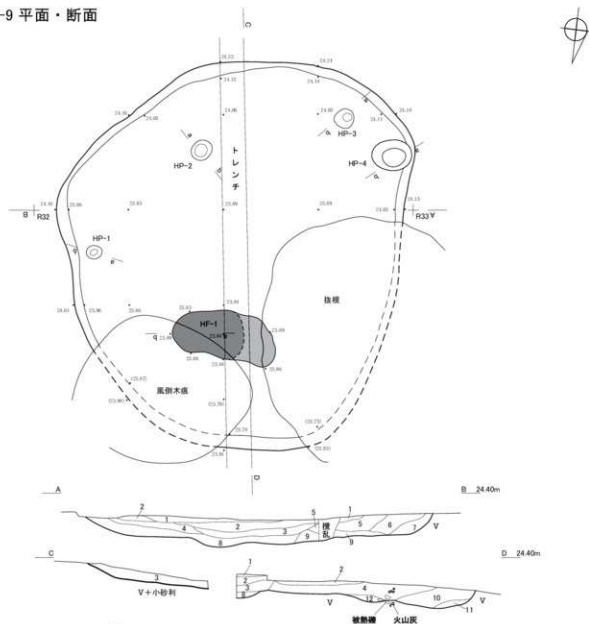


【床面・床面直上】



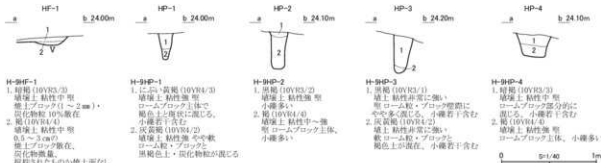
図IV-19 竪穴住居跡(18) H-8(2)

H-9 平面・断面



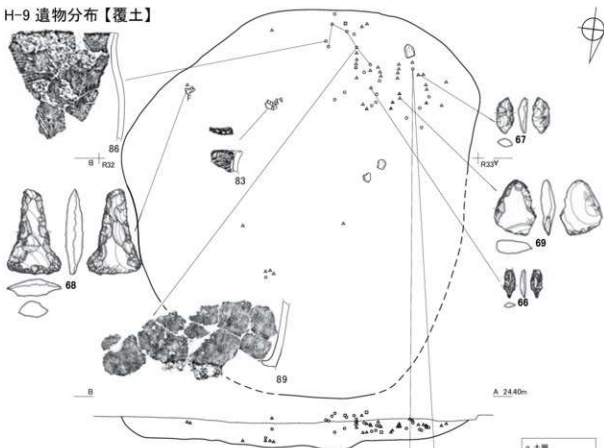
H-9

1. 基 (10VR1/1) 埴土粘性なし、軟〜やや火山灰混じりの自然埴埴上
2. 埴 (10VR4/4) 埴土粘性弱〜なし、軟〜やや上段灰色・下段褐色の火山灰層
3. 赤層 (10VR3/2) 埴土粘性中〜強、厚 1mm程の小砂利2%含む
4. 埴埴 (10VR3/3) 埴埴土粘性中〜強、厚〜やや軟3層に比し粘性やや強い、小砂利5%含む
5. 赤層 (10VR3/2) 埴埴土粘性中 埴土層に類似する小砂利の混入はよく見られる
6. 埴 (10VR4/4) 埴埴土粘性中〜強、2層に比べ色調が暗く粘性も強い、ロームが細かく混じる
7. 埴埴 (10VR3/3) 埴埴土粘性中 埴土層に類似、砂利少量混入する。三角埴埴とみられる
8. 埴埴 (10VR3/3) 埴埴土粘性強 埴土層に類似するロームと小砂利の混入が多い
9. 土に似し赤層 (10VR4/2) 埴埴土粘性中〜強、厚 ローム主体で砂利20%以上混じる
10. 埴埴 (10VR3/4) 埴埴土粘性強 層間に類似する埴埴面上、小砂利多い
11. 土に似し黄層 (10VR4/3) 埴埴土粘性中、小砂利若干含む、ロームの比率高く出る
12. 埴 (10VR4/4) 埴埴土粘性中〜強、硬、上層

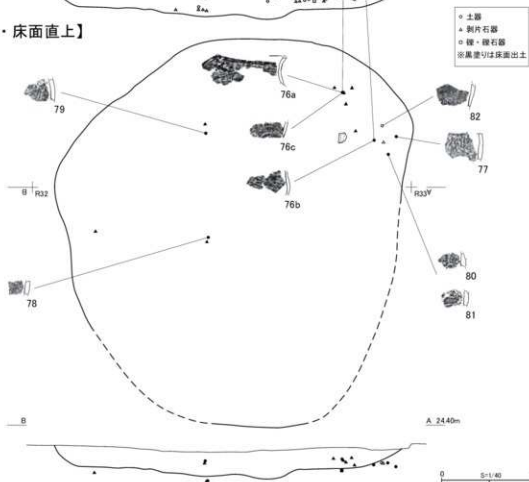


図IV-20 竪穴住居跡 (19) H-9(1)

H-9 遺物分布【覆土】



【床面・床面直上】



図IV-21 竪穴住居跡(20) H-9(2)

付属遺構：柱穴4基、炉跡1基を確認した。柱穴は全て住居南半で確認された。径20cm前後・深さ40cm前後のもの（HP-1～3）と径40cm・深さ25cmのもの（HP-4）があり、前者3基は約1.3mの等間隔で配置されていた。また後者は西壁に接して構築されていた。

HP-1は発達した焼土が長径80cm程の範囲でみられ、西側に接して炭化物と焼土ブロックの分布が検出された。

遺物出土状況：出土遺物の総数は211点で、土器が110点、石器等が101点である。土器は全てⅣ群a類で、石器等は石鏃1点、両面調整石器1点、篋状石器1点、スクレイパー1点、Rフレイク2点、剥片88点、石核1点、原石1点、礫5点が出土した。

土壌のプロローション選別の結果、HP-1からオニグルミ核4点、クリ果実基部1点を検出されている。

時期：土器の出土状況から、縄文時代後期前葉と考えられる。（坂本）

竪穴住居跡10（H-10）（図Ⅳ-22～26、表Ⅳ-2、図版19・20）

確認・調査：調査区中央北西部、標高24～24.5mの緩斜面上に位置する。RS33・34区の精査作業中にKo-dおよび黒褐～暗褐色土の落ち込みを確認した。落ち込み範囲の長軸方向に沿って土層観察用の十字ベルトを設定しトレンチ調査を行った結果、床面、炉、壁の立ち上がり等を確認したため竪穴住居跡と判断した。覆土全体の掘り下げ過程では、覆土中に構築された石組炉1基（HF-1）、土坑2基（HP-1・2）を検出した。また床面からは炉跡1基（HF-2）、柱穴4基を検出した。住居平面は隅丸方形で、長軸は約2.8mと非常に小型である。

土層：上下二つに大きく区分できる。上部は火山灰層（Ko-d）と黒褐～暗褐色の均質な土で自然堆積と捉えられるもの、下位はロームブロックを含有もしくは黄褐色ロームを主体とする土層で投げ込みなどによる人為的な堆積と考えられる。また覆土中からは1,400点を超える非常に多くの遺物が出土している。

床面・壁：床面は周辺地形と同方向に若干の傾斜がみられる。壁は床面から急角度に立ち上がる。

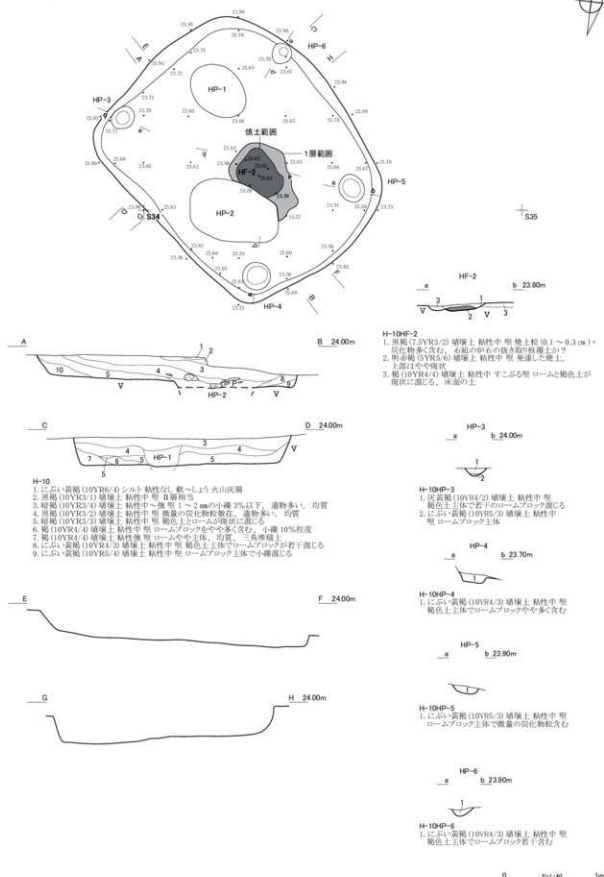
付属遺構：住居埋没過程の覆土に構築されたもの（HF-1、HP-1・2）と、床面に構築されたもの（HF-2、HP-3～6）があり、前者はH-10廃絶後に構築されたもの、後者はH-10使用時に付帯した遺構である。

【覆土の遺構】HF-1はコの字形に礫の配置がみられたため石組炉と判断したが、石組内で焼土等は検出されなかった。HP-1は長径60cm程の楕円形で覆土4層を切って構築しており、住居床面を掘り込んで坑底を形成している。HP-2は覆土5層を切って構築しており、覆土上位を4層が覆っている。このためHP-1よりも古いと判断できる。長径1mほどの楕円形を呈し、坑底は若干傾斜している。坑底から坑口にかけて斜めに横たわる様に凝灰岩の大型角礫が出土したほか、石灰岩礫などもみられた。

【床面の遺構】HF-2は住居床面の中央からやや北西寄りに設置され、50×40cmの範囲に発達した焼土がみられた。HP-3～5は床面のほぼ四隅に構築されており主柱穴と考えられるが、掘り込みはいずれも10cm程度と浅い。

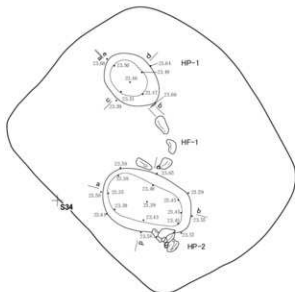
遺物出土状況：出土遺物の総数は1,620点で、土器が1,069点、石器等が551点である。土器はⅢ群a類16点、Ⅳ群a類1,052点、不明1点が、石器等は石鏃1点、両面調整石器2点、スクレイパー9点、石錐1点、Rフレイク8点、Uフレイク6点、剥片239点、石核7点、すり石1点、たたき石4点、台石1点、原石11点、礫261点が出土した。覆土中から多数の遺物が出土している。

H-10 平面・断面



図IV-22 竪穴住居跡(21) H-10(1)

H-10 覆土中構築遺構



a HP-1 b 23.80m



c HP-1 d 23.80m



e HP-1 f 23.80m



H-10HP-1

1. 赤褐色 (10VR3/2) 埴土 粘性中 弱 黒褐色に1cm程度のロームブロックが多く混入。小砂利若干含む
2. 赤褐色 (10VR2/2) 埴土 粘性強 弱 若くは弱に黒粒混在。小砂利若干含む
3. 赤い黄褐色 (10YR4/3) 埴土 粘性強 弱 ロームブロック主体で褐色土が混在に混入。小砂利若干含む

a HP-2 b 23.70m



c HP-2 d 23.80m



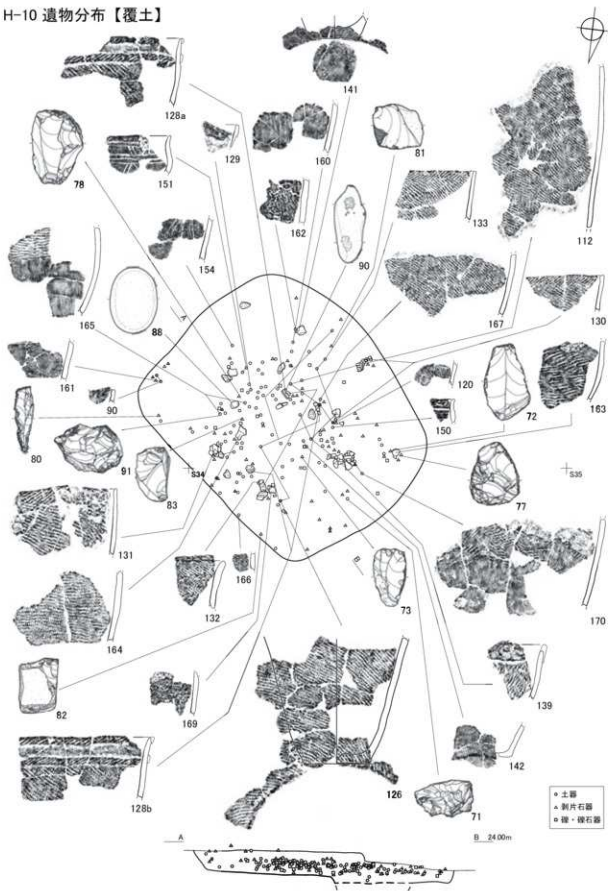
H-10HP-2

1. 赤褐色 (10YR2/2) 埴土 粘性中 弱 黒褐色土主体でロームブロック若干混入。小砂利含む。床面直上土層混
2. 赤い黄褐色 (10YR4/3) 埴土 粘性強 弱 褐色土にロームブロックが多く混入。小砂利含む
3. 赤い赤褐色 (5YR4/4) 埴土 粘性強 弱 褐色土・ロームブロック・焼土ブロックが混在に混入。小砂利含む。HP-1の機上とみられる
4. 暗オリーブ緑 (5YR3/3) 埴土 粘性中〜強 弱 褐色土主体でロームブロック混入。小砂利含む



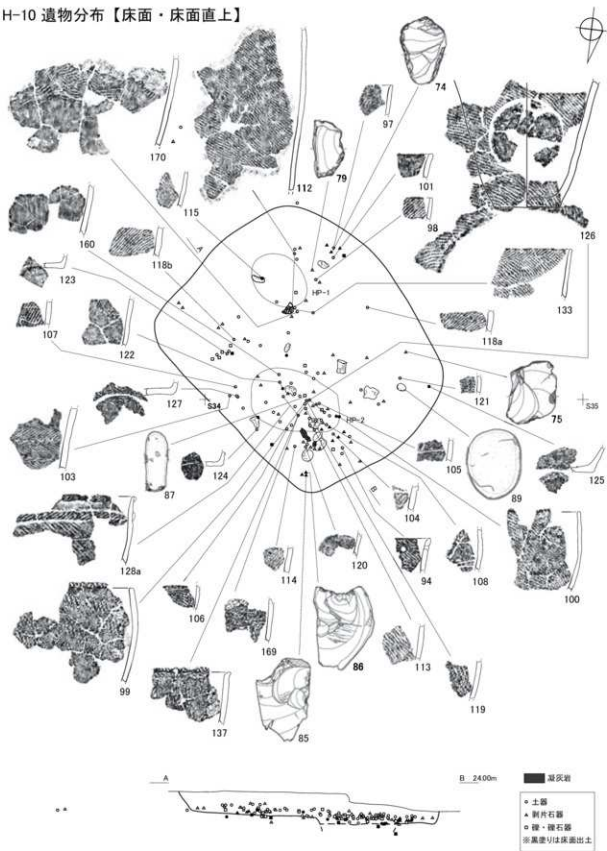
図IV-23 竪穴住居跡 (22) H-10 (2)

H-10 遺物分布【覆土】



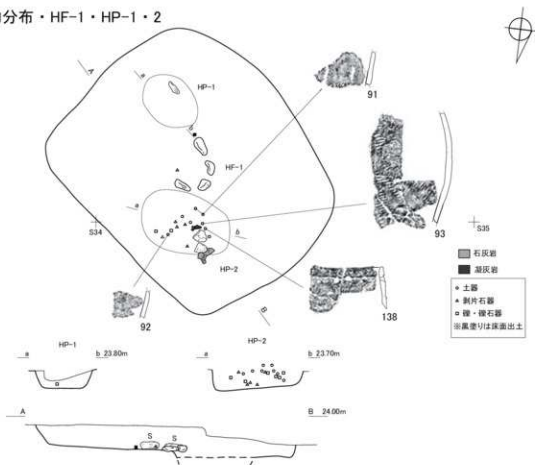
図IV-24 竪穴住居跡(23) H-10(3)

H-10 遺物分布【床面・床面直上】

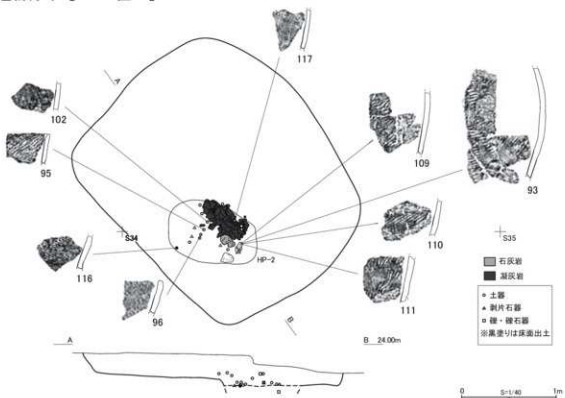


図IV-25 竪穴住居跡(24) H-10(4)

H-10 遺物分布・HF-1・HP-1・2



H-10 遺物分布【HP-2 直上】



図IV-26 竪穴住居跡(25) H-10(5)

土壌のフローテーション選別の結果、HF-2からオニグルミ核1点が検出されている。

時期：HF-2出土の炭化材からは3,840±30yrBP (KO 3-D17)・3,910±20yrBP (KO 3-D18)の年代測定値が得られている。年代測定結果および土器の出土状況から、縄文時代後期初頭～前葉と考えられる。(坂本)

竪穴住居跡11 (H-11) (図IV-27～29、表IV-2、図版21・22)

確認・調査：調査区ほぼ中央の標高26mの段丘縁辺部に位置する。Ⅲ層掘り下げ中にKo-dとみられる白色の火山灰とその周囲に黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。北東部の壁は抜根により大きく攪乱を受けていた。

土層：覆土は大きく上中下に分けられ、上層には中央部にKo-d、周辺に褐色土(1層)、中層には自然堆積の黒色土(3層)、下層にはほぼ全体に屋根土とみられる褐色～暗褐色土(5層)が堆積する。覆土下層(5層)上位の4層で焼土2か所(HF-1・2)が検出された。5層の下位にはV層と同一層であるがやや汚れてしまいが弱い7層が堆積していた。柱穴であるHP-2・3の掘り込み面とHF-3上面が7層上面であることから本住居の床面を7層上面と判断した。7層は東側のHP-1を除くとほぼ中央に分布し、最終面は東西両側がベンチ状の形状である。

床面・壁：床面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。平面形は隅丸長方形である。

付属遺構：東壁に接して110×90cmほどの楕円形で、底が平坦な土坑(HP-1)があり、その上面には円形の溝を持つHF-3があった。現場の所見ではその高さがH-11の床面と一致したためその地床炉と判断し、HP-1は住居より古いと考えたが、その覆土から出土した土器がH-11出土土器より新しいため、住居より新しい時期(見晴町式期で、H-12aと同時期)に掘り込まれた可能性がある。HP-2・3は小型の柱穴でHP-4も柱穴の可能性はある。

遺物出土状況：出土遺物の総数は668点で、土器が440点、石器等が228点である。土器はⅢ群a類401点、Ⅳ群a類39点が、石器等は石鎌1点、石槍1点、両面調整石器3点、スクレイパー6点、Rフレイク4点、剥片148点、石核6点、扁平打製石器3点、たたき石2点、台石1点、原石6点、礫47点が出土した。

遺物は北西、中央、南東部の3か所にまとまりがあり、主に北西部には土器・母岩別資料を含む剥片石器・礫・礫石器、中央部には土器、南東部には土器・礫石器が分布する。H-11とH-12は母岩3・4と扁平打製石器(93+112)に接合関係が認められる。

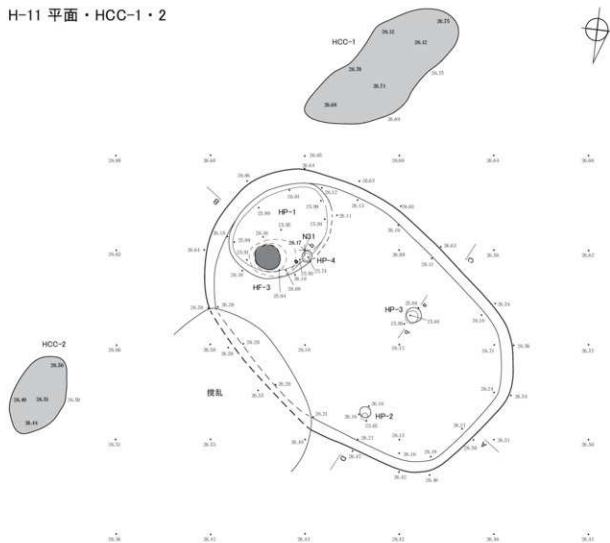
土壌のフローテーション選別の結果、HF-1からオニグルミ核4点、HF-2からブナ科果実2点が検出されている。

時期：覆土中のHF-1出土の燃焼材とみられる炭化材からは3,680±30yrBP (KO 3-D19)、床面の地床炉HF-3出土の同じく燃焼材とみられる炭化材からは4,480±30yrBP (KO 3-D20)・4,400±30yrBP (KO 3-D21)の年代測定値が得られている。HF-3の年代測定結果と覆土下層から床面にかけての遺物から縄文時代中期前半さいべⅦ式期である。住居は廃絶後、窪みが利用されHF-1・2が形成されるが、時期は年代測定結果と覆土上層の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(鈴木)

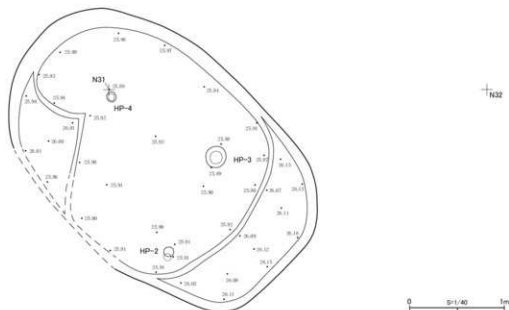
竪穴住居跡12a・b (H-12a・b) (図IV-30～33、表IV-2、図版23～26)

確認・調査：調査区ほぼ中央の標高26mの段丘縁辺部に位置する。Ⅲ層掘り下げ中にKo-dとみられる白色の火山灰とその周囲に黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交

H-11 平面・HCC-1・2

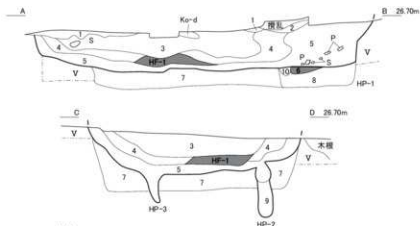


最終面



図IV-27 竪穴住居跡(26) H-11(1)

H-11 断面



- H-11
1. 黄砂 (10V12/3) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層相当
 2. 黒 (10V14/6) 埴壇土 粘性中軟～硬 Kor-d・Ⅱ・Ⅴ層表に亘る
 3. 黒 (10V12/1) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層相当
 4. 黄砂 (10V12/3) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ
 5. 黒 (10V14/6) → 黄砂 (10V13/4) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、5mm程度のⅤ層3%・2～10mmの炭化物含む
 6. 赤砂 (10V18/8) 埴壇土 粘性中軟～硬 HP-3、Ⅱ層上
 7. 黄砂 (10V15/6) 埴壇土 粘性やや硬 軟～硬 Ⅴ層表に、やや汚れた、1.5mの部
 8. 黒 (10V14/6) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、1～2cmのⅤ層15%含む、HP-1 覆土
 9. 黒 (10V14/6) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、1cm程度の炭化物含む、HP-2 覆土
 10. 黄砂 (10V13/4) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、1cm程度の埴土を含む

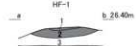
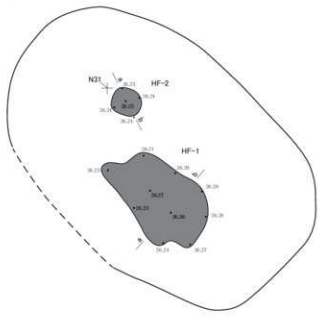


- H-11 HP-3
1. 黄砂 (10V12/3) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、1～2cmのⅤ層10%含む、掘り込み面はH-11の7層上



- H-11 HP-4
1. 黄砂 (10V12/4) 埴壇土 粘性中軟 Ⅱ層・Ⅴ、5mm程度のⅤ層10%・炭化物含む、掘り込み面はH-11の7層上

H-11 HF-1・2



- H-11 HF-1
1. 赤砂 (10V12/2) 埴壇土 粘性中軟～硬 1～5mmの埴土粒7%含む
 2. 赤砂 (10V14/8) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層上
 3. 黄砂 (10V15/6) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、H-11の5層

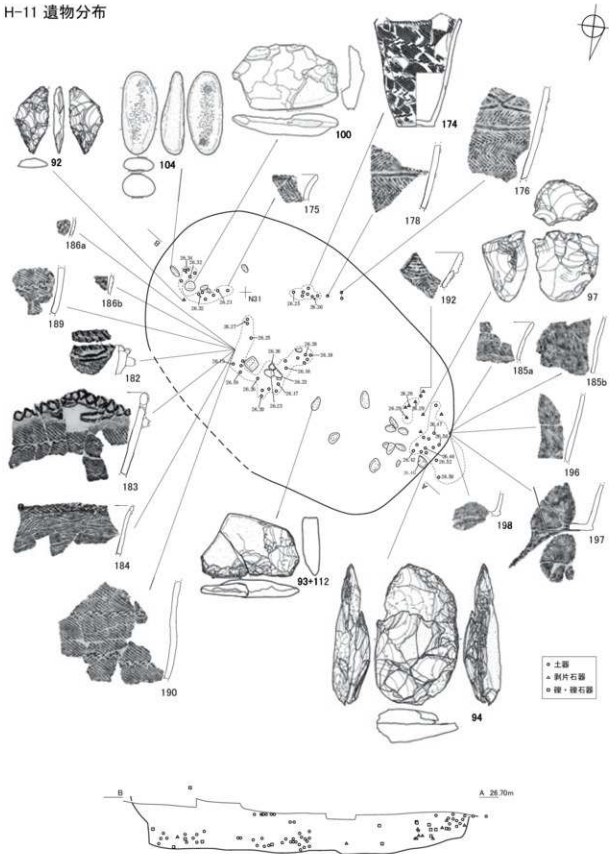


- H-11 HF-2
1. 黄砂 (10V13/6) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層上、1cm程度の埴土粒・炭化物を含む
 2. 黄砂 (10V13/4) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、H-11の4層
 3. 黒 (10V14/6) 埴壇土 粘性中軟～硬 Ⅱ層・Ⅴ、H-11の5層



図IV-28 竪穴住居跡(27) H-11(2)

H-11 遺物分布



圖IV-29 竪穴住居跡(28) H-11(3)

するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。覆土上層の黒色土を掘り下げると北東部のその下面で石組炉(HF-1)が検出されたため、床面と判断し、黒色土を除去して上部の堅穴(H-12a)を記録した。その後、下部の住居(H-12b)の床面を検出し、調査を行った。北・西部の壁は抜根により広く攪乱を受けていた。

土層：覆土は大きく上下に分けられ、上層には中央部にKo-d(3層)、その下位に主に自然堆積の黒～黒褐色土(4～6層)、下層には流入土とみられる黒褐色土(8層)、屋根土とみられる褐色土(10層)が堆積する。覆土下層(8層)上面で石組炉1か所(HF-1)が検出された。

床面・壁：H-12aの床面は平坦であるが、壁は斜めに立ち上がる。H-12bの床面は平坦で壁は垂直気味に立ち上がる。平面形はH-12aが不整形円形、H-12bが隅丸長方形である。

付属遺構：H-12aは北東部に石組炉(HF-1)があるが、柱穴は検出されなかった。HF-1の石組みは12個の礎で構成され、南西側の1カ所は二重に、北東側は部分的に重なるように配置されている。

H-12bは中央に地床炉(HF-2)があり、中軸線上の東側には低い盛土を挟んで不整形なやや浅いHP-1が配置されていた。HF-2は不整形な形で、浅い掘り込みが巡り、一部被熱により赤化した軟質の泥岩が東縁に3点、中央に1点埋められていた。盛土の南側上部には炭化物がまとまって検出された(HCC-1)。主柱穴は直径15cmほどの4基(HP-2・4・8・10)が検出され、HP-8には建て替えの跡がみられた。中軸線上の西側には主柱穴より太い柱穴が2基(HP-5・7)あり、その間は浅い土坑(HP-6)で連結される。そのほか、浅い窪みが3か所(HP-3・9・11)あった。住居の外側には北西から西にかけて炭化物のまとまり(HCC-2・3)が分布していた。

遺物出土状況：出土遺物の総数は659点で、土器が213点、石器等が446点である。土器はⅢ群a類140点、Ⅳ群a類73点が、石器等は石鏃5点、両面調整石器5点、篋状石器1点、スクレイパー7点、剥片235点、石核10点、扁平打製石器2点、たたき石3点、石鋸2点、台石2点、原石6点、加工痕のある礫6点、礫140点が出土した。H-12a床面からはⅣ群a類土器が出土している。H-12b床面には遺物が多く、南東部のHP-10の近くにはミニチュア土器が3点(199・200・202)、主に胴部～底部の小型土器が1個体(203)、南北の壁付近では石核・剥片類・礫が出土し、HP-1の坑底付近からは先端を欠損した石鏃が3点(143～145)出土した。

土壌のプロローション選別の結果、HF-2からオニグルミ?核?1点が検出されている。

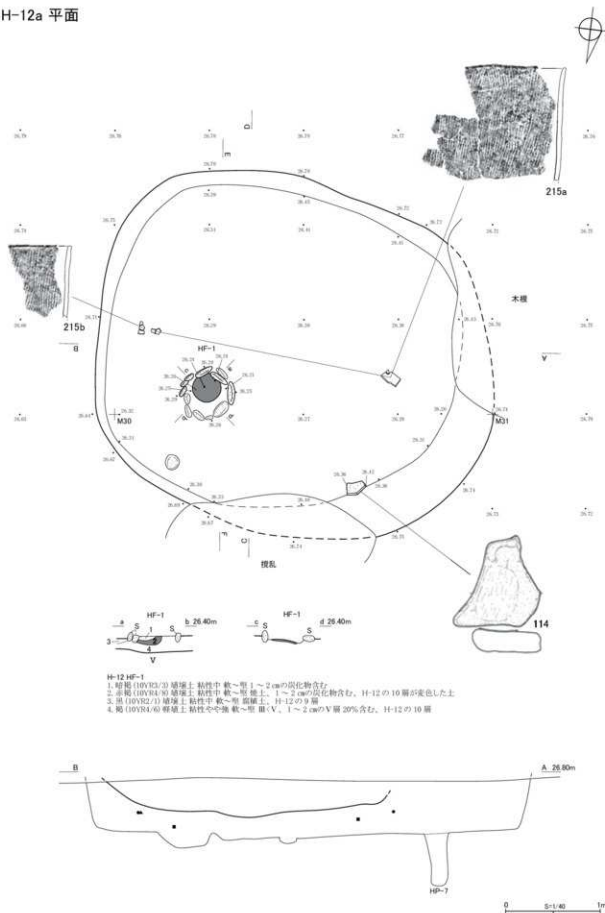
時期：H-12aの石組炉HF-1出土の燃焼材とみられる炭化材からは3,910±30yrBP(KO3-D22)・3,930±20yrBP(KO3-D23)、H-12bの地床炉HF-2出土の同じく燃焼材とみられる炭化材からは4,490±30yrBP(KO3-D24)・4,480±30yrBP(KO3-D25)の年代測定値が得られている。年代測定結果と遺物・遺構の形態などからH-12aは縄文時代後期初頭天祐寺式期、H-12bは縄文時代中期前半見晴町式期と考えられる。住居の埋没過程からすれば覆土下層・H-12b床面・HP-1出土遺物は中期前半見晴町式期に相当し、覆土上層・H-12a床面出土遺物は後期初頭を主体として中期前半を含むとみられる。(鈴木)

堅穴住居跡13(H-13)(図IV-34・35、表IV-2、図版26・27)

確認・調査：調査区ほぼ中央の標高26mの段丘縁辺部に位置する。Ⅲ層掘り下げ後にⅤ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。南側の壁は抜根により攪乱を受けていた。

土層：覆土は大きく上下に分けられ、上層には自然堆積の黒色土(1層)、下層には壁際を中心に屋根土とみられる褐色土(6・7層)が堆積する。覆土下層の上部で焼土2か所(HF-1・2)が検出

H-12a 平面

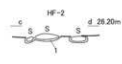
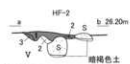
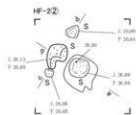
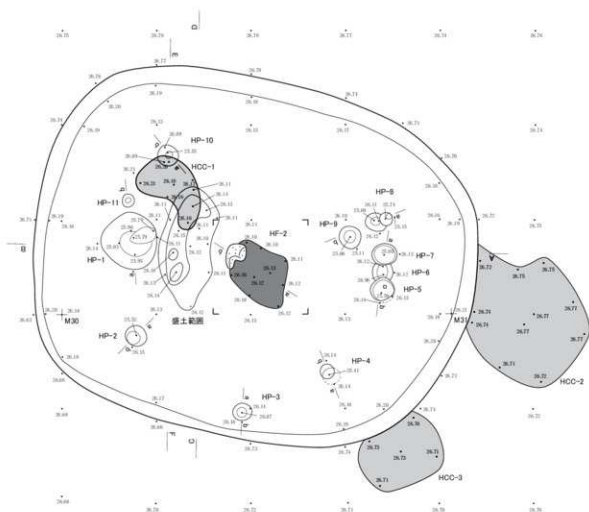


H-12 HF-1

1. 砂層 (10YR2/2) 硬質土 粘性中 軟～形 厚 1～2cm の炭化物含む
2. 赤層 (10YR4/3) 硬質土 粘性中 軟～形 厚 1～2cm の炭化物含む、H-12 の 10 層が変色した土
3. 黒 (10YR2/1) 硬質土 粘性中 軟～形 炭質土、H-12 の 9 層
4. 黒 (10YR4/6) 硬質土 粘性中 強軟～形 厚 1～2cm の V 層 20% 含む、H-12 の 10 層

図IV-30 竪穴住居跡 (29) H-12(1)

H-12b 平面

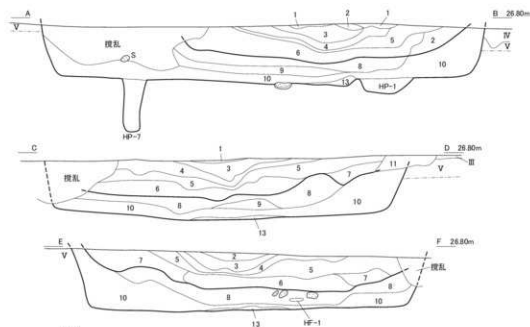


- H-12 HF-2
1. 埴輪 (10VRS/3) 埴壇土 粘性中 軟～硬 層 V 1～5mmの埴土粒・炭化材含む
 2. 明赤地 (10VRS/9) 埴壇土 粘性中 堅 1～2cmのV層出束の埴土粒が密集
 3. 黄緑 (10VRS/6) 埴壇土 粘性弱 堅 1～2cmのV層出束の埴土粒が密集、赤化してV色。



図IV-31 竪穴住居跡 (30) H-12(2)

H-12a・b 断面



H-12

1. 層 (10YR1.7/1) 礫層土 粘性中軟～硬 自然層相当
2. 層 (10YR3/4) 礫土 粘性中軟～硬 自然層相当
3. 炭層 (2.5Y/4) 礫層土 粘性中軟～硬 炭層 炭層
4. 層 (10YR3/4) 礫層土 粘性中軟～硬 自然層相当
5. 層 (10YR2/2) 礫層土 粘性中軟～硬 自然層相当
6. 層 (10YR2/1) 礫層土 粘性中軟～硬 1～5mmのV層 3%・2～5mmの炭化物含む、炭層土
7. 層 (10YR2/2) 礫層土 粘性中軟～硬 5mmのV層 20%含む
8. 層 (10YR2/2) 礫層土 粘性中軟～硬 1～5mmのV層 7%含む
9. 層 (10YR2/1) 礫層土 粘性中軟～硬 炭層土
10. 層 (10YR4/6) 礫層土 粘性中軟～硬 炭層土・V・1～2cmのV層 20%含む
11. 炭層 (10YR2/3) 礫層土 粘性中軟～硬 炭層土・V・2～10cmのV層 2%含む、炭の層厚上?
12. 炭層 (10YR2/2) 礫層土 粘性中軟～硬 4・10層の炭層厚
13. 炭層 (10YR2/2) 礫層土 粘性中硬 2～5cmのV層に黒色土・炭層が混じらなくなった上、HP-1とHP-2の境界層形成



H-12 HP-1

1. 層 (10YR3/4) 礫層土 粘性中軟～硬 V・5～10mmの炭化物上部に少量含む

H-12 HP-11

1. 層 (10YR3/3) 礫層土 粘性中軟～硬 炭層 V



H-12 HP-2

1. 層 (10YR3/3) 礫層土 粘性中軟 炭層 V 上部に 1cm程度の炭化物含む、H-12の8層類似、先頭大く打ち込みか?



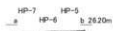
H-12 HP-2

1. 層 (10YR4/4) 礫層土 粘性中軟～硬 炭層 V、H-12の1層類似



H-12 HP-4

1. 層 (10YR4/6) 礫層土 粘性中硬 炭層 V、炭層の汚れた上、炭の上
2. 炭層 (10YR3/6) 礫層土 粘性中軟 V層類似、柱穴の埋め上



H-12 HP-5

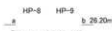
1. 層 (10YR2/2) 礫層土 粘性中軟 炭層土・炭層 V
2. 層 (10YR3/4) 礫層土 粘性中軟 炭層 V
3. 炭層 (10YR2/2) 礫層土 粘性中軟 炭層土・炭層 V
4. 層 (10YR4/4) 礫層土 粘性中軟 炭層 V

H-12 HP-6

1. 層 (10YR4/6) 礫層土 粘性中軟 炭層 V

H-12 HP-7

1. 層 (10YR4/4) 礫層土 粘性中軟 炭層 V



H-12 HP-8

1. 層 (10YR3/3) 礫層土 粘性中軟 炭層 V
2. 炭層 (10YR3/6) 礫層土 粘性中軟 炭層 V 上部に 1cm程度の炭層厚、H-12の8層類似

H-12 HP-9

1. 層 (10YR2/3) 礫層土 粘性中軟～硬 炭層 V

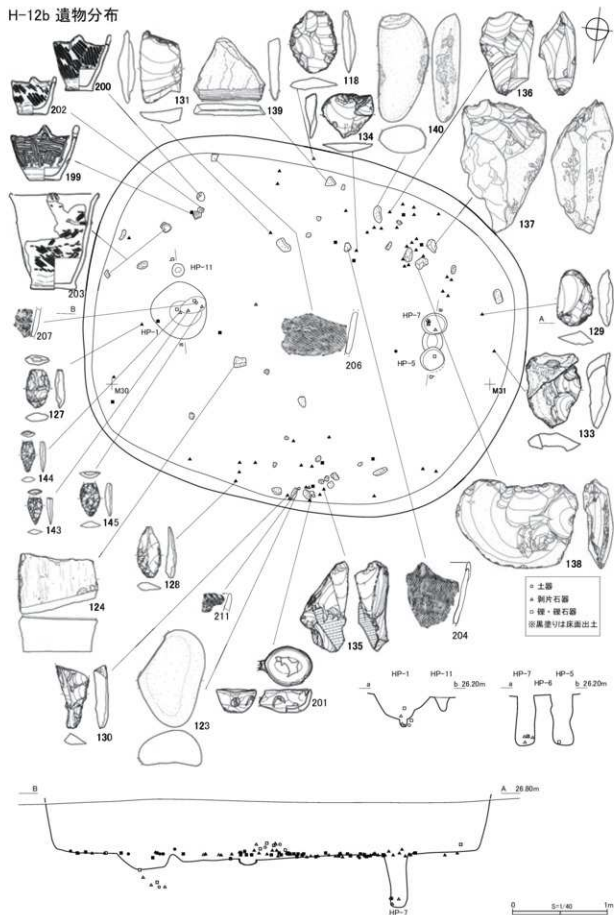


H-12 HP-10

1. 層 (10YR4/6) 礫層土 粘性中軟 炭層 V
2. 層 (10YR4/6) 礫層土 粘性中軟 炭層 V
3. 炭層 (10YR3/6) 礫層土 粘性中軟 炭層 V 層類似

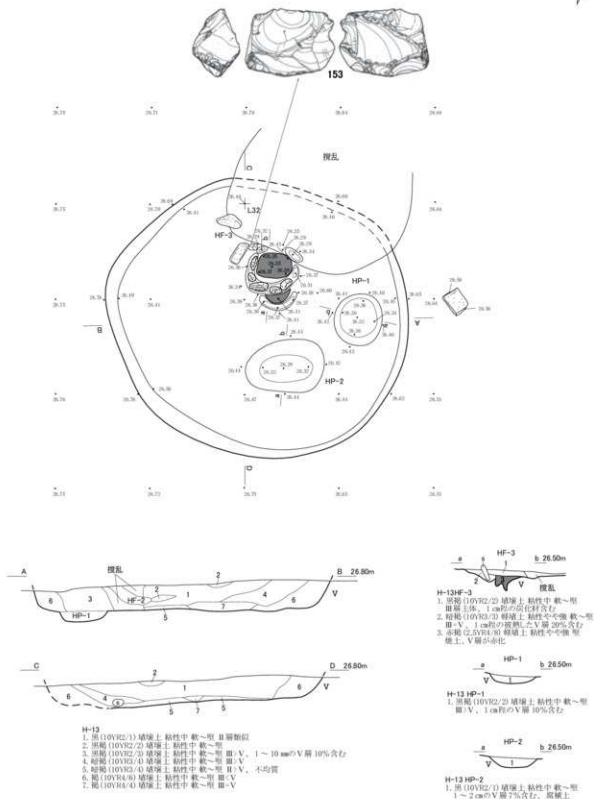
図IV-32 竪穴住居跡 (31) H-12(3)

H-12b 遺物分布



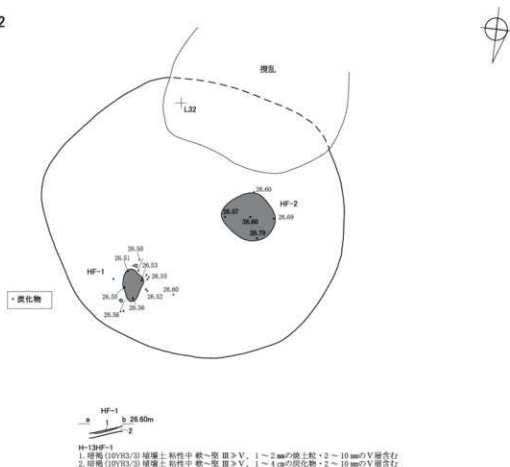
図IV-33 竪穴住居跡(32) H-12(4)

H-13 平面・断面



図IV-34 竪穴住居跡 (33) H-13(1)

H-13 HF-1・2



図IV-35 竪穴住居跡 (34) H-13(2)

された。その層位と分布と広がりから焼失住居の可能性が考えられる。

床面・壁：床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。平面形は不整円形である。

付属遺構：石組炉 (HF-1) は南寄りに位置し、その周溝は方形に近い形状であったとみられる。炉石は北・東側に5個残存しているが、南東には2個やや離れて残されていた。抜根の攪乱により不明瞭であるが炉石が抜き取られ、壊された可能性がある。周溝は北側に炉石を伴わないものがあり、残存する石組みとの間に焼土があることから古い石組炉の痕跡で、その後、作り直された可能性がある。礫は溝の内側に配置され、その外側には土を裏込めして、固定している。周溝の内側は5cmほど掘り窪められ、燃焼面が形成される。

床面には、やや浅い長径50cmのHP-1、70cmのHP-2が検出されたが、柱穴は検出されなかった。また、石組炉の配置から先端ピットは攪乱により壊された可能性がある。

遺物出土状況：出土遺物の総数は117点で、土器が14点、石器等が103点である。土器はⅢ群a類9点、Ⅳ群a類5点が、石器等は石鏃1点、両面調整石器2点、スクレイパー1点、石錐1点、Rフレイク3点、Uフレイク3点、剥片64点、石核3点、礫25点が出土した。

石組炉の近くに石核 (153)、住居跡の外側の西部に風化した盤状の砂岩製礫が分布している。

土壌のフローテーション選別の結果、HF-3からオニグルミ?核?1点が検出されている。

時期：石組炉HF-3出土の燃焼材とみられる炭化材からは3,880±20yrBP (KO 3-D26)・3,870±20yrBP (KO 3-D27)の年代測定値が得られている。遺物・年代測定値・住居構造などから縄文時代後期初頭天祐寺式期と考えられる。(鈴木)

竪穴住居跡14 (H-14) (図IV-36、表IV-2、図版27・28)

確認・調査：調査区ほぼ中央の標高27mの段丘縁辺部から16mほど内側に位置する。Ⅲ層掘り下げ後にⅤ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。

土層：耕作による攪乱を除くと覆土は暗褐色土（1層）のみである。

床面・壁：床面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。平面形は隅丸長方形で、南西・北西の壁際に溝が確認された。

付属遺構：小柱穴状のほぼ同規模の土坑が短辺の壁際に、南東壁に2か所、北西壁に4か所検出され、北東壁の外側に直交方向に溝が確認された。炉は検出されなかった。

遺物出土状況：出土遺物は扁平打製石器が1点のみで、南東隅の床面から出土した。

時期：扁平打製石器が出土し、周辺の出土遺物から縄文時代中期前半と推定される。(鈴木)

竪穴住居跡15 (H-15) (図IV-37、表IV-2、図版28・29)

確認・調査：調査区ほぼ中央の標高26mの段丘縁辺部に位置する。Ⅲ層掘り下げ後にⅤ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。北西部の壁の一部は攪乱を受けていた。西側の33×19mの範囲に盛土(M-1)が隣接し、本住居の掘り上げ土の可能性はある。

土層：覆土は大きく上下に分けられ、上層には自然堆積の黒色土（1層）、下層には壁際を中心に屋根土とみられる暗褐色土（3層）が堆積する。

床面・壁：床面は平坦で、他の住居跡に比べ深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。北東・南西の壁際に溝が確認された。平面形は不整形である。

付属遺構：床面中央に5cmほどの掘り込みを伴う地床炉(HF-1)が位置する。南東部に10～20cmの小型の土坑(HP-1・2)があるが、柱穴は検出されていない。

遺物出土状況：出土遺物の総数は32点で、土器が14点、石器等が18点である。土器は全てⅢ群a類で、石器等は剥片6点、石核1点、石斧1点、台石1点、礫9点が出土した。

床面南東部に台石1点、地床炉周辺の覆土中から30cmほどの大型礫2点が出土した。

土壌のフローテーション選別の結果、HF-1からブナ科果実2点が検出されている。

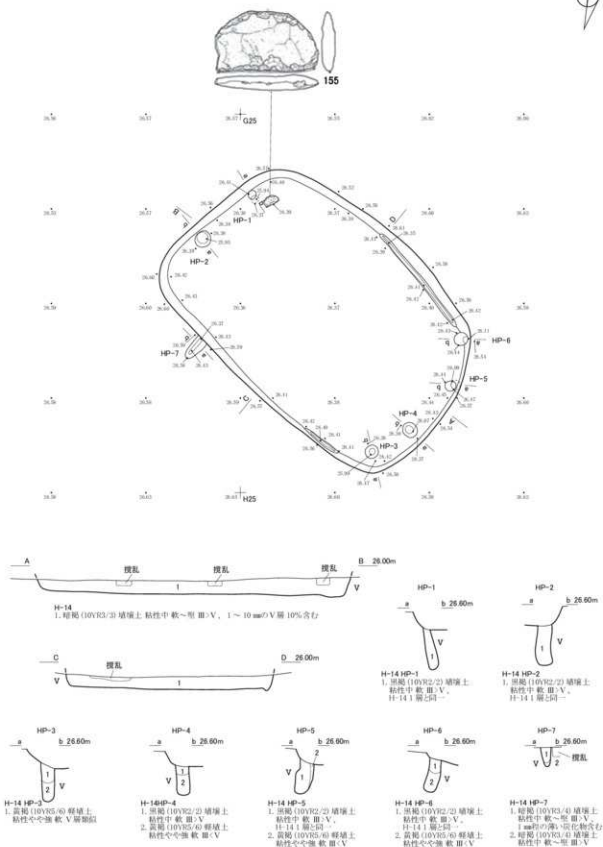
時期：地床炉HF-1出土の燃焼材とみられる炭化材からは4,450±30yrBP (KO 3-D28)・4,440±30yrBP (KO 3-D29)の年代測定値が得られている。遺物・年代測定値などから縄文時代中期前半サイベツⅦ式期と考えられる。(鈴木)

3 土坑

土坑1 (P-1) (図IV-38～40、表IV-2、図版30・31)

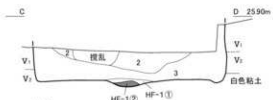
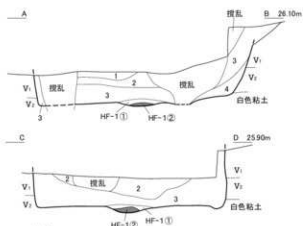
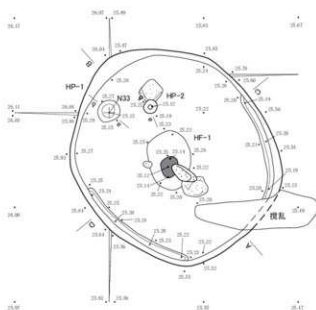
調査・特徴：調査区中央北部、標高23m前後の緩斜面上に位置する。R24区のⅣ層下部からⅤ層上面の精査作業で円形を呈する黒色土の落ち込みを検出した。土層観察用の十字ベルトを設定して掘削を行い、長径2.5m×短径2mの楕円形の土坑であることを確認した。坑底は平坦・水平に構築され、

H-14 平面・断面



図IV-36 竪穴住居跡(35) H-14

H-15 平面・断面



- H-15
1. 第1層(10YR1.7/3)硬質土 粘性中 軟～堅 3cm程の炭化物含む、腐葉土
 2. 第2層(10YR2/2)硬質土 粘性中 軟～堅 III-V
 3. 第3層(10YR3/4)硬質土 粘性中 軟～堅 III-V、2～10mmのV層 10%含む
 4. 第4層(10YR4/6)硬質土 粘性中 軟～堅 V層加混

- H-15HF-1
1. 第1層(10YR3/4)硬質土 粘性中 軟～堅 III-V、1～3mmの塵土粒・1cm内の炭化物含む
 2. 第2層(5YR4/6)硬質土 粘性中 軟～堅 地上、III(V、V層由来の塵土粒がブロック状に混じる)



- H-15 HP-1
1. 第1層(10YR3/4)硬質土 粘性中 軟～堅 III-V、2～10mmのV層 10%含む、H-15の3層と同
 2. オリーブ粒(2.5Y4/3)硬質土、粘性中～強 軟～堅=白色粘土



- H-15 HP-2
1. 第1層(10YR4/4)硬質土 粘性中～強 軟～堅 III-V、H-15の3層に類似

0 5:1/40 1m

図IV-37 竪穴住居跡(36) H-15

壁は急角度に立ち上がり北西側では一部オーバーハングしていた。土坑形状、覆土、遺物出土状況から墓の可能性が高いと考えられる。

付属遺構は土坑外に6基の柱穴状土坑（PP-1～6）を確認した。径10～30cm・深さ20cm前後で、P-1の周囲に2mほどの間隔で配置されている。柱穴の傾きは垂直もしくは若干P-1方向へ内傾するものがみられる。

覆土は1～18に分層したが大きく4つの堆積単位（①～⑤）に区分できる。①（1・2層）は最上部に位置する黒褐色土とKo-dの自然堆積、②（3～5層）は黄褐色ロームが強く混じり他の遺構からの投げ込みなど人為的と考えられる堆積、③（6・7層）は黒褐色土主体の自然堆積、④（8～17層）は黄褐色～暗褐色のローム主体土で主に埋め戻しと考えられる人為的堆積、⑤（18層）は坑底直上に薄く堆積する粘性の高い黒褐色土で、炭化物の分布が坑底に広く面的に検出されており、有機質素材の敷物などが設置されていた可能性がある。また④の内、壁際に堆積する一部は壁の崩落土が含まれるかもしれない。

遺物出土状況は、覆土③の上面～上部と坑底でまとまってみられた。

覆土③上面～上部では土坑中央部で剥片集中と礫（10～20cm大）のまとまりが検出され、南側に炭化物の集中範囲が認められた。また同層位ではIV群b類土器が主体的に出土している。

坑底からは主に炭化物の分布範囲からIV群b類土器などが出土し、中央から南側に石核や剥片集中、礫のなどがまとまって認められた。坑底および覆土③上面で集中的に出土した剥片類は副葬品と考えられる。また、坑底および坑底直上土から出土した剥片は接合作業により母岩8に復元されており、副葬に際して剥片を生産したとみられる。

遺物はIV群a類土器25点、IV群b類土器93点、時期不明土器3点、石鏃1点、両面調整石器4点、楔形石器1点、Rフレイク3点、Uフレイク2点、剥片348点、石核3点、たたき石1点、原石3点、礫41点が出土した。

坑底直上層から出土した6点（KO3-W1～30）の炭化材について樹種同定を行った結果、クリ2点、ハリギリ2点、ブナ属1点、ニガキ1点であった。

時期：坑底直上層出土の炭化材からは、 $3,440 \pm 20$ yrBP（KO3-D30、KO3-W61；ブナ属）・ $3,440 \pm 20$ yrBP（KO3-D31、KO3-W65；ニガキ）の年代測定値が得られている。年代測定結果および坑底等の遺物出土状況から、縄文時代後期中葉と考えられる。（坂本）

土坑2（P-2）（図IV-41、表IV-2、図版32）

調査・特徴：調査区東側、標高27mの平坦地上に位置し、南側にはH-6が近接している。K14・15区のⅢ～Ⅳ層掘削作業で土器のまとまった出土を認めたため、周囲を掘り下げた後にⅣ層上部で精査を行い、土器出土地点の下位に円形を呈する黒色土の落ち込みを検出した。半截して掘り込み形状や覆土を確認し、土坑と判断した。覆土は黄褐色ロームブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。径50cm程の円形を呈する小型土坑で、坑底は平坦、壁はやや急角度に立ち上がる。

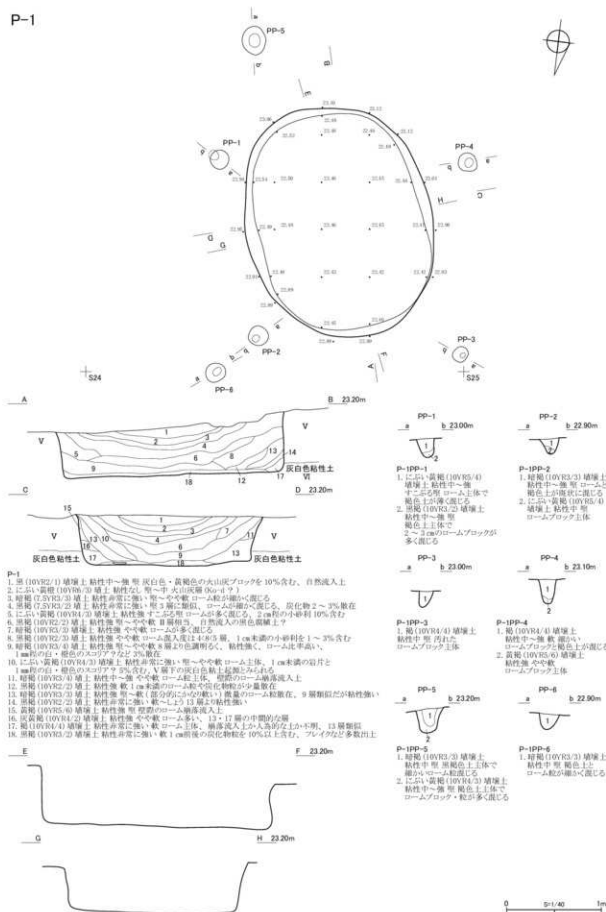
遺物は覆土上～中部よりIV群a類土器がまとまって出土している。遺物の内容はIV群a類土器17点、Rフレイク1点、礫1がある。

時期：出土遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。（坂本）

土坑3（P-3）（図IV-41、表IV-2、図版32）

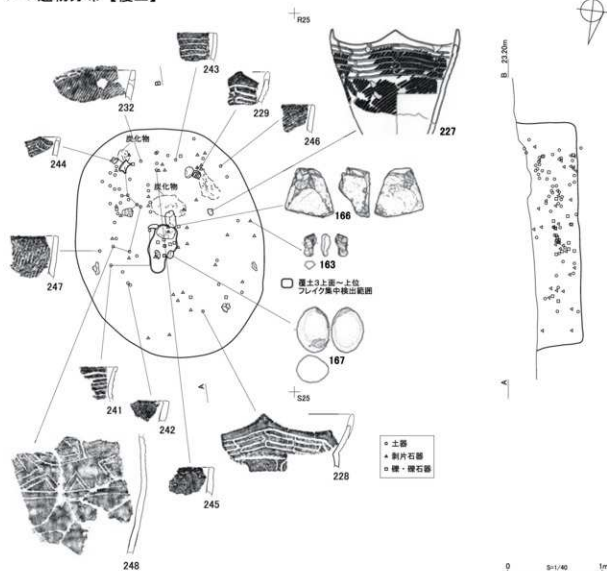
調査・特徴：調査区東側、標高26mの斜面上部に位置する。Ⅲ層掘り下げ後、Ⅴ層で円形の黒色土の

P-1



図IV-38 土坑 (1) P-1(1)

P-1 遺物分布【覆土】



図IV-39 土坑(2) P-1(2)

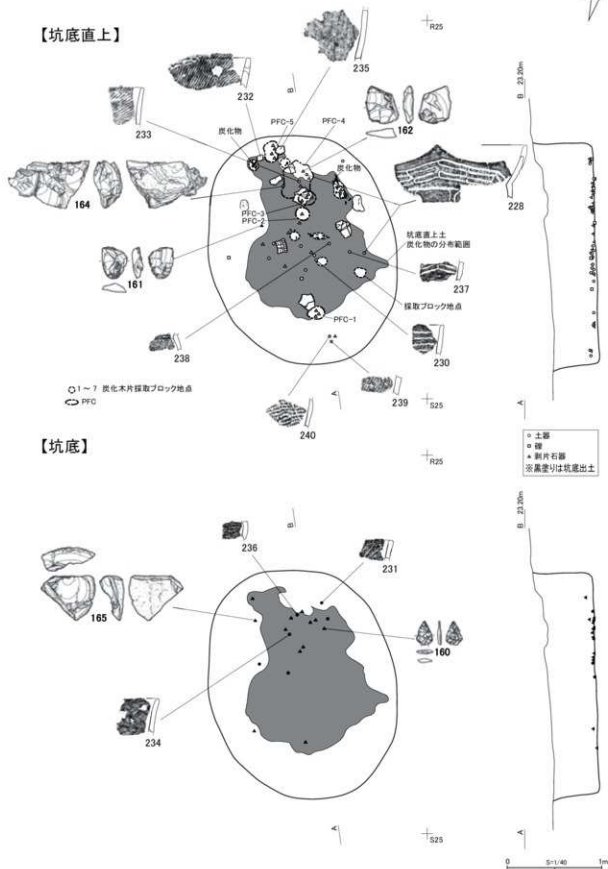
落ち込みを確認した。プラスチックビットを想定して、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。西側の半分を下げたところ、覆土が上下に分かれ、上部の壁が皿状に立ち上がったので上部をP-8、下部をP-3として分離した。

P-3の覆土は上部に流れ込みとみられる暗褐～黄褐色土(1～4層)、下部に埋め戻しとみられるにぶい黄褐色～黄褐色土(5～7・11層)が堆積し、下部の上面には長径50cmの盤状の大型礫があった。また、埋め戻し土下位の坑底付近には暗褐～黄褐色土(8～10層)が堆積していた。平面形は円形、坑底は平坦で、中央がわずかに窪む。壁は下部がやや内傾し、上部は直立する。坑底からはたたき石(169)が出土した。土層・礫などから土坑墓の可能性がある。

遺物は石核1点、たたき石1点、礫18点が出土した。

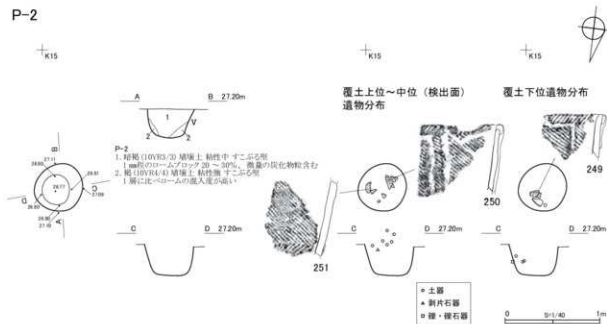
時期：土器の出土が無く、時期の判定は困難であるが、隣接し、形状などが類似するP-6から縄文時代後期前葉とみられる。(鈴木)

P-1 遺物分布

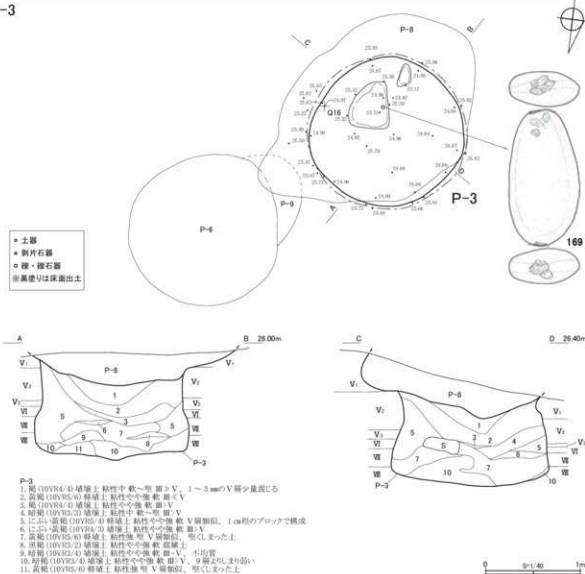


図IV-40 土坑 (3) P-1 (3)

P-2



P-3



図IV-41 土坑 (4) P-2・3

土坑4 (P-4) (図IV-42、表IV-2、図版32・33)

調査・特徴: 調査区中央北部緩斜面上、標高23m付近に位置する。QR22区のV層精査時に円形を呈する黒色土の落ち込みを検出した。半截掘削して掘り込み形状と坑底を確認し、土坑と判断した。

覆土はロームブロックを多く含む褐色土が主体である。平面は径90cm前後の円形で、坑底は概ね平坦に構築され、検出面からの掘り込みは15cm程度と浅い。但し調査区周辺は調査前に削平を受けており、土坑上部も大きく消失していると考えられる。

遺物は時期不明土器1点、剥片2点、石核1点が出土した。

時期: 不明である。

(坂本)

土坑5 (P-5) (図IV-42、表IV-2、図版33)

調査・特徴: 調査区中央東部の緩斜面地形、標高24.5mに位置する。OP19区のV層精査作業で円形を呈する黒色土の落ち込みを確認した。半截掘削により形状等を確認し、土坑と判断した。

検出面はV層上部だが、土坑の一部を調査杭の土柱で観察することができ、構築面はII層中位であると断定できた。またV層検出面では径50cm程だが、II層構築面の坑口では径70cm前後になると推測できる。坑底は丸みを帯び、ボウル形を呈する。

覆土は黒・黒褐色土で、火山灰とみられるブロックが坑口外から坑内へ流入した様子が観察でき、全て自然堆積とみられる。

遺物は主に坑口～覆土上部で出土した。時期不明土器1点、剥片6点、礫2点がある。

時期: 不明である。

(坂本)

土坑6 (P-6) (図IV-42、表IV-2、図版33)

調査・特徴: 調査区東側、標高26mの斜面上部に位置する。III層掘り下げ後、V層でドーナツ状の褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土はV層に類似した黄褐色土(5・6・8～10層)が壁際を中心に分布し、上部中央にはIII層とV層が混じった暗褐～褐色土(2～4層)が分布し、最上部中央にはV層に類似した黄褐色土(1層)が分布する。下位の中央にはIII層主体の暗褐色土(7層)が堆積し、坑底中央の黒色土(11層)の直上から礫が2点出土した。坑底から縄文時代後期前葉の土器破片が出土している。平面形は円形、V層下位の海成層とみられる砂層(VI層)まで掘り込まれる坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。切り合い関係より隣接するP-9より新しく、P-8より古い。

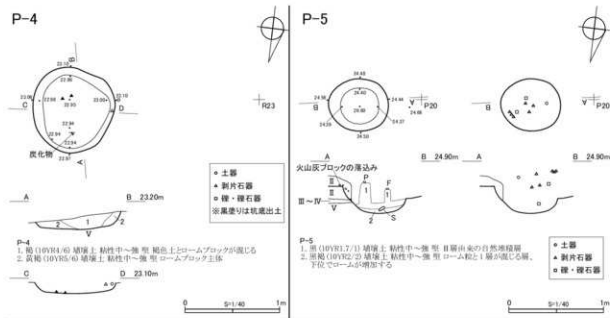
遺物はIV群a類土器2点、原石1点、礫58点が出土した。

時期: 出土土器より縄文時代後期前葉大津式期と考えられる。

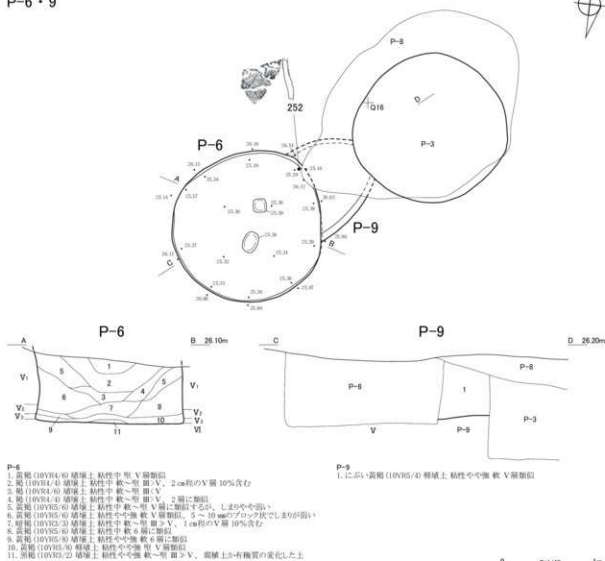
(鈴木)

土坑7 (P-7) (図IV-43、表IV-2、図版33・34)

調査・特徴: 調査区西側の沢に張り出した標高23mの舌状の平坦面に位置する。III層掘り下げ後、IV層で黒色土の落ち込みを確認した。住居跡の可能性を想定し、その中心に直交するように土層観察用ベルトを設定し、四分割して調査を行った。坑底まで下げた段階で跡跡が検出されなかったため土坑とした。覆土は標高の低い北東部から3層、2層、自然堆積層の1層の順に堆積する。平面形は隅丸方形、坑底は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。南側壁際に長径40・60cm楕円形の浅い土坑(PP-1・2)があり、東壁には斜めに小土坑(PP-3)が掘り込まれる。遺物は剥片4点、石核1点が出土した。

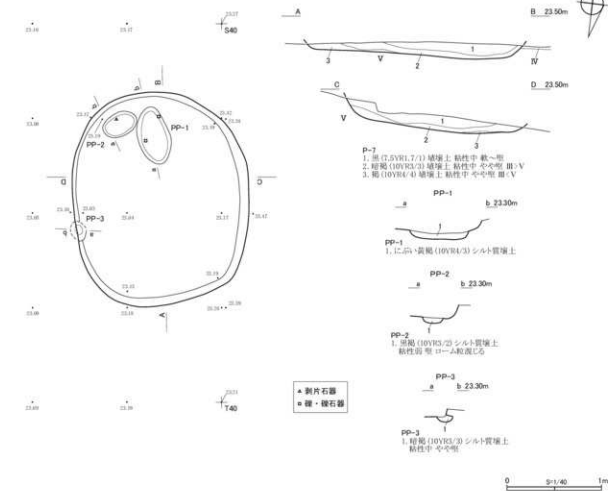


P-6・9

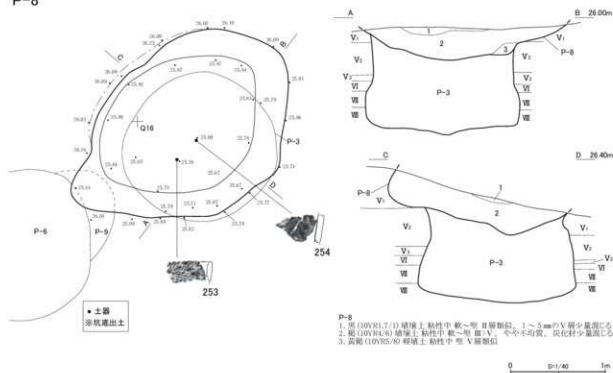


図IV-42 土坑 (5) P-4・5・6・9

P-7



P-8



図IV-43 土坑(6) P-7・8

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期前半～後期前葉と考えられる。（谷島）

土坑8（P-8）（図IV-43、表IV-2、図版32・34・35）

調査・特徴：調査区東側、標高26mの斜面上部に位置する。P-3調査中にA-B断面にて上部が分離されると確認し、P-8として調査を行った。大部分が褐色土（2層）で、上部中央に黒色土（1層）、壁際に黄褐色土（3層）が堆積する。平面形は不整楕円形、坑底は皿状で、壁は斜めに立ち上がる。遺物はⅢ群a類土器2点、Ⅳ群a類土器1点、Rフレイク1点、剥片1点が出土した。切り合い関係はP-3・6・9より新しい。

時期：P-6との関係より縄文時代後期前葉以降と考えられる。（鈴木）

土坑9（P-9）（図IV-42、表IV-2、図版33・34）

調査・特徴：調査区東側、標高26mの斜面上部に位置する。P-3・6を調査中、両者の中心を通るトレンチを設定した。掘削をしたところ、両者の間に覆土とみられるしまりの弱いV層（1層）を確認したため、P-9として調査を行った。平面形は楕円、覆土は1層のみ、坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。P-9より浅く、P-3・6より古い。遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期前半～後期前葉と考えられる。（鈴木）

土坑11（P-11）（図IV-44、表IV-2、図版35）

調査・特徴：調査区中央西寄り、標高27mの段丘縁辺部から20mほど内側に位置する。Ⅲ層掘り下げ中に楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は全体に黒褐色土（2・3層）が厚く、上部中央に自然堆積とみられる黒色土（1層）が堆積する。平面形は楕円形、坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は礫1点が出土した。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期前半～後期前葉と考えられる。（谷島）

土坑12（P-12）（図IV-44、表IV-2、図版35）

調査・特徴：調査区西側、標高25.5mの緩斜面上に位置する。F-18調査後、Ⅲ層を掘り下げるとV層上面で焼土（PF-1）と円形の暗褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は最上部に焼土、上部に暗褐色土（1層）、下部に黒褐色土（2層）が堆積する。平面形は円形、坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は2層からⅢ群a類土器2点、Rフレイク1点、礫1点が出土した。

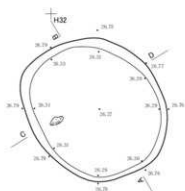
時期：出土遺物などから縄文時代中期前半と考えられる。（鈴木）

土坑13（P-13）（図IV-44、表IV-2、図版35）

調査・特徴：調査区西側、標高24mの沢に面した平坦面の縁に位置する。Ⅲ層掘り下げ後、Ⅳ層で楕円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。覆土は壁際に褐色土（2層）、上部の大部分に黒褐色土（1層）が堆積する。平面形は楕円形、坑底は皿状である。遺物はⅢ群a類土器2点、石鏃1点、Rフレイク3点、Uフレイク1点、剥片19点、扁平打製石器1点、礫18点が出土した。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期前半～後期前葉と考えられる。（谷島）

P-11



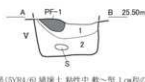
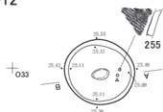
P-11

1. 黒粘 (10YR1.7/1) 壤土 粘性中 軟
2. 黒粘 (10YR2/3) 壤壤土 粘性中 やや硬 ローム粒を少量含む
3. 黒粘 (7.5YR2/2) 壤壤土 粘性中 やや硬 ローム粒を2層より多く含む
4. 細砂粘 (7.5YR2/3) 壤壤土 粘性中 硬
5. 明黄 (7.5YR5/4) 壤壤土 粘性中 硬

C D 27.00m



P-12



P-12

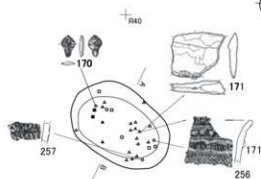
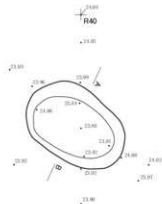
- PF-1, 赤粘 (5YR4/6) 壤壤土 粘性中 軟～硬 1cm程度のV層由来の焼土粒2%含む
1. 黒粘 (10YR2/3) 壤壤土 粘性中 軟～硬 V, 5～10mmのV層 0%含む
 2. 黒粘 (10YR2/3) 壤壤土 粘性中 軟～硬 田V, 5～20mmのV層 7%含む



- 土器
- ▲ 割片石器
- 礫・礫石器

0 5 1 40 1m

P-13



A B 24.10m

1. 黒粘 (10YR2/2) シロ小質壤土 粘性中 やや硬
2. 黒粘 (5YR4/4) 壤壤土 粘性中 やや軟

A B 24.10m

- 土器
- ▲ 割片石器
- 礫・礫石器

※高さは床面出土

0 5 1 40 1m

図IV-44 土坑(7) P-11～13

土坑14 (P-14) (図IV-45、表IV-2、図版35・36)

調査・特徴：S33区のⅢ層下部～Ⅳ層掘削作業で円形を呈する黒褐色土の落ち込みを確認した。半載して坑底と掘り込み形状を確認し、土坑と判断した。覆土と地山に小礫が多く含まれるため、精査や壁の検出が難しく平面形状はやや不整な円形を確認したが、本来は整った円形を呈した可能性がある。坑底は水平・平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

覆土は上部にⅢ層とみられる黒褐色土が堆積し、遺物が多く含まれる。中下部は小礫と若干のロームブロックを含む黒褐色・暗褐色の土で、全て自然堆積と考えられる。P-14周辺では多数の遺物の出土がみられ、土坑内出土遺物もこれらが流れ込んだものと考えられる。

遺物はⅢ群a類土器11点、Ⅳ群a類土器45点、時期不明土器2点、Rフレイク1点、剥片27点、石核1点、礫2点が出土した。

時期：不明だが、P-14周辺に分布する遺構と遺物の状況から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

(坂本)

土坑15 (P-15) (図IV-45、表IV-2、図版36)

調査・特徴：調査区中央の標高26.5mの段丘縁辺部、H-11・12の側に位置する。Ⅲ層掘り下げ後、Ⅴ層で楕円形の褐色土の落ち込みを確認した。長軸方向に半載し、調査を行った。覆土は標高の高い南側の壁から順に堆積する状況が観察され、黒褐色土(6層)、暗褐色土(5層)、同(4層)が堆積した後、黒褐色～褐色土(1～3層)が中央の窪みを埋めている。平面形は隅丸長方形、坑底は平坦、壁はやや斜めに立ち上がる。確認面近くには台石と大型礫が検出されている。

遺物はⅢ群a類土器122点、スクレイパー2点、Uフレイク1点、剥片11点、台石1点、原石1点、礫11点が出土した。

時期：出土遺物と周辺の状況から縄文時代中期前半と考えられる。

(鈴木)

土坑16 (P-16) (図IV-46、表IV-2、図版36)

調査・特徴：調査区中央の緩斜面部、標高24.5m付近に位置する。P28区Ⅴ層上面精査作業で円形を呈する黒～黒褐色土の落ち込みを確認した。半載掘削により坑底や覆土、掘り込み形状などを確認し、土坑と判断した。

覆土は黒～暗褐色土を主体とし、崩落土とみられる壁際の黄褐色ロームを含め、全て自然堆積層と捉えられる。覆土中部、8・11層上面には厚さ数ミリ程度の白色の砂質シルトが観察された。

平面は径80～90cmの円形を呈し、坑底は平坦、壁は外湾形で坑底から急角度に立ち上がり中央から坑口に向かって内傾する。構築時はさらに強くオーバーハングしたフラスコ状を呈したと推測される。

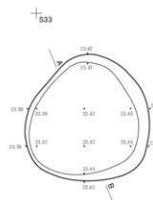
遺物は坑底および坑底直上の12層中から出土しており、土坑使用時もしくは廃絶直後に流入したことが考えられる。内容はⅢ群a類土器12点、剥片4点、石核3点、原石1点、礫6点である。

土壌のフローテーション選別の結果、坑底直上の炭化物集中からクリ果実2点、クリ子葉2点が出されている。

時期：坑底直上層出土の炭化クルミ片からは4,430±20yrBP (KO 3-D32)・炭化材からは4,410±20yrBP (KO 3-D33)の年代測定値が得られている。年代測定結果および出土土器から縄文時代中期前半と考えられる。

(坂本)

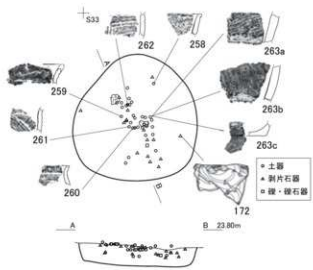
P-14



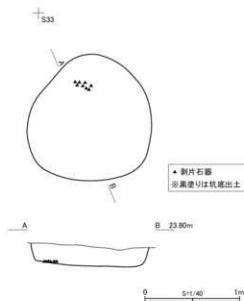
P-14

1. 黒曜 (10VR1/1) 埴土粘性中～強 型 最層由來の自然埴土
2. 埴 (10VR4/4) 埴土粘性中～強 型 ローム土塊、1～3cmの小礫多量混入、人為埴層か?
3. 埴層 (10VR2/2) 埴土粘性中～強 型 ローム土塊・7mm程度の、小礫多量
4. 黒曜 (10VR3/1) 埴土粘性中 型 1層に類似、若干のローム混入、最層類似の自然埴土
5. 埴層 (10VR2/2) 埴土粘性強 型 1～2cmのロームブロック 20～30%含む、礫多い

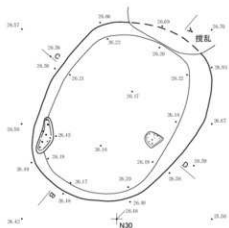
【覆土】



【坑底】



P-15



P-15

1. 埴 (10VR4/4) 埴土粘性中軟～堅 型 V、1～5mmのV層 1%・5mm程度の炭化物少量含む
2. 埴 (10VR4/4) 埴土粘性中軟～堅 型 V、1～5mmのV層 10%・5mm程度の炭化物少量含む
3. 赤層 (10VR2/2) 埴土粘性中軟～堅 型 V、1～5mmのV層 10%・5mm程度の炭化物少量含む
4. 埴層 (10VR2/2) 埴土粘性中軟～堅 型 V、1～5mmのV層 10%含む
5. 埴層 (10VR2/2) 埴土粘性中軟～堅 型 V、1～5mmのV層 30%含む
6. 赤層 (10VR2/2) 埴土粘性中軟～堅 型 V

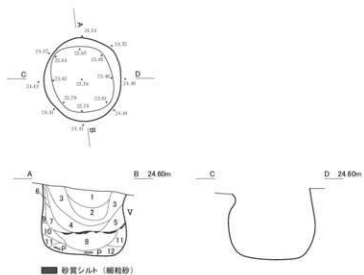


図IV-45 土坑 (8) P-14・15

P-16

P28

P29

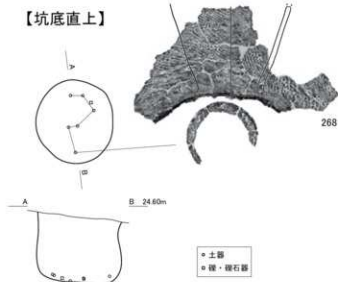


P-16

1. 床 (10V32/1) 埴壇土 粘性中～強 均質な層相帯の褐色土
 2. 黒層 (10V32/2) 埴土 粘性強 やや軟 少量のローム粒が散在
 3. 黒層 (10V32/2) 埴土 粘性中～強 やや軟 ローム粒・ブロック (1mm程)・炭化物が散在。比較的均質
 4. 黒層 (10V32/3) 埴土 粘性非常に強、軟 1mm程のローム粒・ブロックが散在
 5. 黒層 (10V32/3) 埴壇土 粘性強 やや軟～軟 1mm程のローム粒・ブロックが散在に多く、横溝上が顕在したとみられる
 6. 黒層 (10V32/4) 埴壇土 粘性強 やや軟 ロームブロック上で褐色土が顕在に混じる
 7. 黒層 (10V32/2) 埴土 粘性非常に強、やや軟 ロームの混じり合いが顕在
 8. 黒色 (10V32/1) 埴土 粘性非常に強、やや軟 少量のローム粒散在。7層に類似、境界に火山灰挟む
 9. 黄層 (10V32/6) 埴壇土 粘性強～強 上よりロームブロック・粒上付、横溝上
 10. 黒層 (10V32/3) 埴壇土 粘性中～強 軟～上よりロームブロック・粒上付で褐色土混じる
 11. 黒層 (10V32/2) 埴土 粘性非常に強、軟～上より 褐色土にローム粒が混ざる均質に混じる
 12. 黒層 (10V32/2) 埴壇土 粘性非常に強、軟 ロームブロック (1mm以下) と炭化物が混む
- 砂質シルト、土器、黄層 (10V36/4) 埴壇土 粘性なし、細粒砂、V 層下位に由来?

P28

P29



図IV-46 土坑 (9) P-16

土坑17 (P-17) (図IV-47、表IV-2、図版36)

調査・特徴: 調査区中央西部の緩斜面上、標高23.5m付近に位置する。R31区Ⅲ層下部の掘削作業中に、Ⅲ～Ⅴ層で円形を呈するKo-dと暗褐色土の落ち込みを確認した。半載掘削して覆土・掘り込み形状等を確認し、遺構と判断した。当初は竪穴住居跡と考え、調査を進めたが、規模が小さく下面に炉・柱穴などの付属遺構がみられないことから、竪穴状の土坑とした。

平面は長径2.3m・短径1.9mの楕円形で、坑底は概ね水平・平坦だが南端の範囲がベンチ状に若干高く構築されていた。壁は全体的に急角度で立ち上がるが、南端部は階段状に認められた。また、床面北端部で炭化物の分布範囲を検出した。

付属遺構は竪穴外東西約70cmの位置に2基の柱穴(HP-1・2)を検出した。両柱穴ともほぼ垂直に掘り込まれている。周辺遺構の状況と配置からP-17に伴うものと捉えているが、別遺構の可能性も考慮すべきかもしれない。

覆土は大きく上下に区分できた。下部は坑底全体を覆う暗褐色土(7層)で、ロームブロックを主体とすることから投げ込み・埋戻しなどの人為堆積と考えられる。下部層上面には焼土(6層)が形成されており、焼土は中央から南東側へかけて1.5mほどの広範囲に検出された。竪穴埋没過程の窪みを利用した作業場などが考えられよう。上部は黒褐～暗褐色土(1～6層)で自然堆積と考えられる。

遺物はⅢ群a類土器23点、Ⅳ群a類土器29点、剥片36点、石核2点、礫3点が出土した。

土壌のフローテーション選別の結果、PF-1からオニグルミ核2点、クリ果実1点が検出されている。

時期: 坑底直上層で検出されたPCC-1出土の炭化材からは4,470±30yrBP(KO3-D34)・4,490±30yrBP(KO3-D35)の年代測定値が得られている。年代測定の結果と出土土器から、縄文時代中期前半と考えられる。(坂本)

4 Tピット

Tピット1 (TP-1) (図IV-48、表IV-2、図版37)

調査・特徴: 調査区西側の標高23.8m、沢の縁に平行して位置する。Ⅲ層掘り下げ後、Ⅴ層で線状の黒褐色土の落ち込みを確認した。中央に土層観察用のベルトを残し、調査を行った。覆土は下部に暗褐～黄褐色土(3～5層)、上部に流れ込みとみられる褐色土(2層)、最上部に自然堆積の黒褐色土(1層)が堆積する。深さ90cmほどの溝状のタイプである。遺物は1層を中心にⅡ群b類土器1点、Ⅲ群a類土器1点、Ⅳ群b類土器1点、時期不明土器2点、スクレイパー1点、石錐1点、剥片10点、礫5点が出土した。

時期: 周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期前半～後期前葉と考えられる。(谷島)

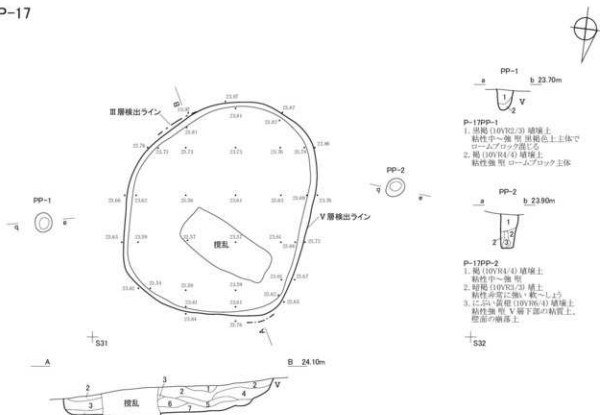
5 焼土

焼土1 (F-1) (図IV-49、表IV-2、図版37)

調査・特徴: H-2の東側のⅢ層中で検出された。平面形は不整楕円形で、断面は皿状である。遺物は剥片2点が出土した。

時期: 周囲の遺構・遺物から縄文時代後期初頃と考えられる。(鈴木)

P-17



P-17

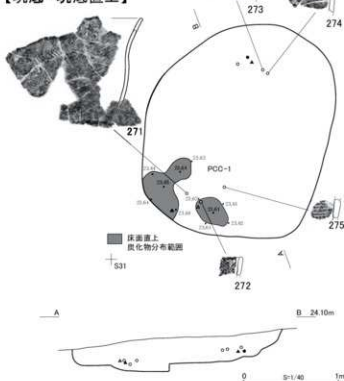
1. 表層(2.5VRS/4) 粘土 粘性なし 暗褐色土に火山灰少量混じる
2. 中層(10VR2/2) 粘壤土 粘性強 暗褐色土段の自然堆積土、微量の炭化物粒・焼土粒散在
3. 中層(10VR2/4) 粘壤土 粘性強 暗褐色土段の自然堆積土、少量の炭化物・焼土粒散在
4. 表層(10VR2/2) 粘壤土 粘性中 暗褐色土にロームブロック散在、焼土粒・炭化物粒多い
5. 表層(7.5VRS/2) 粘壤土 粘性強 暗褐色土にロームブロック散在、焼土粒多い
6. 層(2.5VRS/4) 粘土 粘性強 暗褐色土
7. 層(10VR4/4) 粘壤土 粘性強 暗褐色土にロームブロック主体で暗褐色土と塊状に混じる

- 土器
- ▲ 割内石器
- 礎、礎石
- ※ 黒塗りは坑底出土

【焼土範囲】

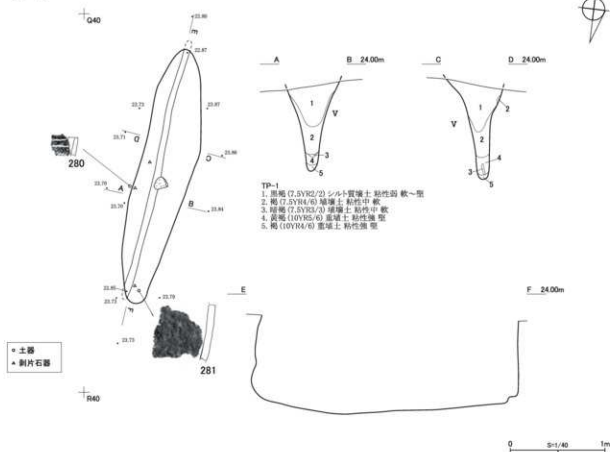


【坑底・坑底直上】



図IV-47 土坑(10) P-17

TP-1



図IV-48 Tピット TP-1

焼土 2 (F-2) (図IV-49、表IV-2、図版37)

調査・特徴：H-2の東側のⅢ層中で検出された。東側には剥片集中(FC-1)や土器・炭化物の集中が隣接して出土している。平面形は不整楕円形で、断面は皿状である。遺物はⅢ群a類土器42点が出土した。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。

(鈴木)

焼土 3 (F-3) (図IV-49、表IV-2、図版37)

調査・特徴：調査区中央南部、標高27m付近の平坦部に位置している。J24区Ⅲ層中に検出され、焼土は70cmほどの範囲で楕円形に発達し、西側には礫が散在していた。焼土断面(1層)は厚さ10cmほどの凸レンズ状で認められた。遺物はⅢ群a類土器4点、Rフレイク2点、礫18点が出土した。

時期：土器の出土状況から、縄文時代中期前半と考えられる。

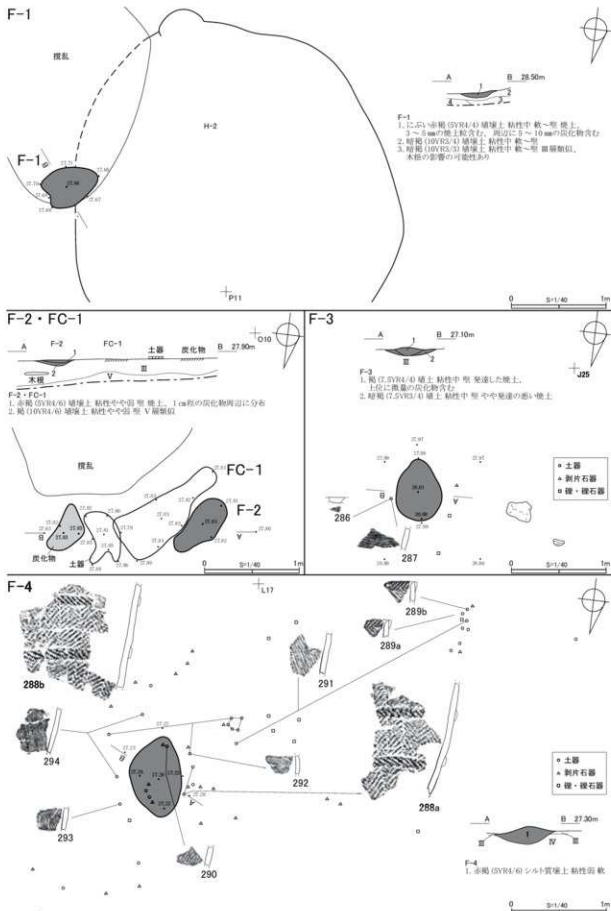
(坂本)

焼土 4 (F-4) (図IV-49、表IV-2)

調査・特徴：H-4の南西、H-6の北西のⅢ層中で検出された。平面形は楕円形で、断面は皿状である。周囲にはⅣ群a類土器や剥片が散在していた。遺物はⅢ群a類土器1点、Ⅳ群a類土器61点、時期不明土器1点、Rフレイク2点、剥片25点、原石1点、礫8点が出土した。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。

(谷島)



図IV-49 焼土(1) F-1～4

焼土5 (F-5) (図IV-50、表IV-2)

調査・特徴：調査区西側の沢頭に位置し、Ⅲ層中で検出された。平面形は不整形で、断面は皿状である。上面で石核が出土している。遺物は剥片1点、石核2点が出土した。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代中～後期と考えられる。(谷島)

焼土6 (F-6) (図IV-50、表IV-2、図版37)

調査・特徴：調査区西側の沢状地形に面した、標高25m付近の緩斜面上に位置し、Ⅲ層中で検出された。安山岩2点・石英岩2点・砂岩1点の礫で構成される石組炉で、北側の礫は残存しない。竪穴住居の炉の可能性を想定し、周辺を精査したが、竪穴の掘り込みや柱穴などは確認できなかった。遺物はⅣ群a類土器2点、時期不明土器2点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、剥片4点、礫25点が出土した。

時期：出土遺物・石組炉の形態などから縄文時代後期前葉と考えられる。(皆川)

焼土7 (F-7) (図IV-50、表IV-2)

調査・特徴：調査区西側の沢に面し、舌状に張り出した緩斜面に位置し、Ⅲ層中で検出された。平面形は円形で、断面は皿状である。2層に焼土粒が混じり、その周辺に炭化材が散在する。遺物は剥片1点が出土した。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代中～後期と考えられる。(谷島)

焼土8 (F-8) (図IV-50、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央東部、緩斜面上標高26.5m付近に位置する。Ⅳ～Ⅴ層の精査作業で風倒木痕とみられる範囲に焼土を検出した。トレンチ調査により土層断面を確認し、Ⅲ層中に形成された焼土が風倒木によりⅤ層中に潜り込んだものと判断した。焼土範囲は長さ約80cmの不整形で、厚さは10cm程度であった。遺物は出土していない。

時期：不明である。(坂本)

焼土9 (F-9) (図IV-50、表IV-2)

調査・特徴：H-2の東側のⅢ層中で検出された。不整形楕円形の(1)と小規模な楕円形の(2)があり、断面はいずれも浅い皿状である。遺物は出土していない。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。(鈴木)

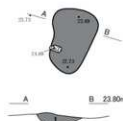
焼土10 (F-10) (図IV-51、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西北端、標高23.5m付近の緩斜面上に位置する。F-10の東側にはF-12・FC-5が近接している。S33区Ⅲ層掘削作業で炭化物と焼土を検出し、精査により分布範囲を確認した後、トレンチ調査により堆積状況の観察を行った。

焼土平面は65cmほどの大きさで不整形に認められた。断面は10cmの厚さで凸レンズ状に発達した赤褐色の焼土が確認でき、その上位に炭化物・焼土ブロックを含む褐色土が堆積していた。遺物はⅣ群a類土器1点、剥片1点、礫1点が出土した。

時期：出土土器と周辺遺構の状況から、縄文時代後期前葉と考えられる。(坂本)

F-5

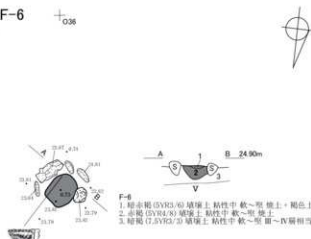


F-5
1. 黒い赤褐 (SVR4/4) シルト質壤土 粘性弱 軟

037

0 5+1.40 1m

F-6

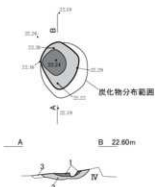


F-6
1. 緑赤褐 (SVR3/3) 壤壤土 粘性中軟～弱 壤土・褐色土
2. 赤褐 (SVR4/4) 壤壤土 粘性中軟～弱 壤土
3. 暗褐 (7.SVR2/2) 壤壤土 粘性中軟～弱 III～IV層相当

295

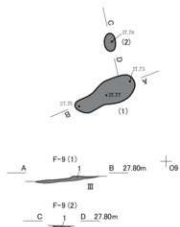
0 5+1.40 1m

F-7



F-7
1. 赤褐 (SVR4/4) シルト質壤土 粘性弱 軟
2. 暗褐 (7.SVR2/2) シルト質壤土 粘性弱 軟 焼土ブロック・粒状物
3. 暗褐 (7.SVR2/2) シルト質壤土 粘性弱 軟 灰化物粒を含む

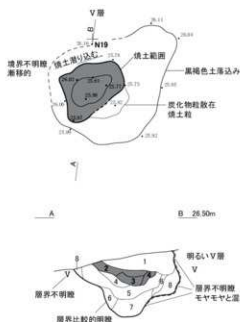
F-9



F-9
1. 暗褐色 (SVR2/2) 壤壤土 粘性中軟～弱 壤土。
1～3mmの焼土粒・1cm粒の灰化物を含む

0 5+1.40 1m

F-8



F-8
1. 暗褐 (SVR3/3) 壤壤土 粘性中 少量の焼土粒・灰化物粒を含む
2. 暗褐 (7.SVR2/2) 壤壤土 粘性中 やや軟 ロームブロックと褐色土が混じる。焼土粒やや多い
3. 赤褐 (SVR4/4) 壤壤土 粘性弱 軟 焼土。褐色土とブロック状に混じり混れている
4. 暗褐 (7.SVR2/2) 壤壤土 粘性中 やや軟 土層が厚い。今も褐色土
5. 暗褐 (7.SVR2/2) 壤土 粘性強 軟～しど 焼土粒・褐色土とブロックが塊状に混じる
6. 暗褐 (SVR2/2) 壤壤土 粘性中～強 弱 褐色土と土体でロームブロックと塊状に混じる
7. 暗褐 (SVR2/2) 壤壤土 粘性中～強 軟 暗褐色ロームブロックを含む混じる
8. 暗褐 (SVR2/2) 壤壤土 粘性中 型 ロームブロック・褐色土・黒褐色土が塊状に混じる

0 5+1.40 1m

図IV-50 焼土 (2) F-5～9

焼土11 (F-11) (図IV-51、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西部緩斜面上、標高24.5m付近に位置する。P32区Ⅲ層下部精査作業で焼土と炭化物を検出し、トレンチ調査によって土層観察を行った。焼土平面は径50cmほどの不整形円で、断面では厚さ約5cmの凸レンズ状に発達した褐色土と観察された。焼土の北側には、炭化物が50～70cmの範囲で分布し、さらに土器・剥片集中も検出された。遺物はⅢ群a類土器71点、スクレイパー1点、剥片22点が出土した。

時期：出土土器と周辺遺構の状況から、縄文時代中期前半と考えられる。 (坂本)

焼土12 (F-12) (図IV-51、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西北端、標高23.5m付近の緩斜面上に位置する。ST32区のⅢ層掘削時に焼土と礫数点が検出された。同範囲の精査を行い、近接する2か所の焼土 (F-12①・②)、周囲に炭化物と礫のまとまった分布を確認した。さらにトレンチ調査により、断面で厚さ5～10cmの良好な焼土の発達を観察した。また、F-12の南西側には遺物集中であるFC-5が近接している。遺物はⅣ群a類土器26点、剥片3点、石核1点、たたき石1点、礫9点が出土した。

時期：遺物出土状況および周辺遺構の状況から、縄文時代後期前葉と考えられる。FC-5はF-12に関連して形成された可能性がある。 (坂本)

焼土13 (F-13) (図IV-51、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西側の沢状地形に面した、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。O36区Ⅲ層掘削作業で焼土と遺物のまとまり (F-13・14、PC-2・3、FC-4)を確認した。F-13の平面は大きさ1mほどの不整形で、断面観察では厚さ20cmの焼土 (1・2層)の発達が認められた。遺物は土器などがF-13の南西側に分布していた。また、F-13の西～南側にはPC-2・3 (Ⅲ群a類土器主体)などが近接している。遺物はⅢ群a類土器16点、剥片1点、扁平打製石器1点、礫9点が出土した。

時期：出土遺物および周辺の遺構の状況から、縄文時代中期前半と考えられる。 (坂本)

焼土14 (F-14) (図IV-51、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西側の沢状地形に面した、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。O36区Ⅲ層掘削作業で焼土と遺物のまとまり (F-13・14、PC-2・3、FC-4)を確認した。F-14の平面は径60cmほどの不整形円形で、断面観察では厚さ10cm程度の褐色に発達した焼土 (2層)が認められた。遺物は礫5点が出土している。F-14の西側にはFC-4が近接し、F-14に関連して遺された石器製作跡と考えられる。また、南東側にはPC-2・3 (Ⅲ群a類土器主体)も近接している。

時期：近接する周辺遺構の状況から、縄文時代中期前半と考えられる。 (坂本)

焼土15 (F-15) (図IV-52、表IV-2、図版38)

調査・特徴：調査区西側の平坦面に位置し、Ⅲ層中で検出された。平面形は楕円形で、断面は浅い皿状である。遺物は出土していない。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代中～後期と考えられる。 (谷島)

焼土16 (F-16) (図IV-52、表IV-2)

調査・特徴：調査区西側の平坦面に位置し、Ⅲ層中で検出された。平面形は楕円形で、断面はやや深

い。規模は小さく、焼土粒を少量含む。遺物は出土していない。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代中～後期と考えられる。(谷島)

焼土17 (F-17) (図IV-52、表IV-2)

調査・特徴：調査区西側の沢近くの緩斜面部のⅢ層中で検出された。平面形は不整楕円形、断面は浅い皿状である。遺物は出土していない。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代中～後期と考えられる。(鈴木)

焼土18 (F-18) (図IV-52、表IV-2)

調査・特徴：調査区西側の緩斜面部のP-12に近接したⅢ層中で検出された。平面形は不整楕円形、断面形は浅い皿状である。遺物は出土していない。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代中～後期と考えられる。(鈴木)

焼土19 (F-19) (図IV-52、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央、標高24m付近の緩斜面上に位置する。Q28区Ⅲ層掘削時に、Ⅲ層中に形成された焼土を検出した。周辺精査と焼土の半載掘削を行ったところ、風倒木痕の影響による若干の土壌攪乱を受けた状況を確認した。焼土平面は長径40cmほどの不整な長楕円形で、断面観察では厚さ10cmの褐色に発達した焼土層を認めた。遺物は焼土の南側から土器が主に出土している。内容はⅣ群a類土器77点、礫1点である。

時期：出土土器から縄文時代後期前葉と考えられる。(坂本)

焼土20 (F-20) (図IV-53、表IV-2)

調査・特徴：H-15西側の緩斜面上に広がる盛土(M-1)中、F-21の南西で検出された。平面形は不整楕円形、断面は皿状である。遺物はⅢ群a類土器3点、剥片3点が出土した。

時期：出土層位と周囲の遺構・遺物から縄文時代中期前半と考えられる。(鈴木)

焼土21 (F-21) (図IV-53、表IV-2)

調査・特徴：H-15西側の盛土中、F-20の北東で検出された。平面形は三日月形、断面は皿状である。遺物は出土していない。

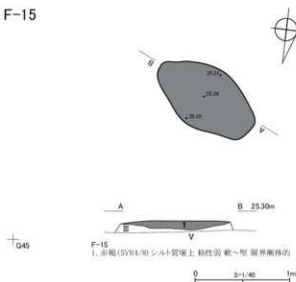
時期：出土層位と周囲の遺構・遺物から縄文時代中期前半と考えられる。(鈴木)

焼土22 (F-22) (図IV-53、表IV-2、図版38)

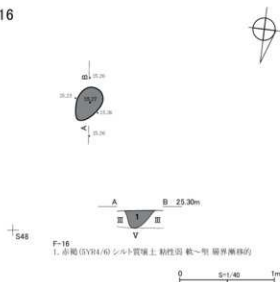
調査・特徴：調査区中央西部、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。Q34区Ⅲ層掘削作業で焼土を検出した。精査と焼土の半載掘削を行い、長径1mで平面不整楕円形の焼土範囲と、断面観察では厚さ10cmほどの褐色に発達した焼土層を確認した。また、焼土の周囲には炭化物の散在範囲が認められた。遺物は焼土の周辺から散発的に出土した。内容はⅣ群a類土器2点、時期不明土器1点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、Uフレイク1点、剥片1点、石斧1点である。

時期：確定的ではないが、出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(坂本)

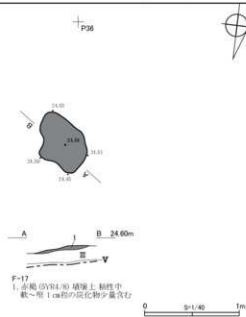
F-15



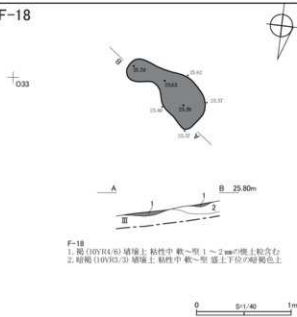
F-16



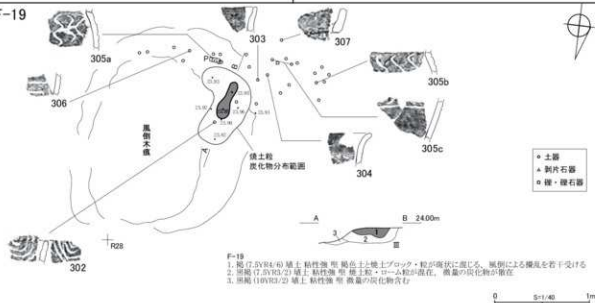
F-17



F-18



F-19

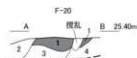


図IV-52 焼土(4) F-15～19

F-20・21

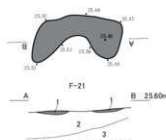
+N04

+N35



- F-20
1. 層 (7.5V/R4.0) 焼土上粘性中軟～硬栗木の影響で焼土と4層が混じる。焼土(4層)
 2. 層 (10V/R2.0) 焼土上粘性中軟～硬栗木の影響で4層とV層が混じる。4層(V)
 3. 層 (10V/R4.0) 焼土上粘性中軟～硬栗木の影響で4層とV層が混じる。4層(V)
 4. 層 (10V/R2.2) 焼土上粘性中軟～硬栗木上下位層b層。層間に比べ部みが強く均質な土。

F-21

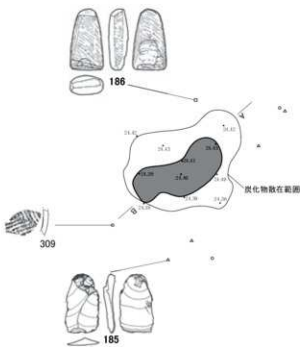


- F-21
1. 層 (7.5V/R4.0) 焼土上粘性中軟～硬栗木
 2. 層 (10V/R4.0) 焼土上粘性中軟～硬栗木V層10mmのV層10%含む。焼土層
 3. 層 (10V/R2.2) 焼土上粘性中軟～硬栗木上下位層b層。層間に比べ部みが強く均質な土。

0 5:1/40 1m

F-22

+O34



+R34

A B 24.90m

炭化物散在量散在

- 土層
- ▲ 割片石器
- 礫・硬石器

- F-22
1. 層 (7.5V/R4.0) 焼土上粘性強硬～やや軟発達した焼土
 2. 層 (7.5V/R4.0) 焼土上粘性中～強硬あまり発達しない焼土。焼土ブロックが下部にあり本根の影響か?

0 5:1/40 1m

図IV-53 焼土(5) F-20～22

焼土23 (F-23) (図IV-54、表IV-2、図版38)

調査・特徴：調査区中央西部、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。P34区掘削作業で、Ⅲ層下部に構築された扁平礫の円形の配置を確認したため、石組炉と判断した。石組の礫は被熱により上半部が赤色化していた。堅穴住居の炉の可能性を想定し周辺精査とトレンチ調査を行ったが、堅穴の掘り込みや柱穴などは確認できなかった。また、精査によりF-23の直下から北西側に褐色土の円形プランを検出したため半截して調査し、F-23に伴う浅い土坑と判断した。

F-23の土層断面の観察では、焼土ブロックを含有する褐色土（2層）と上位に炭化物を含有する暗褐色土（1層）を確認したが、明瞭に発達する焼土層などはみられなかった。

F-23の周囲からは10～20cm大の礫の散在や、土器のまとまった出土が認められた。遺物はⅣ群a類土器116点、時期不明土器6点、剥片16点、石核1点、台石1点、礫27点が出土している。

土壌のプロローテーション選別の結果、オニグルミ？核？1点、カシワ果実基部1点、クリ果実5点が検出されている。

時期：出土炭化物からは3,670±20yrBP (KO3-D36)・3,810±20yrBP (KO3-D37)の年代測定値が得られている。年代測定の結果および出土土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。(坂本)

焼土24 (F-24) (図IV-55、表IV-2)

調査・特徴：H-15西側に広がる盛土(M-1)の南西緩斜面、Ⅲ層下部で検出された。範囲は小さく、平面形は不整楕円形、断面は皿状である。遺物は出土していない。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代中～後期と考えられる。(鈴木)

焼土25 (F-25) (図IV-55、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西部、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。Q34区Ⅲ層掘削作業で長径30cmほどの不整楕円形を呈する焼土を確認した。周辺の精査作業により、F-25の東～南にかけて風倒木痕が認められ、土層の断面観察では風倒の影響による若干の土壌攪乱がみられた。また焼土は厚さ10cmほどの褐色土層として観察できた。遺物は出土していない。

時期：不明だが、周辺遺構の状況から縄文後期前葉の可能性がある。(坂本)

焼土26 (F-26) (図IV-55、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西部、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。Q31区のⅢ層下部掘削作業で検出した。周辺精査を行い風倒木痕に近接すること、攪乱により北側部分が消失していること、焼土の南側に焼土粒と炭化物の分布範囲が広がることを確認した。土層の断面観察では5cmほどの厚さに発達した焼土（2層）を確認した。遺物は出土していない。

時期：不明である。(坂本)

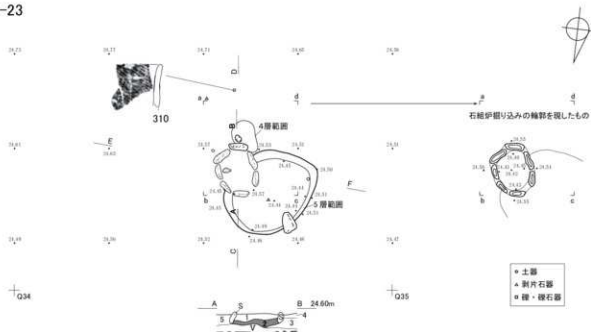
6 土器集中

土器集中1 (PC-1) (図IV-56、表IV-2、図版39)

調査・特徴：調査区中央東部、標高27m付近の平坦部に位置する。Ⅲ層下部から出土した。1.2mほどの範囲に複数個体の土器がまとまって認められ、石核1点が共伴している。遺物はⅣ群a類土器202点、Rフレイク1点、剥片12点、石核1点、礫4点が出土している。

時期：縄文時代後期前葉である。(坂本)

F-23

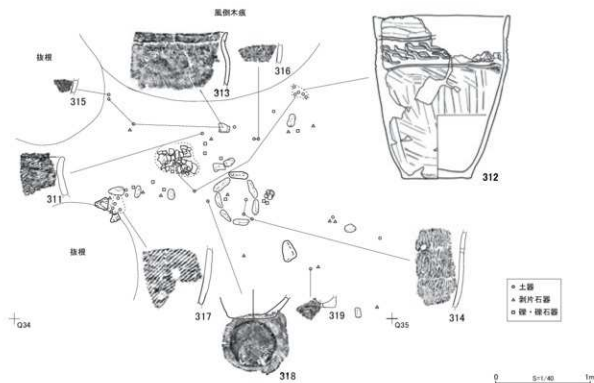


F-23

1. 埴輪 (10VRS/2) 埴輪上・粘性中～強 形 重層断面層に1mm程のロームブロック・焼土ブロック・炭化物粒が若干散在
2. 筒 (10VRS/4) 埴輪上・粘性中～強 形 ロームブロック・焼土ブロック(1cm程)を30%含む黄灰の土
3. 埴輪 (10VRS/4) 埴輪上・粘性強 形 重層断面の灰黄色土。→ 炭化物の影響を受ける
4. 灰層 (7, 10VRS/2) 埴輪上・粘性中 形 灰層?
5. 灰黄層 (10VRS/2) 埴輪上・粘性中 形 褐色土とロームブロックがやや漸移的に混じる



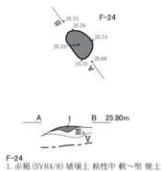
F-23周辺 Ⅲ層下部～Ⅴ層上層遺物分布



図IV-54 焼土 (6) F-23

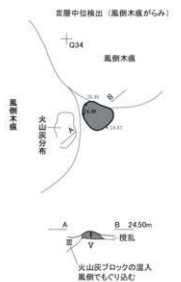
F-24

Q34



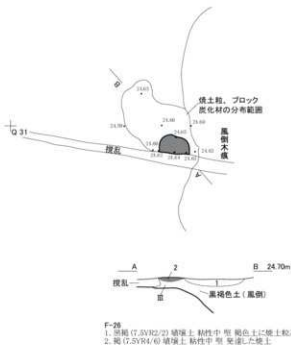
0 5=1/40 1m

F-25



0 5=1/40 1m

F-26 首層下部検出



0 5=1/40 1m

図IV-55 焼土 (7) F-24 ~ 26

土器集中2 (PC-2) (図IV-56、表IV-2、図版39)

調査・特徴：調査区中央西部、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。O36区Ⅲ層掘削作業で焼土と遺物のまとまり(F-13・14、PC-2・3、FC-4)を確認した。PC-2はⅢ層上・中部から、土器片を1.8mほどの範囲でやや散在的に検出した。遺物はⅢ群a類土器121点、Rフレイク1点、剥片2点、たき石1点、礫21点が出土している。

時期：縄文時代中期前半である。(坂本)

土器集中3 (PC-3) (図IV-56、表IV-2、図版39)

調査・特徴：調査区中央西部、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。O36区Ⅲ層掘削作業で焼土と遺物のまとまり(F-13・14、PC-2・3、FC-4)を確認した。PC-3はⅢ層上・中部から、土器片が1mほどの範囲でまとまって検出された。遺物はⅢ群a類土器51点、石核1点、礫30点が出土している。

時期：縄文時代中期前半である。(坂本)

7 剥片集中**剥片集中1 (FC-1)** (図IV-57、表IV-2)

調査・特徴：調査区東側の平坦面上、H-2の東側のⅢ層中で検出された。焼土(F-2)と土器・炭化物の集中の間から出土している。平面形は不整長方形である。3cm以下の剥片・細片が主体で、小型の剥片剥離の痕跡とみられる。遺物は時期不明土器4点、石礫1点、Rフレイク1点、剥片278点、石核1点が出土した。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。(鈴木)

剥片集中2 (FC-2) (図IV-57、表IV-2、図版39)

調査・特徴：調査区東側の平坦面上、F-4の西側のⅢ層中で検出された。平面形は楕円形である。3cm以下の剥片・細片が主体で、小型の剥片剥離の痕跡とみられる。遺物はⅣ群a類土器1点、剥片108点が出土した。

時期：周囲の遺構・遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。(谷島)

剥片集中3 (FC-3) (図IV-57、表IV-2、図版39)

調査・特徴：調査区東部27m付近の平坦部に位置する。Ⅲ層中の長径30cmほどの浅皿状の窪みから、頁岩製剥片が集中的に出土した。作業の迅速化を図るため遺物を土壌ごと採取し、水洗選別を行った。遺物は剥片688点が出土した。

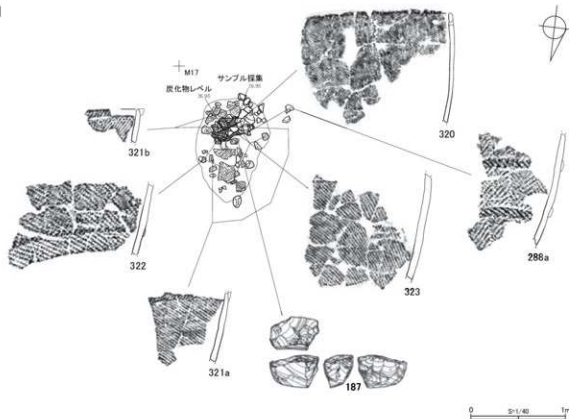
時期：不明だが、周辺遺構の状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。(坂本)

剥片集中4 (FC-4) (図IV-58、表IV-2、図版39)

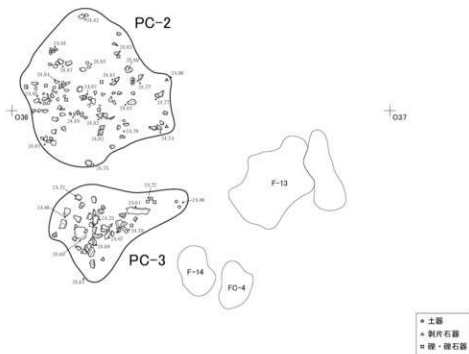
調査・特徴：調査区中央西側の沢状地形に面した、標高24.5m付近の緩斜面上に位置する。FC-4の東側と南東側にはF-14・F-13が、南西側にはⅢ群a類土器のまとまりであるPC-2・3が近接する。FC-4は50cmほどの範囲から頁岩剥片と礫がまとまって出土し、位置関係からF-14に伴うと考えられる。遺物は時期不明土器3点、剥片44点、礫9点が出土した。

時期：近接する周辺遺構の状況から、縄文時代中期前半と考えられる。(坂本)

PC-1

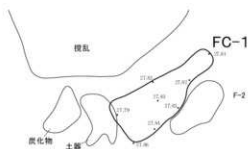


PC-2・3



図IV-56 土器集中 (1) PC-1 ~ 3

FC-1



+O10



FC-2



+L18



+M18

FC-3

+L14



FC-3
1. 短輪(10VRS/3) 礫塚土 粘性中〜強 型 フレイク 多く、高密度、目録相当

a



b



S=1/10

c

d

0 S=1/10 2m

+M14

0 S=1/40 1m

図IV-57 剥片集中 (1) FC-1 ~ 3

剥片集中5 (FC-5) (図IV-58、表IV-2)

調査・特徴：調査区中央西北端、標高23.5m付近の緩斜面上に位置する。S32区Ⅲ層中から出土した。北側にはF-12が近接している。1mほどの範囲から頁岩剥片が主体的に出土し、小型剥片の集中域を中心とし、周囲に大型剥片が散在していた。遺物はⅣ群a類土器34点、両面調整石器1点、Rフレイク2点、Uフレイク1点、剥片172点、礫2点が出土した。

時期：縄文時代後期前葉である。 (坂本)

剥片集中6 (FC-6) (図IV-58、表IV-2、図版39)

調査・特徴：H-15西側の緩斜面に広がる盛土中、F-20・21の南で検出された。平面形は弧箆形で、小規模である。3cm以下の剥片・細片が主体で、小型の剥片剥離の痕跡とみられる。遺物は剥片28点が出土した。

時期：出土層位と周囲の遺構・遺物から縄文時代中期前半と考えられる。 (鈴木)

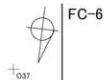
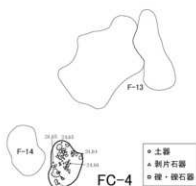
8 盛土

盛土1 (M-1) (図IV-59、表IV-2、図版40)

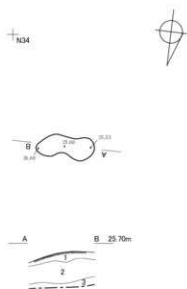
調査・特徴：H-15の西側緩斜面のⅢ層中で検出された。標高の高いM33区から低いN34区に伸びたような分布形である。層厚は10cm程で北西部がやや厚い。分布の南東には石皿(197)が下位のⅢb層直上から出土した。H-15との位置関係からその掘り上げ土の可能性もある。遺物はⅢ群a類土器59点、スクレイパー2点、剥片25点、石皿1点、原石2点、礫6点が出土した。

時期：H-15との関連、盛土下位出土遺物が僅少であること、周囲の遺物などから縄文時代中期前半と考えられる。 (鈴木)

FC-4

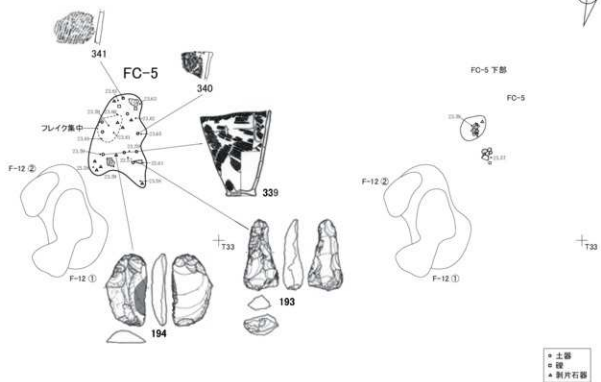


FC-6



- FC-6
1. 掘(10V14/3) 埋座上 粘性中 軟～硬
層(V) 1 ~ 10 mmのV層 10%含む、盛土層
2. 埋座(10V12/2) 埋座上 粘性中
軟～硬 用形崩、最層に比べ崩れが強く均質な土
3. 掘(10V14/3) 埋座上 粘性中 軟～硬 IV層

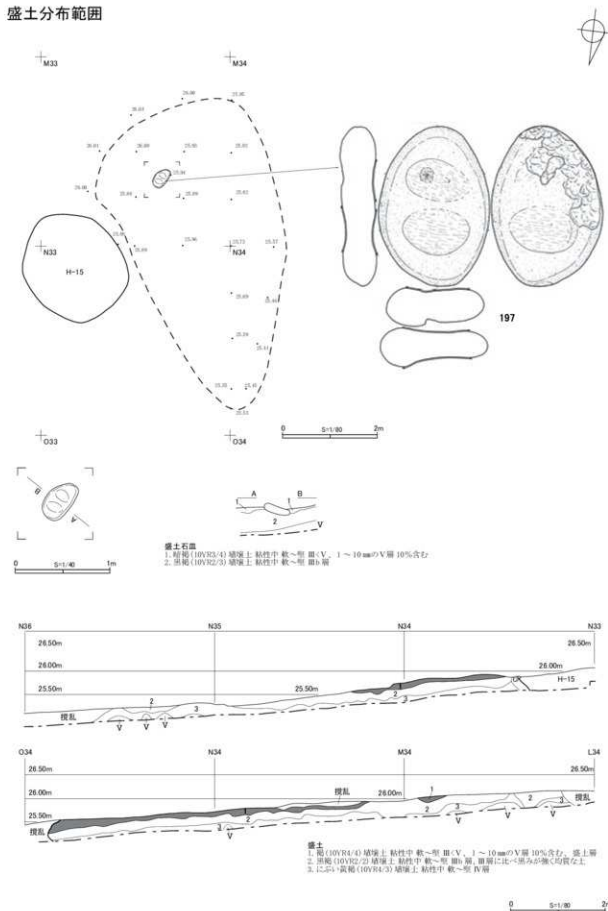
FC-5



0 1/40 1m

図IV-58 剥片集中(2) FC-4 ~ 6

盛土分布範囲



図IV-59 盛土 M-1

9 遺構出土遺物

(1) 土器 (図IV-60~73、表IV-3、図版43~57)

1 竪穴住居跡

H-1 (図IV-60-1~18、図版43)

1はHF-2、3~12は床面出土。1は底部部の破片、2は縦位に深い条痕を有する小破片である。3は口縁部が折返したように肥厚する。4は無節の縄文が縦方向に施された胴部片、5は頸部に特徴的な屈曲部を有する平縁の深鉢形土器口縁部である。細い原体による斜行縄文が全面に施されている。6~8は胴部片で、6・7には斜行縄文が施されている。8は無文だが胎土の特徴が2のそれとよく似ていることから同一個体の可能性がある。9・11は沈線文と磨消部を有する口縁部である。沈線で区画された範囲に縄文が認められ、9は口唇部にも同じ縄文が施されている。10は底部の小片で、被熱が著しい。12も底部で、器面には縦位の調整痕が認められる。13は口縁部に太い縄を縦に連続して押捺したもので、口唇部にも同じ原体による施文が行われている。14は口縁部が内面側に傾斜する。口縁と平行して4本の沈線文が横環しており、その範囲にだけ縄文が施されている。15は口縁に半裁竹管の内面側を用いた不明瞭な沈線文が施される。16は鋸歯状の沈線文が縦に回る口縁部、17は底部片である。18は太い原体による不明瞭な縄文が施された底部片である。原体は付加条が燃りが戻り気味の三段複節と考えられる。分類は5・9・11・12がやや古い特徴を備えたIV群b類、それ以外はIV群a類である。

H-2 (図IV-60-19~27、図版43)

19はHP-1、20~25は床面出土である。19は良く密着したバンド状の貼付を有する胴部片である。20~22は口縁部。20は多条の原体による縄文が施されている。21は僅かな山形突起下の器面に3個のボタン状の貼付を有する小型土器である。貼付を取り巻くように刺突文が施されている。22は口唇の断面が角形の口縁部で、その直下には地紋の施文方向を変えた縄文も施されている。23・24は胴部片、25は底部で20と同一個体の可能性がある。26・27は覆土下層出土の口縁部と胴部で、同一個体の可能性がある。全てIV群a類である。

H-3 (図IV-60-28・29、図版43)

28は無節の縄文が施された小型土器の口縁部で、胎土には繊維が含まれている。29は大型深鉢形土器の口縁部で、口唇部に沿って太い沈線が一条入っており、地紋の斜行縄文の上から細目の粘土紐の貼付が施されている。2点ともIII群a類土器である。

H-4 (図IV-61-30~41、図版44)

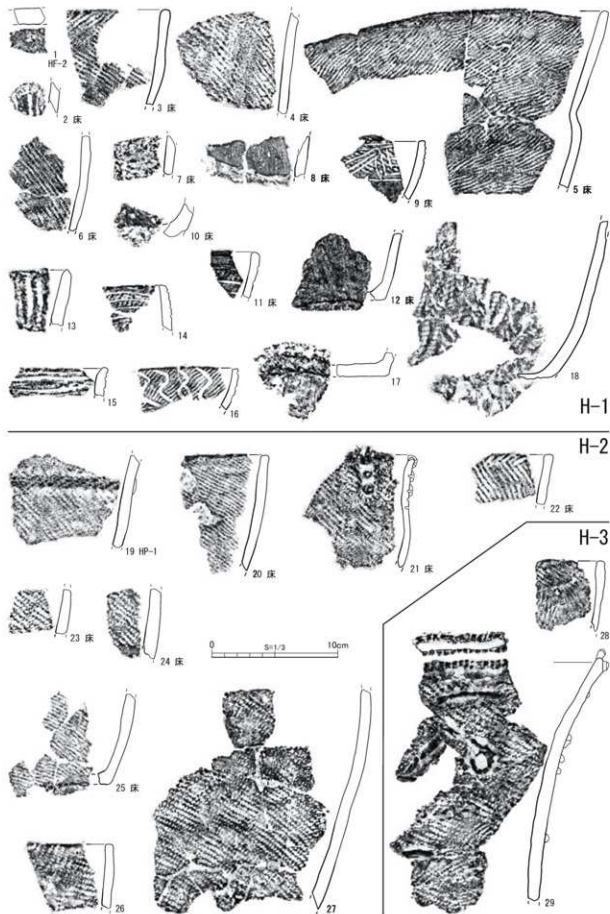
30はHP-5、33はHP-2、31・32・34・35が床面出土。30は低い山形突起を有する小型土器の口縁部である。III群a類で、口唇部には鋸歯状の粘土紐の貼付が施されている。31は土器の台の一部で、III群土器の可能性もある。32~41はIV群a類で、36・37は肥厚帯を有する口縁部、33・35・38~41は胴部片で、無文の40以外は縄文が施されている。41には横環すると考えられるバンド状の貼付が認められる。40の表面には煤の付着と考えられるものが見られる。32・34は上げ底の底部である。32・35は同一個体の可能性がある。

H-5 (図IV-61-42~45、図版44)

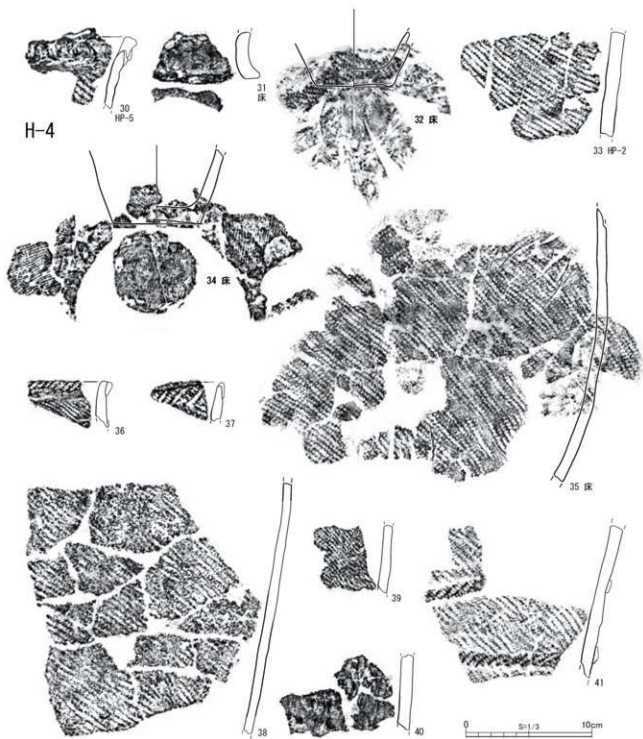
42~44は深鉢の胴部、45は底部である。地紋は42が無節の縄文、その他は斜行縄文が施されている。すべてIV群a類であるが、43はIII群a類の可能性もある。

H-6 (図IV-62-46~51、図版45)

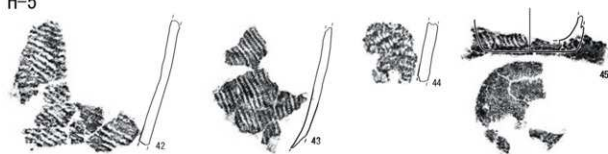
床面出土の土器は無いが覆土下層のもの(46~51)が伴うと考えられる。46・47は小型土器の口縁



図IV-60 遺構出土土器 (1) H-1~3



H-5



圖IV-61 遺構出土土器 (2) H-4・5

部である。46は口唇の直下に縄線文が施される。47は低い山形突起を伴っている48～51は大型の深鉢形土器胴部で、49・51には太いバンド状の貼付帯が施されている。51は器面の剥落が著しい。

H-7 (図IV-62-52～57、図版45)

52・53はHP-2出土。52・53は平緑の口縁部に折返しの肥厚帯を有する小型の深鉢形土器である。器面にはオオバコの「トウ」を原体に用いたと考えられる回転圧痕文が施されており、その後、肥厚帯上に研磨を施している。胴部には縦横の粗雑な沈線文の一部が認められる。54・57は軽く研磨が施された無文の口縁部と胴部である。器壁は薄く丁寧に造られている。55・56は底部付近の胴部である。55の器面には斜行縄文と縦位の綾絡文などが施されている。56は器壁の厚い胴下半部の破片で、無文部を中心に研磨が施されているようだ。上端に縄文の一部が認められる。全てIV群a類である。

H-8 (図IV-62-58～図IV-63-75、図版45・46)

58～62は床面、63～65は覆土3層出土。58は平緑で胴部が膨らむ深鉢形土器の大型破片である。口縁部は、折り返しが段をなしており、更に口唇の先端が外側に巻いている。器面には比較的細目の粗雑な沈線文が全体的に施される。59も同じ特徴を持つ口縁部である。60は口唇断面が丸みを帯びる口縁部で、細目の横走沈線文が施されている。胎土には砂粒が多く含まれ、内面側の一部が剥落している。61は口縁が僅かに肥厚するもので、口唇の断面は角形を呈する。地紋は不明瞭であるが斜行縄文あるいは三段複節の可能性もある。62は器壁が厚目で無文の胴部片、表面の剥落が著しい。輪積みされた粘土の接合部に炭化物の付着が認められる。

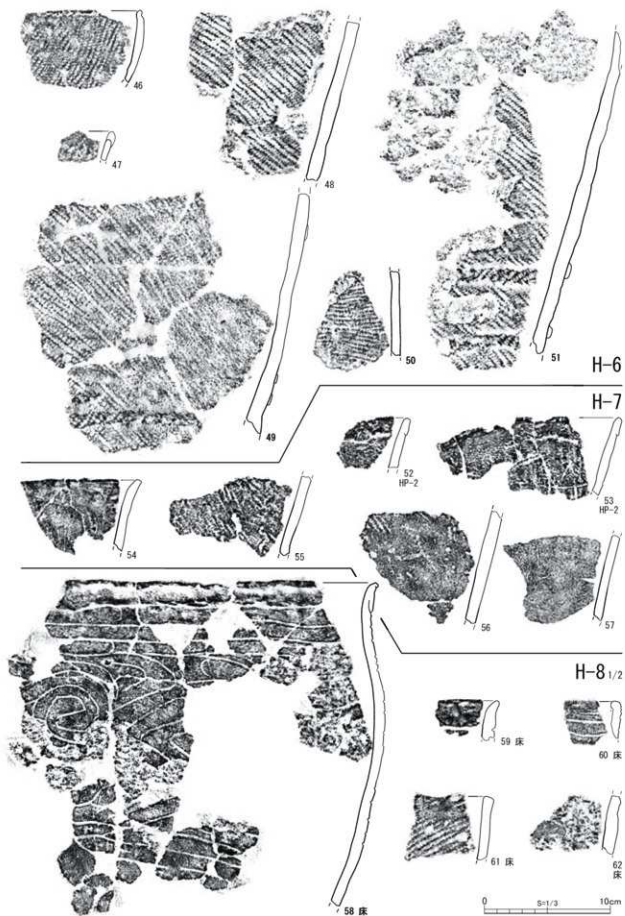
63は低い波状口縁の深鉢形土器で、口縁部には幅の狭い無文帯を有し、地紋には燃糸文が施されている。64・65は細い沈線文が施された口縁部と胴部である。64の口唇断面は円形で器面には「 \square 」形の沈線文が連続して描かれている。また、一部には斜行縄文も施されている。65は器壁が薄い。

66は口唇部直下に縄線文が回らされた平緑の口縁部である。器面には縄線文と同じ原体による無節の縄文が施される。67・73は斜行縄文の施された胴部片である。68は平緑で胴部が膨らむ深鉢形土器の口縁部である。口唇断面が円形で、器面には先端の丸い施文工具による平行沈線文主体の文様が施されている。地紋の斜行縄文は、器面と口唇部にも施される。69は口縁が大きく外反する平緑の口縁部である。平行沈線を基調とする文様が施されており、不明瞭ながら斜行縄文も施されている可能性がある。70は沈線文が施された胴部である。71・72は無文の胴部片で、71には縦位の調整痕が認められる。74・75は底部である。

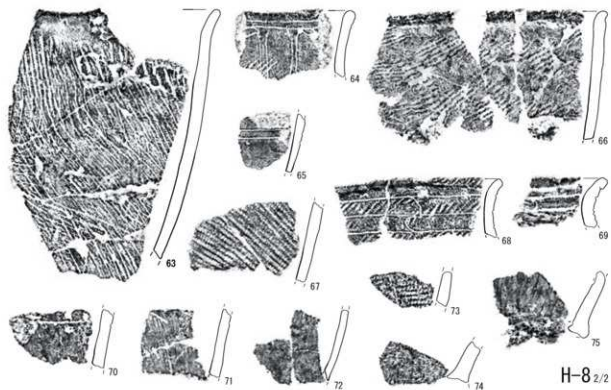
H-9 (図IV-63-76～89、図版46)

全てIV群a類土器である。76～82は床面の出土。76は頸部が口縁に近い位置で窄まる壺形土器で、床面から細かい破片で出土した。器壁は薄く非常に軽量で、全体的には丁寧な造形が見て取れる。口縁部は僅かに外反し、低い山形突起を伴う。無文の器面には細く浅い沈線文で横位を主体とした細かい文様が施されており、山形突起部の下位には器面と一体化した貼付も認められる。77・78は縄文の施されたもので、77は小型土器の口縁部、78は胴部の小破片である。79・80も胴部片で、文様は不明瞭である。81は横位の沈線文が施された胴部小片、82は底部に近い胴部片で、器面には縦方向の調整痕あるいは研磨痕が顕著である。

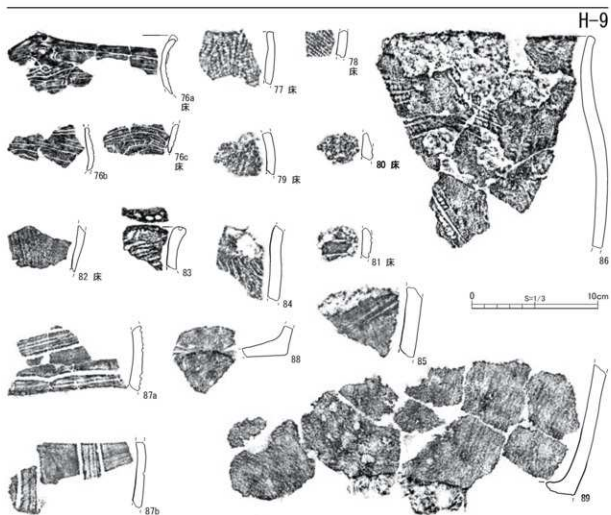
83は僅かに外反する口縁部で、口唇部に刺突文、器面には一段無節の斜行縄文が施されている。Ⅲ群b類の可能性もある。84は器面に交叉された燃糸文が施された胴部片、85は筋状の調整痕が器面に残る底部に近い胴部片である。86は覆土1層出土の胴部が僅かに膨らむ大型の破片で、地紋は燃りに強弱のある縄を使った付加条風の縄文と考えられる。87は2本の太く深い沈線文で帯状の区画を器面に回らせる胴部片で、区画された面に先端が角状の施文工具による細かい筋状の文様が施されている。88



図IV-62 遺構出土土器(3) H-6~8(1)



H-8 2/2



H-9

図IV-63 遺構出土土器(4) H-8(2)・9

は底部、89は底部に接した胴部で、共に文様は認められない。

H-10 (図IV-64-90～図IV-66-171、図版47～49)

90～93はHP-2、94～127は床面出土。Ⅳ群a類土器が大半を占めており、96・103がⅢ群a類土器である。90は口唇直下が僅かに肥厚する小型土器の口縁部、91～93は縄文の施された胴部片で、91・92は2段単節、93は無節の原体が使われている。94～100は縄文の施された口縁部である。94は浅い沈線文が伴うもので、補修孔を有しておりⅢ群a類の可能性もある。96・99は口縁の折り返した部分が無文となるもので、口唇部にも縄文が施文されている。これらは同一個体の可能性がある。101・102は無文の口縁部と胴部である。103～122は深鉢形土器の胴部である。103は綾絡文を伴う羽状縄文が施されたⅢ群a類土器、104は縄線文が施されている。105～108は沈線文が施されている。109～111は無節の縄文が施されており、93も含めて同一個体の可能性がある。112～122は斜行縄文が施されている。123～127は底部で、128が大型深鉢形のもの、それ以外は小型土器のものである。

128～171は覆土層出土のⅣ群a類土器。128～140・148～151・158は口縁部で、128～137・139は縄文の施されたもの、138・140は無文のもの、148～151は沈線文、158は縄線文と細い沈線文が施されている。128は口縁部に太いバンド状の貼付が2本回る大型の深鉢形土器で、バンドの間には文様が施されていない。129は山形突起部で口唇にも縄文が施されている。130・131・133は口縁にだけ胴部と糸の向きの異なる縄文が施されている。138～140は折返し口縁部を有している。148～150は口縁部から胴部に太い沈線文が施された深鉢である。152～154・160・161はそれらと同種の胴部片。155～157は沈線で曲線的な文様が描かれた胴部である。159・162～171は縄文が施された胴部で、159は縄線文、168は綾絡文が加えられている。162の地紋は燃糸文の可能性もある。

141～147は底部である。

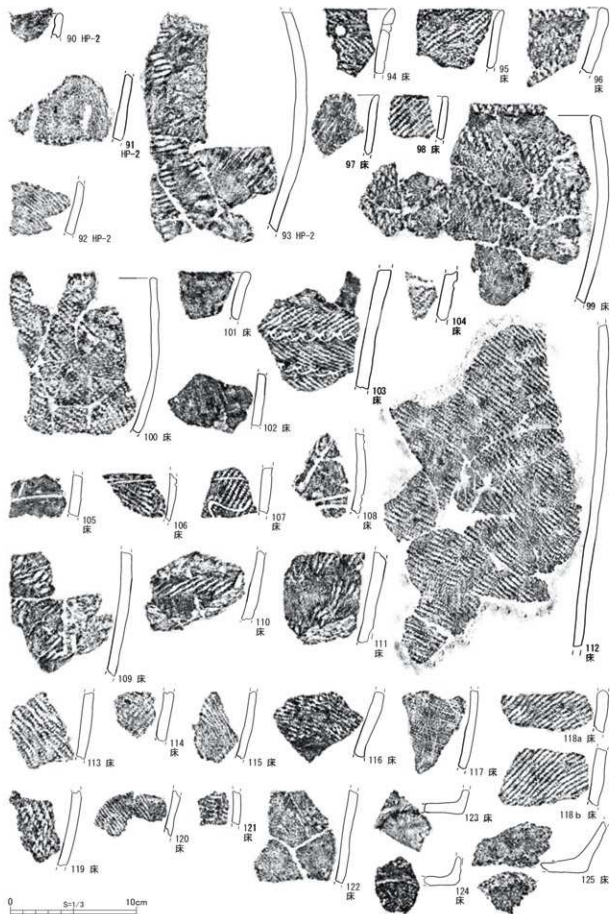
H-11 (図IV-67-172～図IV-68-198、図版50・51)

172・173はHP-1出土。172は口縁部に低い山形突起を有するやや小型の深鉢形土器で、半分ほどの破片の状態出土している。口唇断面は切り出し形で、その口唇部には縄の刻みが施され、上げ底の底部を有する。173は山形突起部で、2本の縄線文が認められる。

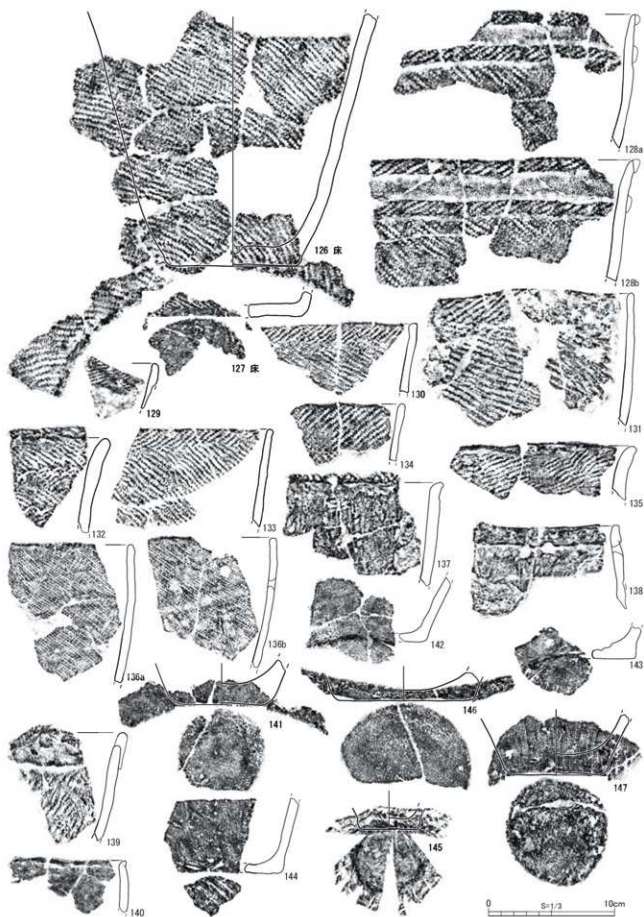
174～178は覆土下層～床面と考えられる層位、179～198は覆土中位～上位から出土した。174は低い山形突起を有する小型深鉢形土器の復元個体である。口唇断面は切り出し形で、その口唇部には縄の刻みが施され、上げ底の底部を有する。原体は多条のもので、175は同様の原体による羽状縄文が施されている。177は多条の原体による斜行縄文と綾絡文が施された胴部片、181は口縁部の周りに狭い無文帯を有する口縁部である。176・178～180・182～184は口唇、口縁などに細い粘土紐の貼付が施された土器である。182・183は取手状の突起部にも粘土紐の貼付がなされている。184は口唇部に刻みが入られ、器面には浅い沈線文も描かれている。185は器壁の薄い深鉢形土器で、口縁から胴部に細く不安定な沈線文が施されている。地紋は認められないが、口唇部に縄の刻みが施されている。186はミニチュア土器で広い範囲に刺突文が施されている。187は器面に横位→縦位の順に燃糸文が施されている。188も燃糸文の施された小型土器の胴部である。189・190は斜行縄文と綾絡文が施された胴部である。191・193・195は縄文の施された胴部で、191の原体は付加条である。192は山形突起部に沈線文が密に施されている。194は器面に細い粘土紐の貼付と沈線文が施されたサイベリ7式の復元土器で、4か所と考えられる山形突起部には焼成前の貫通孔が作出されている。197・198は底部で、196は197と同一個体の無文の胴部である。

分類はⅢ群a類が多く、187・188・191・193はⅣ群a類である。

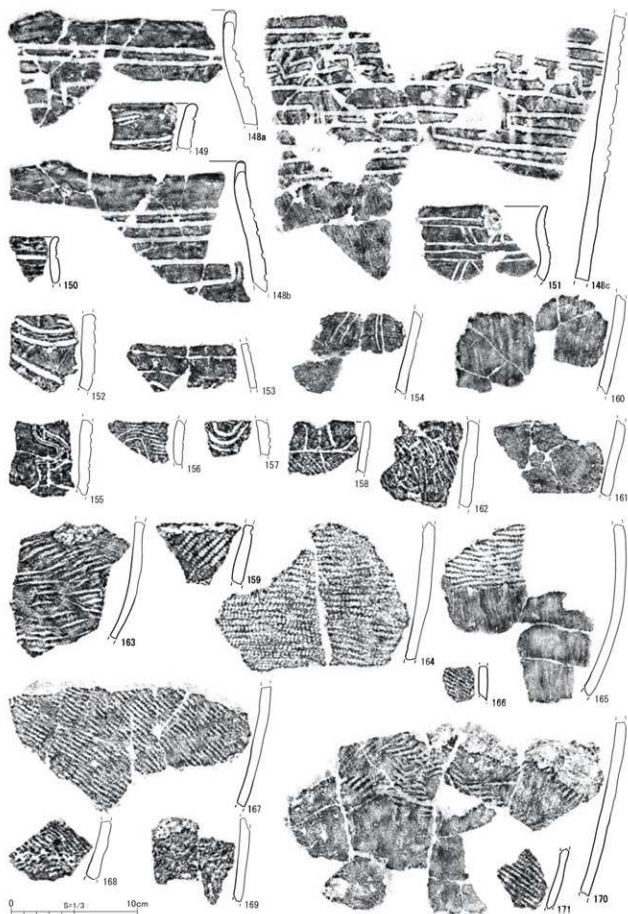
H-12 (図IV-68-199～219、図版51・52)



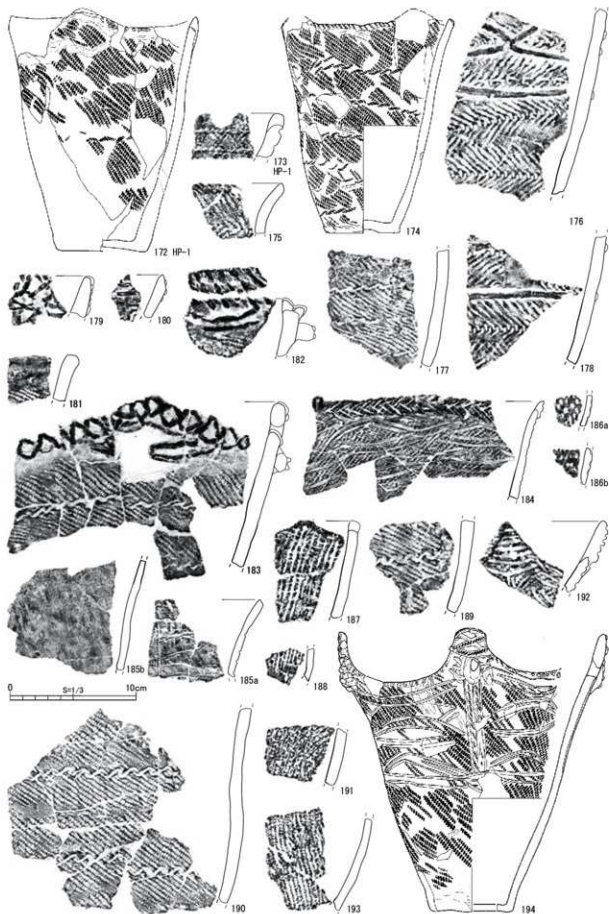
図IV-64 遺構出土土器 (5) H-10 (1)



图IV-65 遺構出土土器 (6) H-10 (2)



図IV-66 遺構出土土器 (7) H-10 (3)



圖IV-67 遺構出土土器(8) H-11(1)

199~207・209~214は重複する古い住居(H-12b)から出土したⅢ群a類土器である。207がHP-1、209がHP-11、199~206・215が床面出土。199・200・202は同じ場所からまとまって見つかった口縁部に山形突起一か所が備わるミニチュア土器である。HP-10の南東側に隣接して出土した。199のやや肥厚した突起部には焼成前の貫通孔があり、口唇部の縄の刻みは突起部においてのみ篋状の施文具による細かい刻みへと変化している。器面には斜行縄文を施した後に、平な先端部を有する施文具で浅目の沈線文が密に施されている。底部は僅かに上げ底を呈している。200・202は斜行縄文が施されており、200の口唇部には縄の刻みも認められる。201は異形の小型土器である。楕円の「おたま」状の形状で、柄の部分は折れて欠失しているがその断面には縦の貫通孔の痕が見て取れる。203は小型の深鉢形土器で、口唇部には刻み、器面には細い粘土紐の貼付、羽状縄文と綾格文も施されている。204・210~213は斜行縄文の施された口縁部である。204は山形突起部に縦の窪みが備わったもので、205と同一個体の可能性が高い。211・212は口唇部に縄の刻みが施されている。213の地紋は羽状縄文である。207は胴部片で、不明瞭な文様が認められる。209は口縁部と考えられる小片である。214は緻密で堅い胎土を有する底部である。

208・216~219は重複する新しい住居(H-12a)から出土したⅣ群a類土器である。215は床面出土。208はHF-1出土。215はほぼ平縁の深鉢形土器である。口唇は軽い研磨が施され、その断面は円形を呈している。地紋は条が縦気味の縄文である。208は小型土器の取手と考えられる。216・217は折返し口縁部で、217は縄文が施されている。218は網目状の燃糸文が施された胴部である。219は縄線文2本が入る口縁部で、地紋は付加条の原体による。胎土の混和材が原因か重さを感じる。

H-13 (図Ⅳ-68-220~223、図版52)

220・221は縄文が施された口縁部でⅢ群a類、222・223は縄文が施された胴部でⅣ群a類である。

H-15 (図Ⅳ-68-224~226、図版52)

224・225はHF-1出土。224・226は器面に斜行縄文と沈線文が施された胴部、225は縄文の施された胴部である。全てⅢ群a類である。

2 土坑

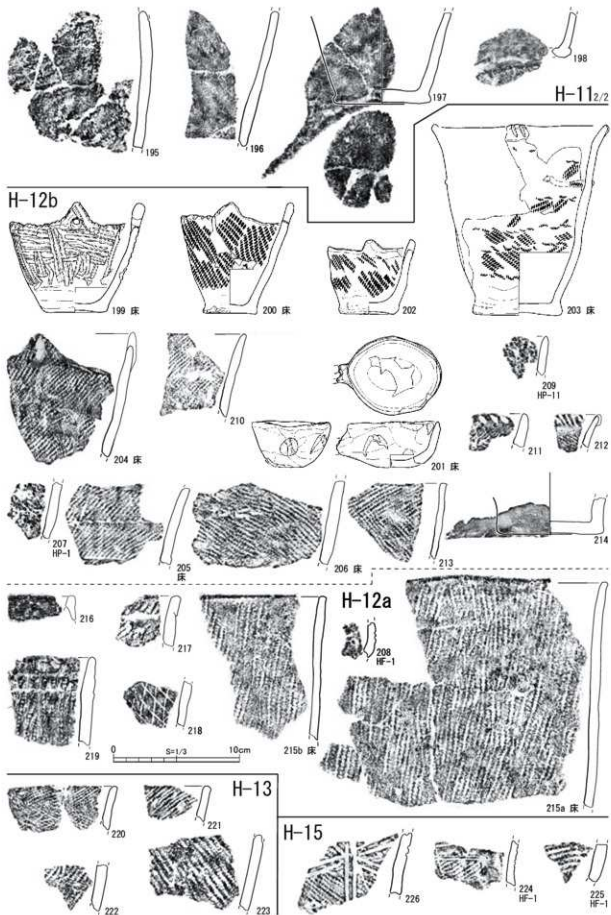
P-1 (図Ⅳ-69-227~248、図版52・53)

227~240は坑底出土。227は坑底から出土した復元土器で、底部を含む約1/3が欠失している。4つの山を有する波状口縁で、器面には全体に斜行縄文、口縁付近に平行沈線文が各施されており、磨消縄文の部分は認められない。228・229は先端が僅かに肥厚する波状口縁の突起部である。沈線で区画された範囲にだけ細い原体による縄文が認められ、無文部は磨消縄文が施されている。230は斜行縄文と平行沈線文が施された口縁部、236~238は同じ文様構成の胴部片である。231の口縁部には鋸歯状の沈線文が施されている。241は折返し口縁部で、器面には沈線で区画された範囲を粘土で盛り上げた文様が施されている。232・233・242は縄文が施された口縁部で、口唇断面はどれも角形を呈し、232・233は口唇上にも縄文が施される。239・240は縄文の施された胴部、234・235は無文の口縁部と胴部である。243~248は覆土2・3層のもので、243・244が縄文と平行沈線文が施された口縁部、246・247が縄文の施された口縁部、245が無文の口縁部である。248は沈線文で幾何学的な文様を施した深鉢形土器の胴部である。

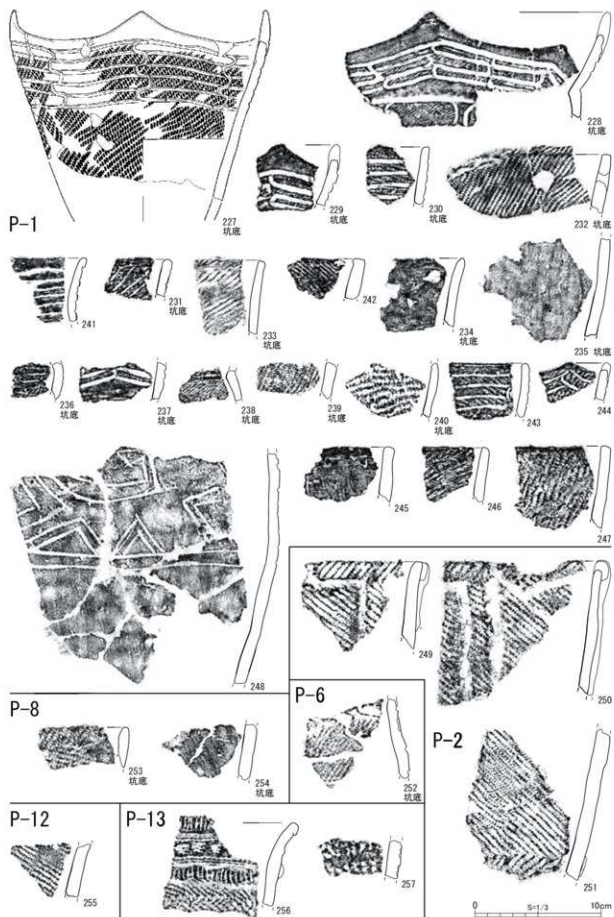
Ⅳ群b類が227~232・235~238・245~247と多くを占めており、これらは比較的古い特徴を有している。それ以外はⅣ群a類である。

P-2 (図Ⅳ-69-249~251、図版53)

249~251はバンド状の貼付が施された深鉢形土器の口縁部と胴部である。



圖IV-68 遺構出土土器 (9) H-11 (2)~13·15



図IV-69 遺構出土土器(10) P-1・2・6・8・12・13

P-6 (図IV-69-252、図版53)

252は斜行縄文と太い沈線文が施されたIV群a類の深鉢形土器胴部である。

P-8 (図IV-69-253・254、図版53)

253・254は坑底出土。253は縄文の施された折返しのIV群a類口縁部、254は無文のIII群a類胴部片である。

P-12 (図IV-69-255、図版53)

255は縄文の施されたIII群a類胴部片である。

P-13 (図IV-69-256・257、図版53)

256・257は円筒上層b式土器の口縁部と口縁文様帯の一部である。

P-14 (図IV-70-258～263、図版53)

258は縄文が施されたIII群a類の口縁部、259～262は沈線文が施されたIV群a類の口縁部と胴部である。260・261は沈線文と共に条痕も施文されている。263はIII群a類と考えられる胴～底部で、胴部には縄文が施されている。

P-15 (図IV-70-264～267、図版53)

264は結束の羽状縄文が施された小型の深鉢口縁部である、265～267は細い粘土紐が貼付される口縁部と胴部である。267はH-12と接合している。全てIII群a類である。

P-16 (図IV-70-268～270、図版54)

268は坑底から出土した結束羽状縄文と綾格文が施される深鉢の底部で、H-15・M-1のものと同様に接合している。269は細い粘土紐が添付された玉形の突起部である。270も結束羽状縄文が施されている。3点ともIII群a類である。

P-17 (図IV-70-271～278、図版54)

271～275は坑底出土。271は結束羽状縄文が全面に施された小型の深鉢で、接合破片のうち3点がP-17出土である。272・273は縄文の施されたもので、272が口縁部、273は胴部である。274は沈線文と条痕が施された胴部、278は縄文と沈線文の上から強く研磨を施した胴部である。275は縄文の施された胴部、276・277は円筒上層b式土器の口縁部である。271・275～277がIII群a類、その他はIV群a類である。

3 Tピット

TP-1 (図IV-70-279～282、図版54)

279は細い粘土紐を貼付したIII群a類の胴部、280は縄文と平行沈線文が施されたIV群b類の口縁部、281はIV群a類と考えられる無文の胴部、282は燃系文と絡条体を回転圧痕した縄文が施されたII群b類の胴部である。

4 焼土

F-2 (図IV-71-283・284、図版54)

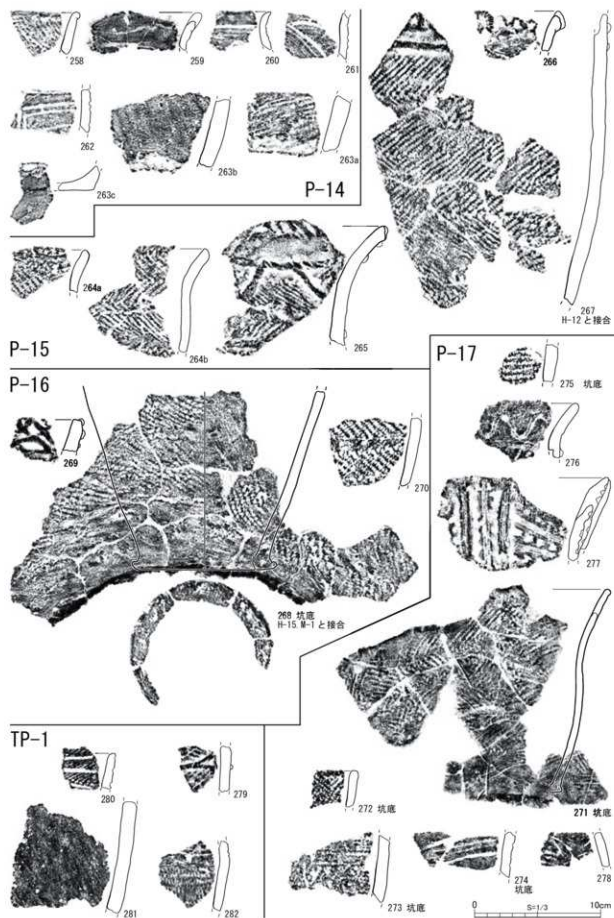
283は燃系文が施された胴部、284が縄文と綾格文が縦位に施文された大型の深鉢胴部である。どちらもIV群a類である。

F-3 (図IV-71-285～287、図版54)

285は円筒上層b式の口縁部文様帯の破片、286・287は縄文の施された胴部片で、全てIII群a類である。

F-4 (図IV-71-288～294、図版54)

288～291は太いバンド状の貼付が施されるもので、289が口縁部、その他は胴部である。288の太い



図IV-70 遺構出土土器 (11) P-14~17、TP-1

原体による縄文は器面で縦位、貼付上で横位に施されている。292～294は細く弱めの沈線文が施された胴部で、293・294は縄文も施される。全てIV群a類である。

F-6 (図IV-71-295、図版55)

295は口縁の貼付帯上に縄線文を施したもので、IV群a類である。

F-10 (図IV-71-296、図版55)

296は斜行縄文が施されたIV群a類の胴部である。

F-11 (図IV-71-297、図版55)

297は円筒上層式の深鉢口縁部で、口唇には燃系の連続した刻み、口縁～胴部には結束の羽状縄文が施されている。III群a類である。

F-12 (図IV-71-298・299、図版55)

298・299は縄文の施されたIV群a類の胴部である。298は器壁が薄い。299の器面には縦の沈線文らしきものも認められる。

F-13 (図IV-71-300・301、図版55)

300・301は結束羽状縄文が施されたIII群a類の胴部である。

F-19 (図IV-71-302～307、図版55)

302・304～306は沈線文が施された口縁部や胴部で、302・305には縄文も施されている。302は内面にも同じ意匠の沈線文が施される。303は無文の口縁部、307は底部である。全てIV群a類である。

F-20 (図IV-71-308、図版55)

308は縄文が施されたIII群a類の口縁部で、口唇には縄の刻みも施されている。

F-22 (図IV-71-309、図版55)

309は太い原体による羽状縄文が施されたIII群a類の胴部である。

F-23 (図IV-71-310～図IV-72-319、図版55・56)

310は床面から出土した口縁部で、器壁は厚く、器面には燃系文が施されている。311も器壁の厚い口縁部。口唇部にも多条縄文が施されている。312は沈線文の施された平縁の復元土器である。口縁がやや肥厚しており、沈線文は口縁近くの狭い幅の中だけに施されている。313は胴部が張り出す小型の甕である。平縁で折返し口縁の直ぐ下に横環する細い沈線文が施されている。314・315・317は縄文が施された胴部で、314には補修孔も認められる。316は細目の沈線文が施された胴部、318・319は底部である。全てIV群a類である。

5 土器集中

PC-1 (図IV-72-320～323、図版56)

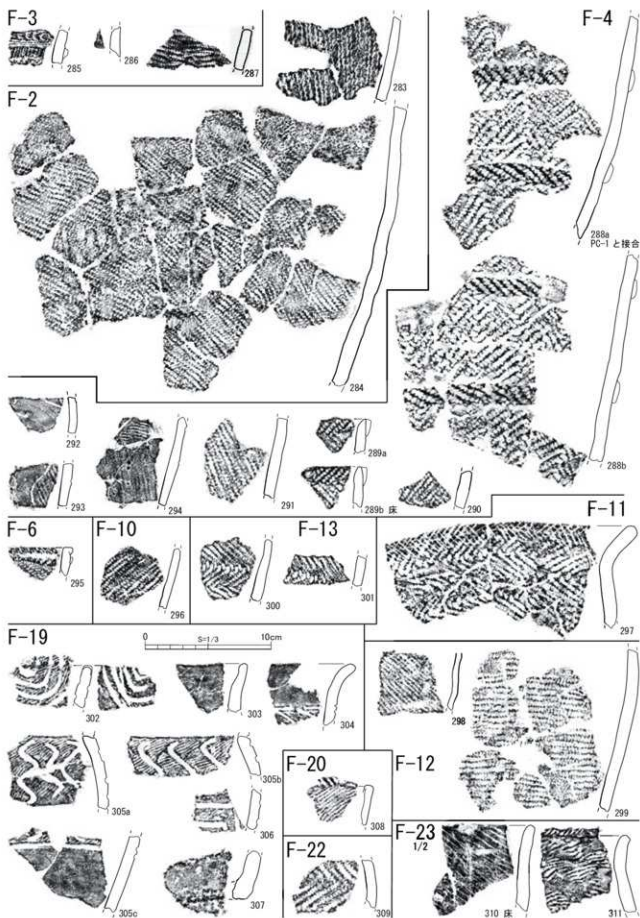
320は縄文が縦位に施された平縁の深鉢である。321～323は太い縄による斜行縄文が施された器壁の厚い大型の深鉢土器の口縁と胴部である。321・322にはバンド状の貼付も認められる。

PC-2 (図IV-72-324～図IV-73-333、図版56)

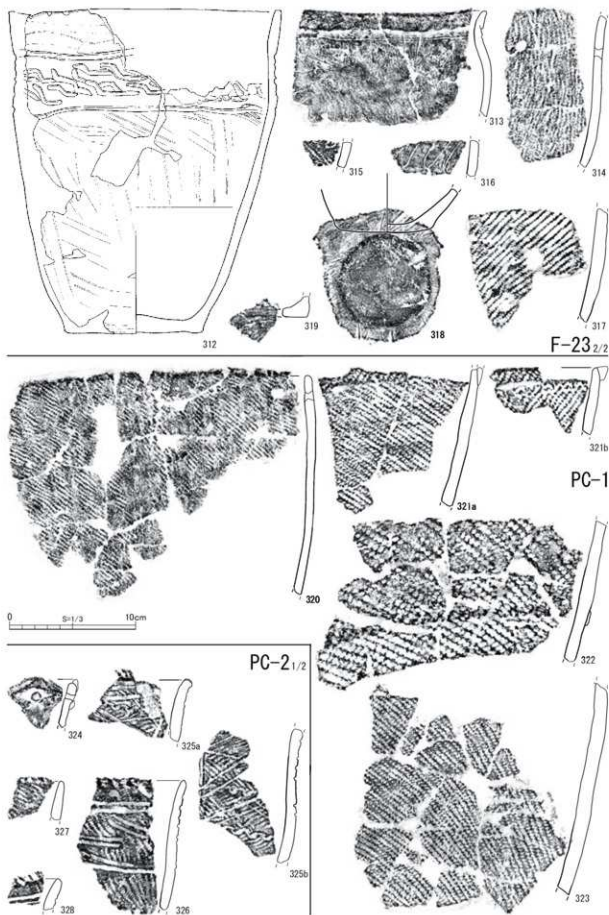
324は口縁の山形突起部で、中央の貫通孔は焼成前に穿たもので、器面には細い粘土紐の貼付が施されている。325・326・328～330は縄文と沈線文が施された口縁部と胴部で、口縁部には縄の刻みが施されている。327も口唇部に縄の刻みを有しており、地紋は斜行縄文である。331～333は底部である。全てIII群a類である。

PC-3 (図IV-73-334～337、図版57)

334は貼付帯を有する口縁部、335・336は口唇部にも縄文が施された口縁部である。337は口縁部の多くを欠失した深鉢形土器の復元個体である。取手状の貼付を有し、器面には綾絡文を伴う羽状縄文



図IV-71 遺構出土土器 (12) F-2~4・6・10~13・19・20・22・23(1)



圖IV-72 遺構出土土器 (13) F-23 (2)、PC-1・2 (1)

と浅く条痕を伴う沈線文が施されている。全てⅢ群a類である。

6 剥片集中 (FC-2・5)

FC-2 (図Ⅳ-73-338、図版56)

338は縄文が施されたⅣ群a類の胴部である。

FC-5 (図Ⅳ-73-339~341、図版56)

339は節の細かい縄文を、口縁部では横位に、胴部では縦位に回転施文した小型で平縁の土器である。底部は上げ底で器壁は薄い。340は極めて細い燃糸が押捺された小型土器の口縁部である。341は縄文の施された胴部である。全てⅣ群a類である。

7 盛土 (M-1)

M-1 (図Ⅳ-73-342~352、図版57)

342~346は斜行縄文と沈線文が施された口縁部で、342以外は山形突起部である。口唇部の刻みは346が棒状の施文具によるもので、それ以外は縄による。347・349は羽状縄文と綾格文が施された口縁部と胴部、348は縄文と綾格文が施され、かつ貼付も施される口縁部である。350~352は底部である。全てⅢ群a類である。(皆川)

(2) 石器ほか (図Ⅳ-74~96、表Ⅳ-4、図版58~67)

1 竪穴住居跡

H-1 (図Ⅳ-74-1・2、図版58)

1は床面、2はHF-1出土。1は両面調整石器で、薄手で尖頭形の原石の周縁にやや粗い加工が施される。2は泥岩製のたたき石で、棒状扁平礫の平坦面両端部を中心に敲打痕が残る。

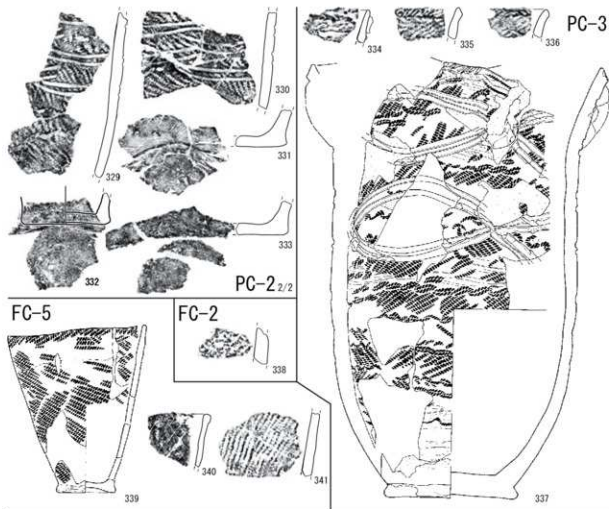
H-2 (図Ⅳ-74-3~図Ⅳ-75-15、図版58)

3・4・6・7・10~15は床面、それ以外は覆土からの出土。3・4は有茎石鏃で、3は短身、4は長身である。5~7は両面調整石器で、5・6は尖頭器状、7は不定形。5・6は斜軸剥片素材である。8は剥片の末端を軽くノッチ状に加工したスクレイパーで、右下端は錐状に尖る。9は石錐で、両面調整体の末端に突出部を作出している。10は両面で剥離が行われる石核。11は緑色泥岩製の石斧から剥離された剥片である。12・13は泥岩製。12は小型の棒状のたたき石で、平面の上端部付近に浅い敲打痕がある。13は加工痕のある礫で、両端部に右側縁からの剥離痕があり、裏面には長軸方向の擦痕がある。14は砂岩、15は安山岩。14・15はHF-2の石組みを構成する礫で、両者とも接合する。

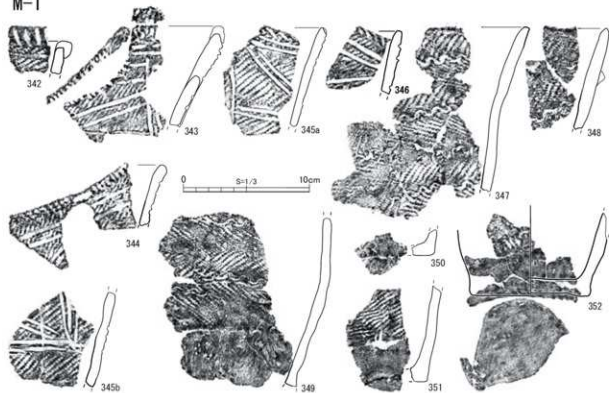
H-4 (図Ⅳ-76-16~図Ⅳ-77-41、図版58)

18・29・34は床面、それ以外は覆土からの出土。16~32は石鏃。16は菱形、17~32は有茎で、17~28は短身、29~32は長身のもの。短身のものには19~28のように作りのやや粗雑なものがあり、粗い押圧剥離により縁辺が鋸歯状である。20・24・28の基部は片側が直線的、もう一方が挟りが強く、器軸に対して斜傾する特徴的な形態である。25・30・32の基部にはアスファルトの付着が見られる。33は横長剥片素材のスクレイパーで素材先端側の長辺に加工が施される。34は石錐で両面調整された末端にやや太い刃部が作出される。35・36はRフレイクで、寸詰まりの剥片素材である。37はUフレイクで、やや縦長の剥片の左側縁に微細剥離痕と光沢が残る。38は片岩製で、幅の狭い整型の石斧である。本形態のものでは大型である。39は凝灰岩製で、扁平打製石器の折損品である。40は砂岩製で、楕円形の扁平礫側縁に敲打痕のあるたたき石。41は安山岩の炉石とみられる被熱礫で、小型破片がHF-1の覆土、大型破片がH-4の覆土から出土している。

これらの石器類はほとんどが屋根土の崩落とみられる覆土下層から出土していること、また、周辺から後期初頭以外の土器が出土していないこと、そして、H-2の石組炉の構成礫の一部がH-4の腐

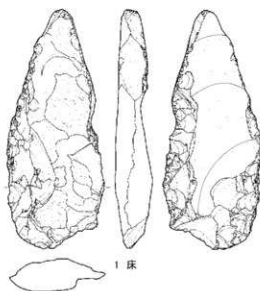


M-1

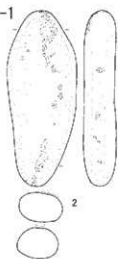


図IV-73 遺構出土土器 (14) PC-2 (2)・3、FC-2・5、M-1

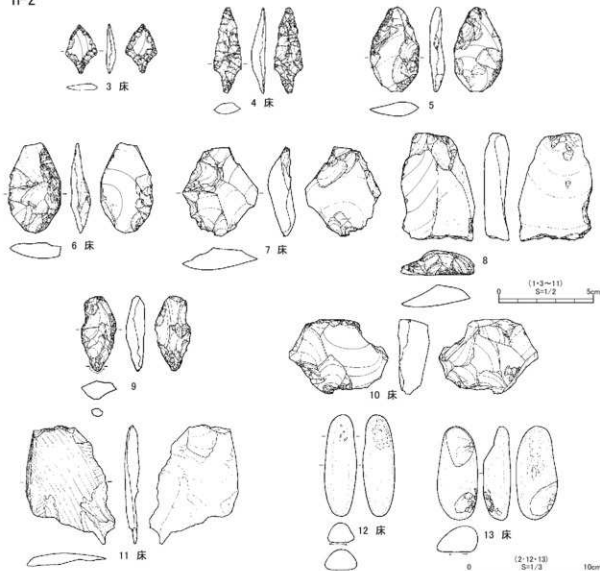
H-1



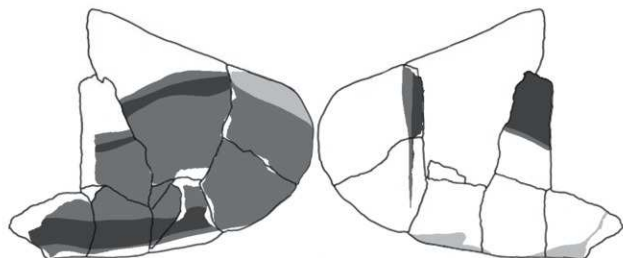
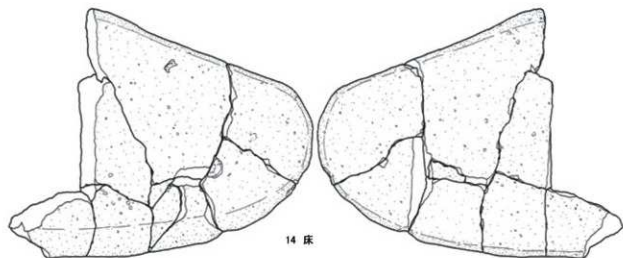
H-1 HF-1



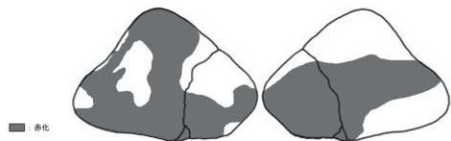
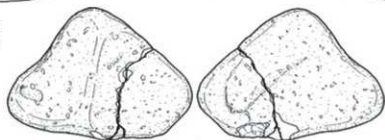
H-2



図IV-74 遺構出土石器(1) H-1・2(1)



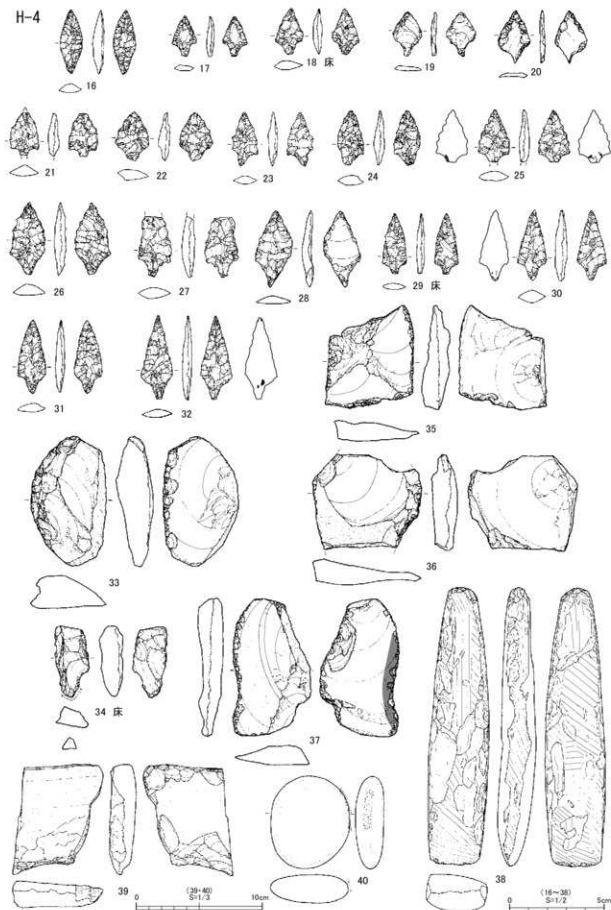
□ 薄い赤化
 ■ 濃い赤化
 ■ 黒化



■ 赤化

図IV-75 遺構出土石器(2) H-2(2)

0 5=1/4 10cm



図IV-76 遺構出土石器(3) H-4(1)

絶後の窪みに廃棄されていることなどから同時期性の高いものと考えられる。

H-5 (図IV-77-42~44、図版59)

42~44は覆土からの出土。42は剥片素材のスクレイパーで左側縁に平坦な加工が施される。43は細長い原石の小口面で剥離が行われる石核。44は砂岩製で、楕円形の扁平礫の側縁に敲打痕のあるたたき石。下部は右側縁下部の敲打により折損している。

H-6 (図IV-77-45~54、図版59)

45~54は覆土からの出土。45・46は短身の、47は長身の有茎石鏃。48~50は横長剥片素材で、周縁加工の両面調整石器。51は右側縁にわずかな微細剥離と光沢のある剥片。52は上縁の両面にチョッパー状の剥離が行われる石核。53は片岩製で、両面調整により横断面凸レンズ状に加工される石斧。54は安山岩製で、両面とも上縁・左右側縁・下縁に加工のある扁平打製石器。刃部の左右の縁辺は剥離によって稜状である。

H-7 (図IV-78-55~61、図版59・口絵8-2)

55~61は覆土からの出土。55・56は黒曜石製の石槍。両面とも丁寧に加工され、相似的な形状である。57は寸詰まりの剥片素材の石錐。素材の形状を利用して張り出した端部に刃部が作出される。58は緑色泥岩製の石斧。一部の側方剥離を除いて研磨により調整される。59は砂岩製で盤状の砥石。60はHP-2出土の琥珀製の垂飾。長さ2.8cmの大型品で、正面と周縁部は研磨によって整形され、裏面は剥離面である。中央やや上寄りに穿孔があり、その他上縁に穿孔の痕跡と深さ1mm程度の小さな穿孔痕がある。穿孔はほぼ筒形で、横方向の擦痕と縦方向の擦痕が認められる。61はHP-4出土の緑色泥岩製の石斧。全面研磨によって調整される。

黒曜石産地分析の結果、55(KO3-X2)・56(KO3-X1)は「上土幌」、覆土出土の剥片2点(KO3-X3・4、Ⅵ章3図5)に写真掲載はKO3-X3が「白滝1」、KO3-X4が「赤井川」と判定され、広域に点在する各産地の黒曜石が搬入されている。

H-8 (図IV-78-62~図IV-79-65、図版59)

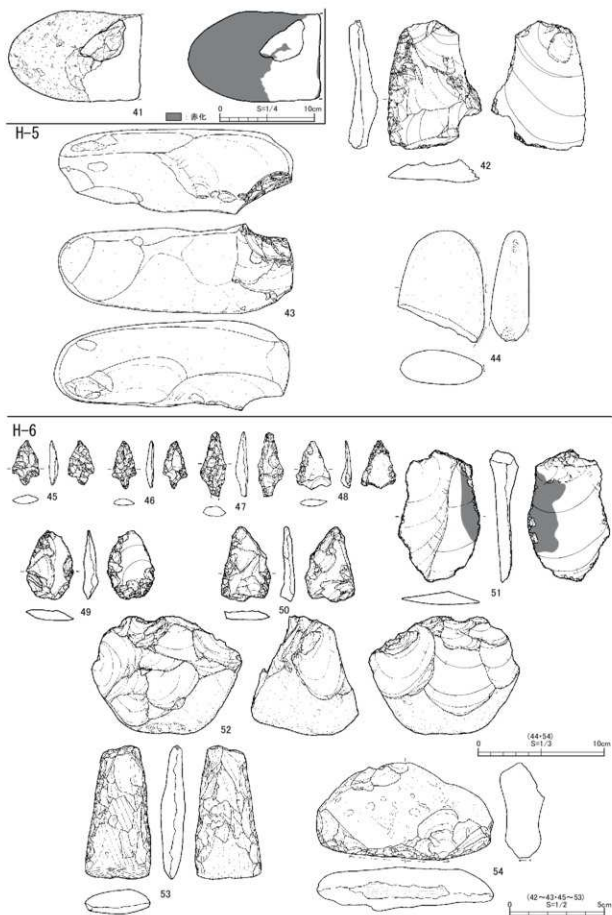
63は床面、それ以外は覆土からの出土。62は両面調整石器。横長剥片素材で左側縁の両面・右側縁裏面下部・裏面下部端部に加工が施される。63・64は石核。63は正面と上面の小口面で打面と作業面を入れ替えてやや縦長の剥片が剥離される。64は原礫面打面で、正面において上・右から剥離が行われる。65は砂岩製のたたき石。やや扁平な断面三角形の礫素材で端部近くの両面に浅い敲打痕がある。

H-9 (図IV-79-66~69、図版60)

66~69は覆土からの出土。66は長身の有茎石鏃。67は小型の両面調整石器。68は篋状石器。横長剥片を素材としてその側縁を直線的に残すように両面加工により楕形に整形される。69は斜軸剥片を素材としたスクレイパー。

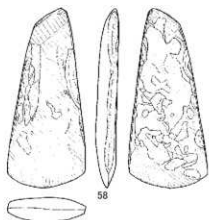
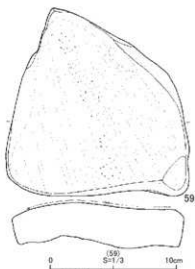
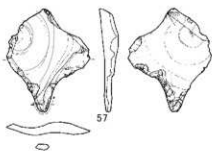
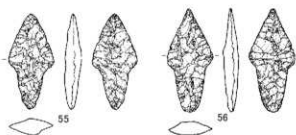
H-10 (図IV-79-70~図IV-81-91、図版60)

74・85・86は床面、75・79・87・89は床面直上土、それ以外は覆土からの出土。70は短身の有茎石鏃。基部にアスファルトが付着する。71は粗い両面調整石器。72~79はスクレイパー。72・73はやや縦長、74~78は斜軸剥片素材のもの。79は折れた素材の一部に加工が施される。80は縦長剥片素材の石錐である。81は寸詰まりの剥片で、側縁に光沢が残る。82~86は石核で、82~84は打面と作業面を入れ替えて作業が進行するもの。82はほぼ原石の形状を保っている。85・86は剥片素材で、腹面側で剥片が剥離される。87~90はたたき石。87は頁岩製で、棒状礫の側縁に敲打痕があり、下端には剥離面が伴う。88は砂岩製で、楕円形の扁平礫の端部に、89は砂岩の扁平礫の周縁に、90は泥岩の棒状の扁平礫の平面の両端付近に浅い敲打痕がある。91は石核で、両面に短軸方向の剥離面がある。

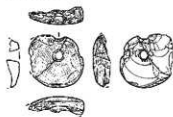


図IV-77 遺構出土石器(4) H-4(2)~6

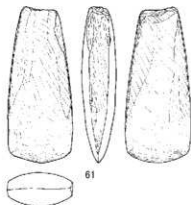
H-7



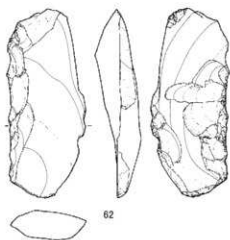
H-7 HP-2



H-7 HP-4



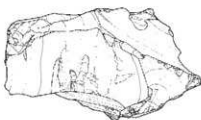
H-8



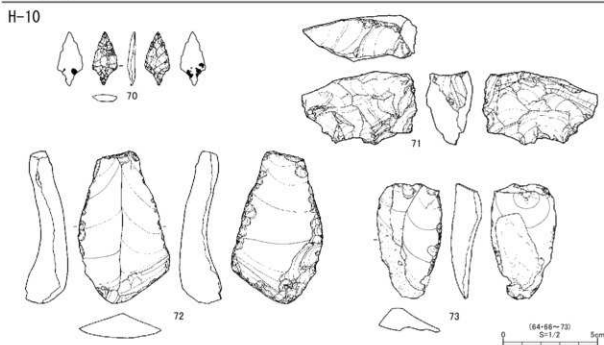
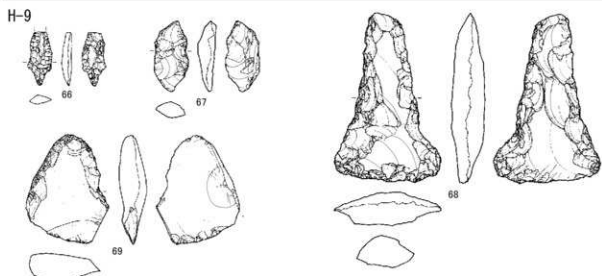
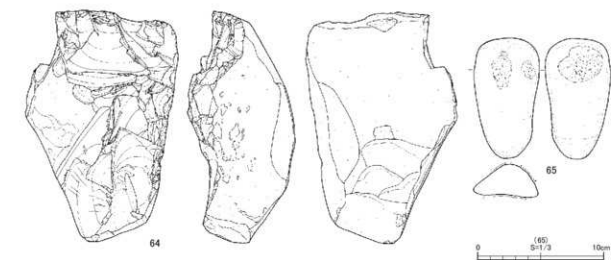
(55~58・60~63)
S=1/2 5cm



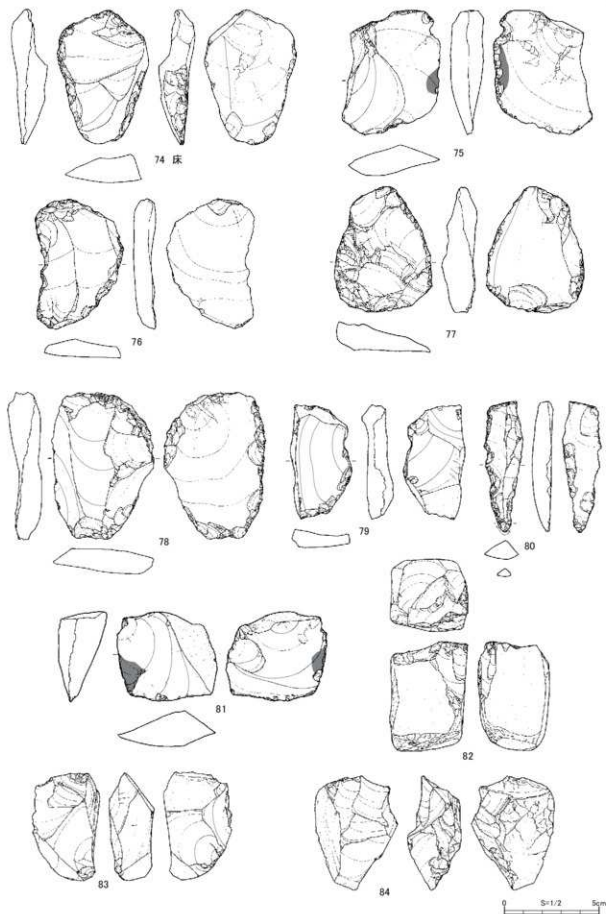
63 床



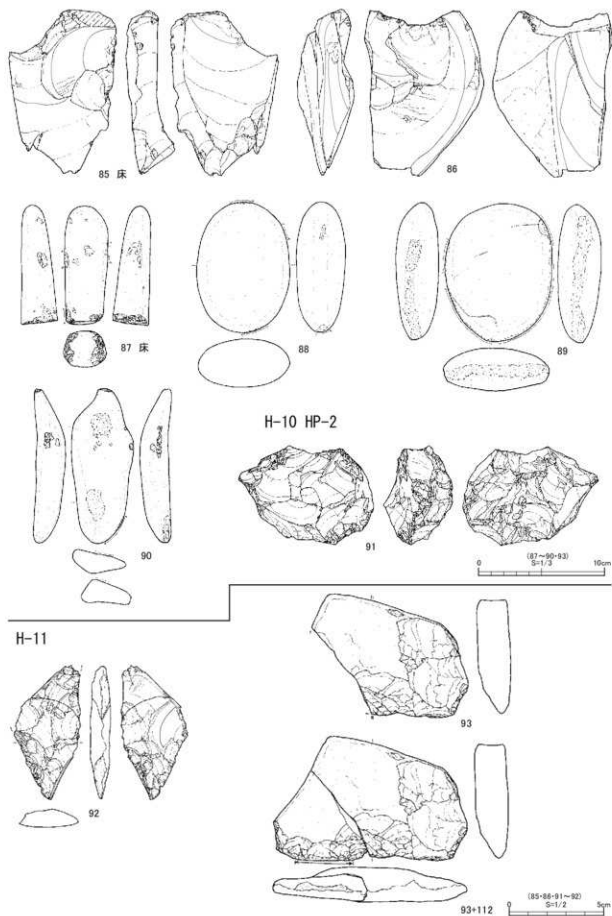
図IV-78 遺構出土石器(5) H-7・8(1)



図IV-79 遺構出土石器(6) H-8(2)~10(1)



圖IV-80 遺構出土石器(7) H-10(2)



図IV-81 遺構出土石器(8) H-10(3)・11(1)

H-11 (図Ⅳ-81-92～図Ⅳ-83-106、図Ⅳ-93、図版61・66)

92～106は覆土からの出土。92は薄手の石楯。上部は欠損している。93は泥岩製の扁平打製石器。93は当初両面調整石器として作図したが、本書編集集中に112と接合したため、図はそのまま別々に掲載する。93+112は下縁部・左右側縁の両面に加工が施される。112の刃部には長軸方向の擦痕がある。器体中央の敲打により折損し、故意に壊された可能性がある。93の表面・112の刃部には赤色の物質が付着している。94は両面調整石器。全周の両面に加工が施され、被熱により破損している。全体形から左側縁を刃部とする扁平打製石器の可能性がある。95・96はスクレイパー。95は両側縁の腹面に加工があり、96は厚手の加工により楕円形に整形され、裏面の左側縁には光沢が残る。97～99は石核。97・98は打面と作業面を入れ替えながら剥離が進行する。97はH-12b床面に主に分布する母岩4の石核である。99はやや扁平な原石の片面で剥離が行われる。100は安山岩製のすり石で、左右側縁は直立するように加工され、正面左側は大きく剥落している。101・102は安山岩製の扁平打製石器。101は下縁の両面に加工が施され、102は折損品である。103・104はたたき石。103は砂岩製で、扁平な礫の端部と肩部に、104は泥岩製で、楕円扁平礫の平坦面の中央を縦断するように敲打痕があり、特に端部近くはやや深い。105は安山岩製の台石で、被熱している。106はHP-1出土の短身の有基石楯である。

母岩1 (図Ⅳ-93上)は、長さ幅ともに9cm、厚さ4cm程の扁平な小型の原石が利用される。主に正裏面で剥離され、特に工程5で裏面への連続した剥離の後、打面と作業面を入れ替えて、工程6で正面への剥離が行われる。剥離される剥片は3cm程の寸詰まりの形状である。出土層位は覆土下層がほとんどで、縄文時代中期前半とみられる。H-11の北西部に集中して分布する。

母岩5 (図Ⅳ-93下)は、長さ幅ともに13cm、厚さ5cmほどのやや扁平な原石が利用される。作業は正面のみで、上部からの剥離(工程1)の後、右から角度のある剥離が行われ、最後に左からの剥離(工程2)が連続的に行われる。5～9cm程で、やや寸詰まりの剥片が剥離される。覆土下層2点と周辺グリッドに分布し、縄文時代中期前半とみられる。

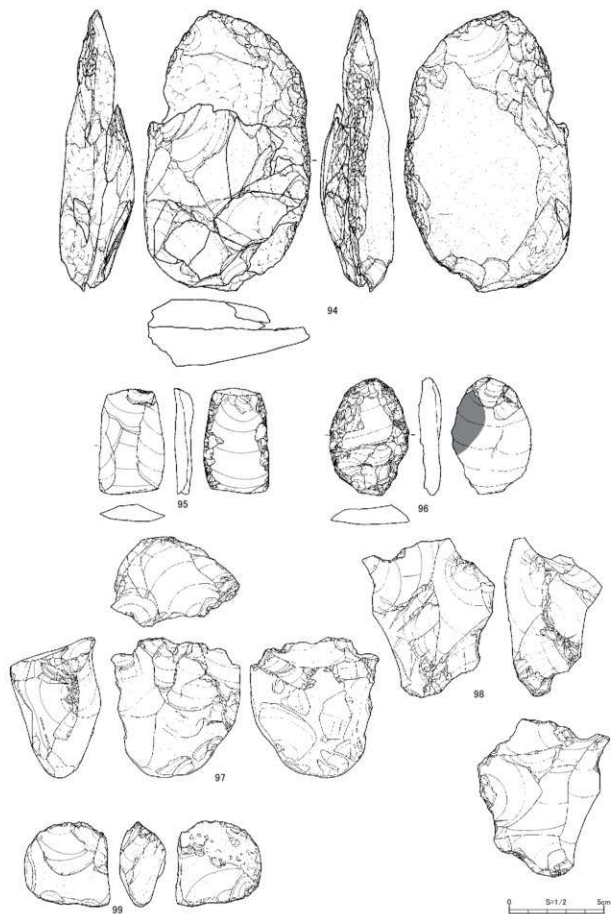
H-12a・b (図Ⅳ-84-107～図Ⅳ-87-146、図Ⅳ-94・95、図版62・63・66・67)

107～113は覆土上層出土。107はやや粗い加工の短身の有基石楯。108はスクレイパー。寸詰まりの剥片素材で全周に加工が施され、背面加工の左側縁に光沢が分布する。109はUフレイクで、三角形の剥片の末端側に微細剥離と光沢が残る。110・111は石核。110は円礫が両極剥離によって分割されたもの。背面には敲打による剥離が残る。111は剥片素材。112は泥岩製の扁平打製石器の折損品で、93と接合した。113は砂岩製の加工痕のある礫で、短軸の両側縁と長軸の一端に剥離がある。

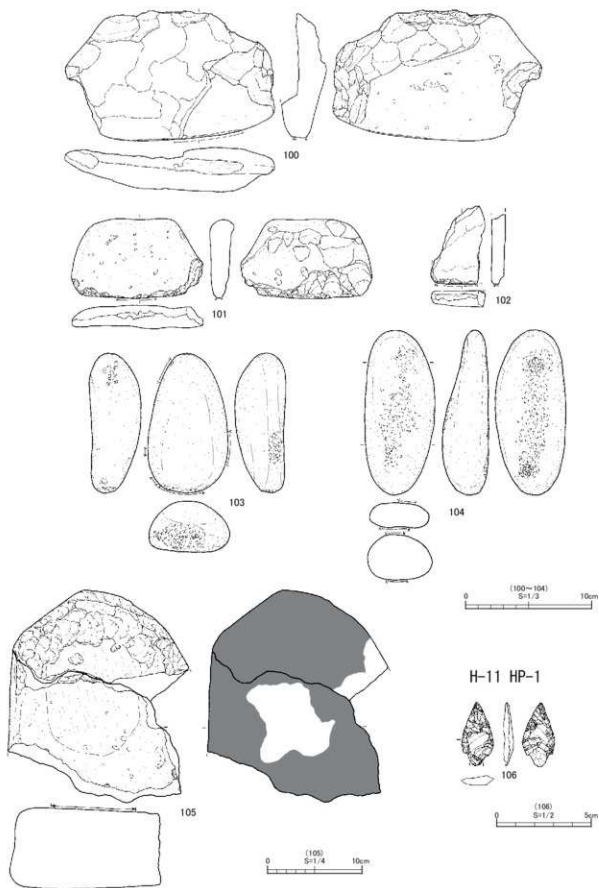
114はH-12a床面出土の砂岩製の台石。中央に擦り面がある。

115～126はH-12bの屋根土と考えられる覆土下層からの出土。115はかえしの不明瞭な有基石楯。116は篋状石器(117)とH-12b床面出土のRフレイク(132)の接合資料。132は下端から剥離され、その後、主に下端部正面の剥離によって弧状の下縁が整形される。132剥離後の117の剥離面はそれ以前のパティナと違いがあり、時間差が想定される。118・119はスクレイパー。118は横長剥片素材で打面側はやや粗い、末端側は短い平坦剥離によって加工される。119は縦長剥片素材である。120は原礫面打面の石核。121は頁岩製の石楯で、右側縁には刃部、下縁には扁平打製石器に類似した剥離と平坦面がある。122・123は砂岩製のたたき石。122は楕円扁平礫の肩部に、123は側面に粗い敲打痕がある。124は安山岩製の台石。左側縁角に打ち欠きがある。125・126は砂岩製の加工痕のある礫。両者とも対向する位置に剥離面があり、125の左側縁は稜状である。

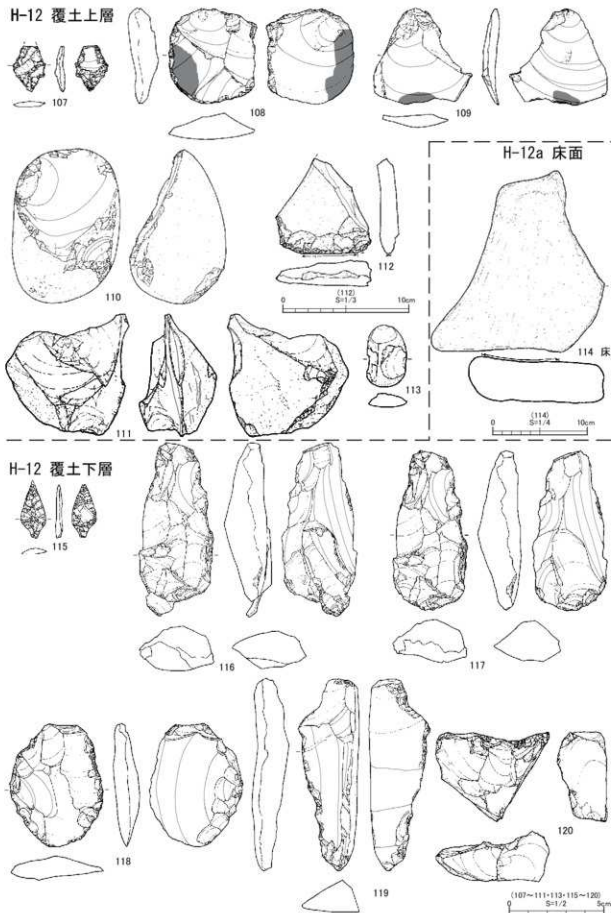
127～140はH-12b床面出土。127～130は両面調整石器で、127・128は尖頭器状である。129は右側



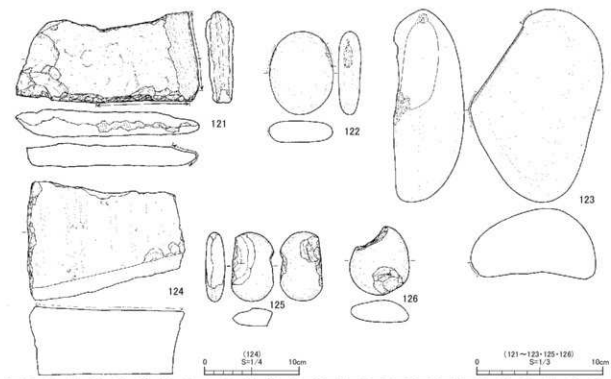
図IV-82 遺構出土石器(9) H-11(2)



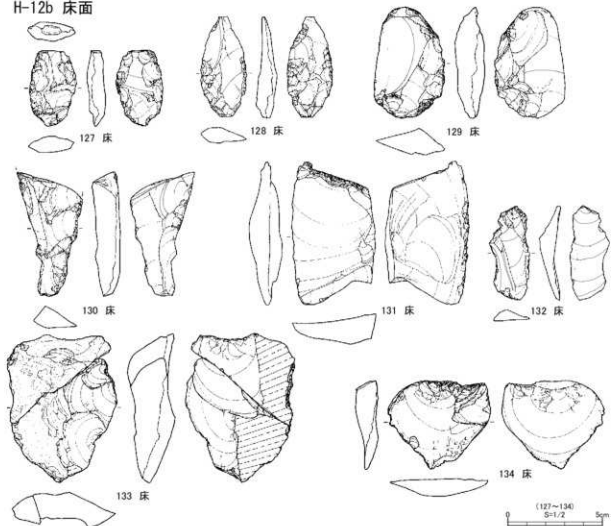
図IV-83 遺構出土石器(10) H-11(3)



図IV-84 遺構出土石器(11) H-12(1)



H-12b 床面



図IV-85 遺構出土石器(12) H-12(2)

縁にやや粗い両面加工が施される。131は横長剥片素材のスクレイパー。132・133はRフレイク。132は縦長剥片、133は剥片素材。134はUフレイク。寸詰まりの剥片素材で、左側縁に微細剥離が残る。135～138は石核。135～137はやや厚手の原石素材で、原礫面打面から剥離が行われる。138は扁平な原石の片面で、平坦な剥離が行われる。139は閃緑岩製の石鋸、140は砂岩製のたたき石。楕円の扁平礫の両端部、両側縁に粗い敲打痕がある。

141・142は攪乱出土で、141は尖頭器状の両面調整石器、142は剥片素材のスクレイパーで、左側縁に二次加工と光沢がある。

143～146はHP-1出土。143～145は菱形の石鏃で、先端部を欠損している。146は加工痕のある礫で、泥岩の小型扁平礫の側面に擦痕がある。

母岩3(図IV-94)は、長さ12cm、幅9cm、厚さ9cm程の原石素材で、部分的に節理面が内在するため不規則な割れが見られる。左側面から正面への剥離(工程1)の後、上面から裏面への剥離(工程2)、裏面から右側面への剥離(工程3)、右側面から正面への剥離(工程4)、右上から正面への剥離(工程5)、上面から正面への剥離(工程6)が行われ、下端には潰れたような剥離(工程7)が見られる。工程2の剥片は側縁に一部加工が施される(単体非掲載)。工程3の長さ8cm程の剥片は右側縁・裏面が加工され(133)、工程4の7×8×4cm程の剥片は一端で連続的な剥離が行われる(個体A)。工程5の7×12×3cm程の剥片は短軸方向の剥離が見られる(個体B)。工程1と2の一部はH-11覆土下層から出土し、それ以外は、H-12b床面・覆土下層が主体で、HP-3・7からも出土している。H-12bでは南北の壁際の二カ所に分布が分かれるが、工程や個体などの違いではない。工程1・2の剥離初期の剥片・RフレイクがH-11の廃絶住居の窪みに廃棄され、その後の剥片や石核がH-12bの二カ所にランダムに廃棄されたものと考えられる。H-12bの時期である縄文時代中期前半見晴町式に相当する。

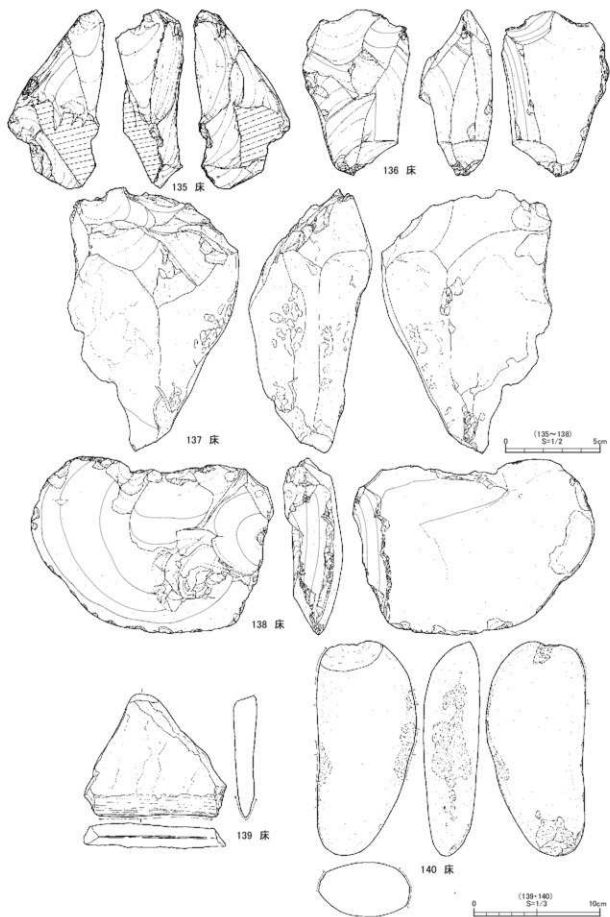
母岩7(図IV-95上)は、長さ8cm、幅6cm、厚さ4cm程の剥片素材である。正面から上面への剥離(工程1)の後、打面と作業面を入れ替えて正面で上面から剥離が行われる。正面では長さ4cmのやや幅広い剥片が剥離される。出土層位は覆土上層であり、縄文時代中期前半～後期初頭とみられる。

母岩6(図IV-95中)は、長さ9cm、幅10cm、厚さ4cm程の扁平な原石が利用される。上面から正面への剥離の後、上面から右側面への剥離が行われ(工程1)、その剥離面を打面として右側面から正面への剥離(工程2)で石核を大きく破損している。H-12bの北側に散漫に分布する。H-12b床面と覆土下層が主体であることから縄文時代中期前半見晴町式期に相当する。

母岩4(図IV-95下)は、長さ11cm、幅11cm、厚さ5cm程の原石素材である。正面から上面への剥離(工程1)、正面から左側面への剥離(工程2)の後、正面から上面への剥離(工程3・5)、上面から正面への剥離(工程4)が打面と作業面を入れ替えながら進行する。3～5cm程の剥片が剥離され、工程1の長さ5cm程の幅広い剥片の左側縁には微細剥離が残る(134)。H-12b床面出土がほとんどで、HP-7覆土からも出土していることから縄文時代中期前半見晴町式期とみられる。石核を除いてH-12bの南西部にまとまって分布し、石核のみ縄文時代中期前半サイベ沢Ⅷ式期のH-11の覆土下層出土であることから、剥片剥離後、石核がH-11廃絶後の窪みに廃棄されたと考えられる。

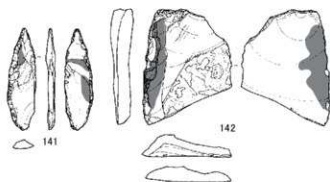
H-13(図IV-87-147～154、図版63)

147～154は覆土からの出土。147はめのう製の無茎凹基の石鏃で、148はその未成品の可能性のある両面調整石器。149は寸詰まりの剥片素材のスクレイパー。150は縦折れた剥片の先端に加工を施した石錐。151は剥片素材のUフレイク。152～154は石核。152・153は打面を固定した原礫面打面のもので、154は打面と作業面を入れ替えて複数個所で繰り返し剥離の進行したものである。

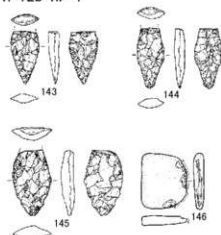


图IV-86 遺構出土石器(13) H-12(3)

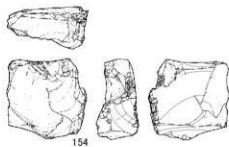
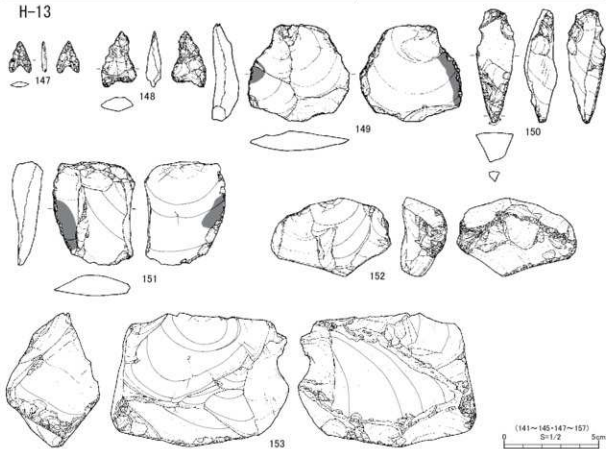
H-12b 攪乱



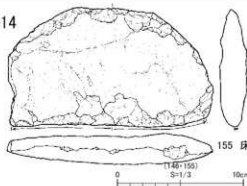
H-12b HP-1



H-13



H-14



図IV-87 遺構出土石器(14) H-12(4)~14

H-14 (図IV-87-155、図版64)

155は床面出土の安山岩製の扁平打製石器。両面のはぼ全周に剥離が施される。

H-15 (図IV-88-156～159、図版64)

159は床面、それ以外は覆土からの出土。156はやや縦長の剥片素材のスクレイパーで、長辺である左側縁に加工が施される。157は楔状の原石を利用した石核で、左右側縁と上面の一部に数枚の剥離がある。158は緑色泥岩製の石斧で、刃部右側に使用による刃こぼれが残る。159は安山岩製の台石で、二辺が折れ、平面形は方形である。

2 土坑

P-1 (図IV-88-160～図IV-89-167、図IV-96、図版64・67)

160・161・165は床面、162・164は床面直上土、それ以外は覆土からの出土。160は黒曜石製で、短身の有茎石鏃。161・162は不整形の両面調整石器。161は黒曜石製で、表面に傷が多い。163は黒曜石製で、両極剥離によって折損したとみられる楔形石器。164・165は打面と作業面を入れ替える石核。166は黒曜石の原石。167は砂岩製で、楕円礫の端部にやや粗い敲打痕のあるたたき石。

母岩8 (図IV-96) は、長さ12cm、幅11cm、厚さ8cm程の原礫面と節理面に覆われた原石が利用される。上面から正面への剥離 (工程1)、裏面から左側面への剥離 (工程2)、右側面から正面への剥離 (工程3)、左側面から裏面への剥離 (工程4) が行われる。工程1の個体Aは寸詰まりの剥片が剥離され、個体Bは部分的に剥離される。全体的には、パンチマークが残る剥離の失敗や打点の潰れ、不規則な割れが多発などから連続的に目的剥片を剥離したとは考えにくい。全て坑底と坑底付近からの出土で、分布もP-1南側によくまとまる。土坑の性格が墓と想定されることから、葬送儀礼によって残された可能性がある。

本遺構からは遺跡内では多くの黒曜石製石器が出土したため、5点の産地分析を行った。その結果、160 (KO3-X5) ・ 161 (KO3-X7) ・ 166 (KO3-X9) ・ 剥片 (KO3-X8、Ⅴ章3図5に写真掲載) は「赤井川」、163 (KO3-X6) は「白滝1」と判定された。赤井川産黒曜石を主体としながら、白滝産の黒曜石が含まれている。

P-3 (図IV-89-168・169、図版64)

169は床面、168は覆土からの出土。168は原礫面打面の小型の石核で、剥離の頻度は低い。169は砂岩製のたたき石で、楕円の扁平礫の両端部に敲打痕がある。

P-13 (図IV-89-170・171、図版64)

170・171は覆土からの出土。170は黒曜石製で、短身の有茎石鏃。171は安山岩製の扁平打製石器の欠損品。170 (KO3-X10) は産地分析の結果、「赤井川」と判定された。

P-14 (図IV-89-172、図版64)

172は覆土からの出土。172は原礫面打面の石核で、正面・裏面で剥離が行われる。

P-15 (図IV-89-173・174、図版64)

173・174は覆土からの出土。173はやや縦長のスクレイパーで、左側縁に連続した加工がある。174は砂岩製の台石で、両面に敲打痕がある。

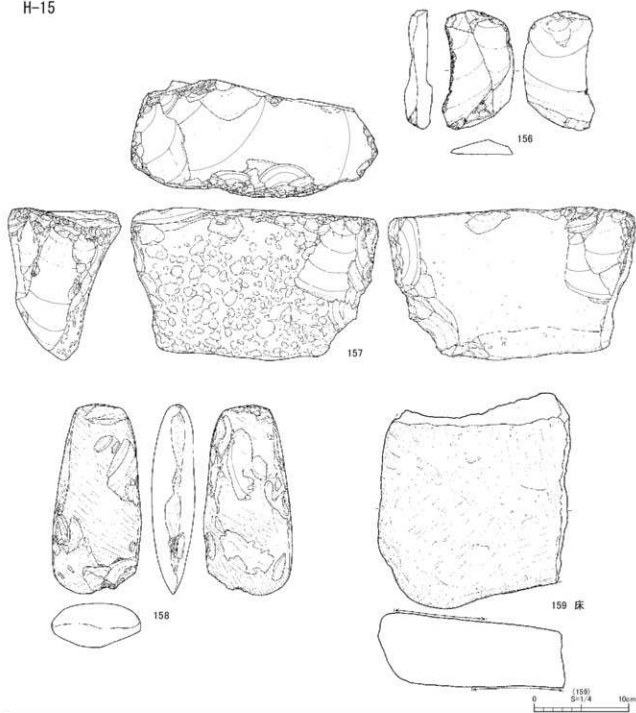
P-16 (図IV-90-175～177、図版65)

175～177は覆土からの出土。175～177は石核。175・176は原礫面打面、177は打面と作業面を入れ替えるもので、さらに転移が行われる。

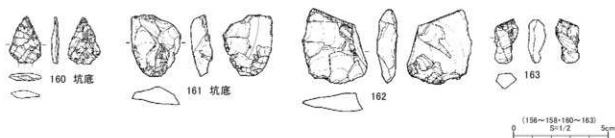
P-17 (図IV-90-178、図版65)

178は攪乱出土。178は打面と作業面を入れ替える石核である。

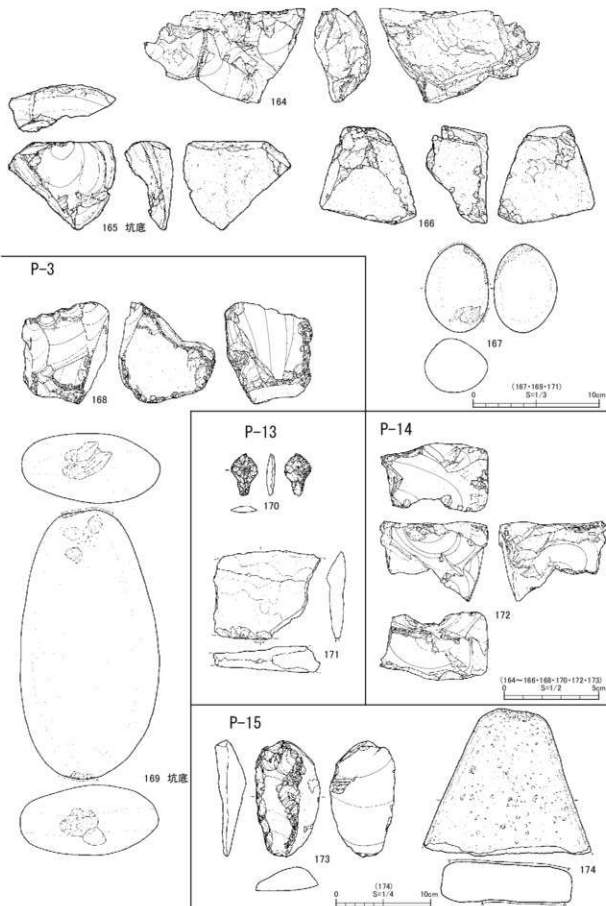
H-15



P-1



図IV-88 遺構出土石器(15) H-15、P-1(1)



圖IV-89 遺構出土石器(16) P-1(2)・3・13~15

3 Tピット

TP-1 (図IV-90-179、図版65)

179は覆土からの出土で、両面加工のある石錐。

4 焼土

F-6 (図IV-90-180、図版65)

180は縦長剥片素材のスクレイパーで、両側縁に加工が施される。

F-11 (図IV-90-181、図版65)

181は剥片素材のスクレイパーで、右側縁の両面には連続した平坦な加工、左側縁の正面にはやや角度のある部分的な加工が施される。

F-12 (図IV-91-182・183、図版65)

182は打面と作業面を入れ替える小型の石核。183は砂岩製で、楕円形の扁平礫の肩部に敲打痕のあるたたき石。

F-13 (図IV-91-184、図版65)

184は安山岩製の扁平打製石器。ほぼ全周縁に加工があり、左側縁は内湾、右側縁は直線的、上縁は外湾、下縁は直線的である。下面には擦り面状の平坦面が部分的に残る。

F-22 (図IV-91-185・186、図版65)

185はUフレイク。やや縦長の剥片素材で、微細剥離痕のある右側縁中央の両面に光沢が残る。186は緑色泥岩製の石斧。折損面の可能性のある下面から長軸方向への剥離が施される。

5 土器集中

PC-1 (図IV-91-187、図版65)

187は打面と作業面を入れ替えながら剥離が進行する石核。

PC-2 (図IV-91-188、図版65)

188は砂岩製で、楕円の扁平礫の端部から側縁にかけて敲打痕のあるたたき石。

PC-3 (図IV-91-189、図版65)

189は両面で剥離が行われる扁平な石核。

6 剥片集中

FC-1 (図IV-91-190～192、図版65)

190は小型の横長剥片素材で、石鏃の未成品とみられる。191は不整な両面調整石器で、石鏃の未成品の可能性はある。192は両面で剥離が行われる石核。

FC-5 (図IV-92-193・194、図版65)

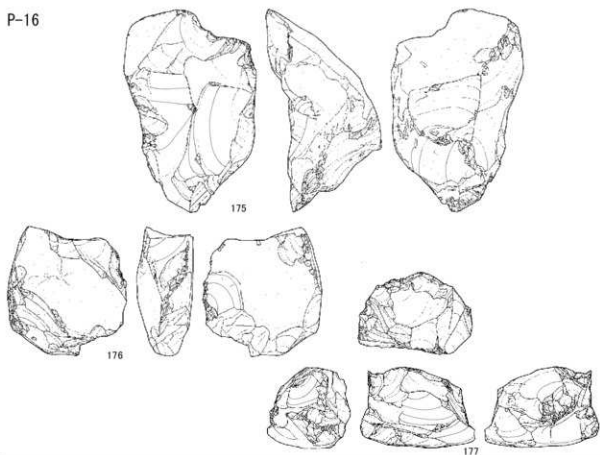
193はやや厚手の縦長剥片素材の両面調整石器で、素材面と二次加工面でパティナの違いがある。194はやや縦長の剥片素材で、右側縁に刃こぼれ状の剥離と光沢の残るRフレイク。

7 盛土

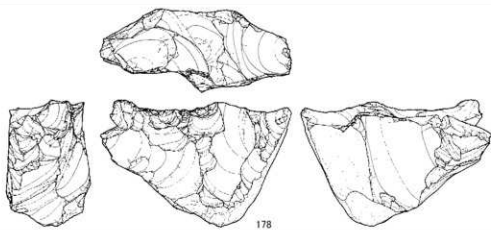
M-1 (図IV-92-195～197、図版65)

195・196はスクレイパー。195は寸詰まりの剥片、196は縦折れの剥片素材である。197は長さ42cmの安山岩製の石皿である。短軸方向の擦り面が正面には上下2か所、裏面には下部に1か所ある。正面の上部の擦り面には敲打痕があり、裏面の右上部は剥落している。

P-16



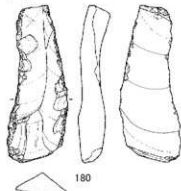
P-17



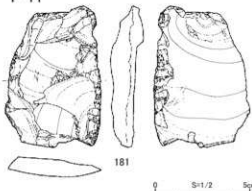
TP-1



F-6



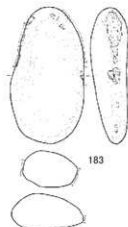
F-11



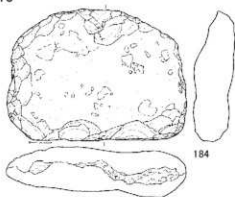
0 1/2 5cm

图IV-90 遺構出土石器(17) P-16·17、TP-1、F-6·11

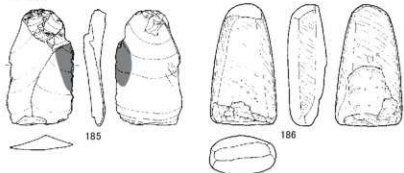
F-12



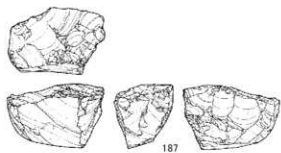
F-13



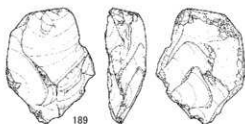
F-22



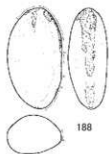
PC-1



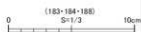
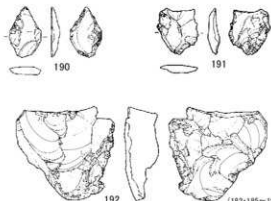
PC-3



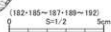
PC-2



FC-1



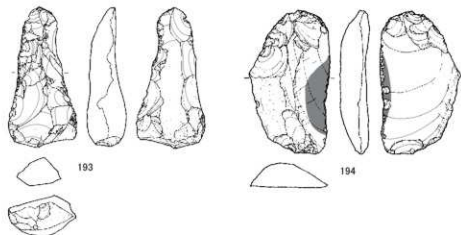
(183・184・185)
S=1/2



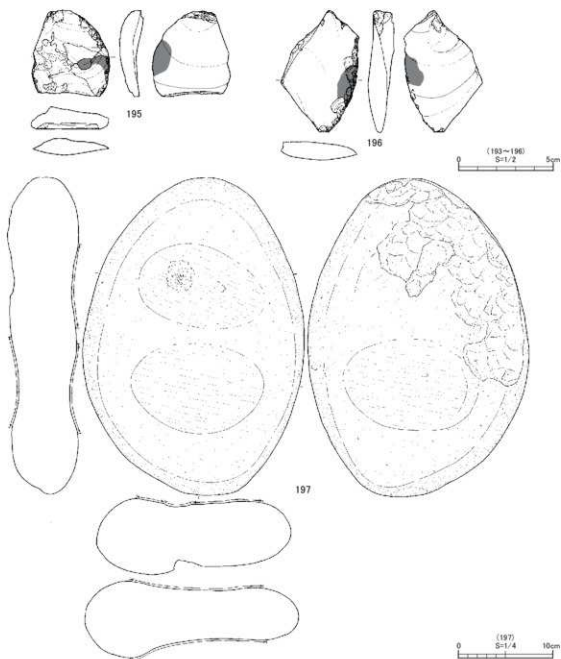
(182・185～187・189～192)
S=1/2

図IV-91 遺構出土石器(18) F-12・13・22、PC-1～3、FC-1

FC-5

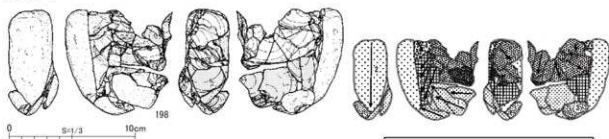


M-1



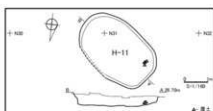
図IV-92 遺構出土石器(19) FC-5、M-1

母岩 1

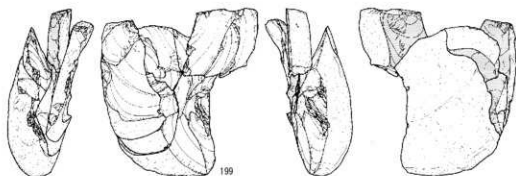


出土層位別点数

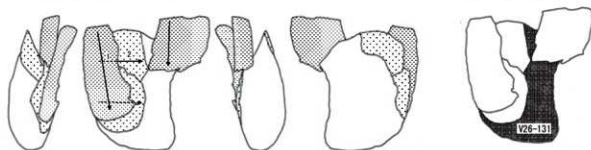
工程	1	2	3	4	5	6	7	計
H-11 掘上中層			1					1
H-11 掘上上層	4	1	1		10	5	1	22
計	4	1	1	1	10	5	1	22



母岩 5



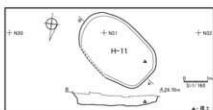
掲載石器位置図



出土層位別点数

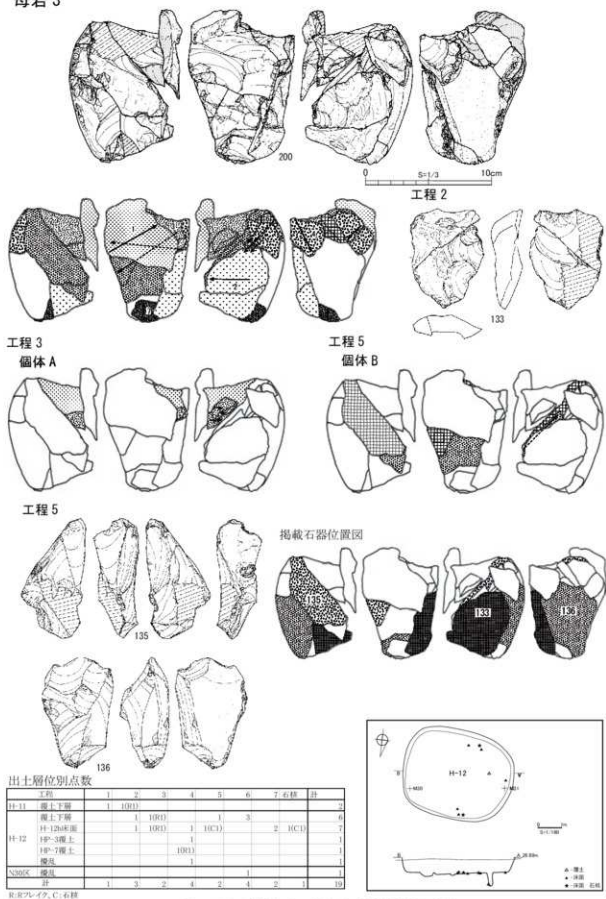
工程	1	2	石種	計
H-11 掘上中層		2		2
N300K 掘上層		1		1
計		3	1 (HCl)	2

C1:石種



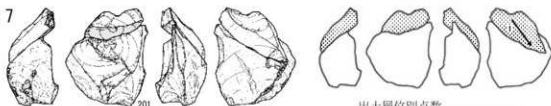
図IV-93 遺構出土石器(20) 接合資料(母岩1・5)

母岩 3



図IV-94 遺構出土石器(21) 接合資料(母岩3)

母岩 7



掲載石器位置図



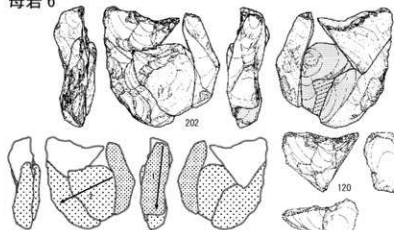
出土層位別点数

工程	1	2	石数	計
H-12	1	1	OC1	2
C:石核	1	1		2

点取り遺物なし



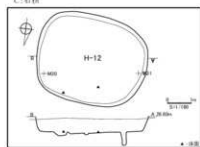
母岩 6



出土層位別点数

工程	1	2	石数	計
H-12	1	1	OC1	2
H-12	1	1	OC1	2
H-12	1	1		2
計	3	2	3	5

C:石核



母岩 4



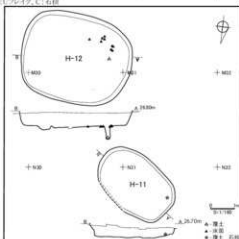
掲載石器位置図



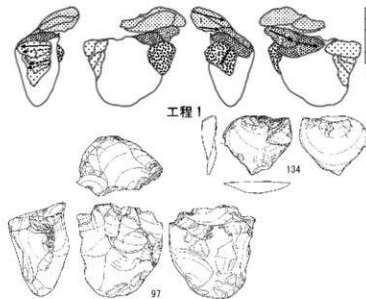
出土層位別点数

工程	1	2	3	4	5	石数	計
H-11	1	1				OC1	2
H-12	1	1	1	1	1		5
H-12	1	1	1	1	1		5
計	3	2	1	1	1	1	11

OC1:石核, C:石核

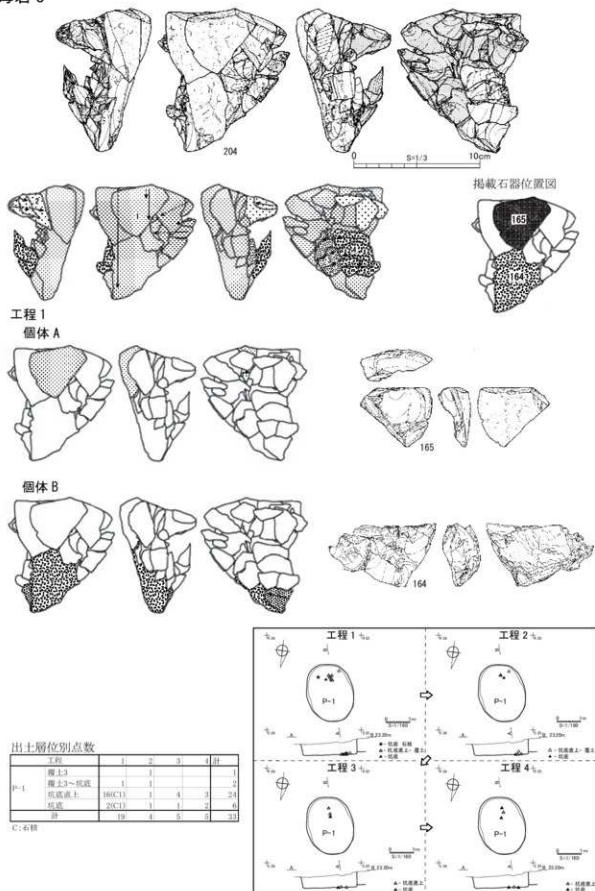


工程 1



図IV-95 遺構出土石器(22) 接合資料(母岩7・6・4)

母岩 8



圖IV-96 遺構出土石器(23) 接合資料(母岩8)

表IV-1 遺構一覧

遺構名	位置(発掘区)	検出層位	平面形	検出面(m)		底面(m)		深さ(m)	長軸方向	時期	備考(旧<新)
				長軸	短軸	長軸	短軸				
H-1	S23・24, T23・24	V層	不整形円形	(4.72)	(4.43)	4.21	3.87	-	N-12° -W	縄文後期前葉	>H-5
H-2	O10・11, P10・11	Ⅲ層中	楕円形	4.12	3.42	3.74	3.20	0.33	N-17° -W	縄文後期初頭	
H-3	K21・22	Ⅲ層中	隅丸長方形	(2.60)	2.10	(2.30)	1.76	0.30	N-13° -W	縄文中期前半	
H-4	M14・15, N14・15,	Ⅲ層中	円形	4.25	3.70	3.72	3.50	0.35	-	縄文後期初頭	
H-5	S23・24, T23・24	V層	隅丸長方形	4.32	3.08	3.62	2.46	0.36	N-11° -W	縄文後期前葉	<H-1
H-6	I15, J15	V層	隅丸方形	4.00	3.84	3.81	3.63	0.18	N-82° -W	縄文後期初頭	
H-7	O25, P24~ 26, Q25	Ⅲ層中	円形	-	-	(5.22)	(4.90)	-	-	縄文後期前葉	
H-8	T29・30, U29・30	V層	円形	3.32	(3.24)	2.92	2.68	0.34	-	縄文後期前葉	
H-9	Q32, R32	Ⅲ下~V層	不整形円形	4.10	3.64	3.90	3.45	0.30	N-6° -W	縄文後期前葉	
H-10	R33・34, S34	Ⅲ下~V層	隅丸方形	2.85	2.31	2.60	2.10	0.20	N-48° -W	縄文後期初頭 ~前葉	
H-11	M30・31, N30・31	Ⅲ層中	隅丸長方形	3.54	2.32	3.30	2.10	0.42	N-56° -W	縄文中期前半	
H-12a	L29・30, M29・30	V層	隅丸長方形	4.20	(3.78)	3.62	(3.34)	0.40	N-89° -W	縄文後期初頭	>H-12b
H-12b	L29~31, M29~31	V層	隅丸長方形	4.68	3.77	4.34	3.46	0.64	N-82° -W	縄文中期前半	<H-12a
H-13	K31・32, L31・32	V層	円形	3.22	(2.90)	3.00	(2.66)	0.32	-	縄文後期初頭	
H-14	G24・25	V層	長方形	3.28	2.24	3.12	2.04	0.18	N-50° -W	縄文中期前半	
H-15	M32・33, N32・33	V層	円形	2.34	2.04	2.12	1.92	0.52	-	縄文中期前半	
P-1	R24	V層	小靴形	2.61	1.96	2.30	1.70	0.62	N-21° -W	縄文後期中葉	
P-2	K14・15	V層	円形	0.52	0.48	0.30	0.30	0.30	-	縄文後期初頭	
P-3	P15・16, Q15・16	V層	円形	1.55	1.52	1.64	1.64	0.94	-	縄文後期前葉	>P-9, <P-8
P-4	Q22, R22	V層	円形	0.90	0.86	0.78	0.68	0.14	-	不明	
P-5	O19, P19	V層	円形	0.62	0.56	0.40	0.36	0.29	-	不明	
P-6	Q15	V層	円形	1.60	1.48	1.60	1.58	0.75	-	縄文後期前葉	>P-9, <P-8
P-7	S39・40	V層	隅丸方形	2.24	1.86	2.10	1.70	0.17	N-17° -W	縄文中期前半 ~後期前葉	
P-8	P15・16, Q15・16	V層	不整形楕円形	2.66	1.74	1.90	1.40	0.34	N-48° -E	縄文後期前葉 以降	>P-3・6・9
P-9	Q15	V層	楕円形?	-	-	-	-	0.60	-	縄文中期前半 後期前葉	<P-3・6・8
P-11	H31・32	Ⅲ層	楕円形	1.58	1.40	1.44	1.24	0.48	N-45° -W	縄文中期前半 ~後期前葉	
P-12	N33, O33	V層	円形	0.74	0.68	0.66	0.58	0.39	-	縄文中期前半	
P-13	R39・40	Ⅳ層	楕円形	1.12	0.76	0.90	0.54	0.14	N-64° -W	縄文中期前半 ~後期前葉	
P-14	S32・33	V層	円形	1.34	1.30	1.18	1.14	0.21	N-6° -W	縄文後期前葉	
P-15	M29・30	V層	隅丸長方形	(2.02)	1.54	1.76	1.28	0.48	N-25° -E	縄文中期前半	
P-16	P28	V層	円形	0.88	0.80	0.68	0.62	0.74	-	縄文中期前半	
P-17	R31	Ⅲ下~V層	隅丸長方形	2.30	1.92	2.22	1.78	0.28	N-6° -E	縄文中期前半	
TP-1	Q40	V層	長楕円形	2.72	0.58	(2.82)	0.08	7.04	N-5° -E	縄文中期前半 ~後期前葉	
F-1	O10	Ⅲ層	-	0.62	0.42	-	-	0.04	-	縄文後期初頭	
F-2	O9	Ⅲ層中	-	0.70	0.32	-	-	0.06	-	縄文後期初頭	
F-3	J24	Ⅲ層	-	0.66	0.48	-	-	0.06	-	縄文中期前半	

遺構名	位置(発掘区)	検出層位	平面形	検出面(m)		底面(m)		深さ(m)	長軸方向	時期	備考(旧<新)
				長軸	短軸	長軸	短軸				
F-4	L16	Ⅲ層	—	0.84	0.52	—	—	0.18	—	縄文後期初頭	
F-5	N37	Ⅲ層	—	0.70	0.48	—	—	0.14	—	縄文中～後期	
F-6	O35・36	Ⅲ層	—	0.32	0.26	—	—	0.14	—	縄文後期前葉	
F-7	U37・38	Ⅲ層	—	0.26	0.22	—	—	0.04	—	縄文中～後期	
F-8	N18・19	V層風倒中	—	0.78	0.50	—	—	0.16	—	不明	
F-9(1)	N8	Ⅲ層	—	0.68	0.26	—	—	0.04	—	縄文後期初頭	
F-9(2)	N8	Ⅲ層	—	0.18	0.10	—	—	0.03	—	縄文後期初頭	
F-10	S33	Ⅲ層	—	0.84	0.40	—	—	0.09	—	縄文後期前葉	
F-11	P32	Ⅲ層	—	0.50	0.44	—	—	0.07	—	縄文中期前半	
F-12(1)	S32	Ⅲ層	—	0.96	0.40	—	—	0.10	—	縄文後期前葉	
F-12(2)	S32, T32	Ⅲ層	—	0.52	0.26	—	—	0.05	—	縄文後期前葉	
F-13	O36	Ⅲ層	—	1.04	0.70	—	—	0.18	—	縄文中期前半	
F-14	O36	Ⅲ層	—	0.54	0.34	—	—	0.08	—	縄文中期前半	
F-15	P45	Ⅲ層	—	1.14	0.68	—	—	0.08	—	縄文中～後期	
F-16	R48	Ⅳ層上面	—	0.38	0.24	—	—	0.17	—	縄文中～後期	
F-17	P35・36	Ⅲ層	—	0.70	0.50	—	—	0.04	—	縄文中～後期	
F-18	N33, O33	Ⅲ層	—	0.94	0.40	—	—	0.04	—	縄文中～後期	
F-19	Q28	Ⅲ層下部	—	0.40	0.14	—	—	0.10	—	縄文後期前葉	
F-20	N34	Ⅲ層上部 盛土中	—	0.82	0.50	—	—	0.13	—	縄文中期前半	
F-21	N34	Ⅲ層上部 盛土中	—	0.80	0.42	—	—	0.04	—	縄文中期前半	
F-22	Q34	Ⅲ下～V層	—	1.00	0.40	—	—	0.10	—	縄文後期前葉	
F-23	P34	Ⅲ下～V層	—	(0.44)	(0.32)	—	—	0.08	—	縄文後期前葉	
F-24	L34	Ⅲ層下部	—	0.34	0.22	—	—	0.07	—	縄文時代中～後期	
F-25	Q34	Ⅲ層中位	—	0.32	0.28	—	—	0.08	—	縄文後期前葉	
F-26	Q31	Ⅲ層中位	—	0.32	—	—	—	0.04	—	不明	
PC-1	M17	Ⅲ層下部	—	1.18	0.80	—	—	—	—	縄文後期前葉	
PC-2	N36, O36	Ⅲ層中	—	1.80	1.70	—	—	—	—	縄文中期前半	
PC-3	O36	Ⅲ層中	—	1.62	1.06	—	—	—	—	縄文中期前半	
FC-1	O9	Ⅲ層中	—	1.22	0.50	—	—	—	—	縄文後期初頭	
FC-2	L17	Ⅲ層中	—	(0.80)	(0.60)	—	—	—	—	縄文後期初頭	
FC-3	L14	Ⅲ層中	—	0.24	0.16	—	—	—	—	縄文後期前葉?	
FC-4	O36	Ⅲ層中	—	0.50	0.30	—	—	—	—	縄文中期前半	
FC-5	S32	Ⅲ層中	—	0.60	0.24	—	—	—	—	縄文後期前葉	
FC-6	N34	Ⅲ層上部 盛土層	—	1.00	0.58	—	—	—	—	縄文中期前半	
M-1	M33・34, N33・34	Ⅲ層中	—	(6.52)	(3.68)	—	—	0.20	—	縄文中期前半	

表IV-3 遺構出土掘載土器一覽

探洞 番号	遺構	調査 区	層位	遺物 番号	点数	分類器形・部位	備考	探洞 番号	遺構	調査 区	層位	遺物 番号	点数	分類器形・部位	備考
IV-60	1 B-1 即-2		伊	2	1 IVa	底部		IV-61	43 B-5		覆土2	11	1 IVa	胴部	
IV-60	2 B-1		床面	16	1 IVa	胴部		IV-61	B-5		覆土1	15	3 IVa	胴部	
IV-60	3 B-1		床面	50	4 IVa	口縁		IV-61	B-5		覆土1	16	1 IVa	胴部	
	B-5		覆土1	15	1 IVa	口縁		IV-61	44 B-5		覆土2	12	1 IVa	胴部	
IV-60	4 B-1		床面	22	1 IVa	胴部		IV-61	45 B-5		覆土2	10	2 IVa	底部	
IV-60	5 B-1		床面	36	5 IVb	口縁~胴部		IV-61	B-5		覆土1	15	7 IVa	底部	
	B-1		床面	61	6 IVb	口縁~胴部			B-5		覆土1	16	1 IVa	底部	
IV-60	6 B-1		床面	50	1 IVa	胴部		IV-62	46 B-6		覆土下	14	6 IVa	口縁	
	B-1		床面	59	1 IVa	胴部		IV-62	47 B-6		覆土下	15	1 IVa	口縁	
	B-5		覆土1	16	1 IVa	胴部		IV-62	48 B-6		覆土下	1①	2 IVa	胴部	
IV-60	7 B-1		床面	53	1 IVa	胴部			B-6		覆土下	2	3 IVa	胴部	
IV-60	8 B-1		床面	17	1 IVa	胴部		IV-62	49 B-6		覆土下	7	10 IVa	胴部	
	B-5		覆土1	16	1 IVa	胴部			B-6		覆土下	18	1 IVa	胴部	
IV-60	9 B-1		床面	39	1 IVa	胴部		IV-62	50 B-6		覆土下	14	2 IVa	胴部	
	B-5		覆土2	13②	1 IVb	胴部		IV-62	51 B-6		覆土下	1①	23 IVa	胴部	
IV-60	10 B-1		床面	51	1 IVa	胴部		IV-62	52 B-7 即-2		覆土1	2	2 IVa	口縁	
IV-60	11 B-1		床面	35	1 IVb	口縁		IV-62	53 B-7 即-2		覆土1	2	6 IVa	口縁	
IV-60	12 B-1		床面	2	1 IVb	胴部~底部		IV-62	54 B-7		覆土1	14	2 IVa	口縁	
IV-60	13 B-1		覆土1	69	1 IVa	口縁			B ~ III		覆土1	1	1 IVa	口縁	
IV-60	14 B-1		覆土2	68	2 IVa	口縁		IV-62	55 B-7	S26	覆土1	4	2 IVa	胴部	
IV-60	15 B-1		覆土2	68	2 IVa	口縁		IV-62	56 B-7		覆土1	13	1 IVa	胴部	
IV-60	16 B-1		覆土1	71	1 IVa	口縁			B-7		覆土1	19	1 IVa	胴部	
IV-60	16	T24	覆土1	4	1 IVa	口縁		IV-62	57 B-7		覆土1	10	2 IVa	胴部	
IV-60	17 B-1		覆土2	70	1 IVa	底部		IV-62	58 B-8		床面直上	25①	37 IVa	口縁~胴部	
IV-60	18 B-1		覆土1	67	3 IVa	胴部			B-8 即-1		伊直上土	1	2 IVa	口縁~胴部	
	B-1		覆土2	69	2 IVa	胴部			B-8		覆土1	105	5 IVa	口縁~胴部	
	B-5		覆土2	5	1 IVa	胴部		IV-62	59 B-8		床面	135	1 IVa	口縁	
	B-5		覆土2	9	1 IVa	胴部		IV-62	60 B-8		床面直上	71	1 IVa	口縁	
	B-5		覆土2	14	2 IVa	胴部		IV-62	61 B-8		床面直上	70	1 IVa	口縁	
IV-60	19 B-2 即-1		覆土1	11	1 IVa	胴部		IV-62	62 B-8		床面直上	80	1 IVa	口縁	
IV-60	20 B-2		床面	40	1 IVa	口縁~胴部		IV-63	63 B-8		覆土3	39	8 IVa	口縁~胴部	
	B-2		床面	50	1 IVa	口縁~胴部		IV-63	64 B-8		覆土3	62	1 IVa	口縁	
IV-60	21 B-2		床面	8	1 IVa	口縁~胴部		IV-63	65 B-8		覆土3	61	1 IVa	胴部	
IV-60	22 B-2		床面	10	1 IVa	口縁		IV-63	66 B-8		覆土2	124	13 IVa	口縁	
IV-60	23 B-2		床面	9	1 IVa	胴部			B-8		覆土2	125	4 IVa	口縁	
IV-60	24 B-2		床面	58	1 IVa	胴部		IV-63	67 B-8		覆土3	86	1 IVa	胴部	
IV-60	25 B-2		床面	36	1 IVa	胴部~底部			B-8		覆土3	87	1 IVa	胴部	
	B-2		床面	48	1 IVa	胴部~底部		IV-63	68 B-8		覆土2	28	1 IVa	口縁	
	B-2		床面	51	1 IVa	胴部~底部			B-8		覆土1	140	1 IVa	口縁	
	B-2		床面	52	2 IVa	胴部~底部		IV-63	69 B-8		覆土2	126	1 IVa	口縁	
IV-60	26 B-2		覆土下	3	1 IVa	口縁		IV-63	70 B-8		覆土2	15	2 IVa	胴部	
IV-60	27 B-2		覆土下	3	3 IVa	胴部		IV-63	71 B-8		覆土2	40	1 IVa	胴部	
	B-2		覆土下	4	2 IVa	胴部			B-8		覆土2	41	1 IVa	胴部	
	B-2		覆土下	5	5 IVa	胴部		IV-63	72 B-8		覆土2	47	1 IVa	胴部	
	B-2		覆土上	94	1 IVa	胴部			B-8		覆土2	48	1 IVa	胴部	
	B-2		床面	19	1 IVa	胴部			B-8		覆土2	60	1 IVa	胴部	
IV-60	28 B-3		覆土1	1	1 IIIa	口縁		IV-63	73 B-8		覆土2	5	1 IVa	胴部	
IV-60	29 B-3		覆土1	1	8 IIIa	口縁~胴部		IV-63	74 B-8		覆土2	38	1 IVa	胴部	
	B-3		覆土1	3	1 IIIa	口縁~胴部		IV-63	75 B-8		覆土1	115	1 IVa	胴部~底部	
IV-61	30 B-4 即-5		覆土1	1	3 IIIa	口縁		IV-63	76a B-9		床面	60	4 IVa	口縁	
IV-61	31 B-4		床面	29	1 IVa	底部			B-9		覆土1	32	2 IVa	口縁	
IV-61	32 B-4		床面	19	2 IVa	底部			76b B-9		床面	62	1 IVa	胴部	
IV-61	33 B-4 即-2		覆土1	2	9 IVa	胴部			B-9		覆土1	32	1 IVa	胴部	
IV-61	34 B-4		床面	33	1 IVa	底部			76c B-9		床面	60	2 IVa	胴部	
	B-4		床面	34	1 IVa	底部		IV-63	77 B-9		床面	84	1 IVa	口縁	
	B-4		覆土中	49	2 IVa	底部		IV-63	78 B-9		床面	78	1 IVa	胴部	
	B-4		覆土下	55	3 IVa	底部		IV-63	79 B-9		床面	63	1 IVa	胴部	
IV-61	35 B-4		床面	19	34 IVa	胴部		IV-63	80 B-9		床面	85	1 IVa	胴部	
IV-61	36 B-4		覆土下	53	1 IVa	口縁		IV-63	81 B-9		床面	85	1 IVa	胴部	
IV-61	37 B-4		覆土下	55	1 IVa	口縁		IV-63	82 B-9		床面直上	44	2 IVa	胴部	
IV-61	38 B-4		覆土中	18	6 IVa	胴部		IV-63	83 B-9		覆土1	4	1 IVa	口縁	
	B-4		覆土中	49	7 IVa	胴部		IV-63	84 B-9		覆土1	86	1 IVa	胴部	
IV-61	39 B-4		覆土下	55	2 IVa	胴部		IV-63	85 B-9		覆土1	86	1 IVa	胴部	
IV-61	40 B-4		覆土下	55	6 IVa	胴部		IV-63	86 B-9		覆土1	71	1 IVa	口縁~胴部	
IV-61	41 B-4		覆土下	54	4 IVa	胴部			B-9		覆土1	86	2 IVa	口縁~胴部	
	B-4		覆土1	57	1 IVa	胴部			B-9		覆土1	87	4 IVa	口縁~胴部	
		014	覆土1	2	1 IVa	胴部		IV-63	87a B-9		覆土1	87	4 IVa	胴部	
			覆土2	6	4 IVa	胴部			87b B-9		覆土1	87	3 IVa	胴部	
IV-61	42 B-5		覆土2	8	2 IVa	胴部		IV-63	88 B-9		覆土1	86	1 IVa	底部	
	B-5		覆土2	9	3 IVa	胴部		IV-63	89 B-9		覆土1	8	1 IVa	胴部~底部	

種別	番号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数分類	器形・部位	備考	種別	番号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数分類	器形・部位	備考
		H-9		覆土1	10	1 Va	胴部～底部		IV-65	128a	H-10		覆土2	29	1 Va	口縁	
		H-9		覆土1	17	1 Va	胴部～底部				H-10		覆土1	356	1 Va	口縁	
		H-9		覆土1	70	1 Va	胴部～底部				H-10		覆土1	361	2 Va	口縁	
		H-9		覆土1	72	1 Va	胴部～底部				H-10		覆土2	112	1 Va	口縁	
		H-9		覆土1	86	1 Va	胴部～底部				128b	H-10	覆土2	39	3 Va	口縁	
			Q32	Ⅲ	3	4 Va	胴部～底部				H-10		床面直上	56	1 Va	口縁	
IV-64	90	H-10	HP-2	覆土1	7	1 Va	口縁				H-10		床面直上	60	1 Va	口縁	
IV-64	91	H-10	HP-2	覆土1	8	1 Va	胴部				H-10		覆土2	127	1 Va	口縁	
		H-10	HP-2	覆土1	9	1 Va	胴部			IV-65	129	H-10	覆土2	264	1 Va	口縁	
IV-64	92	H-10	HP-2	覆土1	11	1 Va	胴部			IV-65	130	H-10	覆土2	385D	1 Va	口縁	
IV-64	93	H-10		床面直上	343D	1 Va	胴部				H-10		覆土2	189	1 Va	口縁	
		H-10		覆土1	356	1 Va	胴部				H-10		覆土2	364	1 Va	口縁	
		H-10	HP-2	覆土1	5	5 Va	胴部			IV-65	131	H-10	覆土2	33	2 Va	口縁	
IV-64	94	H-10		床面直上	196	1 Va	口縁				H-10		覆土2	34	5 Va	口縁	
IV-64	95	H-10		床面直上	337	1 Va	口縁				H-10		覆土2	231E	9 Va	口縁	
IV-64	96	H-10		床面直上	338D	1 Ⅲa	口縁			IV-65	132	H-10	覆土2	39	1 Va	胴部	
IV-64	97	H-10		床面直上	140	1 Va	口縁			IV-65	133	H-10	覆土2	92	1 Va	口縁	
IV-64	98	H-10		床面直上	288	1 Va	口縁				H-10		覆土2	93	1 Va	口縁	
IV-64	99	H-10		床面直上	318	2 Va	口縁～胴部				H-10		覆土2	105	1 Va	口縁	
		H-10		床面直上	207	10 Va	口縁～胴部				H-10		床面直上	190	1 Va	口縁	
		H-10		覆土1	356	2 Va	口縁～胴部			IV-65	134	H-10	覆土1	356	2 Va	口縁	
		H-10		覆土2	363	3 Va	口縁～胴部			IV-65	135	H-10	覆土1	356	2 Va	口縁	
IV-64	100	H-10		床面	208	11 Va	口縁～胴部			IV-65	136a	H-10	覆土2	365	1 Va	口縁	
		H-10		床面	307	3 Va	口縁～胴部					833	Ⅲ	7	5 Va	口縁	
IV-64	101	H-10		床面直上	292	1 Va	口縁				136b	H-10	覆土2	365	2 Va	口縁	
IV-64	102	H-10		床面直上	336	1 Va	胴部			IV-65	137	H-10	覆土1	356	2 Va	口縁	
IV-64	103	H-10		床面直上	229	2 Ⅲa	胴部				H-10		床面直上	56	2 Va	口縁	
IV-64	104	H-10		床面直上	201	1 Va	胴部			IV-65	138	H-10	覆土2	363	2 Va	口縁	
IV-64	105	H-10		床面直上	317	1 Va	胴部				H-10	HP-2	覆土1	4	1 Va	口縁	
IV-64	106	H-10		床面直上	168	2 Va	胴部			IV-65	139	H-10	覆土2	110	4 Va	口縁	
IV-64	107	H-10		床面直上	325	1 Va	胴部			IV-65	140	H-10	覆土1	361	4 Va	口縁	
IV-64	108	H-10		床面直上	204	3 Va	胴部			IV-65	141	H-10	覆土2	142	3 Va	底部	
IV-64	109	H-10		床面直上	343D	5 Va	胴部			IV-65	142	H-10	覆土2	118	1 Va	底部	
IV-64	110	H-10		床面直上	343D	2 Va	胴部				H-10		覆土2	214	1 Va	底部	
IV-64	111	H-10		床面直上	343D	1 Va	胴部				H-10		覆土1	361	2 Va	底部	
IV-64	112	H-10		床面直上	137	1 Va	胴部			IV-65	143	H-10	覆土1	354	1 Ⅲa	底部	
		H-10		床面直上	190	1 Va	胴部			IV-65	144	H-10	覆土1	356	1 Va	胴部～底部	
		H-10		床面直上	276	2 Va	胴部			IV-65	145	H-10	覆土1	361	1 Va	底部	
		H-10		床面直上	277	3 Va	胴部			IV-65	146	H-10	覆土1	356	2 Va	底部	
		H-10		覆土2	88	4 Va	胴部			IV-65	147	H-10	覆土1	356	2 Va	底部	
		H-10		覆土2	128	1 Va	胴部			IV-66	148a	H-10	覆土1	356	8 Va	口縁	
		H-10		覆土2	385D	1 Va	胴部				H-10		覆土1	361	3 Va	口縁	
		H-10		覆土2	188	1 Va	胴部				148b	H-10	覆土1	356	9 Va	口縁	
			S32	Ⅲ	3	2 Va	胴部					733	Ⅲ	2	1 Va	口縁	
IV-64	113	H-10		床面直上	54	1 Va	胴部				148c	H-10	覆土1	356	6 Va	胴部	
IV-64	114	H-10		床面直上	45	1 Va	胴部					834	Ⅲ	4	32 Va	胴部	
IV-64	115	H-10		床面	191	1 Va	胴部			IV-66	149	H-10	覆土1	357	1 Va	口縁	
IV-64	116	H-10		床面	348	2 Va	胴部			IV-66	150	H-10	覆土2	104	1 Va	口縁	
IV-64	117	H-10		床面直上	332	2 Va	胴部			IV-66	151	H-10	覆土2	261	1 Va	口縁	
IV-64	118a	H-10		床面直上	90	1 Va	胴部				H-10		覆土2	262	1 Va	口縁	
IV-64	118b	H-10		床面直上	154	1 Va	胴部			IV-66	152	H-10	覆土1	356	1 Va	胴部	
IV-64	119	H-10		床面直上	314	1 Va	胴部			IV-66	153	H-10	覆土1	356	2 Va	胴部	
IV-64	120	H-10		床面直上	50	1 Va	胴部			IV-66	154	H-10	覆土2	147	1 Va	胴部	
		H-10		覆土2	385D	1 Va	胴部				H-10		覆土1	357	1 Va	胴部	
IV-64	121	H-10		床面直上	180	1 Va	胴部				H-10		覆土2	363	1 Va	胴部	
IV-64	122	H-10		床面直上	63	2 Va	胴部			IV-66	155	H-10	覆土1	356	4 Va	胴部	
		H-10		床面	62	1 Va	胴部			IV-66	156	H-10	覆土1	356	1 Va	胴部	
IV-64	123	H-10		床面直上	240	1 Va	底部			IV-66	157	H-10	覆土1	356	1 Va	胴部	
IV-64	124	H-10		床面直上	163	1 Va	底部			IV-66	158	H-10	覆土1	356	2 Va	口縁	
IV-64	125	H-10		床面	73	1 Va	胴部～底部			IV-66	159	H-10	覆土1	361	1 Va	胴部	
IV-65	126	H-10		床面直上	56	2 Va	胴部～底部			IV-66	160	H-10	床面直上	221	2 Va	胴部	
		H-10		覆土2	64	1 Va	胴部～底部				H-10		覆土2	289	3 Va	胴部	
		H-10		覆土2	112	2 Va	胴部～底部				H-10		覆土1	356	1 Va	胴部	
		H-10		覆土2	170	1 Va	胴部～底部				H-10		覆土1	361	1 Va	胴部	
		H-10		床面直上	212	1 Va	胴部～底部			IV-66	161	H-10	覆土2	7	2 Va	胴部	
		H-10		覆土2	293	1 Va	胴部～底部				H-10		覆土2	150	3 Va	胴部	
		H-10		床面直上	308	1 Va	胴部～底部			IV-66	162	H-10	覆土2	143	3 Va	胴部	
		H-10		覆土1	356	4 Va	胴部～底部			IV-66	163	H-10	覆土2	74	1 Va	胴部	
		H-10		覆土1	361	2 Va	胴部～底部			IV-66	164	H-10	覆土2	234	2 Va	胴部	
IV-65	127	H-10		床面直上	157	1 Va	底部			IV-66	165	H-10	覆土2	13	1 Va	胴部	
		H-10		床面直上	32	1 Va	底部					H-10	覆土2	250	1 Va	胴部	

探洞	番号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数分類	器形・部位	備考	探洞	番号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数分類	器形・部位	備考		
		H-10		覆土1	356	2	IVa 胴部		IV-68	209	H-12	HP-11	覆土	1	1	IIa 口縁			
		H-10		覆土1	361	1	IVa 胴部		IV-68	210	H-12		覆土下	133	1	IIa 口縁			
IV-66	166	H-10		覆土2	23	2	IVa 胴部		IV-68	211	H-12		覆土下	93	1	IIa 口縁			
IV-66	167	H-10		覆土2	113	1	IVa 胴部		IV-68	212	H-12		覆土下	137	1	IIa 口縁			
		H-10		覆土2	116	4	IVa 胴部		IV-68	213	H-12		覆土下	139	1	IIa 口縁			
		H-10		覆土2	188	1	IVa 胴部		IV-68	214	H-12		覆土下	139	1	IIa 底部			
		H-10		覆土1	356	1	IVa 胴部						覆土下	140	1	IIa 底部			
IV-66	168	H-10		覆土1	356	1	IVa 胴部	圧痕土製瓦	IV-68	215a	H-12		H-12a床面	15	7	IVa 口縁~胴部			
IV-66	169	H-10		覆土2	39	1	IVa 胴部						H-12a床面	17	4	IVa 口縁~胴部			
		H-10		床面直上	56	1	IVa 胴部						H-12	129	1	IVa 口縁~胴部			
IV-66	170	H-10		床面直上	276	2	IVa 胴部						H-12a床面	16(3)	2	IVa 口縁			
		H-10		覆土2	69	3	IVa 胴部		IV-68	216	H-12		覆土上	130	1	IVa 口縁			
		H-10		覆土2	95	1	IVa 胴部		IV-68	217	H-12		覆土上	128	1	IVa 口縁			
		H-10		覆土2	110	7	IVa 胴部		IV-68	218	H-12		覆土上	132	1	IVa 胴部			
		H-10		覆土2	117	3	IVa 胴部		IV-68	219	H-12		覆土上	132	1	IVa 口縁			
		H-10		覆土2	119	1	IVa 胴部		IV-68	220	H-13		覆土	4	2	IIa 口縁			
		H-10		覆土2	106	1	IVa 胴部		IV-68	221	H-13		覆土	5	1	IIa 口縁			
IV-66	171	H-10		覆土1	361	1	IVa 胴部		IV-68	222	H-13		覆土	8	2	IVa 胴部			
IV-67	172	H-11	HP-1	覆土	1	1	IIa		IV-68	223	H-13		覆土	6	1	IVa 胴部			
				規模: 18.9×(15.0)×7.2cm					IV-68	224	H-15	HP-1	覆土1	1	1	IIa 胴部			
IV-67	173	H-11	HP-1	覆土	1	1	IIa 口縁						H-15	HP-1	覆土1	2	1	IIa 胴部	
IV-67	174	H-11		覆土下	16	1	IIa		IV-68	225	H-15	HP-1	覆土1	3	1	IIa 胴部			
				規模: 16.9×13.4×5.8cm					IV-68	226	H-15		覆土下	5	2	IIa 胴部			
IV-67	175	H-11		覆土下	25	2	IIa 口縁		IV-69	227	P-1		坑底直上	58	1	IVa			
IV-67	176	H-11		覆土下	14	4	IIa 胴部						規模: (16.8)×20.5×cm						
IV-67	177	H-11		覆土下	49	1	IIa 胴部		IV-69	228	P-1		坑底直上	135	1	IVb 口縁			
IV-67	178	H-11		覆土下	15	3	IIa 胴部						P-1	坑底直上	158	1	IVb 口縁		
IV-67	179	H-11		覆土中	40	2	IIa 口縁						P-1	覆土3~坑底	10	1	IVa 口縁		
IV-67	180	H-11		覆土中	40	1	IIa 胴部		IV-69	229	P-1		覆土3~坑底	72	1	IVb 口縁			
IV-67	181	H-11		覆土中	40	1	IIa 口縁		IV-69	230	P-1		坑底直上	131	1	IVa 口縁			
IV-67	182	H-11		覆土中	24	1	IIa 口縁		IV-69	231	P-1		坑底	73	1	IVa 口縁			
IV-67	183	H-11		覆土中	24	10	IIa 口縁		IV-69	232	P-1		坑底直上	168	2	IVb 口縁			
		H-11		覆土中	41	1	IIa 口縁						P-1	覆土3	33	2	IVb 口縁		
		H-11		覆土下	50	1	IIa 口縁		IV-69	233	P-1		坑底直上	161	1	IVa 口縁			
IV-67	184	H-11		覆土中	24	4	IIa 口縁		IV-69	234	P-1		坑底	175	1	IVa 口縁			
		H-11		覆土中	41	1	IIa 口縁		IV-69	235	P-1		坑底直上	165	1	IVa 胴部			
		H-11		覆土下	47	1	IIa 口縁		IV-69	236	P-1		坑底	177	1	IVb 胴部			
IV-67	185a	H-11		覆土中	1	3	IIa 口縁		IV-69	237	P-1		坑底直上	136	1	IVb 胴部			
		185b	H-11	覆土中	1	3	IIa 胴部		IV-69	238	P-1		坑底直上	139	1	IVb 胴部			
IV-67	186a	H-11		覆土中	24	1	IIa 胴部		IV-69	239	P-1		坑底直上	122	1	IVa 胴部			
		186b	H-11	覆土中	24	1	IIa 胴部		IV-69	240	P-1		坑底直上	123	1	IVa 胴部			
IV-67	187	H-11		覆土中	43	1	IVa 口縁		IV-69	241	P-1		覆土3	98	1	IVa 口縁			
		H-11		覆土下	51	1	IVa 口縁						P-1	覆土3下	114	1	IVa 口縁		
IV-67	188	H-11		覆土中	45	1	IVa 胴部		IV-69	242	P-1		覆土3	4	1	IVb 口縁			
IV-67	189	H-11		覆土中	24	4	IIa 胴部		IV-69	243	P-1		覆土3	55	1	IVb 口縁			
IV-67	190	H-11		覆土中	24	18	IIa 胴部		IV-69	244	P-1		覆土3	29	1	IVb 口縁			
IV-67	191	H-11		覆土中	43	1	IVa 胴部		IV-69	245	P-1		覆土2	84	1	IVb 口縁			
IV-67	192	H-11		覆土上	7	1	IIa 口縁		IV-69	246	P-1		覆土2	59	1	IVb 口縁			
IV-67	193	H-11		覆土上	38	2	IVa 胴部		IV-69	247	P-1		覆土2	77	1	IVb 口縁			
IV-67	194	H-11		覆土上	36	1	IIa		IV-69	248	P-1		覆土3	22	1	IVa 胴部			
				規模: 22.5×(21.4)×(6.6)cm									P-1	覆土3	23	1	IVa 胴部		
IV-68	195	H-11		覆土上	39	9	IVa 胴部						P-1	覆土2	31	1	IVa 胴部		
IV-68	196	H-11		覆土中	1	3	IIa 胴部						P-1	覆土2	36	1	IVa 胴部		
IV-68	197	H-11		覆土中	1	7	IIa 底部						P-1	覆土3	38	1	IVa 胴部		
IV-68	198	H-11		覆土中	1	1	IIa 底部						P-1	覆土3	43	1	IVa 胴部		
IV-68	199	H-12		H-12a床面	19	1	IIa						P-1	覆土3	96	1	IVa 胴部		
				規模: 8.7×17.0×4.8cm					IV-69	249	P-2		覆土	9	1	IVa 口縁			
IV-68	200	H-12		H-12a床面	21	1	IIa		IV-69	250	P-2		覆土	1	5	IVa 口縁			
				規模: 8.8×9.5×4.1cm									P-2	覆土	2	1	IVa 口縁		
IV-68	201	H-12		H-12a床面	22	1	IIa		IV-69	251	P-2		覆土	4	1	IVa 胴部			
				規模: 3.7×(R.2)×3.9cm									P-2	覆土	5	1	IVa 胴部		
IV-68	202	H-12		H-12a床面	20	1	IIa		IV-69	252	P-6		坑底	3	2	IVa 胴部			
				規模: 5.9×6.5×4.2cm					IV-69	253	P-8		坑底	1	1	IVa 口縁			
IV-68	203	H-12		H-12a床面	18	1	IIa		IV-69	254	P-8		坑底	2	2	IIa 胴部			
		H-12		H-12a床面	23	1	IIa		IV-69	255	P-12		覆土2	2	1	IIa 胴部			
				規模: 16.1×(13.3)×7.0cm					IV-69	256	P-13		覆土上	7	1	IIa 口縁			
IV-68	204	H-12		H-12a床面	38	1	IIa 口縁		IV-69	257	P-13		覆土上	6	1	IIa 口縁			
IV-68	205	H-12		H-12a床面	122	2	IIa 胴部		IV-70	258	P-14		覆土2	30	1	IVa 口縁			
IV-68	206	H-12		H-12a床面	27	1	IIa 胴部		IV-70	259	P-14		覆土1	4	4	IVa 口縁			
IV-68	207	H-12	HP-1	覆土	5	1	IIa 胴部		IV-70	260	P-14		覆土2	32	1	IVa 口縁			
IV-68	208	H-12	HP-1	覆土2	1	1	IIa 口縁(?)												

探区	番号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数分類	器形・部位	備考	探区	番号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数分類	器形・部位	備考	
IV-70	261	P-14		覆土1	6	1	IVa 胴部		IV-71	302	F-19		Ⅲ	29	2	IVa 口縁		
IV-70	262	P-14		覆土1	3	1	IVa 胴部		IV-71	303	F-19		Ⅲ	12	3	IVa 口縁		
IV-70	263a	P-14		覆土1	29	1	Ⅲa 胴部		IV-71	304	F-19		Ⅲ	11	2	IVa 口縁		
	263b	P-14		覆土1	29	1	Ⅲa 胴部		IV-71	305a	F-19		Ⅲ	23	3	IVa 胴部		
	263c	P-14		覆土1	29	1	Ⅲa 底部			305b	F-19		Ⅲ	8	1	IVa 胴部		
IV-70	264a	P-15		覆土4	2	2	Ⅲa 口縁			305c	F-19		Ⅲ	14	1	Ⅲa 胴部		
	264b	P-15		覆土4	7	1	Ⅲa 口縁			F-19			Ⅲ	19	1	Ⅲa 胴部		
IV-70	265	P-15		覆土3	1	Ⅲa 口縁			IV-71	306	F-19		Ⅲ	5	1	IVa 胴部~底部		
	P-15			覆土5	1	Ⅲa 口縁			IV-71	307	F-19		Ⅲ	16	2	IVa 胴部~底部		
IV-70	266	P-15		覆土5	1	Ⅲa 口縁			IV-71	308	F-20		M	1	1	Ⅲa 口縁		
IV-70	267	P-15		覆土3	13	Ⅲa 胴部			IV-71	309	F-22		Ⅲ	1	1	Ⅲa 胴部		
	H-12			覆土上	123	1	Ⅲa 胴部		IV-71	310	F-23			床面直上	56	3	IVa 口縁	
IV-70	268	P-16		坑底直上	1	1	Ⅲa 胴部~底部			433			Ⅲ	2	1	IVa 口縁		
	P-16			坑底直上	2	2	Ⅲa 胴部~底部		IV-71	311	F-23		Ⅲ	26	1	IVa 口縁		
	P-16			坑底直上	3	1	Ⅲa 胴部~底部		IV-72	312	F-23		Ⅲ	12	Ⅲa			
	P-16			坑底直上	4	1	Ⅲa 胴部~底部			F-23			Ⅲ	30	IVa			
	P-16			坑底直上	6	3	Ⅲa 胴部~底部			F-23			Ⅲ	41	IVa			
	P-16			坑底直上	7	1	Ⅲa 胴部~底部			P34			Ⅲ	3	IVa			
	H-15			溝残	6	1	Ⅲa 胴部~底部			規模: 25.6 × 21.6 × 10.4 cm								
	M-1			M	2	1	Ⅲa 胴部~底部		IV-72	313	F-23		Ⅲ	24	2	IVa 口縁~胴部		
IV-70	269	P-16		覆土2	9	1	Ⅲa 口縁			F-23			Ⅲ	43	1	IVa 口縁~胴部		
IV-70	270	P-16		覆土1	8	1	Ⅲa 胴部			F-23			Ⅲ	45	1	IVa 口縁~胴部		
IV-70	271	P-17		床面直上	9	2	IVa 口縁~底部		IV-72	314	F-23		Ⅲ	47	1	Ⅲa 胴部		
	P-17			覆土1	14	2	IVa 口縁~底部			F-23			Ⅲ	48	2	Ⅲa 胴部		
			K31	Ⅲ	16	19	IVa 口縁~底部			F-23			Ⅲ	52	1	Ⅲa 胴部		
IV-70	272	P-17		床面直上	7	1	IVa 口縁		IV-72	315	F-23		Ⅲ	46	1	不詳胴部		
IV-70	273	P-17		床面直上	1	1	Ⅲa 胴部		IV-72	316	F-23		Ⅲ	17	2	Ⅲa 胴部		
IV-70	274	P-17		床面直上	2	2	IVa 胴部		IV-72	317	F-23		Ⅲ	39	3	Ⅲa 胴部		
IV-70	275	P-17		床面直上	6	1	Ⅲa 口縁		IV-72	318	F-23		Ⅲ	29	1	Ⅲa 底部		
IV-70	276	P-17		覆土1	11	1	Ⅲa 口縁		IV-72	319	F-23		Ⅲ	5	1	IVa 底部		
IV-70	277	P-17		覆土1	13	1	Ⅲa 口縁		IV-72	320	PC-1		Ⅲ	29	1	IVa 口縁~胴部		
IV-70	278	P-17		覆土1	16	1	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	34	1	IVa 口縁~胴部		
	P-17			覆土1	24	1	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	35	10	IVa 口縁~胴部		
IV-70	279	TP-1		覆土1	7	1	Ⅲa 胴部			PC-1			Ⅲ	37	13	IVa 口縁~胴部		
IV-70	280	TP-1		覆土1	4	1	IVb 口縁			PC-1			Ⅲ	38	3	IVa 口縁~胴部		
IV-70	281	TP-1		覆土1	2	1	不詳胴部			PC-1			Ⅲ	39	6	IVa 口縁~胴部		
IV-70	282	TP-1		覆土1	6	1	Ⅲb 胴部		IV-72	321a	PC-1		Ⅲ	16	2	IVa 胴部		
IV-71	283	F-2		Ⅲ	1	3	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	38	4	IVa 胴部		
IV-71	284	F-2		Ⅲ	1	13	IVa 胴部			321b	PC-1		Ⅲ	35	1	IVa 口縁		
	F-2			Ⅲ	2	8	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	38	1	IVa 口縁		
IV-71	285	F-3		Ⅲ	7	1	Ⅲa 胴部		IV-72	322	PC-1		Ⅲ	8	1	IVa 胴部		
IV-71	286	F-3		Ⅲ	1	1	Ⅲa 胴部			PC-1			Ⅲ	10	4	IVa 胴部		
IV-71	287	F-3		Ⅲ	1	1	Ⅲa 胴部	圧痕土器遺		PC-1			Ⅲ	25	1	IVa 胴部		
IV-71	288a	F-4		Ⅲ	50	4	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	31	1	IVa 胴部		
	F-4			Ⅲ	54	2	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	32	4	IVa 胴部		
	PC-1			Ⅲ	25	3	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	37	3	IVa 胴部		
	PC-1			Ⅲ	26	1	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	39	2	IVa 胴部		
	PC-1			Ⅲ	28	1	IVa 胴部		IV-72	323	PC-1		Ⅲ	2	1	IVa 胴部		
			K17	Ⅲ	1	1	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	18	1	IVa 胴部		
	288b	F-4		Ⅲ	5	1	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	19	1	IVa 胴部		
	F-4			Ⅲ	20	2	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	22	3	IVa 胴部		
	F-4			Ⅲ	21	5	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	33	3	IVa 胴部		
	F-4			Ⅲ	22	1	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	37	3	IVa 胴部		
	F-4			Ⅲ	23	4	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	38	2	IVa 胴部		
	F-4			Ⅲ	55	1	IVa 胴部			PC-1			Ⅲ	39	19	IVa 胴部		
IV-71	289a	F-4		Ⅲ	46	1	IVa 口縁		IV-72	324	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
	289b	F-4		Ⅲ	43	1	IVa 口縁		IV-72	325a	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
IV-71	290	F-4		Ⅲ	57	1	Ⅲa 胴部			325b	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 胴部			
IV-71	291	F-4		Ⅲ	18	1	IVa 胴部		IV-72	326	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
	F-4			Ⅲ	41	1	IVa 胴部		IV-72	327	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
IV-71	292	F-4		Ⅲ	55	1	IVa 胴部		IV-72	328	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
IV-71	293	F-4		Ⅲ	7	1	IVa 胴部		IV-73	329	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 胴部			
IV-71	294	F-4		Ⅲ	4	1	IVa 胴部		IV-73	330	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 胴部			
	F-4			Ⅲ	6	1	IVa 胴部		IV-73	331	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 底部			
IV-71	295	F-6		Ⅲ	6	1	IVa 口縁		IV-73	332	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
IV-71	296	F-10		Ⅲ	3	1	IVa 胴部		IV-73	333	PC-2		Ⅲ	1	Ⅲa 底部			
IV-71	297	F-11		Ⅲ	1	12	Ⅲa 口縁		IV-73	334	PC-3		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
IV-71	298	F-12		Ⅲ	15	1	IVa 胴部		IV-73	335	PC-3		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
IV-71	299	F-12		Ⅲ	2	16	IVa 胴部		IV-73	336	PC-3		Ⅲ	1	Ⅲa 口縁			
IV-71	300	F-13		Ⅲ	1	1	Ⅲa 胴部		IV-73	337	PC-3		Ⅲ	1				
IV-71	301	F-13		Ⅲ	1	1	Ⅲa 胴部			096			Ⅲ	2				

棟号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形・部位	備考	棟号	遺構	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形・部位	備考
			規模: (0.4, 0) × (20.0) × (10.3)cm														
IV-73	S38 PC-2			8	1	IVa	胴部		IV-73	344 M-1	M		6	1	IIIa	口縁	
IV-73	S39 PC-5			4	IVa				IV-73	345a M-1	N35		3	1	IIIa	口縁	
	PC-5			7	IVa					345b M-1	M		3	1	IIIa	口縁	
	PC-5			23	IVa				IV-73	346 M-1	M		5	1	IIIa	口縁	
		S32		5	IVa				IV-73	347 M-1	M		3	7	IIIa	口縁～胴部	
		T32		6	IVa					006			2	1	IIIa	口縁～胴部	
			規模: 13.3×11.2×4.7cm						IV-73	348 M-1	M		3	2	IIIa	口縁	
IV-73	340 PC-5			11	2	IVa	口縁		IV-73	349 M-1	M		3	5	IIIa	胴部	
IV-73	341 PC-5			18	2	IVa	胴部		IV-73	350 M-1	M		6	1	IIIa	口縁	
IV-73	342 M-1	M		5	1	IIIa	口縁		IV-73	351 M-1	M		6	2	IIIa	口縁	
IV-73	343 M-1	M		6	2	IIIa	口縁		IV-73	352 M-1	M		6	6	IIIa	底部	

表IV-4 遺構出土土器載石器一覧

棟号	図版番号	器種名	遺構名	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	備考
IV-74	58 1	両面調整石器	H-1		床面	4	128	53	20	115.1	頁岩		
IV-74	58 2	たたく石	H-1	H-1	伊	2	139	55	26	244.0	泥岩		被熱
IV-74	58 3	石鏃	H-2		床面	69	26	17	4	1.3	頁岩		
IV-74	58 4	石鏃	H-2		床面	43	45	15	7	3.4	頁岩		
IV-74	58 5	両面調整石器	H-2		覆土上	97	46	26	8	8.6	頁岩		
IV-74	58 6	両面調整石器	H-2		床面	73	48	28	11	11.4	頁岩		
IV-74	58 7	両面調整石器	H-2		床面	45	49	40	15	18.8	頁岩		
IV-74	58 8	スクレイパー	H-2		覆土上	99	57	39	13	31.3	頁岩		
IV-74	58 9	石鏃	H-2		覆土上	98	40	19	10	6.4	頁岩		
IV-74	58 10	石鏃	H-2		床面	29	40	52	17	29.4	頁岩		
IV-74	58 11	刮片	H-2		床面	56	63	48	8	18.2	緑色頁岩		
IV-74	58 12	たたく石	H-2		床面	72	81	25	16	37.1	泥岩		
IV-74	58 13	加工直のある礫	H-2		床面	20	74	32	20	52.7	泥岩		
		礫	H-2 10P-1		覆土下	5				6.2	砂岩		被熱 伊石
		礫	H-2 10P-2		床面	2				482.3	砂岩		被熱 伊石
		礫	H-2 10P-2		床面	3				929.2	砂岩		被熱 伊石
IV-75	58 14	礫	H-2 10P-2		床面	4	263	320	95	30.1	砂岩		被熱 伊石
		礫	H-2 10P-2		床面	6				2460.0	砂岩		被熱 伊石
		礫	H-2 10P-2		床面	6				1155.0	砂岩		被熱 伊石
		礫	H-4		覆土中	14				871.5	砂岩		被熱 伊石
		礫	H-4		覆土中	17				580.3	砂岩		被熱 伊石
IV-75	58 15	礫	H-2		床面	15				303.1	安山岩		被熱 伊石
		礫	H-2 10P-1		覆土下	6	140	194	53	2.0	安山岩		被熱 伊石
		礫	H-2 10P-2		床面	1				1085.0	安山岩		被熱 伊石
IV-76	58 16	石鏃	H-4		覆土中	7	34	12	5	1.5	頁岩		
IV-76	58 17	石鏃	H-4		覆土下	5	22	13	4	0.8	頁岩		
IV-76	58 18	石鏃	H-4		床面	36	24	15	5	1.3	頁岩		
IV-76	58 19	石鏃	H-4		覆土下	58	23	16	3	0.9	頁岩		被熱
IV-76	58 20	石鏃	H-4		覆土下	59	28	17	3	1.0	頁岩		
IV-76	58 21	石鏃	H-4		覆土下	10	23	15	5	1.5	頁岩		
IV-76	58 22	石鏃	H-4		覆土下	12	25	18	6	2.0	頁岩		
IV-76	58 23	石鏃	H-4		覆土下	4	28	14	5	1.4	頁岩		
IV-76	58 24	石鏃	H-4		覆土下	2	29	14	6	1.7	頁岩		
IV-76	58 25	石鏃	H-4		覆土下	11	28	17	5	1.8	頁岩		アスファルト付着
IV-76	58 26	石鏃	H-4		覆土下	3	38	19	6	3.6	頁岩		
IV-76	58 27	石鏃	H-4		覆土下	6	32	18	6	3.2	頁岩		
IV-76	58 28	石鏃	H-4		覆土下	13	40	20	6	2.8	頁岩		
IV-76	58 29	石鏃	H-4		床面	47	32	13	4	1.4	頁岩		
IV-76	58 30	石鏃	H-4		覆土下	9	37	15	6	2.3	頁岩		アスファルト付着
IV-76	58 31	石鏃	H-4		覆土下	16	39	15	5	2.3	頁岩		
IV-76	58 32	石鏃	H-4		覆土下	8	45	17	5	2.3	頁岩		アスファルト付着
IV-76	58 33	スクレイパー	H-4		覆土下	60	69	40	20	42.1	頁岩		
IV-76	58 34	石鏃	H-4		床面	46	38	19	13	7.9	頁岩		
IV-76	58 35	Rフラインク	H-4		覆土中	63	55	46	14	29.0	頁岩		
IV-76	58 36	Rフラインク	H-4		覆土中	62	51	58	14	36.6	頁岩		
IV-76	58 37	Lフラインク	H-4		覆土下	75	73	42	14	36.7	頁岩		光沢あり
IV-76	58 38	石斧	H-4		覆土下	15	149	32	20	150.6	片岩		
IV-77	58 39	扁平打製石器	H-4		覆土下	98	72	88	22	122.6	凝灰岩		
IV-77	58 40	たたく石	H-4		覆土中	99	73	62	22	151.6	砂岩		
IV-77	58 41	礫	H-4		覆土上	1	96	140	75	1337.5	安山岩		被熱
		礫	H-4 10P-1		覆土1	4				31.5	安山岩		被熱
IV-77	59 42	スクレイパー	H-5		覆土1	17	69	50	16	36.5	頁岩		
IV-77	59 43	石鏃	H-5		覆土3	1	125	48	45	312.4	頁岩		
IV-77	59 44	たたく石	H-5		床1	21	88	68	30	224.2	砂岩		
IV-77	59 45	石鏃	H-6		覆土下	10	24	15	5	1.2	頁岩		
IV-77	59 46	石鏃	H-6		覆土下	6	25	13	4	0.8	頁岩		
IV-77	59 47	石鏃	H-6		覆土下	8	34	14	7	2.1	頁岩		
IV-77	59 48	両面調整石器	H-6		覆土上	19	25	19	6	1.5	頁岩		

棟号	図版番号	器種名	遺構名	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	備考
IV-77	59 49	両面調整石器	H-6			薄丸	21	37	25	8	5.7	頁岩	
IV-77	59 50	両面調整石器	H-6			覆土	20	50	40	26	8	5.9	頁岩
IV-77	59 51	剥片	H-6			覆土下	56	70	43	15	24.2	頁岩	光沢あり
IV-77	59 52	石核	H-6			覆土上	27	63	80	57	240.7	頁岩	
IV-77	59 53	石斧	H-6			覆土下	4	71	35	13	41.7	片岩	
IV-77	59 54	扁平打製石器	H-6			覆土上	45	77	141	135	404.2	安山岩	被熱
IV-78	59 55	石槍	H-7			覆土1	2	51	25	9	7.0	黒曜石	産地分析X2
IV-78	59 56	石槍	H-7			覆土1	1	55	25	9	7.5	黒曜石	産地分析X1
IV-78	59 57	石鏃	H-7			覆土1	21	55	44	10	12.5	頁岩	
IV-78	59 58	石斧	H-7			覆土1	3	96	42	13	65.0	緑色泥岩	
IV-78	59 59	砥石	H-7			覆土1	6	149	145	35	751.2	砂岩	
IV-78	59 60	垂飾	H-7H-2			覆土1	1	27	29	9	3.1	琥珀	
IV-78	59 61	石斧	H-7H-2			覆土1	1	83	35	18	84.6	緑色泥岩	
IV-78	59 62	両面調整石器	H-8			覆土2下	69	102	42	24	71.3	頁岩	被熱
IV-78	59 63	石核	H-8			床面	88	112	62	104	696.7	頁岩	
IV-79	59 64	たつき石	H-8			覆土3	85	124	81	57	565.8	頁岩	
IV-79	59 65	石鏃	H-9			覆土2	34	95	51	26	134.4	砂岩	
IV-79	60 66	石鏃	H-9			覆土1	24	28	13	6	1.6	頁岩	
IV-79	60 67	両面調整石器	H-9			覆土1	33	38	18	10	5.7	頁岩	
IV-79	60 68	籠状石器	H-9			覆土1	1	90	56	18	59.2	頁岩	
IV-79	60 69	スクレイパー	H-9			覆土1	40	58	44	15	34.4	頁岩	
IV-79	60 70	石鏃	H-10			覆土1	366	28	14	4	1.2	頁岩	アスファルト付着
IV-79	60 71	両面調整石器	H-10			覆土2	68	61	39	25	53.2	頁岩	
IV-79	60 72	スクレイパー	H-10			覆土2	114	81	49	23	56.2	頁岩	
IV-79	60 73	スクレイパー	H-10			覆土2	211	61	34	16	25.6	頁岩	被熱
IV-80	60 74	スクレイパー	H-10			床面	141	72	49	19	45.4	頁岩	
IV-80	60 75	スクレイパー	H-10			床面直上	78	66	52	18	51.0	頁岩	光沢あり
IV-80	60 76	スクレイパー	H-10			覆土1	368	69	47	12	38.6	頁岩	
IV-80	60 77	スクレイパー	H-10			覆土2	71	67	52	19	50.4	頁岩	
IV-80	60 78	スクレイパー	H-10			覆土2	298	78	54	19	62.3	頁岩	
IV-80	60 79	スクレイパー	H-10			床面直上	290	61	33	17	23.7	頁岩	
IV-80	60 80	石鏃	H-10			覆土2	1	69	21	11	13.3	頁岩	
IV-80	60 81	剥片	H-10			覆土2	91	47	53	26	44.1	頁岩	光沢あり
IV-80	60 82	石核	H-10			覆土2	49	42	39	59	153.7	頁岩	
IV-80	60 83	石核	H-10			覆土2	236	58	36	24	53.4	頁岩	
IV-80	60 84	石核	H-10			覆土1	375	61	44	29	57.2	頁岩	
IV-81	60 85	石核	H-10			床面	48(2)	88	57	27	73.3	頁岩	
IV-81	60 86	石核	H-10			床面	48(1)	89	63	36	115.8	頁岩	
IV-81	60 87	たつき石	H-10			床面直上	227	94	34	29	123.7	頁岩	
IV-81	60 88	たつき石	H-10			覆土2	248	103	73	38	417.4	砂岩	
IV-81	60 89	たつき石	H-10			床面直上	181	109	84	34	464.7	砂岩	
IV-81	60 90	たつき石	H-10			覆土2	279	122	49	22	121.7	泥岩	
IV-81	60 91	石核	H-10			覆土2	13	53	72	37	116.0	頁岩	
IV-81	61 92	石槍	H-11			覆土下	26	71	35	10	4.7	頁岩	被熱
IV-81	61 92	石槍	H-11			覆土上	139	91	35	10	4.7	頁岩	
IV-81	61 93	扁平打製石器	H-11			覆土下	22	134	89	29	295.6	泥岩	IV-84-112と接合
IV-81	61 93-112	扁平打製石器	H-11			22+207	98	153	28	386.9	泥岩		
IV-82	61 94	両面調整石器	H-11			覆土中	2	149	104	27	300.9	頁岩	2被熱
IV-82	61 95	スクレイパー	H-11			覆土下	59	56	35	10	21.9	頁岩	
IV-82	61 96	スクレイパー	H-11			覆土中	58	63	42	12	33.5	頁岩	光沢あり
IV-82	61 97	石核	H-11			覆土下	5	76	69	48	235.2	頁岩	4
IV-82	61 98	石核	H-11			覆土中	68	85	70	52	185.8	頁岩	
IV-82	61 99	石核	H-11			覆土下	70	46	45	25	61.7	頁岩	
IV-83	61 100	すり石	H-11			覆土下	30	103	167	36	511.1	安山岩	
IV-83	61 101	扁平打製石器	H-11			覆土下	110	63	104	19	163.7	安山岩	
IV-83	61 102	扁平打製石器	H-11			覆土中	109	62	43	13	40.1	安山岩	
IV-83	61 103	たつき石	H-11			薄丸	111	111	63	41	388.6	砂岩	
IV-83	61 104	たつき石	H-11			覆土下	27	131	56	37	290.3	泥岩	
IV-83	61 105	台石	H-11			覆土上	12	226	191	85	2355.0	安山岩	被熱
IV-83	61 106	石鏃	H-11	R34		覆土	14	34	17	6	2.5	頁岩	被熱
IV-84	62 107	石鏃	H-12			覆土上	257	24	17	4	1.2	頁岩	被熱
IV-84	62 108	スクレイパー	H-12			覆土上	146	51	47	17	32.7	頁岩	光沢あり
IV-84	62 109	リフレイク	H-12			覆土上	158	51	52	9	12.6	頁岩	光沢あり
IV-84	62 110	石核	H-12			覆土上	164	83	57	51	271.1	頁岩	
IV-84	62 111	石核	H-12			覆土上	163	66	65	40	115.0	頁岩	7
IV-84	62 112	扁平打製石器	H-12			覆土上	207	75	75	21	91.3	泥岩	IV-81-93と接合
IV-84	62 113	加工痕のある礫	H-12			覆土上	213	49	31	11	25.5	砂岩	
IV-84	62 114	台石	H-12			11-12H-2	14	191	186	48	1569.9	砂岩	
IV-84	62 115	石鏃	H-12			覆土下	143	26	13	4	1.2	頁岩	
IV-84	62 116	籠状石器	H-12			覆土下	145	93	39	22	65.8	頁岩	
IV-84	62 116	Rフレイク	H-12			11-12H-2	30	93	39	22	5.2	頁岩	
IV-84	62 117	籠状石器	H-12			覆土下	145	85	40	24	65.8	頁岩	
IV-84	62 118	スクレイパー	H-12			覆土下	35	65	50	14	34.3	頁岩	IV-85-132と接合
IV-84	62 119	スクレイパー	H-12			覆土下	147	102	32	19	51.4	頁岩	
IV-84	62 120	石核	H-12			覆土下	165	47	60	27	58.3	頁岩	6
IV-85	62 121	石鏃	H-12			覆土下	208	72	144	22	254.2	泥岩	
IV-85	62 122	たつき石	H-12			覆土下	209	66	50	17	88.8	砂岩	
IV-85	62 123	たつき石	H-12			覆土下	94	153	93	51	1119.8	砂岩	
IV-85	62 124	台石	H-12			覆土下	110	94	123	54	1058.1	安山岩	

棟号	図版番号	器種名	遺構名	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	備考
IV-85	62 125	加工痕のある礫	H-12		覆土下	215	55	33	15	39.6	砂岩		
IV-85	62 126	加工痕のある礫	H-12		覆土下	216	55	47	18	54.8	砂岩		
IV-85	62 127	両面調整石器	H-12		19-12a-8a	114	41	25	11	9.4	頁岩		
IV-85	62 128	両面調整石器	H-12		19-12a-8a	105	54	25	11	10.5	頁岩		
IV-85	62 129	両面調整石器	H-12		19-12a-8a	73	60	38	16	28.2	頁岩		
IV-85	62 130	両面調整石器	H-12		19-12a-8a	96	77	41	18	23.5	頁岩		
IV-85	62 131	スレイバー	H-12		19-12a-8a	28	76	44	18	41.5	頁岩		
IV-85	62 132	Rフレイク	H-12		19-12a-8a	30	50	20	6	5.2	頁岩		IV-84-117と統合
IV-85	63 133	Rフレイク	H-12		覆土下	166	79	25	19	47.7	頁岩		
IV-85	63 134	Lフレイク	H-12		19-12a-8a	39	48	54	12	22.2	頁岩		3
IV-86	63 135	石核	H-12		19-12a-8a	88	95	51	35	109.8	頁岩		3
IV-86	63 136	石核	H-12		19-12a-8a	46	89	57	39	172.5	頁岩		3
IV-86	63 137	石核	H-12		19-12a-8a	62	141	90	65	525.9	頁岩		3
IV-86	63 138	石核	H-12		19-12a-8a	60	94	128	32	367.4	頁岩		
IV-86	63 139	石剣	H-12		19-12a-8a	34	97	117	20	243.4	閃緑岩		
IV-86	63 140	たつき石	H-12		19-12a-8a	42	170	78	43	828.9	砂岩		
IV-87	63 141	両面調整石器	H-12		攪乱	144	54	15	6	3.4	頁岩		光沢あり
IV-87	63 142	スレイバー	H-12		攪乱	150	62	47	12	29.3	頁岩		光沢あり
IV-87	63 143	石剣	19-12b-1		覆土	2	28	15	6	2.1	頁岩		
IV-87	63 144	石剣	19-12b-1		覆土	6	32	14	6	2.3	頁岩		
IV-87	63 145	石剣	19-12b-1		覆土	3	35	21	8	4.7	頁岩		
IV-87	63 146	加工痕のある礫	19-12b-1		覆土	8	44	36	8	17.5	泥岩		
IV-87	63 147	石核	H-13		攪乱	10	17	12	3	0.5	めのう		
IV-87	63 148	両面調整石器	H-13		覆土	11	30	19	8	2.9	頁岩		
IV-87	63 149	スレイバー	H-13		覆土	13	51	53	14	32.3	頁岩		光沢あり
IV-87	63 150	石剣	H-13		覆土	14	61	20	18	16.3	頁岩		
IV-87	63 151	Lフレイク	H-13		覆土	20	55	43	16	34.0	頁岩		光沢あり 被熱
IV-87	63 152	石核	H-13		覆土	21	43	64	25	65.0	頁岩		
IV-87	63 153	石核	H-13		覆土	3	72	94	50	263.6	頁岩		
IV-87	63 154	石核	H-13		覆土	22	44	43	23	40.9	頁岩		
IV-87	64 155	扁平打製石器	H-14		床面	1	95	162	24	414.3	安山岩		
IV-88	64 156	スレイバー	H-15		覆土	15	63	38	14	26.0	頁岩		
IV-88	64 157	石核	H-15		覆土下	7	81	151	60	672.1	頁岩		
IV-88	64 158	石斧	H-15		覆土上	7	102	47	27	158.7	緑色泥岩		
IV-88	64 159	台石	H-15		床面	4	230	202	81	5910.0	安山岩		
IV-88	64 160	石剣	P-1		坑底	52	25	17	4	1.1	黒曜石		産地分析X5
IV-88	64 161	両面調整石器	P-1		坑底	16	33	27	12	8.2	黒曜石		産地分析X7
IV-88	64 162	両面調整石器	P-1		坑底直上	159	40	35	11	13.7	頁岩		
IV-88	64 163	楔形石器	P-1		覆土2	47	24	13	10	2.0	黒曜石		産地分析X6
IV-89	64 164	石核	P-1		坑底直上	160	51	85	30	100.7	頁岩		8
IV-89	64 165	石核	P-1		坑底	76	47	57	25	39.9	頁岩		
IV-89	64 166	原石	P-1		覆土下	112	52	51	33	66.5	黒曜石		産地分析X9
IV-89	64 167	たつき石	P-1		覆土下	113	70	49	42	196.3	砂岩		
IV-89	64 168	石核	P-3		覆土	4	55	46	51	114.3	頁岩		
IV-89	64 169	たつき石	P-3		坑底	3	213	109	54	1722.0	砂岩		
IV-89	64 170	石剣	P-13		覆土上	1	22	14	5	1.0	黒曜石		産地分析X10
IV-89	64 171	扁平打製石器	P-13		覆土上	14	71	85	21	125.2	安山岩		被熱
IV-89	64 172	石核	P-14		覆土2	22	43	58	37	67.0	頁岩		
IV-89	64 173	スレイバー	P-15		覆土	7	62	35	16	27.7	頁岩		
IV-89	64 174	台石	P-15		覆土	2	157	177	44	4318.7	砂岩		
IV-90	65 175	石核	P-16		覆土2	13	108	71	61	339.4	頁岩		
IV-90	65 176	石核	P-16		覆土2	11	69	63	30	156.4	頁岩		
IV-90	65 177	石核	P-16		覆土2	12	43	61	44	112.6	頁岩		
IV-90	65 178	石核	P-17		攪乱	18	67	101	45	265.7	頁岩		
IV-90	65 179	石剣	TP-1		覆土	10	34	22	12	6.7	頁岩		
IV-90	65 180	スレイバー	F-6		Ⅲ	11	84	33	17	29.5	頁岩		
IV-90	65 181	スレイバー	F-11		Ⅲ	8	76	51	18	51.9	頁岩		
IV-91	65 182	石核	F-12		Ⅲ	12	43	41	38	59.6	頁岩		被熱
IV-91	65 183	たつき石	F-12		Ⅲ	17	108	58	29	248.6	砂岩		
IV-91	65 184	扁平打製石器	F-13		Ⅲ	3	105	143	39	647.3	安山岩		
IV-91	65 185	Lフレイク	F-22		Ⅲ	2	62	36	12	18.6	頁岩		光沢あり
IV-91	65 186	石斧	F-22		Ⅲ	8	65	35	21	76.5	緑色泥岩		
IV-91	65 187	石核	PC-1		Ⅲ	24	36	31	51	59.0	頁岩		
IV-91	65 188	たつき石	PC-2		Ⅲ	3	80	43	31	145.4	砂岩		
IV-91	65 189	石核	PC-3		Ⅲ	2	62	47	22	58.3	頁岩		
IV-91	65 190	石剣	FC-1		Ⅲ	3	27	17	5	2.0	頁岩		
IV-91	65 191	両面調整石器	FC-1		Ⅲ	4	24	22	7	2.4	頁岩		
IV-91	65 192	石核	FC-1		Ⅲ	6	51	52	18	36.5	頁岩		
IV-92	65 193	両面調整石器	FC-5		Ⅲ	8	74	36	22	44.1	頁岩		
IV-92	65 194	Rフレイク	FC-5		Ⅲ	6	76	43	16	44.4	頁岩		光沢あり
IV-92	65 195	スレイバー	M-1		M	8	46	41	13	18.6	頁岩		光沢あり
IV-92	65 196	スレイバー	M-1		M	7	65	41	14	29.5	頁岩		光沢あり
IV-92	65 197	石皿	M-1		M	1	420	293	100	18900.0	安山岩		

表IV-5 遺構出土掘載接合資料一覧

種別	図版	番号	器種等	遺構	発掘区	層位	遺物 番号	重量 (g)	接合点数	母割 %
IV-93	66	196	接合資料					153.6	23	1
			銅片	B-11	礎土中		82	3.1		
			銅片	B-11	礎土下	6D		8.3		
			銅片	B-11	礎土下	6E		8.1		
			銅片	B-11	礎土下	6F		3.6		
			銅片	B-11	礎土下	6G		4.4		
			銅片	B-11	礎土下	6Z		3.4		
			銅片	B-11	礎土下	6Z		2.9		
			銅片	B-11	礎土下	6Z		1.9		
			銅片	B-11	礎土下	91Z		1.8		
			銅片	B-11	礎土下	91Z		0.4		
			銅片	B-11	礎土下	6Z		6.7		
			銅片	B-11	礎土下	6Z		6.7		
			銅片	B-11	礎土下	6S		1.6		
			銅片	B-11	礎土下	6Z		4.1		
			銅片	B-11	礎土下	6Z		4.1		
			銅片	B-11	礎土下	6D		8.5		
			銅片	B-11	礎土下	91Z		4.4		
			銅片	B-11	礎土下	8Z		5.9		
			銅片	B-11	礎土下	8Z		2.6		
			銅片	B-11	礎土下		88	4.4		
			銅片	B-11	礎土下	91Z		3.2		
			銅片	B-11	礎土下	91Z		2.9		
			灰石	B-11	礎土下		113	60.6		
IV-93	66	199	接合資料					326.7	5	8
			銅片	B-11	礎土下		6	55.8		
			銅片	B-11	礎土下		84	53.7		
			銅片	N30	礎		6	50.9		
V-26	80	131	石鏡	N30	覆土		4	327.7		
			銅片	N30	覆土		9	32.6		
IV-94	66	200	接合資料					818.3	19	3
			銅片	B-11	礎土下		85	55.2		
			銅片	B-11	礎土下		87	14.6		
IV-85	63	133	フタレタテ	B-12	礎土下		166	41.6		
IV-85	63	133	フタレタテ	B-12	礎土下		74	47.2		
			銅片	B-12	礎土下		182	56.1		
IV-86	63	135	石鏡	B-12	≧128cm		88	109.7		
			銅片	B-12	礎土下		190	9.1		
			銅片	B-12	≧128cm		119	10.0		
			銅片	B-12	礎土下		190	2.3		
			銅片	B-12	礎土下		190	4.4		
			銅片	B-12	礎土下		190	3.7		
			銅片	B-12	≧128cm		37	6.4		
			銅片	B-12	覆土		195	4.9		
			銅片	≧128cm	礎土		1	3.5		
			銅片	≧128cm	礎土		1	50.5		
IV-86	63	136	石鏡	B-12	≧128cm		46	172.3		
			銅片	B-12	≧128cm		50	4.8		
			銅片	B-12	≧128cm		84	6.3		
			銅片	N30	覆土		10	13.7		
IV-95	67	201	接合資料					141.3	2	7
IV-84	62	111	石鏡	B-12	礎土上		163	114.6		
			銅片	B-12	礎土上		175	26.7		
IV-96	67	202	接合資料					185.9	6	8
			銅片	B-12	礎土上	174Z		9.5		
			銅片	B-12	礎土上	174Z		1.3		
			銅片	B-12	礎土上		178	88.4		
IV-84	62	120	石鏡	B-12	礎土下		165	58.1		
			銅片	B-12	≧128cm		81	45.2		
			銅片	B-12	≧128cm		106	23.4		

種別	図版	番号	器種等	遺構	発掘区	層位	遺物 番号	重量 (g)	接合点数	母割 %
IV-82	61	97	石鏡	B-11	礎土下		5	224.4		
IV-85	63	134	フタレタテ	B-12	≧128cm		39	22.2		
			銅片	B-12	≧128cm		55	7.1		
			銅片	B-12	≧128cm		37	6.0		
			銅片	B-12	≧128cm		66	17.7		
			銅片	B-12	≧128cm		64	32.3		
			フタレタテ	B-12	≧128cm		66	12.3		
			銅片	B-12	≧128cm		69	6.7		
			銅片	B-12	≧128cm		70	4.0		
			銅片	B-12	≧128cm		71	15.5		
			銅片	≧128cm	礎土		5	4.2		
IV-96	67	204	接合資料					354.8	33	8
			銅片	P-1	礎土3		119	1.5		
			銅片	P-1	礎土3+8cm		65	3.5		
			銅片	P-1	灰底		53	17.6		
			銅片	P-1	灰底直上	162Z		6.9		
IV-99	64	165	石鏡	P-1	礎土3+8cm		63	27.3		
			銅片	P-1	灰底		76	39.8		
			銅片	P-1	灰底直上	162Z		2.1		
IV-99	64	164	石鏡	P-1	灰底直上		69	48.6		
			銅片	P-1	灰底直上		148	5.1		
			銅片	P-1	灰底直上		149	17.9		
			石鏡	P-1	灰底直上		160	100.6		
			銅片	P-1	灰底直上	188Z		0.1		
			銅片	P-1	灰底直上	188Z		3.8		
			銅片	P-1	灰底		173	4.9		
			銅片	P-1	灰底直上	188Z		3.2		
			銅片	P-1	灰底		174	4.1		
			銅片	P-1	灰底直上		178	9.5		
			銅片	P-1	灰底直上	150		3.6		
			銅片	P-1	灰底直上	162Z		4.2		
			銅片	P-1	灰底直上	188Z		2.3		
			銅片	P-1	灰底直上	152		8.6		
			銅片	P-1	灰底直上	153Z-1		1.8		
			銅片	P-1	灰底直上	156		10.8		
			銅片	P-1	灰底直上	162Z		3.4		
			銅片	P-1	灰底直上	187Z		1.7		
			銅片	P-1	灰底直上	153Z-2		1.5		
			銅片	P-1	灰底直上	154		3.9		
			銅片	P-1	灰底直上	157		10.3		
			銅片	P-1	灰底直上	162Z		0.4		
			銅片	P-1	灰底直上	162Z		2.6		
			銅片	P-1	灰底直上	162Z		3.0		
			銅片	P-1	灰底直上	187Z		0.7		
			銅片	P-1	灰底直上	188		0.4		

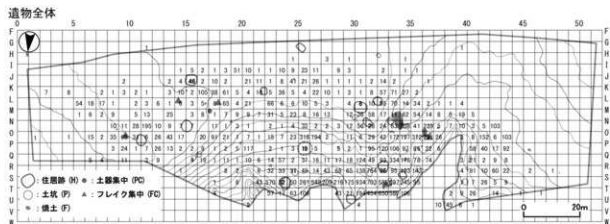
V 包含層出土遺物

1 概要 (図V-1～7、表V-1)

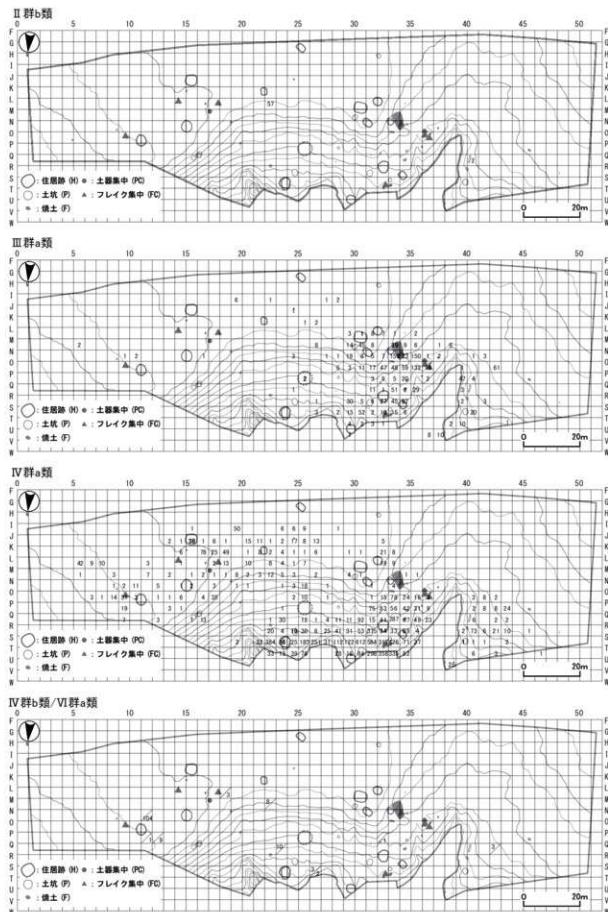
包含層出土遺物は、土器が9,479点、石器等が8,269点、計17,748点である。遺物は遺構の分布に対応し、①0～28ラインの海岸段丘平坦面と②30～40ラインの段丘平坦面から下部の緩斜面、および、③20～36ラインの緩斜面下部の平坦面にまとまりがあり、特に③は高密度である。

土器は縄文時代前期後葉のⅡ群b類が59点、中期前半のⅢ群a類が1,747点、後期前葉のⅣ群a類が7,418点、後期中葉のⅣ群b類が24点、続縄文時代前半期のⅤ群a類が117点、不明が114点である。不明を除いた比率ではⅣ群a類が79%、Ⅲ群a類が19%、Ⅴ群a類が1%、Ⅱ群b類が0.6%、Ⅳ群b類が0.3%で、Ⅳ群a類とⅢ群a類で98%を占める。遺構出土点数と比べるとⅣ群b類は遺構の比率が高く、Ⅱ群b類はほぼ、Ⅴ群a類は全て包含層出土で、Ⅲ群a類はⅣ群a類に比べ遺構の比率が高い。Ⅱ群b類は円筒下層b式、Ⅲ群a類は円筒上層b式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式、Ⅳ群a類は天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式、Ⅳ群b類はウサクマイC式、手稲式、Ⅴ群a類は恵山式が含まれる。分布はⅢ群a類が②にまとまり、Ⅳ群a類は①と③を中心に広範囲で、特に③に高密度である。Ⅳ群b類は22・23ラインに偏在し、同時期のH-7とP-1の周辺にスポット的に分布する。Ⅴ群a類は11・12ラインに点状に分布し、北側に伸びる可能性がある。

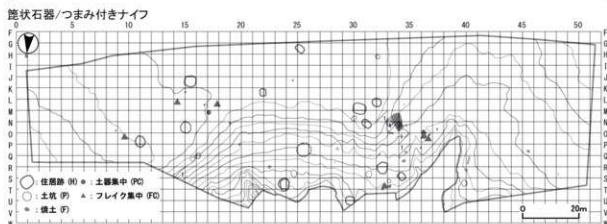
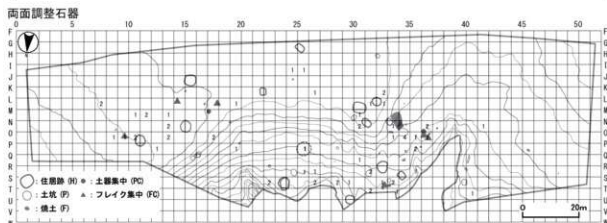
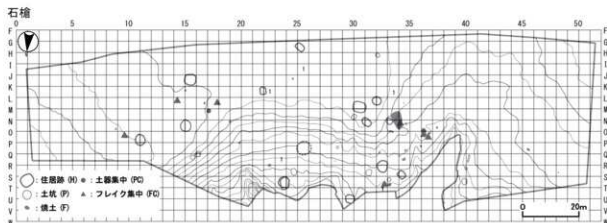
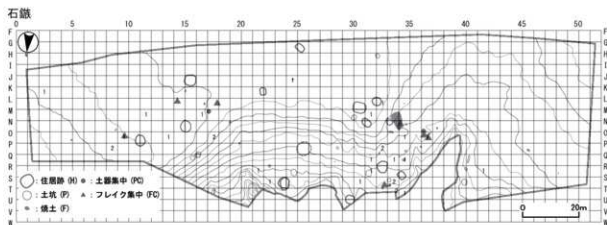
石器は、石鏃・石槍・両面調整石器・篋状石器・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石錐・Rフレイク・Uフレイク・石核・石斧・北海道式石冠・扁平打製石器・すり石・たたき石・砥石・台石・石冠・石製品・原石・加工痕のある礫が出土している。石槍・つまみ付きナイフは少なく、スクレイパーやRフレイクが多い。石鏃は遺構の比率が高いが、それ以外は包含層の比率が高い。石鏃・両面調整石器・石核はほぼ全域に分布し、スクレイパー・Rフレイクは②③に多い。石錐は③に、北海道式石冠やすり石は②に偏在する。被熱礫は②③に多く、廃棄された炉石も含まれるとみられる。(鈴木)



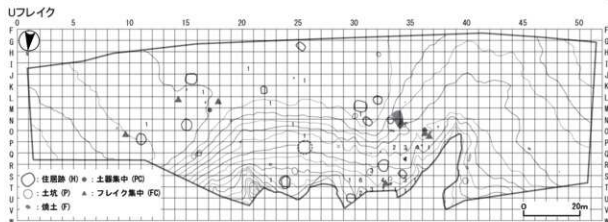
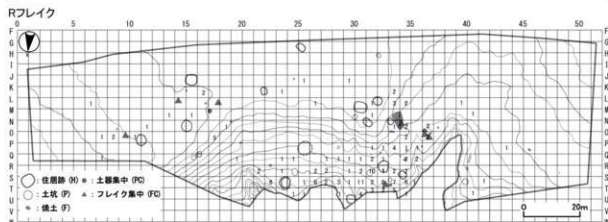
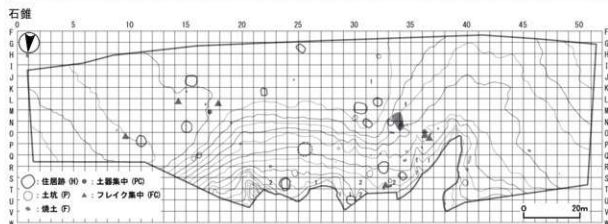
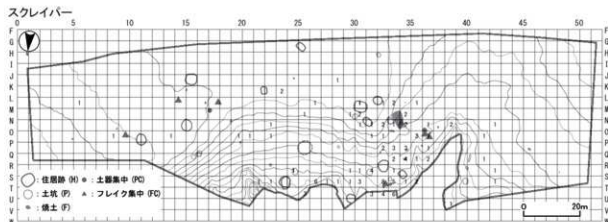
図V-1 包含層出土全遺物分布



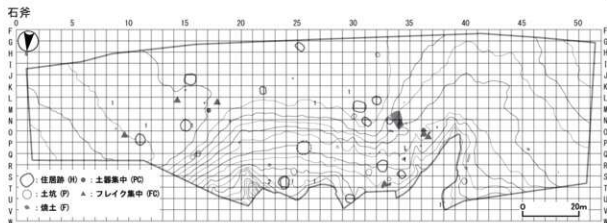
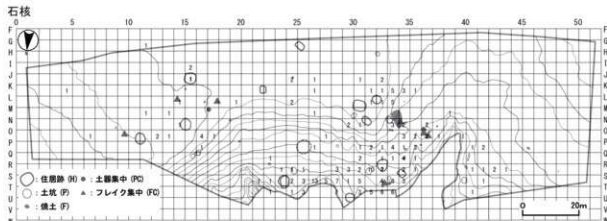
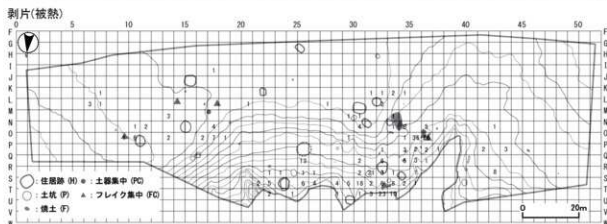
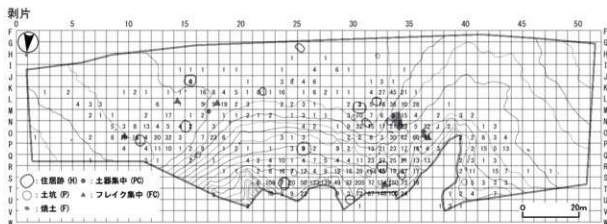
図V-2 包含層出土土器分布



図V-3 包含層出土石器分布 (1)

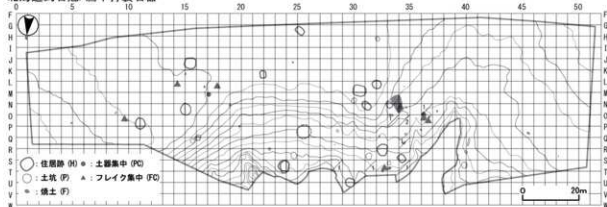


図V-4 包含層出土石器分布(2)

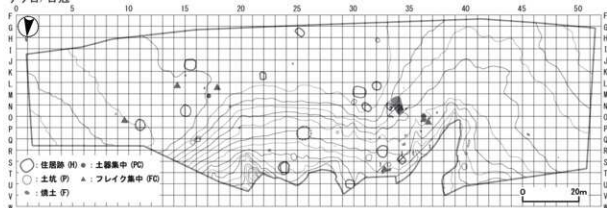


図V-5 包含層出土石器分布 (3)

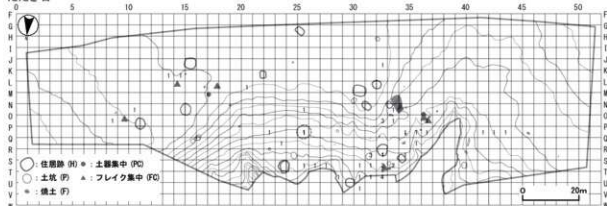
北海道式石冠/扁平打製石器



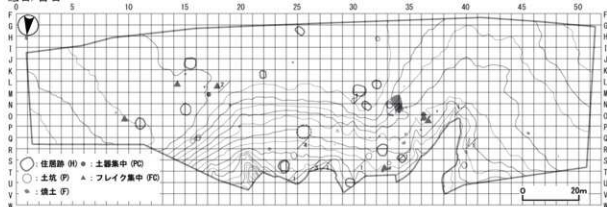
すり石/石冠



たつき石

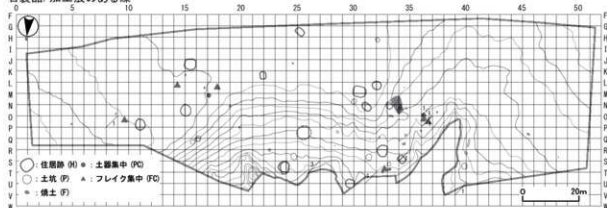


砥石/台石

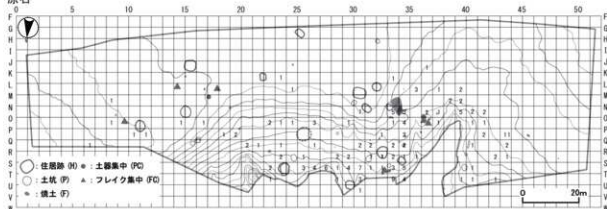


図V-6 包含層出土石器分布 (4)

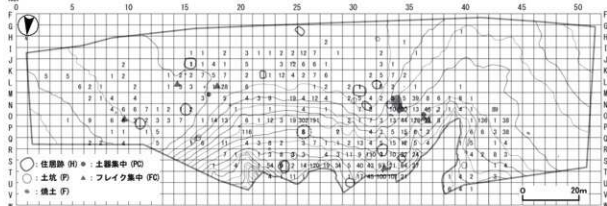
石製品/加工痕のある礫



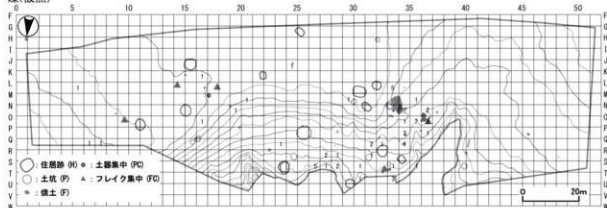
原石



礫



礫(被熱)



図V-7 包含層出土石器分布 (5)

2 土器

II群b類 (図V-8-1、図版68)

1は縄線文2条がめぐらされた円筒下層b式の口縁部で、地紋は付加条の縄文が施されている。胎土には少量の繊維が含まれる。

III群a類 (図V-8-2～図V-9-55、図版68・69)

2～16は円筒上層b式相当の口縁部と胴部である。17～43はサイベ沢Ⅶ式～見晴町式の口縁部と胴部である。44～55は底部である。17～28は細い粘土紐が貼付されるもので、17・25・26の粘土紐上には地紋と同じ文様が施されている。29～31・37・38・43は沈線文が施されている。

IV群a類 (図V-10-56～図V-15-204、図版70～75)

56～67は口縁部や胴部にバンド状の貼付を有するもの、あるいはそれに類するものである。全て平縁の深鉢形で、比較的大型のものが多く、貼付帯上に施される縄文は原体を横位に回転施文させたもので、胴部とは施文の向きが異なる。56～61・64～67が口縁部、62・63が胴部である。56は小型の深鉢である。57・59・65は口唇部が内面側に傾く口縁部で、胴部には原体を縦位に回転施文させた縄文と綾絡文が施されている。58・60は貼付帯上に縄線文が施されている。

69～85は縄文が施された口縁部である。平縁で深鉢形を呈すると考えられる。68～71・76・77の口縁部には、横位に回転施文した縄文が施されており、胴部とは条の向きが異なる。80もその可能性がある。81～83・90は条が横になる縄文、85は条が縦になる縄文が施されている。83の口唇部近くには横環する沈線文も認められる。

86～89は折返し口縁を有するもの、91～95は縄線文が施されるもの、96・97は丸いボタン状の貼付が施される口縁部である。98～102は燃糸文が施される深鉢形土器で、98～100は網目状に縄文が施されている。103は縄文が施されたミニチュア土器である。

56～103は余市式(天祐寺式)・涌元式に相当すると考えられる。

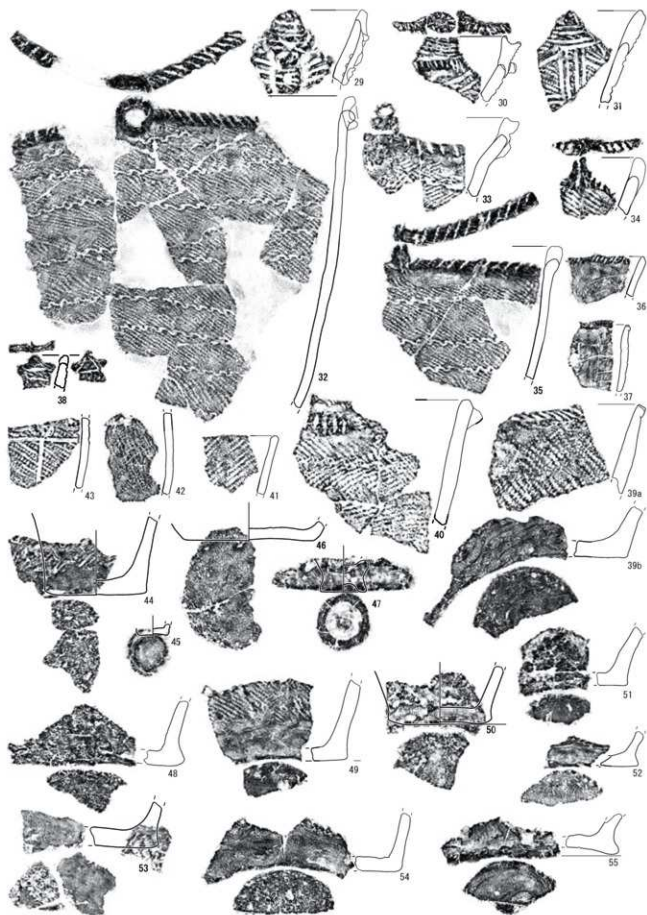
104～126は縄文と沈線文が施されたもので、106・122が復元土器、104・105・107・108・111・112が口縁部、113～121・123～126が胴部片である。器形は深鉢形が多く、口縁は低い山形突起を有するものと平縁のものがある。頸部に明瞭な屈曲が見られるものもある。深鉢以外の器形は104が鉢形、109・110が壺形を呈すると考えられる。104～108は口唇部にも縄文が施されるもので、104は口縁の内面側の一部にも同様の文様が施されている。106は低い山形突起上にだけ棒状工具による刻みが施されている。109・110は切斯蓋付土器の蓋と胴部で、2点とも器壁は薄く造りが丁寧である。109は無文の蓋部分、110が縄文と細い曲線的な沈線文が施された胴部である。111～121の沈線は比較的太く明瞭なものが施されている。121・122は器面に縦位の調整痕が明瞭に窺える。125・126は小型土器の胴部で同一個体と考えられる。

127～146は曲線基調で構成される沈線文が特徴のもので、132・145以外は比較的細目で浅い沈線を主体とする。127～137が口縁部、138～146が胴部である。器形は深鉢形が多く、146が壺あるいは注口形を呈する可能性がある。127・130は小柄な山形突起に豆粒状の粘土が貼付されたもので、補修孔を有している。142は不明瞭な縄文が施されている。145は2本の沈線の間に条痕も施されている。146は器壁が薄く丁寧な造りが特徴のもので、壺あるいは注口形を呈すると考えられる。この時期の注口は類例が少ない。

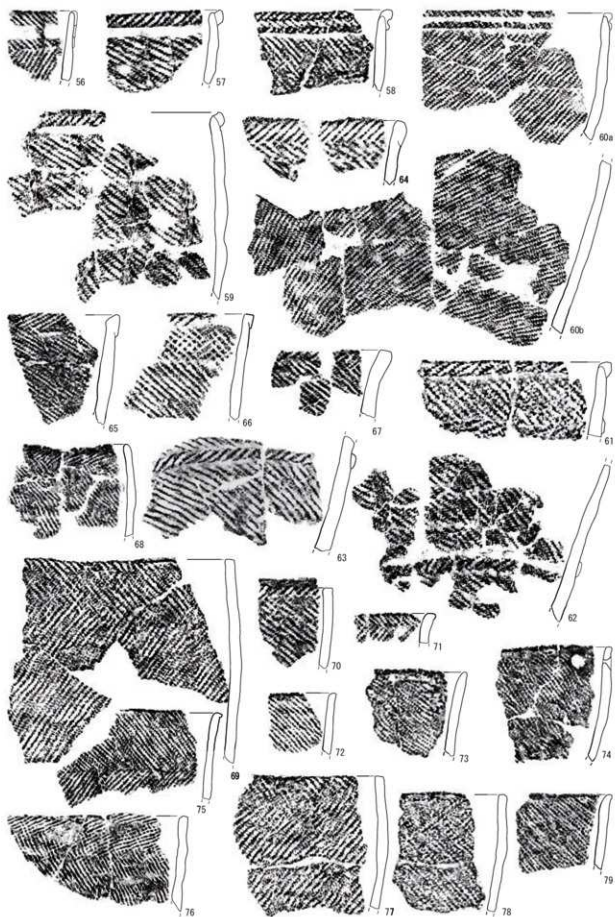
147～154は縦横斜めの沈線で幾何学的な文様が描かれた深鉢形土器で、沈線は太く明瞭なものが多い。147～151・153・154が口縁部、152が胴部である。147・150は口縁部に低い山形突起を有しており、150の突起部内面側にも沈線による文様が施されている。153は口縁内面に横位の研磨が施されて



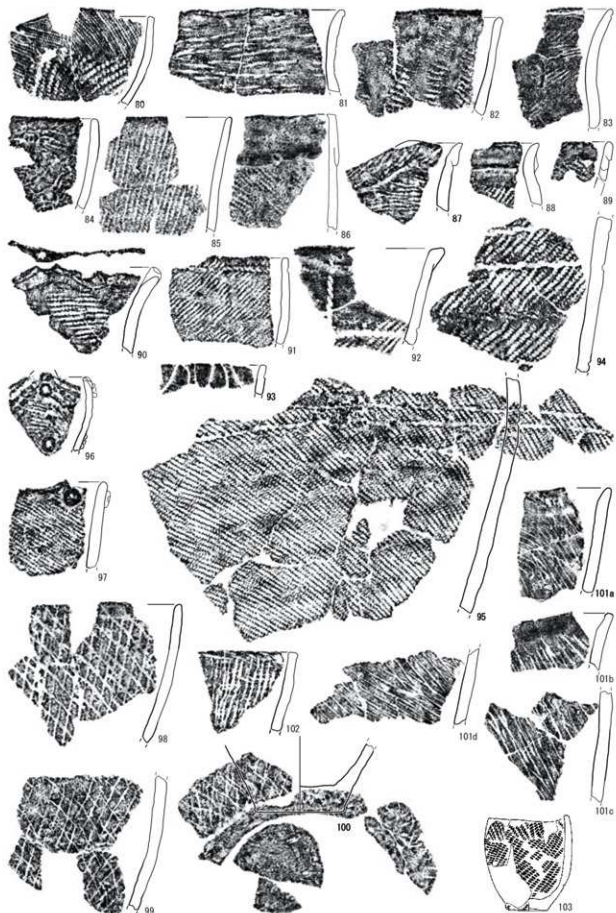
圖V-8 包含層出土土器 (1) Ⅱ群b類·Ⅲ群a類 (1)



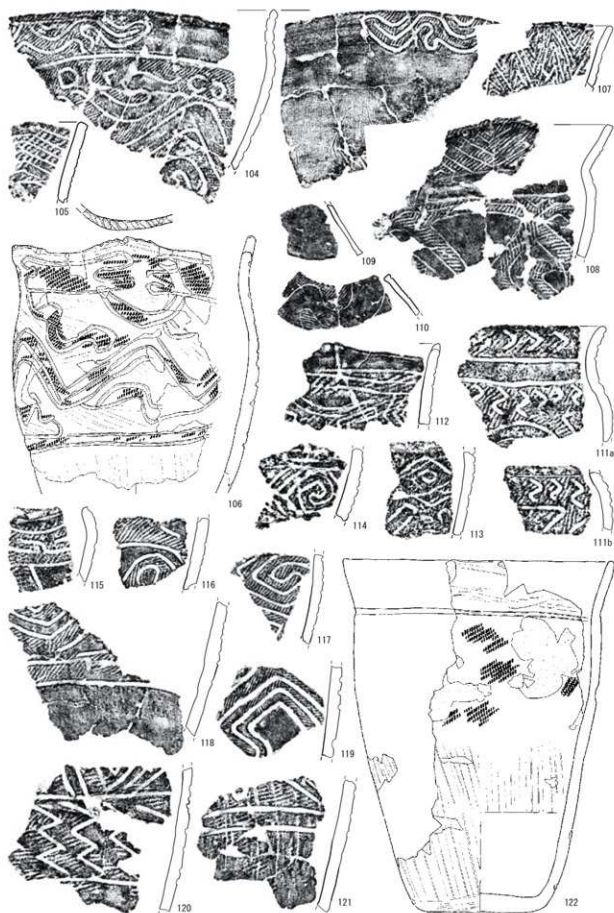
図V-9 包含層出土土器(2)Ⅲ群a類(2)



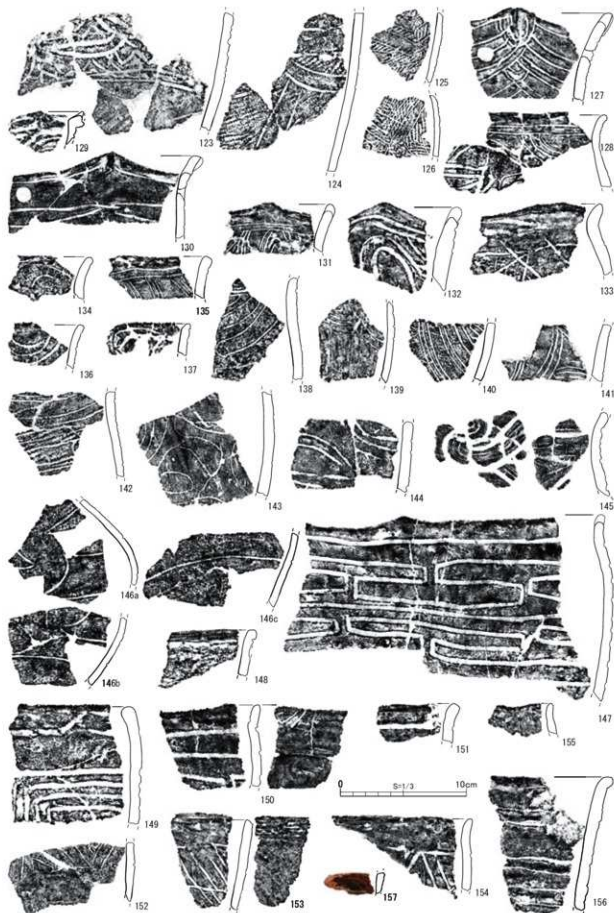
圖V-10 包含層出土土器(3)IV群a類(1)



図V-11 包含層出土土器(4) IV群 a類(2)



圖V-12 包含層出土土器 (5) IV群 a類 (3)



図V-13 包含層出土土器(6)IV群a類(4)

いる。

155は細く密な条痕を縦に施した小型土器の口縁部、156は2本の沈線文の間に粘土を盛り上げる浮き彫り状の文様が描かれた口縁部である。157は表面に黒色と赤色の顔料状の物質が塗布あるいは付着する器壁の薄い胴部片である。付着物についてはⅥ章7節(P.269)に分析報告がある。

104～157は大津式・入江式・トリサキ式・白坂3式に相当すると考えられる。

158～168は無文深鉢形土器の口縁部(158～164)と胴部(165～168)である。頸部が括れるものが多く、口縁部は160・163が波状を呈する以外平縁である。160・167は器面の研磨が際立っており、鈍い光沢を放っている。同一個体の可能性がある。

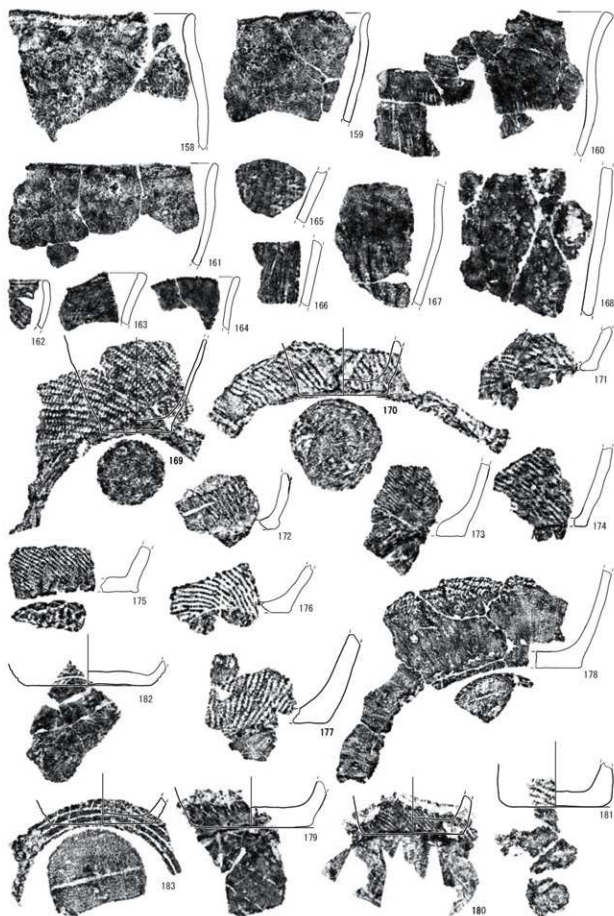
169～204は底部である。169～184は器面に縄文が施されるもので、182・183は細目の平行沈線文も施されている。184～204は器面が無文のもので、204は底面に網代痕が残されている。

Ⅳ群b類 (図V-15-205～209、図版75)

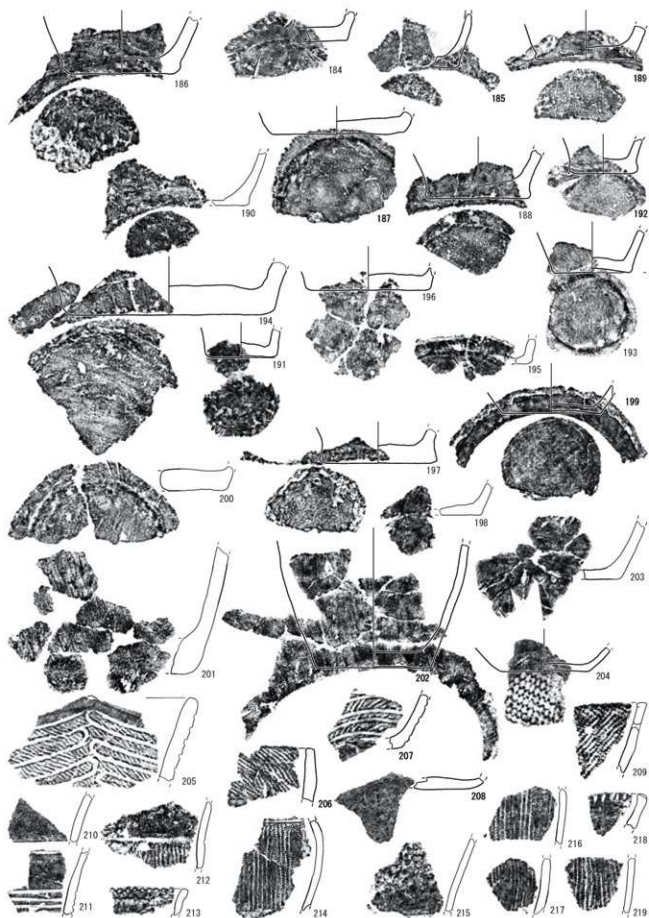
205は波状を呈する口縁部で、平行沈線文の区画内に縄文が認められる。206・209は縄文の施された口縁部である、209はⅣ群a類の可能性もある。207・208は底部である。208は器壁が薄い。これらは古手の手稲式と考えられる。

Ⅵ群a類 (図V-15-210～219、図版75)

213・218は口唇の表側の角に刻みが施される口縁部、210～212・215は口縁の無文部を含む胴部、214・216・217・219は条が縦位となる縄文が施された胴部である。211は平行沈線文、212は沈線文の下に縄文が施されている、214の上端部には頸部の沈線文が認められる。これらは恵山式に相当すると考えられる。(皆川)



図V-14 包含層出土土器 (7) IV群 a類 (5)



圖V-15 包含層出土土器 (8) IV群 a類 (6) · IV群 b類 · IV群 c類 · VI群

3 石器ほか

石鏃 (図V-16-1~21、図版76)

30点出土し、頁岩製26点、めのう製1点、安山岩製1点、凝灰岩製1点、黒曜石製1点である。頁岩以外に多様な石材が含まれる。21点を図示した。

1~7は菱形~柳葉形。8~21は有茎で、8~14は短身、15~21は長身である。3は凝灰岩、6は安山岩、7は黒曜石、21はめのう製である。7(KO3-X10)は黒曜石産地分析の結果、「赤井川」と判定された。

石槍 (図V-16-22~25、図版76)

6点出土し、頁岩製5点、黒曜石製1点である。4点を図示した。22は剥片素材、細身であるが加工は粗い。23は幅広く、平坦剥離により薄く加工される。上部は粗い加工で折損による再加工の可能性がある。24は横長剥片素材で、やや大型品が折損したもの。25は黒曜石製の尖頭部破片で、H-7出土の図IV-78-55・56に類似する。25(KO3-X11)は黒曜石産地分析の結果、「上土幌」と判定された。

両面調整石器 (図V-16-26~図V-17-31、図版76)

65点出土し、頁岩製62点、泥岩製2点、片岩製1点である。6点を図示した。26・27は細長い形状のもので、加工は比較的粗い。26の正面下端は長軸方向の剥離により篋状である。28・29は円形搔器状でやや厚みがある。30・31は主に一側縁の両面に加工が施され、30の左側縁両面に光沢が残る。

篋状石器 (図V-17-32~34、図版76)

3点出土し、全て頁岩製である。3点を図示した。32・33は横長剥片素材で、32の加工はやや粗い。全て撥形で、34の下端部は両面への平坦剥離により直線的に加工される。

つまみ付きナイフ (図V-17-35、図版76)

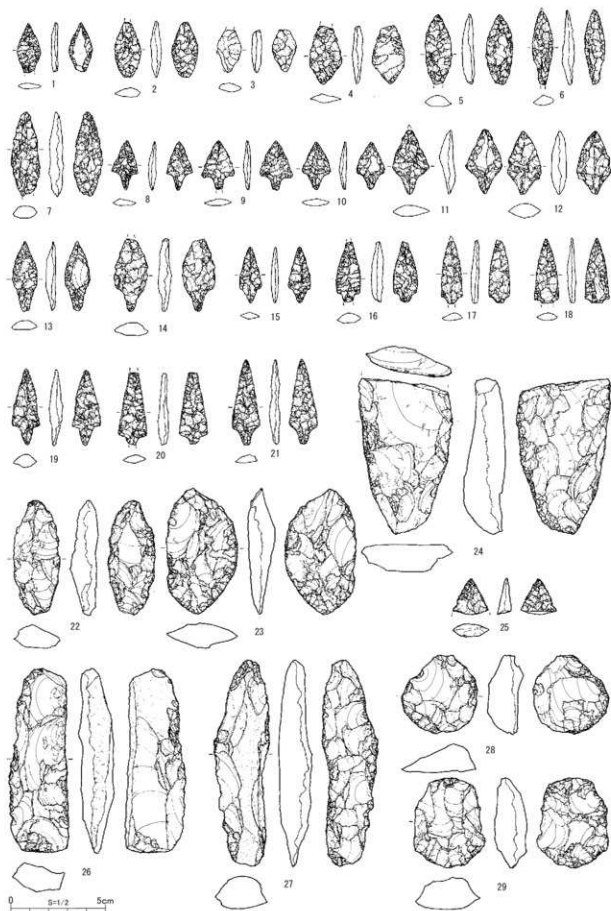
2点出土し、頁岩製である。1点を図示した。35は縦長剥片素材の縦型のもので、背面の両側縁に加工が施される。やや内湾した腹面左側縁に光沢が残る。

スクレイパー (図V-17-36~図V-22-87、図版76~78)

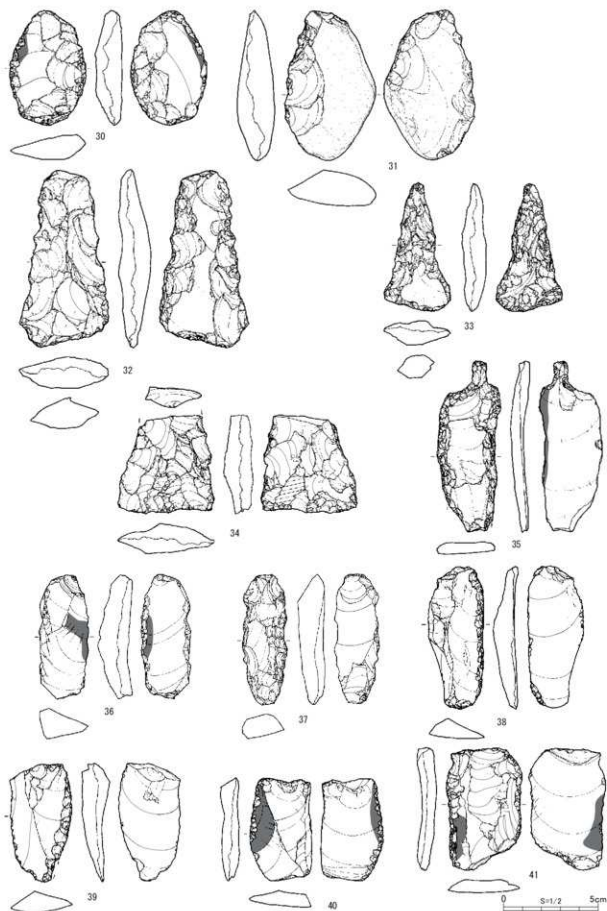
117点出土し、頁岩製115点、めのう製1点、安山岩製1点である。52点を図示した。81は安山岩製で、その他は頁岩製。36~52は縦長のもので、素材は縦長の作業面を持つ石核から剥離されたとみられる。36~38は長幅比2.5以上のより長いタイプ。37は厚手の素材の両側縁に急角度の加工が施される。39~52は長幅比1.6~2.5で、主に一側縁に加工がみられ、その縁辺に光沢が発達するものが多い。加工は光沢を切るものがほとんどで、刃部再生の目的で行われたものと考えられる。49~52は端部が弧状に調整される。53・54は両面調整体から剥離されたとみられる短寸の剥片素材で円形搔器状に加工されるが、53の表面左には光沢が残り、刃部は側縁である。55~66は平面形が三角ないし四角形の斜軸剥片または横長剥片素材で、主に素材打面の反対側の長辺に加工が加えられ、その辺に光沢が残るものが多い。65・66は素材打面側にも平坦剥離による加工が施される。67~83は長幅比1.0~1.6で、やや短い剥片素材である。両側縁が平行で長方形のものが目立つ。加工は背面側を主体として一側縁・両側縁ともにあるが、70・75・78のように錯行状のものもある。84~87は大きく欠損しているものである。

石鏃 (図V-22-88~94、図版78)

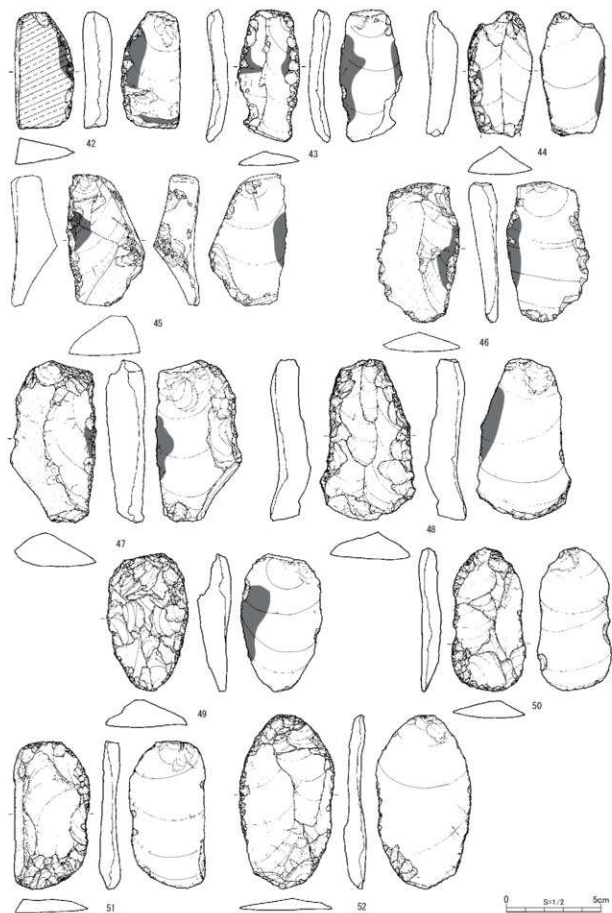
16点出土し、全て頁岩製である。6点図示した。88~90・94は斜軸剥片素材で、鋭角に張り出した素材端部が刃部に加工される。91~93はその他の剥片素材で、折れ面などを利用して刃部が作出される。



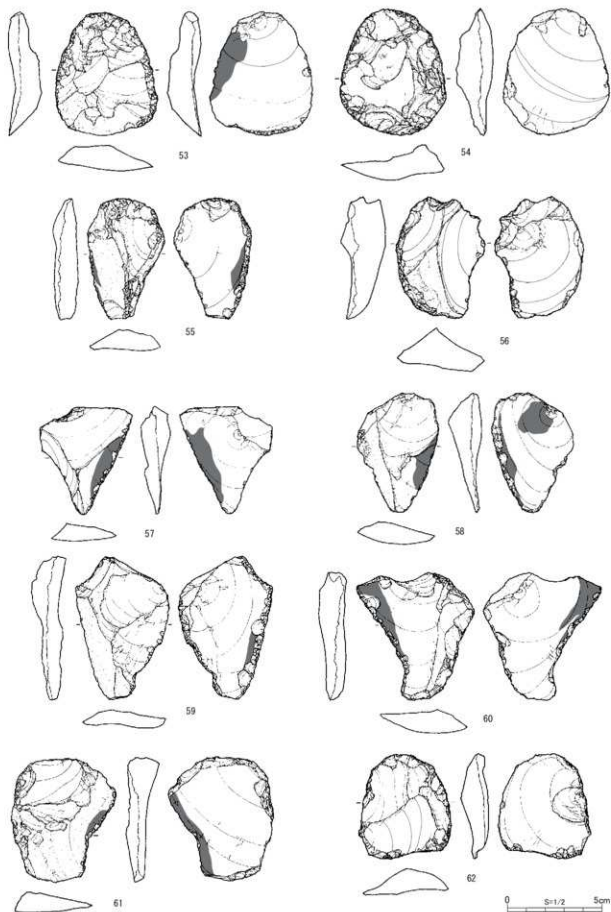
圖V-16 包含層出土石器(1) 石鏃·石槍·兩面調整石器(1)



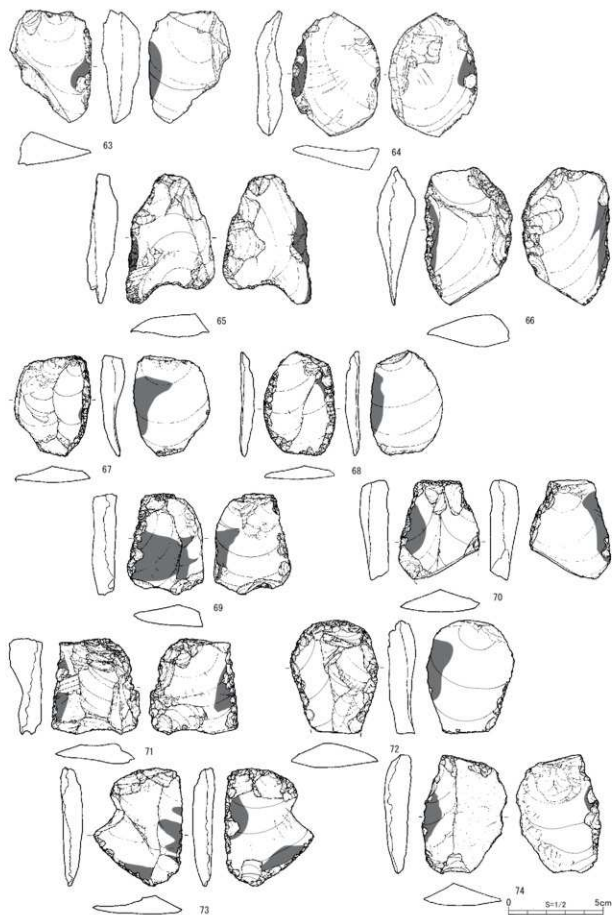
図V-17 包含層出土石器(2) 両面調整石器(2)・筥状石器・スクレイパー(1)



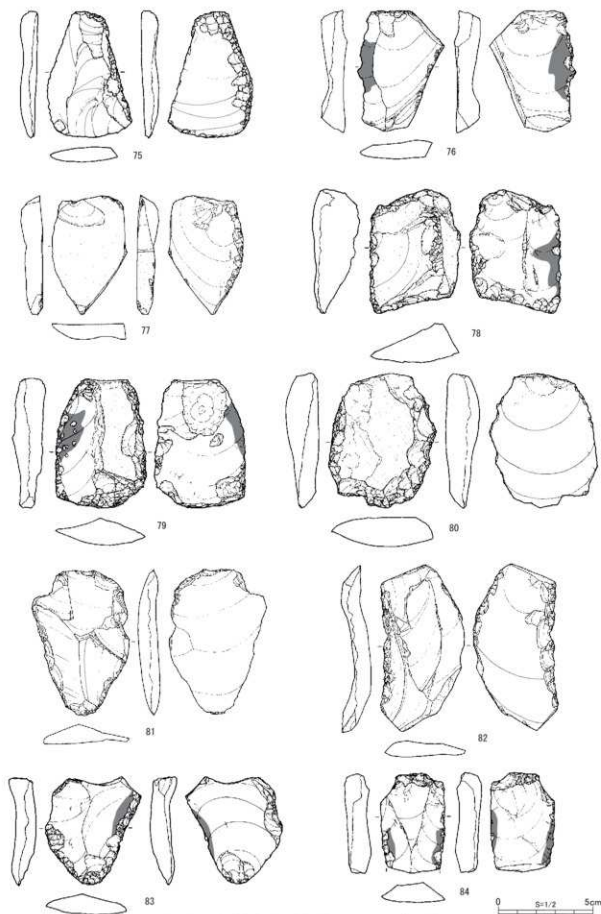
図V-18 包含層出土石器(3) スクレイパー(2)



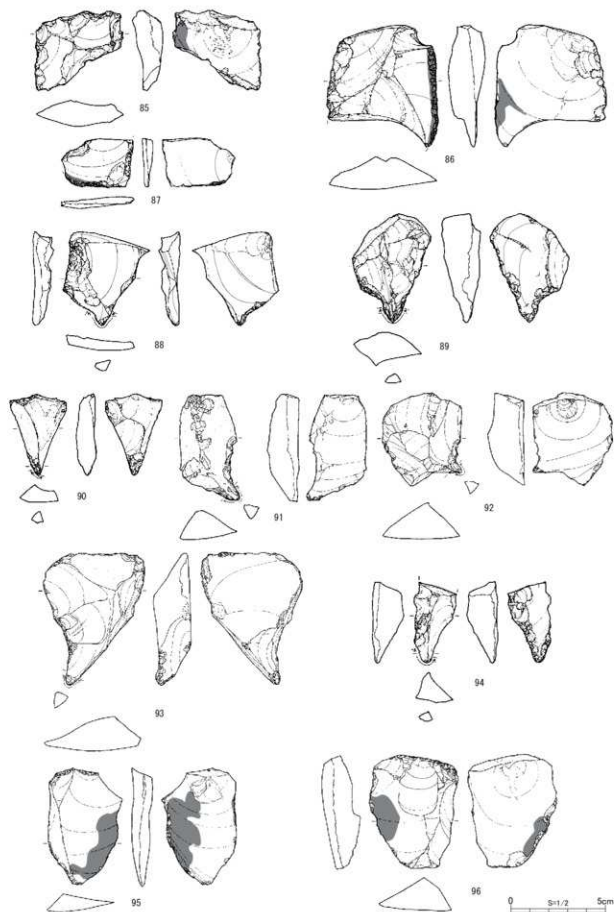
図V-19 包含層出土石器(4) スクレイパー(3)



図V-20 包含層出土石器 (5) スクレイパー (4)



図V-21 包含層出土石器(6)スクレイパー(5)



図V-22 包含層出土石器 (7) スクレイパー (6)・石錘・Rフレイク

Rフレイク (図V-22-95・96、図版78)

165点出土し、頁岩製161点、泥岩製2点、チャート製1点、砂岩製1点である。2点を図示した。95・96ともに原礫面打面の剥片素材で、中軸に対して斜めの縁辺に連続しない剥離があり、両面に光沢がみられる。

Uフレイク (図V-23-97～108、図版78・79)

50点出土している。全て頁岩製である。12点を図示した。97～99は長幅比1.6以上の比較的縦長のもの。一側縁に微細剥離があり、光沢が両面に残る。100～102は斜軸剥片素材で、最も長い辺に微細剥離と光沢が残る。103～108はやや短い剥片素材で、一側縁に微細剥離と光沢が残る。

剥片 (図V-24-109・110、図版79)

3,998点出土している。頁岩3,895点、泥岩74点、片岩10点、緑色泥岩6点、安山岩4点、砂岩3点、チャート2点、凝灰岩2点、黒曜石2点である。頁岩製が97%と圧倒的に多く、石核や剥片石器の比率と一致する。109・110は光沢の残るもので、両者とも寸詰まりの剥片素材である。光沢は一側縁の両面に残るが、分布範囲は狭い。光沢の残るスクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片を比べると後三者は微細剥離や不規則な剥離のみの違いであることから無加工で使用されたと考えられる。スクレイパーは連続的な二次加工が見られるものの加工面に光沢が残存するものが少なく、加工によって光沢面が除去されたとみられる。縦長剥片・斜軸剥片・短い剥片など素材にも違いがなく、機能にも違いがない(Ⅵ章7)ことから、当初は無加工の剥片を使用し、刃部再生を行うことでスクレイパーに形態変化したものと思われる。

石核 (図V-24-111～図V-27-138、図版79・80)

218点出土している。頁岩製212点、泥岩製5点、チャート製1点である。28点を図示した。111～117は原礫面打面のものである。盤状の原石の小口面で単設打面からやや寸詰まりの剥片を剥離するもの(111～113)、平坦面を作業面に設定するもの(114～117)があり、後者は打面転移されるもの(116・117)がある。118～120は楕円～四角形の盤状の原石を素材として、一縁辺にチョッパー状の剥離が行われ、剥離角は60度前後である。121～130は打面と作業面を入れ替えながら剥離が行われるもの。121～127は主に上面と正面で作業が行われ、128～130はその他の面でも剥離が行われ、ブリズム状である。131～135は楕円形の扁平礫素材で、短軸方向の剥離が行われ、134は両面に剥離面がある。136～138は扁平礫素材で両面での剥離が進行したものである。

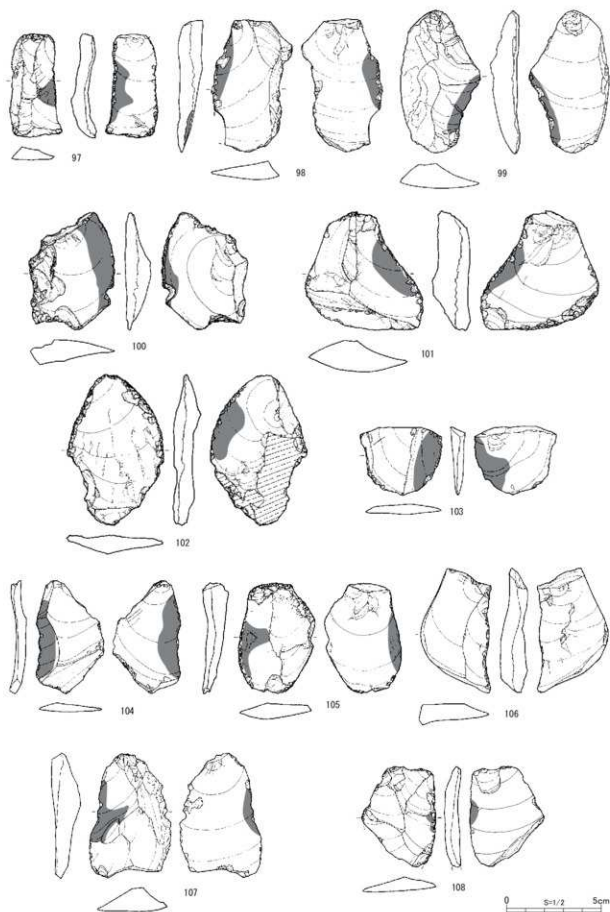
石斧 (図V-27-139～図V-28-146、図版80・81)

14点出土し、片岩製7点、砂岩製3点、緑色泥岩製3点、安山岩製1点である。8点を図示した。139は幅の狭い整状のもので、刃部は欠損している。140～142は10cm以下の小型品、143～145は10cm以上のもので、146は折損品である。140は断面四角形。142はやや厚手で、刃部を除いた広い範囲に敲打による加工が見られ、断面は楕円形である。143・145は側面からの剥離による整形後に研磨が行われる。140・141・144・146は全面研磨が見られる。143～145は刃部が斜めに傾斜している。146は刃部片側が欠損している。

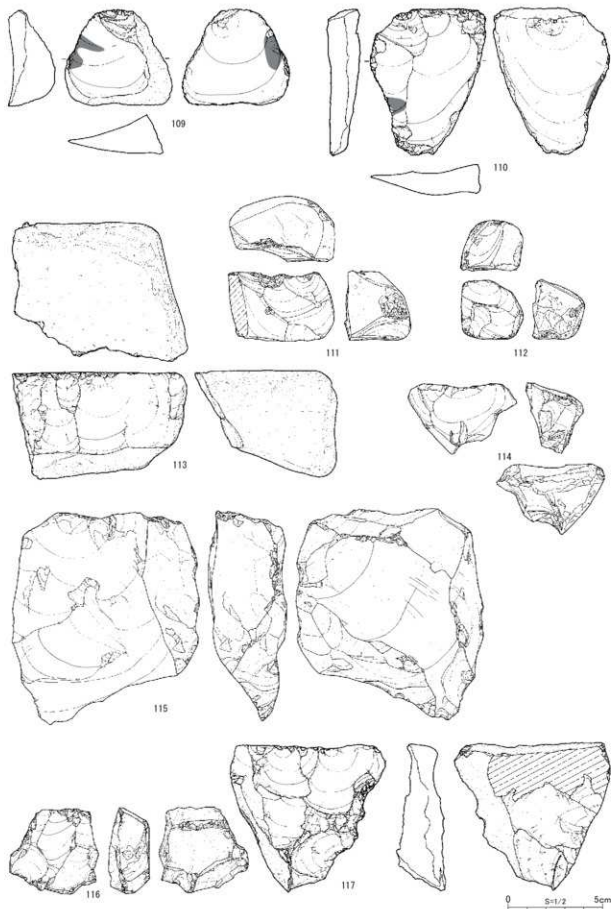
北海道式石冠 (図V-28-147～図V-29-149、図版81)

4点出土し、安山岩製3点、砂岩製1点である。3点を図示した。147・149は安山岩製、148は砂岩製。147はほぼ全面敲打により整形され、両端部を欠損する。148は平坦な素材を利用して上面・くびれ部への部分的な加工で整形され、左下部を欠損する。149は広範囲に敲打整形されるが、くびれ部は浅く不明瞭である。

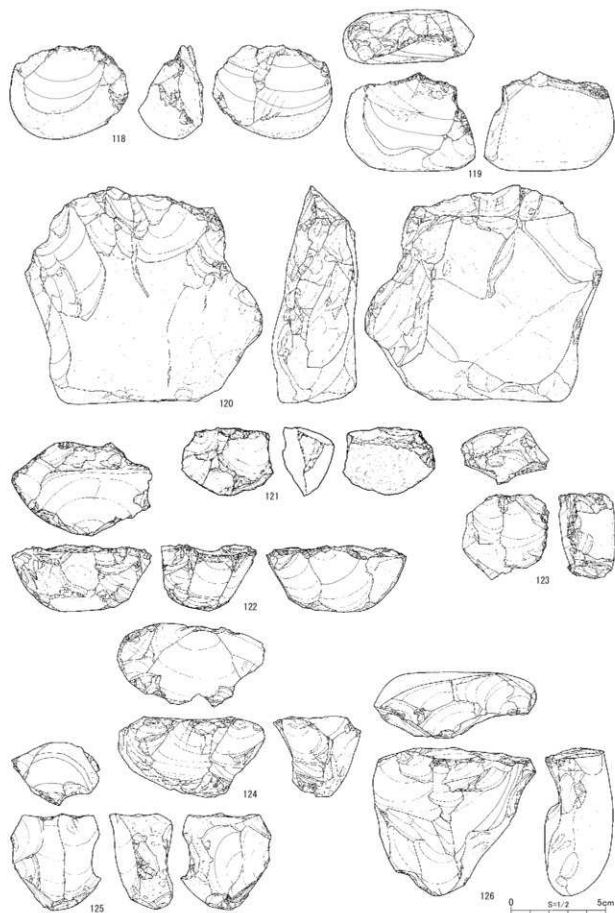
扁平打製石器 (図V-29-150～153、図版81)



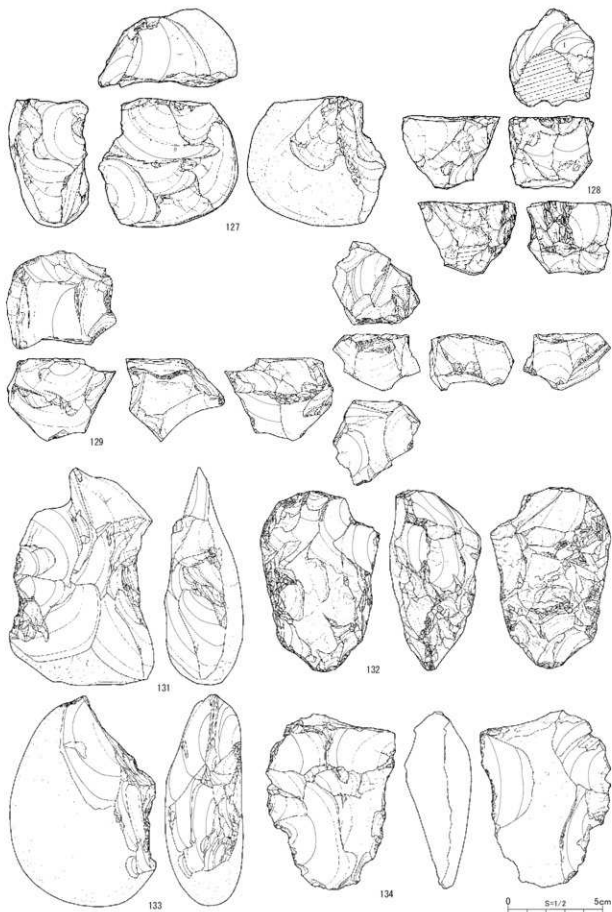
図V-23 包含層出土石器 (8) Uフレイク



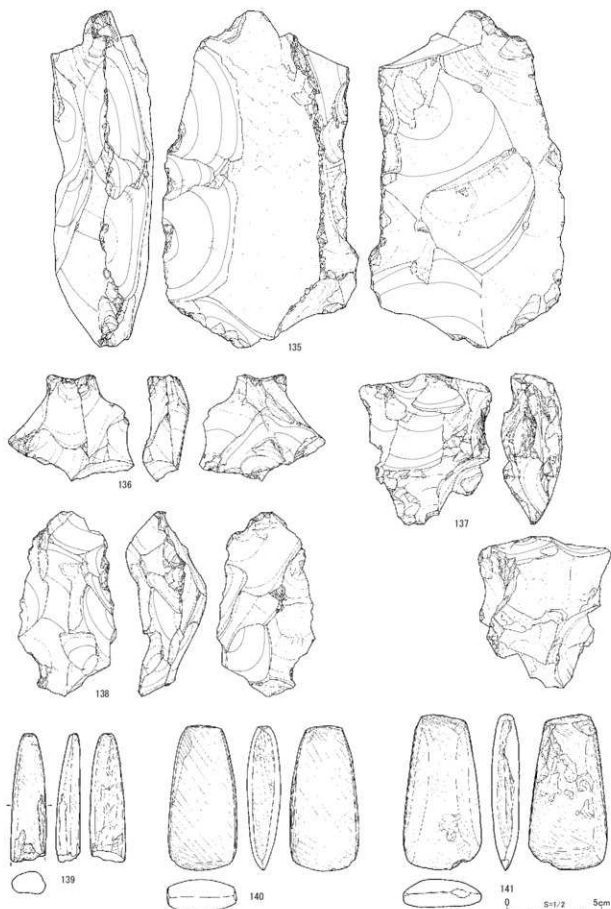
図V-24 包含層出土石器(9) 剥片・石核(1)



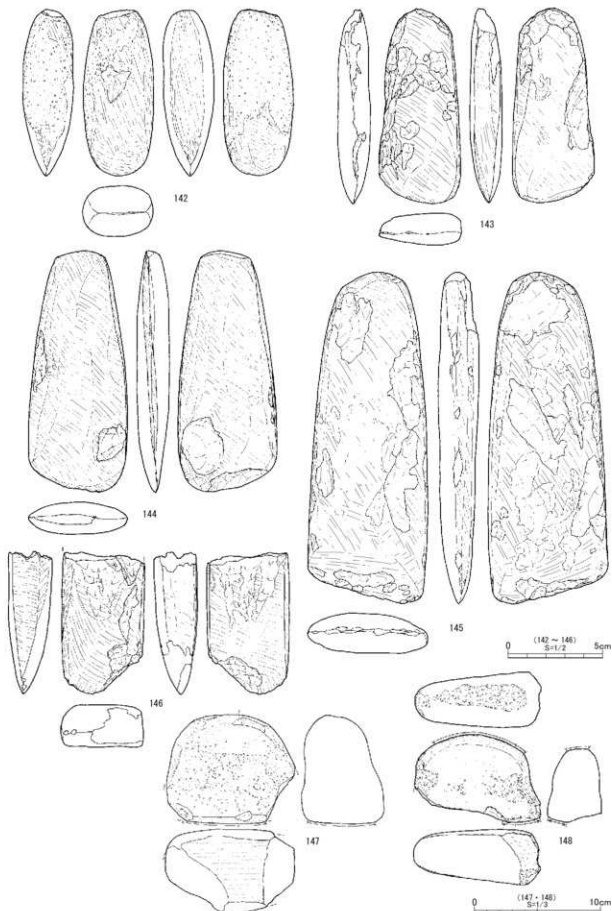
图V-25 包含層出土石器 (10) 石核 (2)



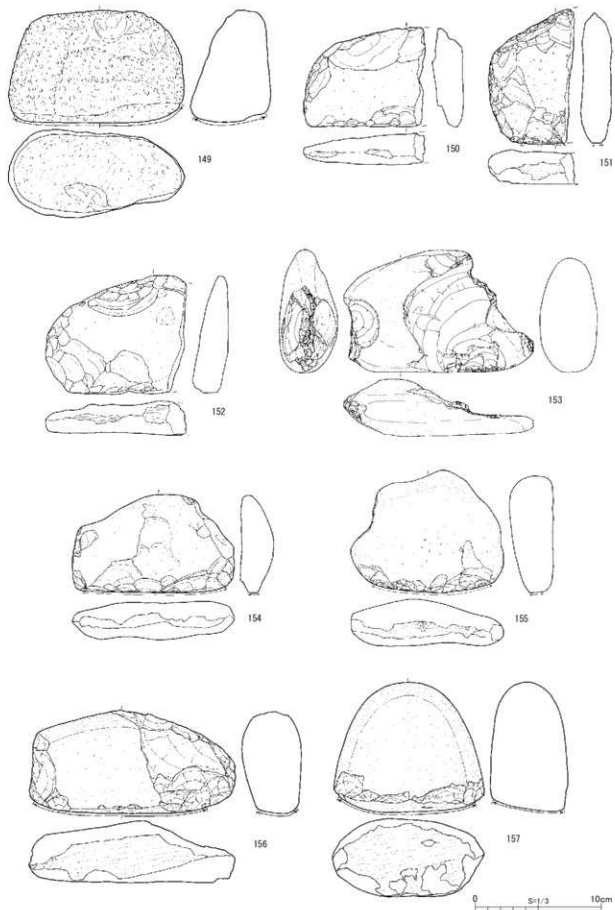
図V-26 包含層出土石器(11) 石核(3)



图V-27 包含層出土石器 (12) 石核 (4) · 石斧 (1)



図V-28 包含層出土石器(13)石斧(2)・北海道式石冠(1)



図V-29 包含層出土石器 (14) 北海道式石冠 (2)・扁平打製石器・すり石

5点出土し、安山岩製3点、泥岩製2点である。4点を図示した。150～152は安山岩製、153は頁岩製。150～152は欠損品である。全周縁の平坦剥離により側縁は斜めなし直立し、上部は弧状に整形される。下縁部は直線的で下面には擦り面状の平坦面が部分的に残る。3点とも縦に折れており、上下方向の力で欠損したと思われる。153は側縁に長軸方向の剥離があり、正面の下面からの剥離によって大きく破損している。技術的特徴から本器種として分類した。

すり石 (図V-29-154～157、図版81)

8点出土し、安山岩製6点、砂岩製1点、閃緑岩製1点である。5点を図示した。154・155・157は安山岩製、156は閃緑岩製、158は砂岩製である。154・155は扁平打製石器に類似するが、下面の平坦面がやや広いためすり石とした。下面の平坦面に沿った下縁には刃こぼれ状の剥離がみられる。156は側縁に長軸方向の剥離がある。正面右側は剥離が覆い、その上下は両面の剥離によって稜状である。157は楕円磔を半割したような形状で、周溝はないが北海道式石冠に類似する。

石冠 (図V-30-158、図版81)

158は砂岩製で、全面に敲打ないし研磨による整形がみられる。正・裏面は削り込まれ、両側面は縁を残し敲打による三角形の窪みが表現される。下面の擦り面には敲打による窪みが中軸上に3か所あり、中央が深く、両脇は浅い。上縁は鶏冠状に鋭く作り出される。その分布(図V-6)から、縄文時代後期前葉とみられる。類似資料は鷲ノ木4遺跡(森町教委2006:335頁)、大津遺跡(松前町教委1974:105頁)でも出土しており、出土状況からはほぼ同時期と考えられる。

たたき石 (図V-30-159～図V-31-173、図版81・82)

45点出土し、泥岩製21点、砂岩製13点、頁岩製7点、安山岩製4点である。15点を図示した。159・162は頁岩製、160・163は安山岩製、161・164～168は砂岩製、169～173は泥岩製。159～161は円形の磔を利用したもので、159・160は端部に、161はほぼ全周縁に敲打痕がある。162～164は棒状磔の末端部に、165・166は楕円扁平磔の側縁に敲打痕がある。167・168は楕円磔の肩部に敲打痕のあるもの。169～171は扁平磔の平坦面に敲打痕のあるもので、全て両面に残る。敲打痕は端部寄りに偏り、170の正面には点対称に位置し、171は中央と端部寄りに分布する。172・173は棒状磔の端部寄りに敲打痕が見られる。

砥石 (図V-31-174・175、図版82)

4点出土し、全て砂岩製である。2点を図示した。174は扁平な磔素材で平滑な擦り面がある。175は台形状の磔素材で、浅い窪み状の擦り面がある。

加工痕のある磔 (図V-31-176～179、図版82)

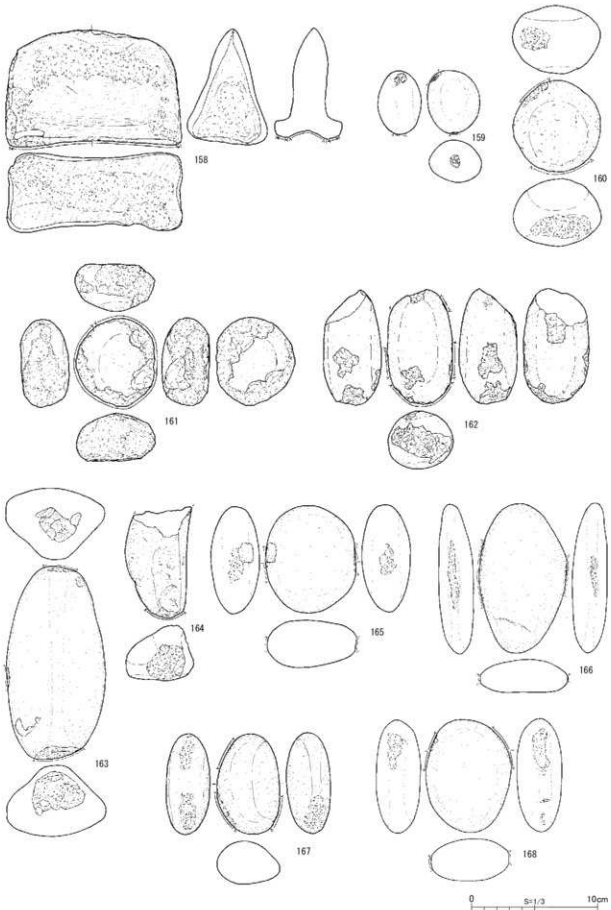
5点出土し、砂岩製3点、安山岩製1点、泥岩製1点である。4点を図示した。176は安山岩製、177・178は砂岩製、179は泥岩製。176～178は楕円～円形の扁平磔素材で、176は短軸方向の剥離面が残る。177・178は長軸の末端に対向する剥離があり、下縁は直線またはわずかに内湾する。179は湾曲した棒状の磔の端部付近に敲打による窪みが巡る。

台石 (図V-31-180、図版82)

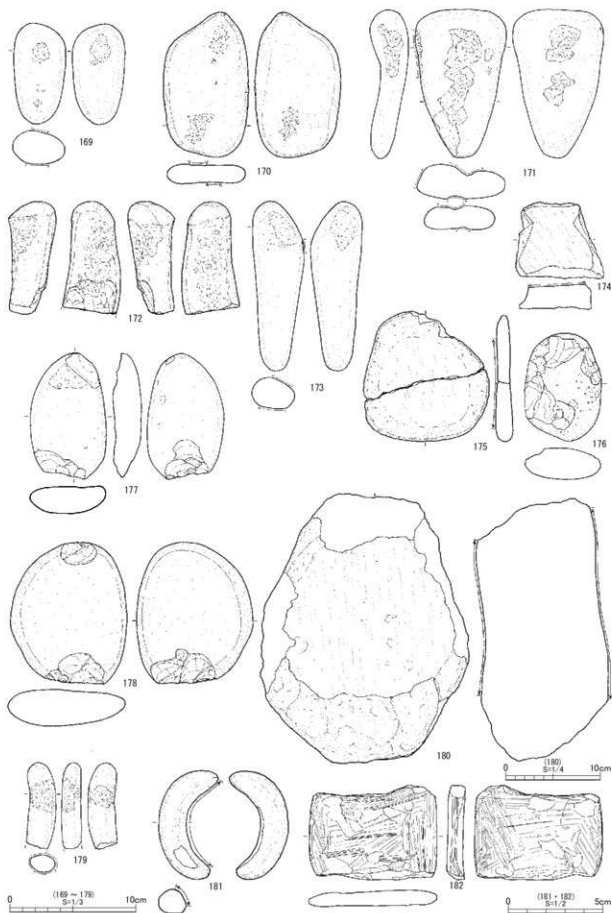
13点出土し、砂岩製5点、安山岩製4点、泥岩製4点である。1点を図示した。180は安山岩製で、厚さ10cm程の大型磔の両面に擦り面がある。表面は被熱により赤変し、一部剥落している。

石製品 (図V-31-181・182、図版82)

5点出土し、玄武岩製3点、凝灰岩製1点、泥岩製1点である。2点を図示した。181は凝灰岩製で、弧状の棒状磔に一部擦痕が見られる。182は泥岩製で長方形の素材が全面的に研磨される。擦痕は溝の深い粗いものと浅い細かいものがある。



図V-30 包含層出土石器 (15) 石冠・たたき石 (1)



図V-31 包含層出土石器 (16) たたき石 (2)・砥石・加工痕のある礫・石製品

礫

3,320点出土している。泥岩2,723点(82%)、安山岩248点(7%)、砂岩146点(4%)、チャート118点(4%)、石英岩39点(1%)、頁岩20点(0.6%)、凝灰岩18点(0.5%)、片岩3点(0.1%)、めのう2点(0.06%)、礫岩2点(0.06%)、軽石1点(0.03%)で、泥岩が主体である。(鈴木)

表V-1 包含層出土遺物一覧

種別	分類	石材	層位										総計		
			I	II	II~III	III	IIIa	IIIb	IV	V	V上面	機土			
土器	IIb					60									60
	IIIa		220	13		1,235		9							1,747
	IVa		82	214	317	6,343				49					442
	IVb		5		3	15									1
	Vla					107									10
	不明		6	9		7,92				1					6
小計			283	236	320	7,892	0	9	50	0	0	0	729	9,419	
石器ほか	石織	頁岩 めのう		1		21								4	26
		安山岩				1								1	1
		凝灰岩				1								1	1
	石槍	黒曜石	1			4									5
		黒曜石				1									1
	両面調整石器	頁岩	1	2	2	48								9	62
		泥岩				2									2
	籠状石器	片岩				1									1
		頁岩				1									2
	つまみ付きタイプ	頁岩				2									2
スクレイパー		2	6	7	84				1				15	115	
石錐	めのう		1		1									1	
	安山岩				11									4	
Rフレイク	頁岩	2	4	6	129									20	
	チャート				1									1	
Uフレイク	砂岩				1									1	
	泥岩				45									4	
剥片	頁岩	110	96	147	3,089	1	3	1					448	3,895	
	チャート				1									2	
石核	安山岩				1									1	
	凝灰岩				2									2	
	黒曜石				3									3	
	砂岩				50									19	
	片岩	1		1	9									10	
	緑色泥岩				5									1	
	頁岩	10	3	13	152		1							31	
	チャート				1									1	
	泥岩				5									5	
	安山岩			1										1	
石斧	砂岩	1			1									1	
	片岩	1			4									3	
北海道式石冠	緑色泥岩				3									2	
	安山岩	1			2									3	
扁平打製石器	砂岩				1									1	
	安山岩				4									5	
すり石	砂岩				2									2	
	頁岩				1									1	
たたき石	安山岩				2									2	
	砂岩	2			9									13	
砥石	砂岩		2	1	14									4	
	砂岩		1		3									4	
台石	安山岩				1					1				2	
	砂岩				3									5	
原石	泥岩				1									4	
	頁岩	5	7	5	129				4			2	20	172	
加工痕のある種	チャート		2											2	
	緑色泥岩				1									1	
種	安山岩				1									1	
	砂岩				2									1	
鏝	頁岩			1	14									5	
	チャート	6	8	5	80				6					13	
	めのう				1									1	
	安山岩	6	6	17	181				4	1				33	
	凝灰岩			1	17									18	
	軽石				1									1	
	砂岩	6	7	2	109			1	1					20	
	石英岩			2	20									5	
	泥岩	50	253	107	1,719			2	376					214	
	片岩				2									2	
石冠	砂岩				3									3	
	凝灰岩				2									2	
石製品	砂岩				1									1	
	凝灰岩				1									1	
小計		305	407	326	6,929	1	7	393	2				2	897	
総計		486	643	646	17,881	1	16	745	2				2	2,044	

表V-2 包含層出土掲載土器一覽

神岡	番号	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形・部位	備考	
V-8	1	Q34	Ⅲ	7	1	ⅠVa	口縁		
V-8	2	P40	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	3	K27	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	4	O40	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	胴部		
V-8	5	S32	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	6	K35	Ⅲ	2	4	ⅠⅡa	口縁		
V-8	7	O36	Ⅲ	8	4	ⅠⅡa	口縁		
V-8	8	S35	Ⅲ	1	5	ⅠⅡa	口縁		
V-8	9	K26	Ⅱ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	10	N38	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	11	N36	Ⅲ	4	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	12	N11	Ⅲ	1	2	ⅠⅡa	口縁		
V-8	13	S41	Ⅲ	1	4	ⅠⅡa	胴部		
V-8	14a	S34	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	胴部		
V-8	14b	S32	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	胴部		
V-8	15	S31	Ⅲ	1	2	ⅠⅡa	胴部		
V-8	16	O34	攪乱	6	2	ⅠⅡa	口縁		
V-8	17	Q36	Ⅲ	3	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	18	O43	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8		P40	Ⅲ	1	3	ⅠⅡa	口縁		
V-8	19	O35	Ⅲ	6	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	20	O33	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	21	N36	Ⅲ	4	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	22	N36	Ⅲ	2	2	ⅠⅡa	口縁		
V-8	23	O36	Ⅲ	10	1	ⅠⅡa	口縁		
V-8	24	O33	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	胴部		
V-8	25	I29	Ⅲ	2	2	ⅠⅡa	胴部		
V-8	26	Q36	Ⅲ	2	2	ⅠⅡa	胴部		
V-8		Q36	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	胴部		
V-8	27	O33	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	胴部		
V-8	28	M31	Ⅲ	2	15	ⅠⅡa	胴部		
V-9	29	N36	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	30	N36	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	31	K34	攪乱	11	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	32	N34	Ⅲ	3	8	ⅠⅡa	口縁～胴部		
V-9		N34	攪乱	5	8	ⅠⅡa	口縁～胴部		
V-9	33	O34	攪乱	6	2	ⅠⅡa	口縁		
V-9	34	N36	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	35	N30	Ⅲ	3	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9		N34	攪乱	3	2	ⅠⅡa	口縁		
V-9		N34	攪乱	5	1	ⅠⅡa	胴部		
V-9	36	N36	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	37	表探	I	3	2	ⅠⅡa	口縁		
V-9	38	N36	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	39a	O35	攪乱	10	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	39b	O35	攪乱	10	1	ⅠⅡa	底部		
V-9	40	K33	Ⅲ	1	4	ⅠⅡa	口縁		
V-9	41	O34	攪乱	7	1	ⅠⅡa	口縁		
V-9	42	N36	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	胴部		
V-9	43	Q34	Ⅲ	3	1	ⅠⅡa	胴部		
V-9	44	O35	Ⅲ	2	2	ⅠⅡa	底部		
V-9	45	N34	攪乱	4	1	ⅠⅡa	底部		
V-9	46	O37	Ⅲ	1	2	ⅠⅡa	底部		
V-9	47	P40	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	底部		
V-9	48	K35	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	胴部～底部		
V-9	49	N34	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	胴部～底部		
V-9	50	M27	Ⅲ	1	3	ⅠⅡa	底部		
V-9	51	N34	Ⅲ	3	3	ⅠⅡa	底部		
V-9	52	P32	Ⅲ	1	1	ⅠⅡa	底部		
V-9	53	O31	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	底部		
V-9		O34	攪乱	6	1	ⅠⅡa	底部		
V-9	54	N34	Ⅲ	2	2	ⅠⅡa	底部		
V-9	55	N36	Ⅲ	2	1	ⅠⅡa	底部		
V-10	56	K35	Ⅲ	4	1	ⅠVa	口縁		
V-10	57	S31	Ⅲ	3	1	ⅠVa	口縁		
V-10	58	L5	Ⅲ	1	2	ⅠVa	口縁		
V-10	59	S31	Ⅲ	3	18	ⅠVa	口縁～胴部		
V-10	60a	N11	Ⅲ	3	8	ⅠVa	口縁		
V-10	60b	N11	Ⅲ	3	15	ⅠVa	胴部		
V-10	61	O33	Ⅲ	6	4	ⅠVa	口縁		
V-10	62	S31	Ⅲ	3	21	ⅠVa	胴部		
V-10	63	T33	Ⅲ	2	3	ⅠVa	胴部		
V-10		T33	Ⅲ	3	1	ⅠVa	胴部		
V-10	64	T33	Ⅲ	2	1	ⅠVa	口縁		
V-10	65	K16	Ⅲ	2	2	ⅠVa	口縁		
V-10	66	S35	Ⅲ	3	2	ⅠVa	口縁		
V-10	67	S30	Ⅲ	4	5	ⅠVa	口縁		
V-10	68	S32	Ⅲ	5	7	ⅠVa	口縁		
V-10	69	S22	Ⅲ	5	1	ⅠVa	口縁～胴部		
V-10		S22	Ⅲ	6	3	ⅠVa	口縁～胴部		
V-10	70	O8	Ⅲ	1	1	ⅠVa	口縁		
V-10	71	S30	Ⅲ	4	3	ⅠVa	口縁		
V-10	72	S30	Ⅲ	4	1	ⅠVa	口縁		
V-10	73	Q34	Ⅲ	7	1	ⅠVa	口縁		
V-10	74	S22	Ⅲ	4	4	ⅠVa	口縁～胴部		
V-10	75	T32	Ⅲ	4	2	ⅠVa	口縁		
V-10	76	T31	Ⅲ	3	4	ⅠVa	口縁		
V-10	77	S35	Ⅲ	2	3	ⅠVa	口縁		
V-10	78	P33	Ⅲ	5	2	ⅠVa	口縁		
V-10	79	O9	Ⅲ	1	1	ⅠVa	口縁		
V-11	80	S22	Ⅲ	5	3	ⅠVa	口縁～胴部		
V-11		S22	Ⅲ	6	2	ⅠVa	口縁～胴部		
V-11	81	S33	Ⅲ	6	2	ⅠVa	口縁		
V-11	82	L7	Ⅲ	1	2	ⅠVa	口縁～胴部		
V-11	83	S28	Ⅲ	1	2	ⅠVa	口縁		
V-11	84	S34	Ⅲ	6	2	ⅠVa	口縁		
V-11	85	表探 I	I	5	4	ⅠVa	口縁		
V-11	86	O25	Ⅲ	2	1	ⅠVa	口縁		
V-11	87	P34	Ⅲ	3	3	ⅠVa	口縁		
V-11	88	P32	Ⅲ	6	2	ⅠVa	口縁		
V-11	89	Q30	Ⅲ	1	1	ⅠVa	口縁		
V-11	90	Q33	Ⅲ	3	4	ⅠVa	口縁		
V-11		Q33	Ⅲ	4	1	ⅠVa	口縁		
V-11	91	S32	Ⅲ	5	1	ⅠVa	口縁		
V-11	92	S30	Ⅲ	4	2	ⅠVa	口縁		
V-11	93	S30	Ⅲ	4	2	ⅠVa	口縁		
V-11	94	K33	Ⅲ	5	3	ⅠVa	胴部		
V-11	95	I19	Ⅱ	2	18	ⅠVa	胴部	圧痕土器①	
V-11	96	P33	Ⅲ	1	1	ⅠVa	口縁		
V-11	97	S22	Ⅲ	5	1	ⅠVa	口縁		
V-11	98	S31	Ⅲ	6	3	ⅠVa	口縁～胴部		
V-11		S33	Ⅲ	3	1	ⅠVa	口縁～胴部		
V-11	99	P33	Ⅲ	4	3	ⅠVa	胴部		
V-11	100	P33	Ⅲ	4	5	ⅠVa	底部		
V-11	101a	Q32	Ⅲ	2	1	ⅠVa	口縁		
V-11		Q33	Ⅲ	2	2	ⅠVa	口縁		
V-11		101b	S33	Ⅲ	5	2	ⅠVa	口縁	
V-11		101c	S33	Ⅲ	6	1	ⅠVa	胴部	
V-11		S33	Ⅲ	8	1	ⅠVa	胴部		
V-11		S33	Ⅲ	9	1	ⅠVa	胴部		
V-11		101d	S33	Ⅲ	5	3	ⅠVa	胴部	
V-11	102	O31	Ⅲ	3	1	ⅠVa	口縁		
V-11	103	S30	Ⅲ	4	1	ⅠVa	口縁		
V-11						規模：7.6×6.9×3.0cm			
V-12	104	S22	Ⅲ	5	10	ⅠVa	口縁～胴部		
V-12		S22	Ⅲ	6	1	ⅠVa	口縁～胴部		
V-12	105	Q42	I	1	2	ⅠVa	口縁		
V-12	106	Q33	Ⅲ	4	1	ⅠVa	口縁		
V-12						規模：(20.3)×(19.4)×-cm			
V-12	107	S25	Ⅲ	3	3	ⅠVa	口縁		
V-12	108	S26	Ⅱ～Ⅲ	1	8	ⅠVa	口縁～胴部		
V-12		S26	Ⅱ～Ⅲ	2	3	ⅠVa	口縁～胴部		
V-12	109	T31	Ⅲ	3	1	ⅠVa	口縁		
V-12	110	T31	Ⅲ	3	1	ⅠVa	口縁		
V-12		T32	Ⅲ	6	1	ⅠVa	口縁		
V-12	111a	S22	Ⅲ	6	1	ⅠVa	口縁		
V-12		111b	S22	Ⅲ	6	1	ⅠVa	胴部	
V-12	112	S25	Ⅲ	2	3	ⅠVa	口縁		

神田	番号	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形・部位	備考	
		S25		3	2	IVa	口縁		
V-12	113	S33	Ⅲ	6	3	IVa	胴部		
V-12	114	S22	Ⅲ	5	1	IVa	胴部		
		S22	Ⅲ	6	1	IVa	胴部		
V-12	115	S30	Ⅲ	4	1	IVa	胴部		
V-12	116	P43	I	1	1	IVa	胴部		
V-12	117	R24	攪乱	4	1	IVa	胴部		
V-12	118	P43	Ⅲ	4	8	IVa	胴部		
V-12	119	R29	攪乱	3	1	IVa	胴部		
V-12	120	S25	Ⅲ	2	5	IVa	胴部		
V-12	121	S32	Ⅲ	3	6	IVa	胴部		
V-12	122	R40	Ⅲ	2	2	IVa	胴部		
規格：28.0×(21.4)×9.6cm									
V-13	123	N36	Ⅲ	2	6	Ⅲa	胴部		
V-13	124	J24	Ⅲ	1	3	IVa	胴部		
		J24	Ⅲ	2	1	IVa	胴部		
V-13	125	P43	Ⅲ	2	1	IVa	胴部		
V-13	126	P43	I	1	1	IVa	胴部		
V-13	127	表探	I	4	1	IVa	口縁		
V-13	128	S25	Ⅲ	2	5	IVa	口縁～胴部		
		S26	Ⅱ～Ⅲ	1	1	IVa	口縁～胴部		
		S26	Ⅱ～Ⅲ	2	2	IVa	口縁～胴部		
V-13	129	P32	Ⅲ	11	1	V	口縁		
V-13	130	S28	Ⅲ	1	4	IVa	口縁		
V-13	131	P33	Ⅲ	4	2	IVa	口縁		
V-13	132	Q32	Ⅲ	3	1	IVa	口縁		
V-13	133	S22	Ⅲ	6	1	IVa	口縁		
V-13	134	S33	Ⅲ	9	1	IVa	口縁		
V-13	135	P33	Ⅲ	4	1	IVa	口縁		
V-13	136	S32	Ⅲ	4	1	IVa	口縁		
V-13	137	R31	Ⅲ	16	3	IVa	口縁		
V-13	138	O35	Ⅲ	7	1	IVa	胴部		
V-13	139	S32	Ⅲ	3	1	IVa	胴部		
V-13	140	P33	Ⅲ	4	1	IVa	胴部		
V-13	141	N34	Ⅲ	2	1	Ⅲa	胴部		
V-13	142	P31	Ⅲ	2	5	IVa	胴部		
V-13	143	T32	Ⅲ	4	2	IVa	胴部		
		T32	Ⅲ	6	1	IVa	胴部		
V-13	144	S32	Ⅲ	4	2	IVa	胴部		
		S33	Ⅲ	8	1	IVa	胴部		
V-13	145	R31	Ⅲ	15	3	IVa	胴部		
		R31	Ⅲ	16	8	IVa	胴部		
V-13	146a	S21	Ⅲ	2	4	IVa	胴部		
		146b	S21	Ⅲ	2	6	IVa	胴部	
		146c	S22	Ⅲ	5	4	IVa	胴部	
		S22	Ⅲ	6	1	IVa	胴部		
V-13	147	S22	Ⅲ	5	4	IVa	口縁～胴部		
V-13	148	T32	Ⅲ	7	1	IVa	口縁		
V-13	149	S22	Ⅲ	5	1	IVa	口縁		
		S22	Ⅲ	6	2	IVa	口縁		
V-13	150	S22	Ⅲ	5	3	IVa	口縁		
V-13	151	S26	Ⅱ～Ⅲ	2	1	IVa	口縁	圧痕土器③	
V-13	152	R33	Ⅲ	4	2	IVa	胴部		
V-13	153	S33	Ⅲ	9	1	IVa	口縁		
V-13	154	T33	Ⅲ	2	2	IVa	口縁		
V-13	155	S33	Ⅲ	9	1	IVa	口縁		
V-13	156	S31	Ⅲ	3	2	IVa	口縁		
V-13	157	T32	Ⅲ	7	1	IVa	胴部	赤色顔料	
V-14	158	S26	Ⅱ～Ⅲ	2	3	IVa	口縁		
V-14	159	R31	Ⅲ	16	4	IVa	口縁		
V-14	160	R31	Ⅲ	15	6	IVa	口縁～胴部		
		R31	Ⅲ	3	6	IVa	口縁～胴部		
V-14	161	Q27	攪乱	1	1	IVa	口縁		
		R31	Ⅲ	16	3	IVa	口縁		
V-14	162	S33	Ⅲ	9	2	IVa	口縁		
V-14	163	R31	Ⅲ	3	1	IVa	口縁		
V-14	164	N11	Ⅲ	3	2	IVa	口縁		
V-14	165	S22	Ⅲ	4	1	IVa	胴部		
V-14	166	S21	Ⅱ～Ⅲ	1	1	IVa	胴部	圧痕土器②	
V-14	167	R31	Ⅲ	14	2	IVa	胴部		

神田	番号	調査区	層位	遺物番号	点数	分類	器形・部位	備考
V-14	168	S22	Ⅱ～Ⅲ	3	6	IVa	胴部	
V-14	169	S22	Ⅲ	4	4	IVa	胴部～底部	
V-14	170	P34	Ⅲ	4	1	IVa	底部	
V-14	171	S30	Ⅲ	4	2	IVa	胴部～底部	圧痕土器②
V-14	172	S33	Ⅲ	6	1	IVa	胴部～底部	
V-14	173	S31	Ⅲ	3	2	IVa	胴部～底部	
V-14	174	S30	Ⅲ	4	1	IVa	胴部～底部	
V-14	175	S22	Ⅲ	1	1	IVa	胴部～底部	
V-14	176	S30	Ⅲ	4	2	IVa	胴部～底部	
V-14	177	S30	Ⅲ	4	2	IVa	胴部～底部	
V-14	178	T33	Ⅲ	2	6	IVa	胴部～底部	
V-14	179	K17	Ⅲ	3	5	IVa	底部	
V-14	180	S31	Ⅲ	3	1	IVa	底部	
V-14	181	S31	Ⅲ	3	4	IVa	底部	
V-14	182	R26	Ⅲ	1	5	IVa	底部	
V-14	183	P34	Ⅲ	3	1	IVa	底部	
V-15	184	O34	攪乱	6	1	Ⅲa	底部	
V-15	185	O36	Ⅲ	2	3	Ⅲa	底部	
V-15	186	P43	I	2	1	IVa	底部	
V-15	187	S33	Ⅲ	9	1	IVa	底部	
V-15	188	P31	Ⅲ	1	3	IVa	底部	
V-15	189	P33	Ⅲ	3	1	Ⅲa	底部	
V-15	190	S32	Ⅲ	3	1	IVa	胴部～底部	圧痕土器①
V-15	191	S30	Ⅲ	4	2	IVa	底部	
V-15	192	O35	Ⅲ	1	1	Ⅲa	底部	
V-15	193	Q34	攪乱	10	2	Ⅲa	底部	
V-15	194	S33	Ⅲ	9	3	IVa	底部	
V-15	195	S30	Ⅲ	4	2	IVa	底部	
V-15	196	S26	Ⅱ～Ⅲ	3	5	IVa	底部	
V-15	197	P34	Ⅲ	4	1	IVa	底部	
V-15	198	P31	Ⅲ	1	1	IVa	底部	
V-15	199	S22	Ⅱ～Ⅲ	3	2	IVa	底部	
V-15	200	S33	Ⅲ	9	2	IVa	底部	
V-15	201	T33	Ⅲ	2	9	IVa	胴部～底部	
V-15	202	S32	Ⅲ	3	15	IVa	胴部～底部	
V-15	203	S30	Ⅲ	4	7	IVa	胴部～底部	
V-15	204	S21	Ⅱ～Ⅲ	1	1	IVa	底部	底網圧痕
V-15	205	S26	Ⅱ～Ⅲ	4	2	IVb	口縁	
V-15	206	Q23	Ⅲ	3	3	IVb	口縁	
V-15	207	R25	Ⅲ	1	1	IVa	胴部～底部	
V-15	208	S26	Ⅱ～Ⅲ	5	1	IV～V	底部	
V-15	209	S31	Ⅲ	3	1	IVa	口縁	
V-15	210	K18	IV	2	1	IVa	胴部	
V-15	211	P12	攪乱	2	4	IVa	胴部	
V-15	212	K18	IV	2	1	IVa	胴部	
V-15	213	K18	Ⅲ	1	1	IVa	口縁	
V-15	214	K18	IV	2	1	IVa	胴部	
		K18	IV	2	1	IVa	胴部	
V-15	215	K18	IV	2	1	IVa	胴部	
V-15	216	K18	Ⅲ	1	1	IVa	胴部	
V-15	217	P12	攪乱	1	1	IVa	胴部	
V-15	218	S26	Ⅱ～Ⅲ	5	1	IV～V	口縁	
V-15	219	K18	Ⅲ	1	1	IVa	胴部	

表V-3 包含層出土掲載石器一覧

種別	図版	番号	器種名	発掘区	層位	遺物 番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	母岩番号	備考
V-16	76	1	石鏃	Q34	攪乱	1	26	12	3	0.9	頁岩		
V-16	76	2	石鏃	Q31	Ⅱ	1	29	14	5	2.0	頁岩		
V-16	76	3	石鏃	Q36	Ⅱ	1	23	13	5	0.7	凝灰岩		
V-16	76	4	石鏃	S33	Ⅱ	2	31	17	5	2.4	頁岩		
V-16	76	5	石鏃	P32	Ⅱ	1	37	14	6	3.2	頁岩		
V-16	76	6	石鏃	Q33	攪乱	1	39	10	5	2.1	安山岩		
V-16	76	7	石鏃	R41	Ⅱ	1	45	15	7	4.5	黒曜石		産地分析X12
V-16	76	8	石鏃	R41	Ⅱ	1	34	18	4	0.9	頁岩		被熱
V-16	76	9	石鏃	Q34	Ⅱ	1	26	17	4	1.2	頁岩		
V-16	76	10	石鏃	T34	Ⅱ	1	25	15	4	0.7	頁岩		
V-16	76	11	石鏃	L32	Ⅱ	1	34	19	7	3.7	頁岩		
V-16	76	12	石鏃	F8	Ⅱ	1	34	18	8	4.0	頁岩		
V-16	76	13	石鏃	T17	Ⅱ	1	37	13	5	2.0	頁岩		
V-16	76	14	石鏃	F8	攪乱	2	39	18	7	3.7	頁岩		
V-16	76	15	石鏃	S33	Ⅱ	1	30	12	4	1.0	頁岩		
V-16	76	16	石鏃	T34	Ⅱ	1	32	13	5	2.3	頁岩		
V-16	76	17	石鏃	R31	Ⅱ	1	33	11	4	1.2	頁岩		
V-16	76	18	石鏃	T33	Ⅱ	2	34	13	4	1.5	頁岩		
V-16	76	19	石鏃	T33	Ⅱ	1	40	15	7	2.7	頁岩		
V-16	76	20	石鏃	K2	Ⅱ	1	38	15	5	2.3	頁岩		
V-16	76	21	石鏃	S30	Ⅱ	1	45	15	6	2.5	めのつ		
V-16	76	22	石鏃	T32	Ⅱ	1	61	25	15	19.1	頁岩		
V-16	76	23	石鏃	K22	Ⅱ	1	67	38	14	29.0	頁岩		
V-16	76	24	石鏃	T25	Ⅱ	1	83	50	23	81.9	頁岩		
V-16	76	25	石鏃	Q23	Ⅱ	1	19	19	7	1.5	黒曜石		
V-16	76	26	両面調整石器	M11	Ⅱ	2	98	32	17	54.8	頁岩		産地分析X11
V-16	76	27	両面調整石器	P35	Ⅱ	2	110	29	17	51.2	頁岩		
V-16	76	28	両面調整石器	P12	攪乱	1	42	40	15	24.2	頁岩		
V-16	76	29	両面調整石器	S29	Ⅱ～Ⅲ	1	48	28	17	30.1	頁岩		
V-17	76	30	両面調整石器	R31	Ⅱ	3	61	40	13	31.2	頁岩		光沢あり
V-17	76	31	両面調整石器	N30	Ⅱ	2	80	48	20	76.7	頁岩		
V-17	76	32	指状石器	P94	攪乱	1	99	47	16	59.2	頁岩		
V-17	76	33	指状石器	O34	Ⅱ	1	68	35	13	20.3	頁岩		
V-17	76	34	指状石器	N33	攪乱	2	52	51	15	35.6	頁岩		
V-17	76	35	つまみ付きナイフ	R14	Ⅱ	1	91	34	7	22.7	頁岩		光沢あり 被熱
V-17	76	36	スレイバー	S32	Ⅱ	6	66	26	16	27.7	頁岩		光沢あり
V-17	76	37	スレイバー	S26	Ⅱ～Ⅲ	1	66	24	14	24.8	頁岩		
V-17	76	38	スレイバー	Q34	Ⅱ	4	76	30	10	41.7	頁岩		
V-17	76	39	スレイバー	P33	Ⅱ	1	63	32	14	17.9	頁岩		
V-17	76	40	スレイバー	N34	Ⅱ	1	55	33	10	19.4	頁岩		光沢あり
V-17	76	41	スレイバー	S35	Ⅱ	2	65	40	8	27.6	頁岩		光沢あり
V-18	76	42	スレイバー	S33	Ⅱ	5	62	32	15	31.9	頁岩		光沢あり
V-18	76	43	スレイバー	R31	Ⅱ	4	70	33	9	20.5	頁岩		光沢あり 被熱
V-18	76	44	スレイバー	N38	攪乱	1	67	34	16	30.4	頁岩		光沢あり
V-18	76	45	スレイバー	N36	攪乱	3	70	40	21	52.8	頁岩		光沢あり
V-18	77	46	スレイバー	S34	Ⅱ	1	74	42	15	40.1	頁岩		光沢あり
V-18	77	47	スレイバー	S34	Ⅱ	1	86	46	21	81.6	頁岩		光沢あり
V-18	77	48	スレイバー	M34	Ⅱ	1	86	51	16	76.2	頁岩		光沢あり
V-18	77	49	スレイバー	Q41	Ⅱ	1	73	43	18	45.0	頁岩		光沢あり
V-18	77	50	スレイバー	S42	Ⅱ	1	76	39	9	29.5	頁岩		光沢あり
V-18	77	51	スレイバー	S35	Ⅱ	2	78	40	11	36.9	頁岩		光沢あり
V-18	77	52	スレイバー	S33	Ⅱ	9	93	50	12	39.6	頁岩		光沢あり
V-19	77	53	スレイバー	N33	攪乱	3	66	54	14	49.7	頁岩		光沢あり
V-19	77	54	スレイバー	L35	Ⅱ	1	67	56	18	34.8	頁岩		被熱
V-19	77	55	スレイバー	S33	Ⅱ	6	65	41	13	24.2	頁岩		光沢あり
V-19	77	56	スレイバー	L30	攪乱	1	65	47	20	50.0	頁岩		光沢あり
V-19	77	57	スレイバー	Q36	Ⅱ	1	57	49	13	22.5	頁岩		光沢あり
V-19	77	58	スレイバー	S32	Ⅱ	4	63	43	18	28.4	頁岩		光沢あり
V-19	77	59	スレイバー	S29	Ⅱ	3	76	50	18	38.2	頁岩		光沢あり
V-19	77	60	スレイバー	S30	Ⅱ	3	68	62	15	40.8	頁岩		光沢あり
V-19	77	61	スレイバー	P33	攪乱	3	66	56	18	44.5	頁岩		光沢あり
V-19	77	62	スレイバー	L36	Ⅱ	1	60	49	11	24.4	頁岩		光沢あり
V-20	77	63	スレイバー	S27	Ⅱ	1	60	43	18	38.1	頁岩		光沢あり
V-20	77	64	スレイバー	Q33	Ⅱ	2	76	46	12	35.4	頁岩		光沢あり
V-20	77	65	スレイバー	Q41	Ⅱ	1	69	47	16	36.9	頁岩		光沢あり
V-20	77	66	スレイバー	T33	Ⅱ	4	73	46	20	53.6	頁岩		光沢あり
V-20	77	67	スレイバー	Q34	Ⅱ	4	54	43	13	21.6	頁岩		光沢あり
V-20	77	68	スレイバー	O32	攪乱	1	55	38	8	14.8	頁岩		光沢あり
V-20	77	69	スレイバー	S32	Ⅱ	5	54	41	13	30.6	頁岩		光沢あり
V-20	77	70	スレイバー	T31	Ⅱ	4	53	43	14	31.6	頁岩		光沢あり
V-20	77	71	スレイバー	T35	Ⅱ	5	53	47	15	34.4	頁岩		光沢あり
V-20	77	72	スレイバー	Q34	Ⅱ	2	60	47	14	39.9	頁岩		光沢あり
V-20	78	73	スレイバー	P34	Ⅱ	2	63	47	11	28.0	頁岩		光沢あり
V-20	78	74	スレイバー	S35	Ⅱ	1	63	45	15	34.5	頁岩		光沢あり
V-21	78	75	スレイバー	O36	Ⅱ	3	64	45	7	24.5	頁岩		光沢あり
V-21	78	76	スレイバー	P34	攪乱	4	64	43	80	33.8	頁岩		光沢あり
V-21	78	77	スレイバー	S26	Ⅱ～Ⅲ	5	63	40	10	25.6	頁岩		光沢あり
V-21	78	78	スレイバー	P33	Ⅱ	2	66	49	22	65.0	頁岩		光沢あり
V-21	78	79	スレイバー	S32	Ⅱ	9	69	48	18	53.0	頁岩		光沢あり 被熱
V-21	78	80	スレイバー	S29	攪乱	5	71	57	17	74.9	頁岩		光沢あり
V-21	78	81	スレイバー	N32	Ⅱ	2	77	51	95	36.3	安山岩		
V-21	78	82	スレイバー	S33	Ⅱ	8	88	43	90	45.3	頁岩		
V-21	78	83	スレイバー	K23	Ⅱ	1	57	51	14	30.5	頁岩		光沢あり
V-21	78	84	スレイバー	T31	Ⅱ	3	53	34	14	25.7	頁岩		光沢あり
V-22	78	85	スレイバー	T133	Ⅱ	1	42	47	16	23.4	頁岩		光沢あり
V-22	78	86	スレイバー	R42	Ⅱ	1	65	59	20	57.2	頁岩		光沢あり
V-22	78	87	スレイバー	M30	Ⅱ	3	26	38	6	4.9	頁岩		光沢あり 被熱
V-22	78	88	石鏃	T28	Ⅱ	1	50	11	10	15.4	頁岩		
V-22	78	89	石鏃	L31	Ⅱ	1	58	42	17	32.8	頁岩		
V-22	78	90	石鏃	Q35	攪乱	2	43	30	10	9.2	頁岩		

種別	図版	番号	器種名	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	備考
V-22	78	91	石鏝	S22	Ⅲ	6	56	30	15	28.0	頁岩		
V-22	78	92	石鏝	T30	Ⅲ	1	49	41	18	35.1	頁岩		
V-22	78	93	石鏝	S30	Ⅲ	5	70	53	20	59.7	頁岩		
V-22	78	94	石鏝	T29	Ⅲ	1	43	23	15	10.7	頁岩		
V-22	78	95	Rフレック	S33	Ⅲ	12	62	38	90	19.9	頁岩		
V-22	78	96	Rフレック	T30	Ⅲ	3	60	45	18	45.4	頁岩		
V-23	78	97	Uフレック	S30	Ⅲ	18	55	28	10	15.5	頁岩		
V-23	78	98	Uフレック	R33	Ⅲ	71	80	36	12	29.0	頁岩		
V-23	78	99	Uフレック	P33	Ⅲ	9	76	42	14	34.3	頁岩		
V-23	78	100	Uフレック	T32	Ⅲ	10	62	46	14	29.2	頁岩		
V-23	78	101	Uフレック	T30	Ⅲ	7	63	63	19	57.3	頁岩		
V-23	78	102	Uフレック	Q37	Ⅲ	4	80	51	13	40.5	頁岩		
V-23	78	103	Uフレック	S32	Ⅲ	19	36	43	70	9.6	頁岩		
V-23	78	104	Uフレック	S32	Ⅲ	21	60	34	48	10.2	頁岩		
V-23	78	105	Uフレック	N34	Ⅲ	5	59	40	13	21.1	頁岩		
V-23	78	106	Uフレック	Q34	Ⅲ	9	66	36	11	28.7	頁岩		
V-23	78	107	Uフレック	S32	Ⅲ	18	66	43	13	32.0	頁岩		
V-23	79	108	Uフレック	P33	Ⅲ	8	53	39	7	15.4	頁岩		
V-24	79	109	割片	Q36	Ⅲ	5	51	57	22	53.2	頁岩		
V-24	79	110	割片	C35	Ⅲ	16	78	61	14	70.5	頁岩		
V-24	79	111	石鏝	T31	Ⅲ	12	37	36	35	83.3	頁岩		
V-24	79	112	石鏝	K33	Ⅲ	7	32	30	26	37.6	頁岩		
V-24	79	113	石鏝	R29	Ⅲ	3	56	92	75	458.4	頁岩		
V-24	79	114	石鏝	L14	Ⅲ	1	57	37	22	42.3	頁岩		
V-24	79	115	石鏝	S27	Ⅲ	1	112	98	39	452.7	頁岩		
V-24	79	116	石鏝	S26	Ⅱ～Ⅲ	25	46	47	21	51.4	頁岩		
V-24	79	117	石鏝	L31	Ⅲ	3	78	82	22	120.6	頁岩		
V-25	79	118	石鏝	P32	Ⅲ	6	51	63	34	105.1	頁岩		
V-25	79	119	石鏝	Q37	Ⅲ	1	53	69	28	146.0	頁岩		
V-25	79	120	石鏝	S27	Ⅲ	8	113	116	41	683.5	頁岩		
V-25	79	121	石鏝	L32	Ⅲ	4	36	48	27	37.2	頁岩		
V-25	79	122	石鏝	S25	Ⅲ	3	74	35	48	126.5	頁岩		
V-25	79	123	石鏝	T33	Ⅲ	17	44	44	34	66.3	頁岩		
V-25	79	124	石鏝	S28	Ⅲ	1	44	77	44	136.3	頁岩		
V-25	79	125	石鏝	R32	Ⅲ	2	51	47	33	78.5	頁岩		
V-25	79	126	石鏝	T31	Ⅲ	13	79	87	33	228.3	頁岩		
V-26	79	127	石鏝	Q32	Ⅲ	1	67	73	42	227.2	頁岩		
V-26	79	128	石鏝	L33	Ⅲ	10	39	45	32	58.3	頁岩		
V-26	80	129	石鏝	S33	Ⅲ	19	44	58	53	119.0	頁岩		
V-26	80	130	石鏝	N30	Ⅲ	8	28	42	45	51.0	頁岩		
V-26	80	131	石鏝	S28	Ⅲ	4	115	75	43	328.1	頁岩		
V-26	80	132	石鏝	I24	Ⅲ	1	97	63	48	281.7	頁岩		
V-26	80	133	石鏝	T40	Ⅲ	3	112	75	40	406.7	頁岩		
V-26	80	134	石鏝	S32	Ⅲ	24	94	66	36	178.4	頁岩		
V-27	80	135	石鏝	Q32	Ⅲ	2	179	103	52	931.4	頁岩		
V-27	80	136	石鏝	S32	Ⅲ	5	37	53	19	30.0	頁岩		
V-27	80	137	石鏝	P33	Ⅲ	10	80	70	31	154.6	頁岩		
V-27	80	138	石鏝	P35	Ⅲ	8	98	52	36	137.9	頁岩		
V-27	80	139	石鏝	S22	Ⅱ	29	68	19	13	26.1	頁岩		
V-27	80	140	石芥	S28	Ⅱ～Ⅲ	1	82	36	18	75.7	安山岩		
V-27	80	141	石芥	表探	Ⅰ	24	83	42	15	81.3	砂岩		
V-28	80	142	石芥	S24	Ⅲ	7	88	37	27	144.0	緑色花崗岩		
V-28	80	143	石芥	N15	Ⅲ	3	103	43	17	121.8	砂岩		
V-28	80	144	石芥	Q34	Ⅲ	24	128	52	17	173.6	緑色花崗岩		
V-28	81	145	石芥	K29	Ⅲ	2	175	64	22	391.4	頁岩		
V-28	81	146	石芥	U37	Ⅲ	2	76	44	23	134.6	片岩		
V-28	81	147	北海道式石臼	N36	Ⅲ	20	86	2	65	769.5	安山岩		
V-28	81	148	北海道式石臼	O35	Ⅲ	8	70	100	44	391.0	砂岩		
V-29	81	149	北海道式石臼	Q34	Ⅲ	25	89	138	70	1148.1	安山岩		
V-29	81	150	北海道式石臼	T34	Ⅲ	10	79	94	24	246.0	安山岩		
V-29	81	151	北海道式石臼	S34	Ⅲ	24	105	64	24	217.8	安山岩		
V-29	81	152	北海道式石臼	O34	Ⅲ	20	111	93	26	347.6	安山岩		
V-29	81	153	北海道式石臼	Q34	Ⅲ	11	150	97	46	534.4	頁岩		
V-29	81	154	すり石	N34	Ⅲ	15	77	128	25	346.4	安山岩		
V-29	81	155	すり石	R34	Ⅲ	13	97	121	34	522.3	安山岩		
V-29	81	156	すり石	S32	Ⅲ	40	82	162	50	914.8	安山岩		
V-29	81	157	すり石	N33	Ⅲ	6	102	118	62	1033.1	安山岩		
V-30	81	158	石臼	Q36	Ⅲ	9	92	138	63	689.5	砂岩		
V-30	81	159	たたき石	S25	Ⅲ	11	50	41	33	88.8	頁岩		
V-30	81	160	たたき石	S32	Ⅲ	4	73	70	54	319.5	安山岩		
V-30	81	161	たたき石	R31	Ⅲ	6	70	63	28	228.0	砂岩		
V-30	81	162	たたき石	R31	Ⅲ	47	91	52	46	279.7	砂岩		
V-30	82	163	たたき石	P35	Ⅲ	15	153	78	56	814.1	安山岩		
V-30	82	164	たたき石	O36	Ⅲ	22	93	53	45	258.3	砂岩		
V-30	82	165	たたき石	H42	Ⅲ	2	85	71	48	125.9	砂岩		
V-30	82	166	たたき石	S31	Ⅲ	8	119	68	25	268.2	砂岩		
V-30	82	167	たたき石	R34	Ⅲ	12	80	50	35	192.2	砂岩		
V-30	82	168	たたき石	S32	Ⅲ	38	90	67	33	295.3	砂岩		
V-31	82	169	たたき石	Ⅲ	Ⅲ	39	80	41	25	106.4	砂岩		
V-31	82	170	たたき石	R32	Ⅲ	14	115	67	19	167.0	砂岩		
V-31	82	171	たたき石	O8	Ⅲ	6	118	71	28	239.8	砂岩		
V-31	82	172	たたき石	U30	Ⅲ	2	89	46	38	139.9	花崗岩		
V-31	82	173	たたき石	S27	Ⅲ	14	134	40	27	147.6	砂岩		
V-31	82	174	たたき石	N39	Ⅲ	1	60	70	18	80.9	砂岩		
V-31	82	175	砥石	L18	Ⅲ	4	103	99	14	151.2	砂岩		
V-31	82	176	加工痕のある砥石	O36	Ⅲ	23	86	60	25	161.1	安山岩		
V-31	82	177	加工痕のある砥石	N36	Ⅲ	23	99	60	21	176.1	砂岩		
V-31	82	178	加工痕のある砥石	R34	Ⅲ	16	92	112	29	443.1	砂岩		
V-31	82	179	加工痕のある砥石	O8	Ⅲ	8	68	21	15	27.3	花崗岩		
V-31	82	180	石臼	Q40	Ⅲ	2	287	219	150	13500.0	安山岩		
V-31	82	181	石製品	N36	Ⅲ	4	58	32	13	12.3	緑色花崗岩		
V-31	82	182	石製品	T31	Ⅲ	37	50	67	8	39.6	砂岩		